

Natural for Mainframes

パラメータリファレンス

バージョン 4.2.5

October 2009

This document applies to Natural バージョン 4.2.5 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © Software AG 1979-2009. All rights reserved.

The name Software AG™, webMethods™, Adabas™, Natural™, ApplinX™, EntireX™ and/or all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

目次

1	パラメータリファレンス	1
2	プロファイルパラメータについて	3
	プロファイルパラメータの使用方法	4
	一般的なプロファイルパラメータとセッションパラメータの説明	4
3	セッションパラメータについて	5
	セッションパラメータの使用方法	6
	セッションパラメータの設定方法	6
	セッションパラメータの評価	8
4	ACIVERS - EntireX Broker ACI で使用する ACI バージョンの定義	9
5	AD - 属性定義	11
	AD パラメータの構文	12
	フィールド表現	13
	フィールド揃え	14
	フィールド入力／出力特性	14
	英数字フィールドの解釈	16
	必須入力	16
	入力値の長さ	16
	フィールド大文字／小文字特性	17
	充填文字	17
6	ADAMODE - Adabas インターフェイスモード	19
7	ADANAME - Adabas リンクルーチンの名前	21
8	ADAPRM - REVIEW/DB のサポート	23
9	ADASBV - 設定による Adabas セキュリティ	25
10	AL - 英数字フィールド出力長	27
11	ASIZE - Entire System Server 補助バッファ	29
12	ASPSIZE (内部使用)	31
13	ASYNNAM - 非同期処理の出力システム ID	33
14	ATTN - アテンションキーによる処理中断のサポート	35
15	AUTO - 自動ログオン	37
16	AUTORPC - Natural RPC の自動実行	39
17	BPC64 - バッファプールのキャッシュストレージタイプ	41
18	BPCSIZE - Natural バッファプールのキャッシュサイズ	43
19	BPI - バッファプールの初期化	45
	BPI パラメータの構文	46
	NTBPI マクロの構文	47
	キーワードサブパラメータ	47
	NTBPI マクロの例	52
	BPI パラメータの例	53
20	BPLIST - Natural バッファプールのプリロードリストの名前	55
21	BPMETH - バッファプールスペースの検索アルゴリズム	57
22	BPNAME - Natural グローバルバッファプールの名前	59
23	BPPROP - グローバルバッファプールの伝搬	61
24	BPSFI - バッファプール内のオブジェクトを最初に検索	63

25 BPSIZE - Natural ローカルバッファプールのサイズ	65
26 BPTEXT - Natural バッファプール内のテキストセグメントのサイズ	67
27 BSIZE - EntireX Broker バッファのサイズ	69
28 BX - 外枠の定義	71
29 CANCEL - ダンプによるセッションのキャンセル	73
30 CC - バッチモードでのエラー処理	75
31 CCTAB - プリンタのエスケープシーケンス定義	77
CCTAB パラメータの構文	78
NTCCTAB マクロの構文	80
OPN、CLS、CODE、CS、CSS、または CSE の文字列構文	80
プロポーショナルフォント	81
NTCCTAB マクロの例	81
CCTAB パラメータの例	81
32 CD - カラー定義	83
33 CDYNAM - Natural 以外のプログラムのダイナミックロード	85
34 CF - 端末コマンドの文字	87
35 CFICU - Unicode とコードページのサポート	89
CFICU パラメータの構文	90
NTCFICU マクロの構文	91
キーワードサブパラメータ	91
NTCFICU マクロの例	94
ダイナミックパラメータ CFICU の例	94
36 CFWSIZE (内部使用)	95
37 CLEAR - NEXT モードでの CLEAR キーの処理	97
38 CM - コマンドモード	99
39 CMPO - コンパイルオプション	101
CMPO パラメータの構文	102
NTCMPO マクロの構文	102
キーワードサブパラメータ	103
CMPO パラメータの例	103
NTCMPO マクロの例	103
40 COMPR - RPC バッファ圧縮の設定	105
41 CP - デフォルトのコードページ名	107
42 CPCVERR - コードページ変換エラー	109
43 CPOBJIN - バッチ入力ファイルのコードページ	111
44 CPPRINT - バッチ出力ファイルのコードページ	113
45 CPRPC - コードページ名の定義	115
46 CPSYNIN - コマンド用のバッチ入力ファイルのコードページ	117
47 CSIZE - Con-nect バッファエリア	119
48 CSTATIC - Natural にスタティックにリンクするプログラム	121
CSTATIC パラメータの例	122
NTCSTAT マクロの例	123
49 CV - 属性制御変数	125
50 CVMIN - 入力時に変更された制御変数	127
51 DATSIZE - ローカルデータ用バッファの最小サイズ	129

52 DB - データベースタイプとオプション	131
DB パラメータの構文	132
NTDB マクロの構文	133
使用可能なデータベースオプション	134
NTDB マクロの例	135
DB パラメータの例	135
53 DB2SIZE - DB2 または SQL/DS 用の Natural バッファエリア	137
54 DBCLOSE - セッション終了時のデータベースクローズ	139
55 DBGERR - ランタイムエラー発生時のデバッグの自動起動	141
56 DBID - Natural システムファイルのデフォルトのデータベース ID	143
57 DBOPEN - ETID を使用しないデータベースオープン	145
58 DBROLL - ロールアウト前のデータベースコール	147
59 DBUPD - データベース更新	149
60 DC - 小数点表記の文字	151
61 DD - 日差	153
62 DELETE - ダイナミックにロードされたプログラムの削除	155
63 DF - 日付フォーマット	157
64 DFOUT - 出力の日付フォーマット	159
65 DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定	161
66 DFSTACK - スタックの日付フォーマット	163
67 DFTITLE - 標準レポートタイトルの日付出力フォーマット	165
68 DL - 出力の表示長	167
69 DLISIZE - DL/I 用の Natural バッファエリアのサイズ	169
70 DO - 出力データの表示順序	171
71 DS - ストレージバッファのサイズの定義	173
DS パラメータの構文	175
NTDS マクロの構文	175
バッファサイズの表	175
例	177
72 DSC - データストリーム圧縮 (3270 タイプの端末用)	179
73 DSIZE - DBLOG バッファのサイズ	181
74 DTFORM - 日付フォーマット	183
75 DU - ダンプ生成	185
76 DUE - 特定のエラーのダンプ	187
77 DY - ダイナミック属性	189
DY パラメータの構文	191
例	192
78 DYNPARM - ダイナミックパラメータ使用の制御	195
DYNPARM パラメータの構文	197
NTDYNP マクロの構文	197
例	197
79 ECHO - バッチ入力データの出力制御	199
80 EDBP - Software AG Editor バッファプール定義	201
EDBP パラメータの構文	203
NTEDBP マクロの構文	203

キーワードサブパラメータ	203
81 EDPSIZE - Software AG Editor 補助バッファプールのサイズ	209
82 EJ - ページ換え	211
83 EM - 編集マスク	213
構文	214
編集マスク内の空白	215
デフォルトの編集マスク	215
数値フィールドの編集マスク	216
英数字フィールドの編集マスク	218
バイナリフィールド (フォーマット B) の編集マスク	220
16 進編集マスク	221
日付 (フォーマット D) と時刻 (フォーマット T) のフィールドの編集マ スク	223
論理フィールド (フォーマット L) の編集マスク	227
84 EMFM - 編集マスクフリーモード	229
85 ENDBT - セッション終了時の BACKOUT TRANSACTION	231
86 ENDMMSG - セッション終了メッセージの表示	233
87 ES - 空行省略	235
88 ESCAPE - 端末コマンド %% および % の無効化	237
89 ESIZE - ユーザーバッファ拡張エリアのサイズ	239
90 ET - END/BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行	241
91 ETA - エラートランザクションプログラム	243
92 ETDB - トランザクションデータのデータベース	245
93 ETEOP - プログラム終了時の END TRANSACTION の発行	247
94 ETID - Adabas ユーザー ID	249
95 ETIO - 端末 I/O 時の END TRANSACTION の発行	251
96 ETPSIZE - Entire Transaction Propagator Buffer のサイズ	253
97 ETRACE - 外部トレース機能	255
98 ETSYNC - トランザクションの終了時/バックアウトトランザクション時の同期 地点の発行	257
99 EXCSIZE - Natural Expert C インターフェイス用のバッファのサイズ	259
100 EXRSIZE - Natural Expert ルールテーブル用のバッファのサイズ	261
101 FAMSTD - 出力ファイルおよびワークファイルのアクセスメソッド割り当ての 上書き	263
102 FC - INPUT ステートメントの充填文字	265
103 FC - DISPLAY ステートメントの充填文字	267
104 FCDP - ダイナミックに保護された入力フィールドの充填文字	269
105 FDIC - Predict システムファイル	271
106 FL - 浮動小数点数の仮数部長	273
107 FNAT - システムプログラム用の Natural システムファイル	275
108 FNR - Natural システムファイルのデフォルトのファイル番号	277
109 FREEGDA - ユーティリティモードでの GDA の解放	279
110 FS - ユーザー定義変数のデフォルトのフォーマット/長さの設定	281
111 FSEC - Natural Security システムファイル	283
112 FSPOOL - Natural Advanced Facilities スプールファイル	285

113 FUSER - ユーザープログラム用の Natural システムファイル	287
114 GC - グループヘッダーの充填文字	289
115 HC - ヘッダーの中央揃え	291
116 HCAM - ハードコピーアクセスメソッド	293
117 HCDEST - ハードコピー出力先	295
118 HD - ヘッダー定義	297
119 HE - ヘルプルーチン	299
HE パラメータの構文	300
ヘルプルーチンの実行	302
例	302
120 HI - ヘルプ文字	305
121 HW - ヘッダー幅	307
122 IA - INPUT 割り当て文字	309
123 IC - 挿入文字	313
124 ID - INPUT 区切り文字	315
125 IKEY - PA キーおよび PF キーの処理	317
126 IM - 入力モード	319
127 MSG - セッション初期化エラーメッセージ	321
128 INTENS - 高輝度フィールドの出力	323
129 IP - INPUT プロンプトテキスト	325
130 IS - 重複抑制	327
131 ISIZE - 初期化バッファのサイズ	329
132 ITERM - 初期化エラーが発生した場合のセッション終了	331
133 ITRACE - 内部トレース機能	333
134 KD - キー定義	335
135 KEY - PA、PF、および CLEAR キーへの設定の割り当て	337
136 LC - 小文字から大文字への変換	339
137 LC - 先頭文字	341
138 LE - 処理ループの制限を超過したときの処理	343
139 LFILE - 論理システムファイルの定義	345
LFILE パラメータの構文	347
NTLFILE マクロの構文	347
古い NTFILFILE マクロの構文	347
LFILE パラメータの例	347
NTLFILE マクロの例	348
140 LIBNAM - 外部プログラムロードライブラリの名前	349
141 LOG (内部使用)	351
142 LOGONRQ - RPC サーバー要求にログオンが必要	353
143 LS - 行サイズ	355
プロファイルパラメータ LS	356
セッションパラメータ LS	356
ステートメントでの指定	357
144 LT - 処理ループの制限	359
145 MADIO - 画面 I/O 処理間の最大 DBMS コール	361
146 MAINPR - デフォルトの出力レポート番号の上書き	363

147	MAXBUFF - 最大バッファサイズ	365
148	MAXCL - プログラムコールの最大数	367
149	MAXROLL - ロールアウト前の CMROLL コールの数	369
150	MAXYEAR - 日付/時刻値の最大年	371
151	MC - マルチプルバリュースフィールドカウンタ	373
152	MENU - メニューモード	375
153	ML - メッセージ行の位置	377
154	MONSIZE - SYSTP モニタバッファのサイズ	379
155	MP - レポートの最大ページ数	381
156	MS - 手動による省略	383
157	MSGSF - システムエラーメッセージの短い形式/完全な形式での表示	385
158	MT - 最大 CPU 時間	387
159	NAFSIZE - Natural Advanced Facilities 用のバッファのサイズ	389
160	NAFUPF - Natural Advanced Facilities ユーザープロファイル	391
161	NC - Natural システムコマンドの使用	393
162	NISN (内部使用)	395
163	NL - 数値出力長	397
164	NTASKS - 開始するサーバータスクの数	399
165	NUCNAME - 共有ニュークリアスの名前	401
166	OBJIN - Natural 入力ファイルとしての CMOBJIN の使用	403
167	OPF - ヘルプルーチンによる保護されたフィールドの上書き	405
168	OPRB - データベースのオープン/クローズ処理	407
	Natural Security でのダイナミック OPRB	409
	OPRB for VSAM	409
	OPRB for Adabas	409
	NTOPRB マクロの構文	411
	NTOPRB マクロの例	411
169	OPT - Natural Optimizer Compiler の制御	413
	OPT パラメータの構文	414
	NTOPT マクロの構文	414
170	OUTDEST - 非同期処理の出力先	415
171	OVSIZE - ストレージレッドオーバーフローサイズ	417
172	PARM - 代替パラメータモジュール	419
173	PC - パーソナルコンピュータのアクセスメソッドの制御	421
174	PC - ピリオディックグループカウンタ	423
175	PCNTRL - 出力制御文字	425
176	PD - NATPAGE のページ制限	427
177	PLOG - ダイナミックパラメータのロギング	429
178	PLUGIN - Natural プラグインコンポーネントの有効化	431
179	PM - 出力モード	433
	プロファイルパラメータ PM	434
	セッションパラメータ PM	435
180	POS22 - POS システム関数用のバージョン 2.2 アルゴリズム	437
181	PRINT - 出力ファイルの割り当て	439
	PRINT パラメータの構文	441

NTPRINT マクロの構文	441
すべての環境で使用できるキーワードサブパラメータ	442
すべての環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	446
z/OS 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	449
z/VSE 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	451
BS2000/OSD 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	452
AM=CICS のキーワードサブパラメータ	452
AM=COMP (Com-plete) のキーワードサブパラメータ	453
AM=SMARTS (Com-plete) のキーワードサブパラメータ	454
AM=IMS のキーワードサブパラメータ	454
DEFINE PRINTER ステートメントのキーワードサブパラメータ	455
182 PROFILE - ダイナミックパラメータプロファイルの有効化	457
183 PROGRAM - セッション終了後に制御を受け取る Natural 以外のプログラム	459
184 PS - Natural レポートのページサイズ	461
185 PSEUDO - CICS 擬似会話型モード	463
186 RCA - スタティックな Natural 以外のプログラムのアドレス解決	465
187 RCALIAS - Natural 以外のプログラムの外部名定義	467
RCALIAS パラメータの構文	468
NTALIAS マクロの構文	469
NTALIAS マクロの例	469
RCALIAS パラメータの例	469
188 RCFIND - FIND ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理	471
189 RCGET - GET ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理	473
190 RDACT - (内部使用)	475
191 RDCEXIT - Natural Data Collector ユーザー出口の定義	477
192 RDCSIZE - Natural Data Collector 用のバッファのサイズ	479
193 RDNODE (内部使用)	481
194 RDPORT (内部使用)	483
195 RDS - リモートディレクトリサーバーの定義	485
196 READER - 入力用の z/VSE システム論理ユニット	487
197 RECAT - ダイナミックな再カタログ	489
198 REINP - 不正データに対する内部的な REINPUT ステートメントの発行	491
199 RELO - ストレージレッドの再配置	493
200 RFILE - 記録用のファイル	495
201 RI - ISN のリスト	497
202 RJESIZE - NATRJE バッファの初期サイズ	499
203 RM - 修正されたフィールドの再転送	501
204 ROSY - システムファイルへの読み取り専用アクセス	503
205 RPC - リモートプロシージャコールの設定	505
RPC パラメータの構文	506
NTRPC マクロの構文	506
キーワードサブパラメータ	506
RPC パラメータの例	507
NTRPC マクロの例	507
206 RPCSDIR - サービスディレクトリのライブラリ	509

207 RPCSIZE - Natural RPC で使用されるバッファのサイズ	511
208 RPCUCT - サブプログラム名の大文字への変換	513
209 RUNSIZE - ランタイムバッファのサイズ	515
210 SA - サウンド端末アラーム	517
211 SB - 選択ボックス	519
構文上の考慮事項	520
ランタイムの考慮事項	521
機能	522
制限事項	524
212 SCTAB - スキャナ文字	525
SCTAB パラメータの構文	526
NTSCTAB マクロの構文	527
NTSCTAB マクロの例	527
SCTAB パラメータの例	528
213 SENDER - 非同期処理の画面出力先	529
214 SERVER - RPC サーバーセッションとしての Natural セッションの開始	531
215 SF - フィールド間の空白	533
216 SG - 符号桁	535
217 SI - ダブルバイト文字セットのシフトインコード	537
218 SKEY - ストレージ保護キー	539
219 SL - ソース行の長さ	541
220 SLOCK - ソースのロック	543
221 SM - ストラクチャードモードでのプログラミング	545
222 SO - ダブルバイト文字セットのシフトアウトコード	547
223 SORT - ソートプログラムの制御	549
SORT パラメータの構文	550
NTSORT マクロの構文	550
キーワードサブパラメータ	551
224 SOSI - ダブルバイト文字セットのシフトアウト/シフトインコード	555
SOSI パラメータの構文	556
位置指定サブパラメータ	557
論理シフトアウト/シフトイン文字の変換	557
変換テーブルの自動適合	558
SOSI プロファイルパラメータと旧 SO および SI プロファイルパラメータの互換性	558
SOSI パラメータの例	559
225 SRETAIN - ソースのフォーマットの保持	561
226 SRVCMIT - サーバーコミット時間	563
227 SRVNAME - RPC サーバーの名前	565
228 SRVNODE - ノードの名前	567
229 SRVTERM - サーバー終了イベント	569
230 SRVUSER - RPC サーバーレジストリ用のユーザー ID	571
231 SRVWAIT - RPC サーバーの待ち時間	573
232 SSIZE - エディタによって割り当てられるソースエリアのサイズ	575
233 STACK - スタックへのデータ/コマンドの配置	577




234	STACKD - スタックデリミタ文字	579
235	STEPLIB - 追加の STEPLIB ライブラリ	581
236	SUBSID - z/OS および z/VSE でのサブシステム ID	583
237	SYNERR - 構文エラーの制御	585
238	SYS - ダイナミックプロファイルパラメータセットの定義と有効化	587
	SYS パラメータの構文	588
	NTSYS マクロの構文	589
	NTSYS マクロの例	589
239	SYSCIP - Natural システムファイル用の Adabas サイファキー	591
240	SYSPSW - Natural システムファイル用の Adabas パスワード	593
241	TAB - 標準出力文字変換	595
	TAB パラメータの構文	596
	NTTAB の構文	596
	NTTAB マクロの例	597
	TAB パラメータの例	597
242	TAB1 - 代替出力変換	599
	TAB1 パラメータの構文	600
	NTTAB1 マクロの構文	600
	NTTAB1 マクロの例	601
	TAB1 パラメータの例	601
243	TAB2 - 代替入力変換	603
	TAB2 パラメータの構文	604
	NTTAB2 マクロの構文	604
	NTTAB2 マクロの例	605
	TAB2 パラメータの例	605
244	TABA1 - EBCDIC から ASCII への変換	607
	TABA1 パラメータの構文	608
	NTTABA1 マクロの構文	608
	NTTABA1 マクロの例	609
	TABA1 パラメータの例	609
245	TABA2 - ASCII から EBCDIC への変換	611
	TABA2 パラメータの構文	612
	NTTABA2 マクロの構文	612
	NTTABA2 マクロの例	613
	TABA2 パラメータの例	613
246	TABL - SYS ライブラリ出力変換	615
	TABL パラメータの構文	616
	NTTABL マクロの構文	616
	NTTABL マクロの例	617
	TABL パラメータの例	617
247	TC - 末尾文字	619
248	TD - 時差	621
249	TF - データベース ID/ファイル番号の変換	623
	TF パラメータの構文	625
	NTTF マクロの構文	625

TF パラメータの例	625
NTTF マクロの例	625
250 THSEPCH - 千桁単位セパレータ文字	627
251 TIMEOUT - RPC サーバーレスポンスに対する待ち時間	629
252 TMODEL - IBM 3270 端末モデル	631
253 TPF (内部使用)	633
254 TQ - 引用符の変換	635
255 TRACE - Natural RPC サーバーのトレースレベルの定義	637
256 TRACE - トレース対象コンポーネントの定義	639
TRACE パラメータの構文	640
NTTRACE マクロの構文	641
TRACE パラメータの例	641
NTTRACE マクロの例	641
257 TRANSP - サーバートランスポートプロトコル	643
258 TRYALT - 代替サーバーアドレスの試行	645
259 TS - システムライブラリでプログラムからの出力を変換	647
260 TSIZE - Adabas Text Retrieval 用のバッファのサイズ	649
261 TTYPE - 端末タイプ	651
262 UC - 下線付き文字	653
263 UDB - ユーザーデータベース ID	655
264 ULANG - ユーザー言語	657
265 UPSI - z/VSE ユーザープログラムスイッチ	659
266 USER - プロファイルパラメータ文字列とモジュールの使用制限	661
USER パラメータの構文	663
NTUSER マクロの構文	663
NTUSER マクロの例	663
USER パラメータの例	663
267 USERBUF (内部使用)	665
268 UTAB1 - 小文字から大文字への変換	667
UTAB1 パラメータの構文	668
NTUTAB1 マクロの構文	668
NTUTAB1 マクロの例	669
UTAB1 パラメータの例	669
269 UTAB2 - 大文字から小文字への変換	671
UTAB2 パラメータの構文	672
NTUTAB2 マクロの構文	672
NTUTAB2 マクロの例	673
UTAB2 パラメータの例	673
270 VSIZE - Natural/VSAM 用のバッファエリアのサイズ	675
271 WH - ホールド状態でのレコードの待機	677
272 WORK - ワークファイルの割り当て	679
WORK パラメータの構文	680
NETWORK マクロの構文	681
すべての環境で使用できるキーワードサブパラメータ	682
すべての環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	686

z/OS 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	687
z/VSE 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	689
BS2000/OSD 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	691
AM=CICS のキーワードサブパラメータ	691
AM=COMP のキーワードサブパラメータ	692
AM=SMARTS のキーワードサブパラメータ	693
273 WPSIZE - Natural ワークプールのサイズ	695
274 WSISIZE - Natural ワークステーションインターフェイス用のバッファ	697
275 XML - PARSE XML および REQUEST DOCUMENT ステートメントの有効化	699
XML パラメータの構文	700
NTXML マクロの構文	701
キーワードサブパラメータ	701
NTXML マクロの例	703
XML パラメータの例	703
276 XREF - Natural 用の XRef データの作成	705
拡張 XRef データ生成 (内部使用のみ)	707
277 XSIZE - ユーザーサブシステム用のバッファのサイズ	709
278 YD - 年差	711
279 YSLW - 年スライド/固定ウィンドウ	713
280 ZD - ゼロ割り算のチェック	715
281 ZP - ゼロ出力	717
282 ZSIZE - Entire DB バッファエリアのサイズ	719
索引	721

1 パラメータリファレンス

このドキュメントには、Naturalプロファイルおよびセッションパラメータに関する詳細情報が記載されています。次の項目で構成されています。

	プロファイルパラメータについて	プロファイルパラメータの使用方法に関する全般情報（関連ドキュメントへのリファレンスリストを含む）が記載されています。
	セッションパラメータについて	セッションパラメータの使用方法と評価に関する全般情報が記載されています。
	パラメータ（アルファベット順）	すべてのプロファイルパラメータとセッションパラメータについてアルファベット順で説明します。

パラメータの使用方法に関する全般情報については、『オペレーション』ドキュメントの「プロファイルパラメータの使用方法」を参照してください。「Naturalパラメータモジュールでのマクロの使用」も参照してください。

2 プロファイルパラメータについて

- プロファイルパラメータの使用方法 4
- 一般的なプロファイルパラメータとセッションパラメータの説明 4

プロフィールパラメータの使用法

Natural プロファイルパラメータの使用法は、Natural がサポートするプラットフォームによって異なるため、パラメータの使用法に関する全般情報は対応するプラットフォーム固有のドキュメントに記載されています。

『*Natural* オペレーション』ドキュメントの次のドキュメントを参照してください。

プロフィールパラメータの使用法 - 概要

- Natural パラメータ階層
- パラメータ値の割り当て
- 機能別のプロフィールパラメータ
- Natural パラメータモジュールの使用

一般的なプロフィールパラメータとセッションパラメータの説明

Natural プロファイルパラメータと同じ名前と機能を持つ Natural セッションパラメータが存在する場合、両方のパラメータの説明が 1 つのドキュメントにまとめて記載されています。

3 セッションパラメータについて

- セッションパラメータの使用方法 6
- セッションパラメータの設定方法 6
- セッションパラメータの評価 8

セッションパラメータの使用方法

Natural では、セッションパラメータを次のような目的で使用します。

- 特定の属性の指定
- 処理時間の制限の設定
- 特定の条件に対する特定の応答の設定
- 各種サイズ制限の設定
- さまざまな出力レポートの定義

これらのパラメータは、Natural のインストール時に Natural 管理者によって Natural の全ユーザーに有効なデフォルト値に設定されます。

セッションに適用されるパラメータ値を確認するには、システムコマンド GLOBALS を入力します（『システムコマンド』ドキュメントを参照）。

セッションパラメータの設定方法

Natural セッションパラメータは次のような方法で設定できます。

- Natural をインストールするときに、デフォルトパラメータモジュール NATPARM で指定します。
- Natural を呼び出すときに、ダイナミックパラメータで指定します（Natural の『オペレーション』ドキュメントを参照）。
- システムコマンド GLOBALS で指定します。
- SET GLOBALS ステートメントで指定します（レポートモードのみ）。
- FORMAT ステートメントで指定します。
- INPUT、DISPLAY、WRITE などのステートメント内でパラメータを指定します（ステートメント内でパラメータも評価されます）。
- 端末コマンドで指定します。

パラメータ値 ON および OFF の代わりに、それぞれ T (true) または F (false) を指定することもできます。

セッションレベルでのセッションパラメータの変更 - GLOBALS コマンドの使用

Natural セッションでは、Natural 管理者が設定した一部のパラメータ値を変更できます。

Natural セッション内でこれらのパラメータを変更するには、次のシステムコマンドを発行します。

GLOBALS

GLOBALS コマンドを発行すると、現在のセッションに有効なパラメータ値を示した画面が表示されます。この画面で、要件に合わない値を変更できます。

GLOBALS コマンドで設定したパラメータ値は、再び GLOBALS コマンドを発行して変更しない限り、Natural セッションが終了するまで有効です（セッション中に保存する全オブジェクトに適用されます）。

プログラムレベルでのセッションパラメータの変更 - FORMAT ステートメントの使用

単一プログラム（レポート）の実行に対して特定のパラメータを変更できます。そのためには、プログラムで FORMAT ステートメントを使用して、これらのパラメータのセッション設定を上書きします。

FORMAT ステートメントの例：

```
FORMAT AL=10 HC=R
```

FORMAT ステートメントで設定したパラメータは、そのプログラムの別の FORMAT ステートメントで変更されない限り、プログラムの実行が終了するまで有効です。

セッションレベルで指定できなくてもプログラムレベルで指定できるパラメータがいくつかありますが、すべてのセッションパラメータをプログラムレベルで変更できるわけではありません。プログラムで指定可能なパラメータの大部分は出力レポートのフォーマットに関するパラメータです。

ステートメントレベルでのセッションパラメータの変更

FORMAT ステートメントで変更可能なパラメータの大部分は個々のステートメント（特に、DISPLAY、WRITE、INPUT、REINPUT など）でも変更できます。

この場合、ステートメント名の後ろにパラメータを（カッコで囲んで）指定します。

セッションパラメータについて

例：

```
DISPLAY (SF=4) NAME JOB-TITLE CURR-CODE SALARY
```

ステートメントレベルで設定したパラメータは、そのパラメータを指定したステートメントにのみ有効です。ステートメントレベルでの設定は、そのパラメータに対する他のレベルでのすべての設定をそのステートメントに対してのみ上書きします。

フィールドレベルでのセッションパラメータの変更

DISPLAY、WRITE、INPUT、またはREINPUTステートメント内で、個々のフィールドまたは出力項目ごとに変更できるパラメータもあります。

この場合、フィールド名の後ろにパラメータを（カッコで囲んで）指定します。

例：

```
DISPLAY NAME (AL=10) JOB-TITLE CURR-CODE SALARY
```

パラメータはそのフィールドにのみ有効になります。フィールドレベルでの設定は、そのパラメータに対する他のレベルでのすべての設定をそのフィールドに対してのみ上書きします。ただし、フィールドレベルで設定可能なパラメータは、ステートメントレベルで設定可能なパラメータの一部のみです。

セッションパラメータの評価

DISPLAY、FORMAT、PRINT、INPUT、REINPUT、WRITE、WRITE TITLE、WRITE TRAILERの各ステートメントで指定したパラメータはプログラムのコンパイル時に処理されるため、プログラムの対応するオブジェクトモジュールに含まれます。

評価には次の階層が使用されます。

1. エレメント／フィールドレベルで設定されたパラメータ（優先度が最も高い）
2. ステートメントレベルで設定されたパラメータ
3. FORMAT ステートメントで設定されたパラメータ
4. デフォルトパラメータ設定（優先度が最も低い）

SET GLOBALS ステートメントでパラメータを設定した場合、実行時環境が変更されます。これらの変更は、別の SET GLOBALS ステートメント（または GLOBALS システムコマンド）によって上書きされるまで有効です。

4 ACIVERS - EntireX Broker ACI で使用する ACI バージョ ンの定義

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、EntireX Broker ACI で使用する API バージョンを指定します。使用されている Broker スタブ、および呼び出し先 EntireX Broker は、ここに定義された ACI バージョンをサポートしている必要があります。サポートされている API バージョンについては、EntireX ドキュメントを参照してください。ACIVERS の設定により、使用している API バージョンに応じて、EntireX Broker の特殊機能が有効になります。詳細については、Natural の『リモートプロシージャコール』ドキュメントの「*EntireX Broker Access* のセットアップ」を参照してください。

ACIVERS は、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

可能な設定	1 - 9	1 桁の数字。 上位バージョンでは、さらに多くの機能を使用できます。
デフォルト設定	2	API バージョン 2 が使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

5 AD - 属性定義

▪ AD パラメータの構文	12
▪ フィールド表現	13
▪ フィールド揃え	14
▪ フィールド入力／出力特性	14
▪ 英数字フィールドの解釈	16
▪ 必須入力	16
▪ 入力値の長さ	16
▪ フィールド大文字／小文字特性	17
▪ 充填文字	17

このセッションパラメータで、フィールド／エレメントレベルまたはステートメントレベルでフィールド属性を指定します。

関連セッションパラメータ：[CD](#) - カラー定義

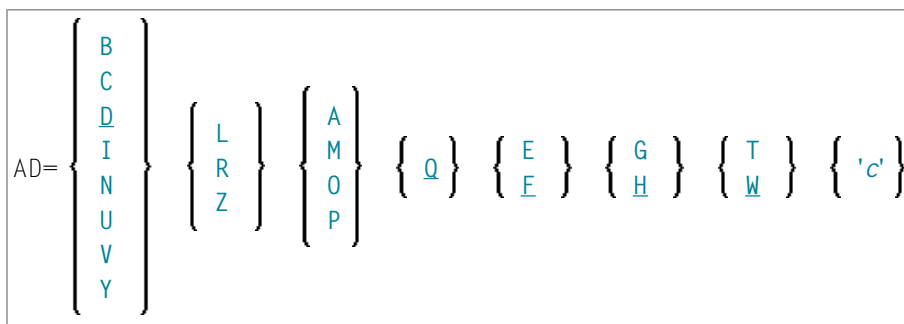
可能な設定	下記参照	複数の属性を任意の順序で指定できます。
デフォルト設定	下記参照	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	DISPLAY INPUT NEWPAGE WITH TITLE PRINT REINPUT WRITE WRITE TITLE WRITE TRAILER	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	ASSIGN CALLNAT CALLDBPROC COMPUTE MOVE PERFORM SEND METHOD	パラメータはエレメントレベルで指定できます。ただし、使用できるのは、関連ステートメント記述に指定された属性のみです。
適用可能なコマンド：	なし	

以下では次のトピックについて説明します。

AD パラメータの構文

```
AD=[field-representation] [field-alignment] [field-i/o-characteristics]
[interpretation-of-alphanumeric-fields] [mandatory-input] [input-value-length]
[field-upper/lower-case] [filler-character]
```

複数の属性を任意の順序で指定できます。可能な値は次のとおりです。



属性および有効な値の意味を次に説明します。

例：

```
DISPLAY #FIELD A (AD=R)
INPUT #FIELD B (AD=M)
INPUT (AD=IM) #FIELD A #FIELD B
```

フィールド表現

値	意味	ステートメント	説明
B	点滅 (*)	ASSIGN	フィールドの値は点滅（ブリンク）して表示されます。
C	手書き／斜体 (*)	COMPUTE	フィールドの値はイタリックで表示されます。
D	デフォルトの輝度	MOVE DISPLAY FORMAT	フィールドの値は標準輝度で表示されます（つまり、強調表示されない）。これはデフォルト値です。
I	高輝度	INPUT	フィールドの値は高輝度で表示されます。
N	非表示	PRINT	フィールドに入力した値は表示されません。
U	下線付き	REINPUT	フィールドの値は下線付きで表示されます。
V	反転表示 (*)	WRITE	フィールドの値は反転して表示されます。
Y	ダイナミック属性	INPUT DISPLAY PRINT WRITE	属性制御変数（フォーマットC）を使用して属性を制御することを示します。

アスタリスク () の付いたフィールド表現属性では対応するハードウェア機能が必要です。これらの機能がないと、ランタイムに無視されます。

フィールド揃え

値	意味	ステートメント	説明
L	左詰め	DISPLAY FORMAT	フィールドの値は左詰めに表示されます。英数字フィールドのデフォルト値です。
R	右詰め	INPUT PRINT REINPUT	フィールドの値は右詰めに表示されます。数値フィールドのデフォルト値です。
Z	先頭のゼロ	WRITE	数値は先頭にゼロを付けて右詰めに表示されます。

フィールド入力／出力特性

値	意味	ステートメント	説明
A	入力フィールド、非保護	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドの値を入力します。これはデフォルト値です。
	入力のみ	CALLNAT CALLDBPROC PERFORM SEND METHOD	<p>AD=A でパラメータをマークすると、その値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアードプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）に渡されませんが、呼び出し先オブジェクトからの値を受け取ります。</p> <p>呼び出し先オブジェクトのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたフィールドの場合、呼び出し元オブジェクトは値を受け取ることができません。この場合、AD=A では、オブジェクトが呼び出される前に、フィールドを個々のフォーマットの低い値（英数字には空白、バイナリにはバイナリゼロ、および数値フィールドにはゼロ）にリセットするだけです。</p> <p>CALLNAT の場合、AD=A は、クライアント／サーバー環境で Natural RPC 経由で実行されたりモートサブプログラムにおいて、送信されたデータの負荷を軽減するために役立つことがあります。サブプログラムがローカルに実行される場合、AD=A フィールドは、オブジェクトが呼び出される前に、個々のフォーマットの低い値にリセットされます。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは初期化された変形として渡されます。外部コンポーネントが値を返すことができるかどうかは、外部コンポーネントのドキュメントに記載されています。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
M	出力フィールド、変更可能	INPUT FORMAT	フィールドの値は INPUT ステートメントの実行中に表示され、ユーザーはこの値を変更できます。フィールドは変更可能な出力フィールドです。

値	意味	ステートメント	説明
	変更可能	CALLNAT CALLDBPROC PERFORM SEND METHOD	<p>デフォルトでは、パラメータの渡された値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアドプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）で変更できます。また、変更した値を呼び出し元オブジェクトに戻すことができます。ここで元の値を上書きします。</p> <p>呼び出し先オブジェクトのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたフィールドの場合、値は戻されません。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは BY REFERENCE で渡されます。外部コンポーネントが参照パラメータごとに受け入れるのか値パラメータごとに受け入れるのかについては、外部コンポーネントのドキュメントを参照してください。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
0	出力フィールド、書き込み保護	INPUT FORMAT	フィールドの値は INPUT ステートメントの実行中に表示されます。フィールドは変更不可の出力フィールドです。
	変更不可	CALLNAT CALLDBPROC PERFORM SEND METHOD	<p>AD=0 でパラメータをマークした場合、渡された値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアドプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）で変更できますが、変更した値を呼び出し元オブジェクトに戻すことはできません。つまり、呼び出し元オブジェクトのフィールドには元の値が維持されます。</p> <p>内部的に、AD=0 は BY VALUE と同じ方法で処理されます（DEFINE DATA ステートメントの説明の「パラメータデータ定義」セクションを参照）。</p> <p>SEND METHOD では、メソッドが Natural で実装される場合、パラメータは、メソッドのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたように処理されます（INTERFACE ステートメントの説明の「PARAMETER 節」セクションを参照）。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは BY VALUE で渡されます。外部コンポーネントが参照パラメータごとに受け入れるのか値パラメータごとに受け入れるのかについては、外部コンポーネントのドキュメントを参照してください。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
P	一時保護	INPUT REINPUT	属性制御変数（フォーマット C）、DY パラメータ（ダイナミック属性）、REINPUT ステートメントとともに使用します。

英数字フィールドの解釈

値	意味	ステートメント	説明
Q	英数字フィールドを数値フィールドのように表示します。	ASSIGN COMPUTE MOVE DISPLAY FORMAT INPUT PRINT REINPUT WRITE	この属性はメインフレームコンピュータでのみ利用可能です。対応するハードウェア機能が必要です。 英数字フィールドは、数値フィールドのように解釈されます。フィールドがプロファイルパラメータまたはセッションパラメータ PM=I の範囲内で表示された場合、フィールドの値は、右から左へではなく、左から右へ解釈されます。

必須入力

値	意味	ステートメント	説明
E	必須入力	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドに値を入力する必要があります。入力がない場合、エラーメッセージが発行されます。これは入力専用フィールド (AD=A) のみに関連しています。
F	任意入力	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドに値を入力できます。ただし、入力しなくてもかまいません。これはデフォルト値です。

入力値の長さ

値	意味	ステートメント	説明
G	値のサイズ	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応して入力する値は、フィールド長と同じにする必要があります。これは入力専用フィールド (AD=A) のみに関連しています。
H	値のサイズ	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応して入力する値は、フィールド長より短くてもかまいません。これはデフォルト値です。

フィールド大文字／小文字特性

値	意味	ステートメント	説明
T	小文字から大文字への変換	INPUT FORMAT	入力値は大文字に変換されます。
W	小文字可	INPUT FORMAT	小文字の値を入力できます。AD=W を有効にするには、Natural プロファイルパラメータ LC に値 ON を指定する必要があります。これはデフォルト値です。

充填文字


値	意味	ステートメント	説明
'c'	充填文字	INPUT FORMAT	AD=A（入力フィールド、非保護）またはAD=M（出力フィールド、変更可能）が指定されている場合、空フィールドに文字 c が充填されます（表示のみ）。

値が変更可能フィールド（AD=M）に表示される前に、値で占有されていないフィールド位置は、次のように特定の充填文字で充填されます。

- フォーマット I、N、および P フィールドの場合、先頭位置または末尾位置（フィールド揃えに基づく）が充填されます。
- フォーマット A フィールドの場合、末尾位置が充填されます。

ユーザーが INPUT ステートメントに対応して値を入力すると、値がフィールドに割り当てられる前に、次のようになります。

- フォーマット I、N、および P フィールドの場合は先頭および末尾の充填文字の両方が削除されます。
- フォーマット A フィールドの場合は末尾の充填文字が削除されます。

 **注意:** 先頭位置または末尾位置の値の一部として存在する可能性のある充填文字は、予期しない結果が生じないように避ける必要があります。例えば、充填文字「0」（ゼロ）をフォーマット N5 のフィールドに定義し、値 00100 を入力データとして入力した場合、先頭のゼロと末尾のゼロが削除され、残った値 1 のみがフィールドに割り当てられるようになります。同様の理由で、マイナス記号「-」を数値フィールドの充填文字として使用することは避ける必要があります（負の値が入力されるため）。

充填文字を空白（X'40'）に設定した場合、充填される空白は X'00' で置き換えられ、前の入力フィールドの残りをクリアすることなく、文字の挿入が可能になります。

BS2000/OSD 環境において、X'00' 文字は 97xx タイプの端末でドットとして表示されます。その表示は、SIDA ユーティリティ、または各端末エミュレーションのコンフィグレーションユーティリティを使用して変更できます。

6 ADAMODE - Adabas インターフェイスモード

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションごとの Adabas ユーザーキューエレメント (UQE) の数を制御します。

可能な設定	0	<p>Adabas X48 通信を使用せずに、1つの Adabas セッションを使用して Natural を開始します (Natural バージョン 2.2 モード)。UQE は 1つだけ初期化され、UQE の ID は ADALNx モジュールによって構築されます。ニュークリアス、アプリケーションプログラム、または 3GL プログラムから送信されたすべてのデータベースコールが同じ Adabas ユーザーとしてみなされます。SYSPLEX を指定して実行することはできません。</p> <p>注意: ADAMODE にゼロ以外の値を指定しても、Adabas サブコンポーネントで Adabas X48 通信を実行できない場合、エラーメッセージが発行され、ADAMODE は 0 に設定されます。</p>
	1	<p>1 ユーザーおよび Adabas X48 通信を使用して Natural を開始します。UQE は 1つだけ初期化され、ニュークリアスおよびアプリケーションからのすべてのデータベースコールが同じ UQE に対して送信されますが、3GL プログラムから送信されるコールは除外されます。SYSPLEX を指定して実行できます。</p>
	2	<p>2つの Adabas セッションの両方に Adabas X48 通信を使用して Natural を開始します (Natural バージョン 2.3 モード)。Natural セッションの開始時に 2つの UQE が生成され、ニュークリアスコールとアプリケーションコールは相互に独立して実行されます。3GL プログラムから送信されるデータベースコールは、Natural トランザクションから除外されます。SYSPLEX を指定して実行できます。</p>
	3	<p>1つの UQE には Adabas X48 を使用し (ニュークリアスコール用)、1つの UQE には Adabas X48 通信を使用せずに (アプリケーションコール用)、Natural を開始します。ニュークリアスコールとアプリケーションコールは相互に独立して実行されます。3GL プログラムから送信されるデータベースコールは、Natural アプリケーショントランザクションに含まれます。SYSPLEX を指定して実行することはできません。</p>
デフォルト設定	2	

ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

予備知識：

Natural バージョン 2.2 では、すべての Natural セッションが 1 つの Adabas ユーザーキューエレメント (UQE) に関連付けられます。Adabas に対してニュークリアス (例えば、Natural オブジェクトをロードして実行するため) またはユーザーアプリケーションから送信されるすべてのコールが Adabas では同じユーザーとしてみなされます。UQE のユーザー ID は、ADALNX モジュールによって自動的に構築されます。また、環境 (CICS、BS2000/OSD、TSO など) によっては、タスク番号、端末 ID などの一意の項目が含まれます。ニュークリアス/アプリケーションの一意性は、ほとんどの場合正常に働きますが、次の状況では問題が発生することがあります。

ニュークリアスとアプリケーションが同時に更新トランザクション (UPDATE、STORE、DELETE) を開始しているときに、ニュークリアスまたはアプリケーションから送信される ET/BT コマンドは、トランザクションの元々の所属先に関係なく、すべてのトランザクションを確定またはロールバックします。

タイムアウト状況 (NAT3009) が発生したとき、Natural ではセッションユーザーに通知する必要がありますが、タイムアウトの送信対象となった論理ユーザー (ニュークリアス/アプリケーション) は認識されません。

Natural バージョン 2.3 以降では、Adabas と通信 (X48) するための新しいロジックが導入されています。これにより、1 つの Natural セッションに対して Adabas で複数のユーザー (UQE) を設定できます。この機能により、Natural ニュークリアスコールとアプリケーションコールは分離され、ニュークリアスとアプリケーションのすべてのトランザクションが独自の論理環境で実行されます。ニュークリアスコールで受け取ったタイムアウト状況 (NAT3009) は Natural で自動的に処理され、ユーザーに対してエラーメッセージは表示されません。


Sysplex 環境で Natural を実行できるようにするために、今までのメカニズムを使用して UQE を構築することはできなくなりました。UQE の構築に ADALNX で使用されていたタスク番号、端末 ID などの項目は SYSPLEX 環境においてすべての端末 I/O ステートメントで変わる可能性があります。SYSPLEX 環境で Natural を実行できるようにするには、Adabas との X48 通信が前提条件となります。

この場合、すべての Natural セッションが Adabas 上の 2 つの異なる UQE に関連付けられる (つまり、Natural バージョン 2.2 と比べて、Adabas UQE の数が 2 倍になる) というマイナーな欠点があります。UQE の数が制限されている場合は、これにより問題が発生する可能性があります (Adabas パラメータ NU を参照)。

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：**DBCLOSE** | **DBOPEN** | **ENDBT** | **ET** | **ETDB** | **ETEOP** | **ETIO** | **ETSYNC**

7 ADANAME - Adabas リンクルーチンの名前


この Natural プロファイルパラメータでは、使用する Adabas リンクルーチンの名前を指定します。

 **注意:** UTM と Com-plete には適用されません。

可能な設定	1~8 文字	有効なモジュール名またはエントリ名。
デフォルト設定	ADABAS	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Adabas リンクルーチンが Natural パラメータモジュール (NATPARM) にリンクされ、そのエントリ名がパラメータモジュールの ADANAME で指定されたものと同じの場合、リンク先のルーチンが使用されます。それ以外の場合、指定したリンクルーチンがダイナミックにロードされます。そのため、Adabas リンクモジュールを Natural ニュークリアスにスタティックにリンクする必要はありません。

同じ Natural ニュークリアスを異なる Adabas リンクモジュールで実行できます。

 **注意:** CICS では、Adabas リンクルーチンを Natural にリンクすることはできません。

8

ADAPRM - REVIEW/DB のサポート

この Natural プロファイルパラメータは、Natural セッションデータを 7 番目の Adabas バッファ内の REVIEW/DB に渡すために使用します。

指定可能な設定	ON	Natural セッションデータが渡されます。 REVIEW/DB がインストールされている場合、ADAPRM を ON に設定します。
	OFF	Natural セッションデータは渡されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

9 ADASBV - 設定による Adabas セキュリティ


この Natural プロファイルパラメータでは、「設定によるセキュリティ」で保護された Adabas ファイルにアクセスしたときの無効な結果を防止できます。フォーマットバッファが生成されず、Adabas に渡されないような場合、「設定によるセキュリティ」で保護されたファイルにアクセスすると、無効な結果が返されることがあります。

指定可能な設定	ON	Natural セッションデータが渡されます。 「設定によるセキュリティ」で保護された Adabas ファイルにアクセスする場合、ADASBV=ON を設定することをお勧めします。データベースアクセス用にフォーマットバッファが常に Adabas に渡されるようになり（2 バイトのダミーバッファの場合も同様）、無効な結果を防止できます。
	OFF	Natural セッションデータは渡されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

10 AL - 英数字フィールド出力長

このセッションパラメータでは、英数字フィールドのデフォルト出力長を指定します。指定した値がフィールド長より短い場合、右側が切り捨てられます。

可能な設定	1~ n	n は LS (行サイズ) パラメータから 1 を引いた値
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	なし	

 **注意:**

1. INPUT ステートメントの入力フィールド (**属性定義** AD=A または AD=M) に AL セッションパラメータを使用することはお勧めしません。
2. フィールドに編集マスク (セッションパラメータ EM を参照) と AL セッションパラメータの両方が指定されている場合は、編集マスクが優先されます。


例:

```
FORMAT AL=20
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

11 ASIZE - Entire System Server 補助バッファ

この Natural プロファイルパラメータでは、Entire System Server 補助バッファのサイズを決定します。


 **注意:** Entire System Server がインストールされている場合にのみ適用されます。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` (Natural の『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照) を使用して `ASIZE` 値を指定することもできます。

可能な設定	1 - 64	KB 単位のバッファサイズ。 Entire System Server を使用する場合、このパラメータは必ず設定する必要があります (Entire System Server ドキュメントを参照)。
	0	<code>ASIZE=0</code> を指定した場合、または要求したスペースを利用できない場合、Entire System Server はアクティブになりません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

12 ASPSIZE (内部使用)

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

13 ASYNNAM - 非同期処理の出力システム ID

この Natural プロファイルパラメータは、UTM での Natural に適用されます。

TP モニタ UTM で実行している 2 つの Natural アプリケーション間の非同期処理の場合、このパラメータでは、同期アプリケーションにメッセージを送信するために非同期アプリケーションで使用される同期アプリケーションのアドレスを指定します。

可能な設定	1~8 文字	有効なトランザクション名。
	空白	非同期処理は実行されません。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

UTM での非同期処理の詳細については、Natural の『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「非同期トランザクション処理」を参照してください。

14 ATTN - アテンションキーによる処理中断のサポート

この Natural プロファイルパラメータでは、IBM SNA 端末のアテンションキーの使用を制御します。アテンションキーを押すと、Natural 処理が中断し、対応するエラーメッセージ (NAT1016) が発行されます。アテンションキーを利用できるかどうかは、環境と端末タイプによって異なります。

この機能は、z/VSE でのバッチモードの Natural でも利用可能です。

可能な設定	ON	アテンションキーによって Natural 処理が中断されます。
	OFF	アテンションキーは無視されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

15 AUTO - 自動ログオン

この Natural プロファイルパラメータを使用すると、Natural セッションの開始時に特定のライブラリに自動的にログオンします。

可能な設定	ON	Natural セッションの開始時に自動ログオンが実行されます。
	OFF	自動ログオンは実行されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

システム変数 *INIT-USER が含まれる設定は、ログオンのユーザー ID として使用されます。

 **注意:** Natural Security で AUTO=ON を使用した場合、他のユーザー ID でのログオンができなくなります（詳細については、『Natural Security』ドキュメントを参照）。

16 AUTORPC - Natural RPC の自動実行

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、NaturalRPCが、ローカルに（クライアントサイドで）検出されなかったサブプログラムを自動的にリモートに（サーバーサイドで）実行しようとするかどうかを決定します。詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「スタブおよびRPC 自動実行」を参照してください。

AUTORPC はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	ON	Natural RPC は、自動的にリモートで実行しようとします。
	OFF	Natural RPC は、自動的にリモートで実行しようとしません。 AUTORPC=OFF を指定した場合、スタブを使用してリモートに CALLNAT を実行できます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	ランタイムに、SYSRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用してこの値を上書きできます。

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

17 BPC64 - バッファプールのキャッシュストレージ タイプ

この Natural プロファイルパラメータは z/OS でのみ適用されます (Complete では適用されません)。

ローカル Natural バッファプールのバッファプールキャッシュについて、ストレージのタイプを指定します。BPI プロファイルパラメータまたは NTBPI マクロの C64 サブパラメータに対応します。

可能な設定	ON	これは、2 GB 行を超える仮想ストレージがバッファプールキャッシュに使用されることを示しています。
	OFF	これは、データスペースがバッファプールキャッシュに使用されることを示しています。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

BPC64 パラメータは、プライマリ Natural バッファプール (TYPE=NAT、SEQ=0) にのみ適用されます。グローバルバッファプールの場合、これは無視されます。NATPARM で SEQ=0 を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの C64 設定のみが更新されません。

マルチユーザー環境 (例えば、CICS) では、BPC64 プロファイルパラメータは、ローカルバッファプールを初期化する最初の Natural セッションにのみ影響します。

内部的に、BPC64 指定は同等の BPI 指定に変換されます。

例：

次の形式に変換されます。

BPC64=0N

BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,C64=0N)

Natural バッファプールの全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* バッファプール」を参照してください。

18 BPCSIZE - Natural バッファプールのキャッシュサイズ

この Natural プロファイルパラメータは z/OS および z/VSE でのみ適用されます (Complete および IMS/TM には適用されません)。

ローカル Natural バッファプールのバッファプールキャッシュのサイズ (KB) を指定します。BPI プロファイルパラメータまたは NTBPI マクロの CSIZE サブパラメータに対応します。

可能な設定	0	バッファプールキャッシュのサイズ (KB 単位)。BPCSIZE=0 が設定されている場合、バッファプールキャッシュは使用されません。
	4~2097148	(つまり、4 KB~2 GB) - データスペースのキャッシュの場合 (C64=OFF を指定した場合)
	100~58720256	(つまり、56 GB) - 「バーを超える」 キャッシュの場合 (C64=ON を指定した場合)
	注意: 指定した値は、データスペースキャッシュでは 4 KB 単位、メモリオブジェクトキャッシュでは 1MB 単位で切り上げられます。最大許容値を超える値を指定した場合、代わりに最大許容値が使用されます。	
デフォルト設定	0	デフォルトでは、バッファプールキャッシュは使用されません。
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

BPCSIZE パラメータは、プライマリ Natural バッファプール (TYPE=NAT、SEQ=0) にのみ適用されます。グローバルバッファプールの場合、これは無視されます。NATPARM で SEQ=0 を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの CSIZE 設定のみが更新されます。

マルチユーザー環境（例えば、CICS）では、BPCSIZE パラメータは、ローカルバッファプールを初期化する最初の Natural セッションにのみ影響します。

バッファプールキャッシュに使用されるストレージのタイプは、プロファイルパラメータ **BPC64**、またはプロファイルパラメータ **BPI** またはマクロ **NTBPI** のサブパラメータ **C64** によって決定されます。

内部的に、BPCSIZE 指定は同等の BPI 指定に変換されます。

例：

次の形式に変換されます。

<code>BPCSIZE=4000</code>	<code>BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,CSIZE=4000)</code>
---------------------------	--

詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「バッファプールキャッシュ」を参照してください。


19 BPI-バッファプールの初期化

■ BPI パラメータの構文	46
■ NTBPI マクロの構文	47
■ キーワードサブパラメータ	47
■ NTBPI マクロの例	52
■ BPI パラメータの例	53

この Natural プロファイルパラメータは、バッファプールを Natural セッションに割り当てるために使用します。パラメータモジュール NATPARM の **NTBPI** マクロに対応します。

異なる用途で使用できる複数のタイプのバッファプールがあります。バックアップバッファプールを定義できます（次の例を参照）。バッファプールが利用できない場合、Natural では、同じタイプで次にシーケンス番号の高いバックアップバッファプールを設定しようとします。

可能な設定	下記の「キーワードサブパラメータ」を参照してください。	使用可能なサブパラメータキーワード： TYPE SEQ NAME SIZE CSIZE LIST TXTSIZE METHOD C64 BS2000/OSD では、SIZE および CSIZE は無視されます。
デフォルト設定	TYPE=NAT, SEQ=0, NAME=' ', SIZE=256, CSIZE=0, TXTSIZE=4, METHOD=S, C64=OFF	
ダイナミックな指定	可	パラメータ BPI はダイナミックに指定することしかできません。NATPARM では、マクロ NTBPI を使用してください。
セッション内の指定	不可	

 **注意:** サブパラメータ SIZE、CSIZE、TXTSIZE、METHOD、および C64 はグローバルバッファプールには適用されません。これらのサブパラメータは、ローカルバッファプールを初期化する最初のセッションでのみ有効です。

以下では次のトピックについて説明します。

BPI パラメータの構文

BPI パラメータは次のように指定します。

```
BPI=(TYPE=type,SEQ=n,NAME=name,SIZE=nnn,LIST=name,TXTSIZE=n,CSIZE=nn,METHOD=x,C64=xx)
```

- バッファプール定義をダイナミックに無効にするには、次のように特別な値 OFF を使用します。

```
BPI=(TYPE=type,SEQ=n,OFF)
```

- OFF を使用する場合、**TYPE** および **SEQ** の後ろに指定する必要があります。マクロ **NTBPI** で OFF を使用することはできません。

- BPI パラメータを使用してパラメータモジュール内の既存のバッファプール定義を上書きする場合、変更されるすべてのサブパラメータで新しい設定を指定する必要があります。そうしないと、古い設定が引き続き使用されます。

グローバルバッファプールからローカルバッファプールに変更する場合などは、NAME=' ' を指定する必要があります。

- BPI パラメータを使用して動的に新しいバックアップバッファプール定義を追加する場合、対応するシーケンス番号 (SEQ) を指定する必要があります。

SEQ 指定を省略した場合、プライマリバッファプール (SEQ=0) の定義が上書きされます。

- プライマリバッファプール (SEQ=0) の NAME、SIZE、LIST、TXTSIZE、CSIZE、METHOD、および C64 指定は、プロファイルパラメータ **BPNAME**、**BPSIZE**、**BPLIST**、**BPTXT**、**BPCSIZE**、**BPMETH**、および **BPC64** で動的に設定することもできます。

NTBPI マクロの構文

NTBPI マクロは次のように指定します。

```

.....1.....+.....2.....+.....3.....+.....4.....+.....5.....+.....6.....+.....7..
NTBPI  TYPE=type,                               *
        SEQ=n,                                   *
        NAME=name,                               *
        CSIZE=nnn,                               *
        SIZE=nnn,                               *
        LIST=name,                               *
        METHOD=x,                                  *
        C64=xx,                                   *
        TXTSIZE=n

```

キーワードサブパラメータ

TYPE | **SEQ** | **NAME** | **SIZE** | **CSIZE** | **LIST** | **TXTSIZE** | **METHOD** | **C64**

TYPE - バッファプールのタイプ

バッファプールのタイプを決定します。指定可能なタイプは次のとおりです。

NAT	Natural バッファプール (デフォルト) です。Natural バッファプールの全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural バッファプール」を参照してください。*
DLI	DL/I バッファプールです。*
EDIT	Software AG Editor バッファプールです。代わりに、エディタの補助バッファプールをセッションごとに定義できます。プロファイルパラメータ <code>EDPSIZE</code> も参照してください。
SORT	ソートバッファプールです。*
MON	SYSTP ユーティリティのモニタ機能用のバッファプールです。
SWAP	Natural CICS スワッププールを保持するためのバッファプールです。



注意: * タイプ NAT、DLI、または SORT のバッファプールは、ユーティリティ SYSBPM を使用して管理できます。

SEQ - バッファプールのシーケンス番号

バッファプールのシーケンス番号 n を決定します。


最も低いシーケンス番号で定義されたバッファプールは、プライマリバッファプールと呼ばれます。TYPE=SWAP を除くすべてのバッファプールタイプで、1つのプライマリバッファプールと1つ以上のバックアップバッファプールを定義できます。つまり、プライマリバッファプールがセッションの初期化時に利用できない場合、またはプライマリバッファプールを割り当てることができない場合、(同じタイプで異なるシーケンス番号の) 代替バッファプールが使用されません。

同じタイプのバッファプールはシーケンス番号順にソートされます(同じタイプの2つのプールのシーケンス番号が同じ場合、これらのプールは指定した順にソートされます)。要求したバッファプールが利用できない場合、同じタイプで次にシーケンス番号の高いバッファプールが代わりに使用されます。そのバッファプールが利用できない場合も、その次にシーケンス番号の高いバッファプールが使用されます。

設定可能値	0~9
デフォルト値	0

NAME - グローバルバッファプールの名前

グローバルバッファプールにのみ適用されます。CICS では、**TYPE=SWAP** のプールに適用されま
す。

 **注意:** BS2000/OSD では、キーワードサブパラメータ **NAME** と同じ値を持つ **ADDON** マクロ
が、使用される **BS2STUB** で必要になります。

グローバルバッファプールの *name* を決定します。ローカルバッファプールの場合、*name* は空
白です。TYPE=SWAP の場合、*name* はスワッププール名です。この名前は、Natural システムファ
イル FNAT または FUSER 内の関連付けられているスワッププール定義のキーに対応します。『オ
ペレーション』ドキュメントの「スワッププールの初期化の制御」セクションで、SWPINIT パラ
メータに関する記載を参照してください。

設定可能値	1~8 文字
デフォルト値	' '


NAME 指定は、プロファイルパラメータ **BPNAME** でダイナミックに上書きできます (**TYPE=NAT** を
指定している場合のみ)。

Com-plete の場合：SD ファイルは Com-plete でエディタワークファイルとして使用されるた
め、グローバルエディタバッファプールは使用できません。使用できるのは、ローカルエディタ
バッファプールのみです。

IMS/TM の場合：Natural セッションは異なるリージョンで実行されることがあるため、ローカ
ルエディタバッファプールは使用できません。使用できるのは、グローバルエディタバッファ
プールのみです。

SIZE - バッファプールのサイズ

ローカルバッファプールにのみ適用されます。バッファプールのサイズ *nnn* を決定します。

 **注意:** BS2000/OSD では、SIZE は無視されます。

設定可能値	Natural バッファプールの場合、256~2097151 (KB) 他のバッファプールタイプの場合、100~2097151 (KB)
デフォルト値	256

SIZE 指定は、プロファイルパラメータ **BPSIZE** でダイナミックに上書きできます (**TYPE=NAT** を
指定している場合のみ)。

CSIZE - ローカルバッファプールキャッシュのサイズ

TYPE=NAT のローカルバッファプールにのみ適用されます (Complete には適用されません)。CICS では、TYPE=SWAP のプールに適用されます。

バッファプールキャッシュのサイズ (KB 単位) を決定します。



注意: BS2000/OSD では、CSIZE は無視されます。

設定可能値	0、100~2097148 (つまり、2 GB~4 KB) - データベーススペースのキャッシュの場合 (C64=OFF を指定した場合)
	0、100~58720256 (つまり、56 GB) - 「バーを超える」 キャッシュの場合 (C64=ON を指定した場合)
	指定した値は、データスペースキャッシュでは4KB単位、メモリオブジェクトキャッシュでは1MB単位で切り上げられます。最大許容値を超える値を指定した場合、代わりに最大許容値が使用されます。
デフォルト値	0 (つまり、バッファプールキャッシュは使用されません)

詳細については、「バッファプールキャッシュ」を参照してください。

CSIZE 指定は、プロファイルパラメータ **BPCSIZE** でダイナミックに上書きできます (TYPE=NAT を指定している場合のみ)。バッファプールキャッシュのストレージのタイプを決定するには、サブパラメータ **C64** を使用できます。

LIST - 使用するプリロードリストの名前

TYPE=NAT のローカルバッファプールにのみ適用されます。

このバッファプールに使用するプリロードリストの *name* を決定します。

設定可能値	1~8 文字
デフォルト値	デフォルトは空白です (つまり、プリロードリストは使用されません)。

プリロードリストの全般的な情報については、「プリロードリスト」を参照してください。プリロードリストは SYSBPM ユーティリティで管理されます (「デバッグとモニタリング」セクションを参照)。

LIST 指定は、プロファイルパラメータ **BPLIST** でダイナミックに上書きできます。

TXTSIZE - バッファプールテキストセグメントのサイズ

次のタイプのローカルバッファプールに適用されます。

- TYPE=NAT
- TYPE=SORT
- TYPE=DLI

バッファプールテキストセグメントのサイズ n (KB 単位) を決定します。

設定可能値	1、2、4、8、12、16 (KB)
デフォルト値	4

マルチユーザー環境 (例えば、CICS) では、TXTSIZE 指定は、ローカルバッファプールを初期化する最初の Natural セッションにのみ影響します。

TXTSIZE 指定は、プロファイルパラメータ **BPTEXT** でダイナミックに上書きできます (TYPE=NAT を指定している場合のみ)。

METHOD - バッファプールのスペースを割り当てるための検索アルゴリズム

TYPE=NAT のローカルバッファプールにのみ適用されます。

バッファプールのストレージを割り当てるためのアルゴリズムを決定します。

設定可能値	S	これは、ストレージを割り当てる際に選択処理が行われることを示しています。選択処理では、バッファプールディレクトリ全体を参照し、最適なエントリを見つけるために各エントリを比較します。このメソッドは以前はアルゴリズム 1+2 として知られていました。
	N	これは、次に使用可能な未使用スペースまたはフリースペースが使用されることを示しています。次に使用可能なスペースの検索がラップアラウンド方式でポインタからディレクトリエントリに実行されます。このメソッドはバッファプールキャッシュと組み合わせて使用できます。
デフォルト値	S	

METHOD 指定は、プロファイルパラメータ **BPMETH** でダイナミックに上書きできます。

C64 - バッファプールキャッシュストレージのタイプ

z/OS でのみ、TYPE=NAT のローカルバッファプールに適用されます（Complete では適用されません）。

バッファプールキャッシュに使用するストレージのタイプを決定します。

設定可能値	ON	これは、「バーを超える」（つまり、64 ビットメモリ内の）メモリオブジェクトがバッファプールキャッシュに使用されることを示しています。 C64=ON は、次の前提条件を満たしている場合にのみ有効です。 ■ z/アーキテクチャハードウェア ■ オペレーティングシステム z/OS バージョン 1.2 以降 これらの前提条件を満たしていない場合、デフォルト値が使用されます。
	OFF	これは、データスペースがバッファプールキャッシュに使用されることを示しています。
デフォルト値	OFF	

バッファプールキャッシュは、BPI のサブパラメータ CSIZE またはプロファイルパラメータ BPCSIZE がゼロ以外の値に設定されている場合にのみ使用されます。C64 指定は、プロファイルパラメータ BPC64 でダイナミックに上書きできます。

NTBPI マクロの例

```

.....+.....1.....+.....2.....+.....3.....+.....4.....+.....5.....+.....6.....+.....7..
NTBPI TYPE=NAT, *
      SEQ=0, *
      NAME=NATBP1
NTBPI TYPE=NAT, *
      SEQ=1, *
      NAME=NATBP2
NTBPI TYPE=NAT, *
      SEQ=2, *
      SIZE=1000, *
      METHOD=N
    
```

これらの例では、複数の Natural バッファプールを定義しています。グローバルバッファプール NATBP1 が利用できない場合、代わりにグローバルバッファプール NATBP2 が使用されます。後者のバッファプールも利用できない場合、サイズ 1000 KB のローカルバッファプールが使用されます。

BPI パラメータの例

```
BPI=(NAME=' ',SIZE=2000,METHOD=N)
```

プライマリバッファプールは、2000 KB のローカルバッファプールに置き換えられます。この定義は次の説明と同等です。

```
BPNAME=' ',BPSIZE=2000,BPMETH=N
```

```
BPI=(SEQ=0,NAME=LBP1),BPI=(SEQ=1,NAME=LBP2),BPI=(SEQ=2,SIZE=500)
```

最初に、Natural は LBP1 という名前のグローバル Natural バッファプールを割り当てようとしています。このバッファプールが見つからない場合、LBP2 を割り当てようとしています。これも見つからない場合、サイズ 500 KB のローカルバッファプールを割り当てます。

```
BPI=(SEQ=0,TYPE=EDITOR,NAME=LBPE1),BPI=(SEQ=1,TYPE=EDITOR,SIZE=500)
```

最初に、Natural は LBPE1 という名前のグローバルエディタバッファプールを検索しようとしています。このバッファプールが見つからない場合、サイズ 500 KB のローカルエディタバッファプールを割り当てます。

```
BPI=(TYPE=SWAP,SIZE=500,NAME=SWAPP00L,CSIZE=2000)
```

サイズ 500 KB、キャッシュサイズ 2000 KB の SWAPP00L という名前の Natural ローカルスワッププールが割り当てられます。

20 BPLIST - Natural バッファプールのプリロードリストの名前

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural バッファプールに使用するプリロードリストの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字または空白	Natural バッファプールに使用するプリロードリストの名前。 BPLIST=' ' (空白) を設定した場合、プリロードリストは使用されません。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural バッファプール」を参照してください。

このパラメータは、BPI プロファイルパラメータまたは `NTBPI` マクロの `LIST` 指定に対応します。

プライマリ Natural バッファプール (`TYPE=NAT`、`SEQ=0`) にのみ適用されます。 `NATPARM` で `SEQ=0` を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの `LIST` 設定のみが更新されます。内部的に、`BPLIST` 指定は同等の `BPI` 指定に変換されます。

例：

`BPLIST=LIST3` は `BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,LIST=LIST3)` に変換されます。

21 BPMETH-バッファプールスペースの検索アルゴリズム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural バッファプールのストレージを割り当てるために使用する検索アルゴリズムを指定します。BPI プロファイルパラメータまたは NTBPI マクロの METHOD サブパラメータに対応します。

可能な設定	S	これは、ストレージを割り当てる際に選択処理が行われることを示しています。選択処理では、バッファプールディレクトリ全体を参照し、最適なエントリを見つけるために各エントリを比較します。このメソッドは以前はアルゴリズム 1+2 として知られていました。
	N	これは、次に使用可能な未使用スペースまたはフリースペースが使用されることを示しています。次に使用可能なスペースの検索がラップアラウンド方式でポインタからディレクトリエントリに実行されます。このメソッドはバッファプールキャッシュと組み合わせて使用できます。
デフォルト設定	S	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

BPMETH パラメータは、プライマリ Natural バッファプール (TYPE=NAT, SEQ=0) にのみ適用されます。グローバルバッファプールの場合、これは無視されます。NATPARM で SEQ=0 を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの METHOD 設定のみが更新されます。

マルチユーザー環境 (例えば、CICS) では、BPMETH プロファイルパラメータは、ローカルバッファプールを初期化する最初の Natural セッションにのみ影響します。

内部的に、BPMETH 指定は同等の BPI 指定に変換されます。

例：

BPMETH=S は BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,METHOD=S) に変換されます。

Natural バッファプールの全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* バッファプール」を参照してください。

22 BPNAME - Natural グローバルバッファプールの名前

前

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural グローバルバッファプールの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字または空白	Natural グローバルバッファプールの名前。 BPNAME=' ' (空白) を設定した場合、ローカル Natural バッファプールが使用されます。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural グローバルバッファプール」を参照してください。

このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。BPI プロファイルパラメータまたは NTBPI マクロの NAME 指定に対応します。

BPNAME プロファイルパラメータは、プライマリ Natural グローバルバッファプール (TYPE=NAT、SEQ=0) にのみ適用されます。NATPARM で SEQ=0 を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの NAME 設定のみが更新されます。内部的に、BPNAME 指定は同等の BPI 指定に変換されます。

例：

BPNAME=GBP1 は BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,NAME=GBP1) に変換されます。

23 BPPROP - グローバルバッファプールの伝搬

この Natural プロファイルパラメータは、z/OS および BS2000/OSD でのみ適用されます。

バッファプール内のオブジェクトに対する変更の伝搬を制御します。1つの（グローバルまたはローカル）バッファプールに存在する Natural オブジェクトに影響する変更が発生した場合、このパラメータによりバッファプールの整合性が保証されます。

可能な設定	OFF	他のグローバルバッファプールに変更は伝搬されません。 z/OS に関する注：OFF 以外の設定では、認可サービスマネージャがアクティブになっている必要があります。
	GLOBAL	他のすべてのグローバルバッファプールに変更が伝搬されます。 z/OS Sysplex 環境の場合：変更は現在の z/OS イメージ内にのみ伝搬されます。(*)
	PLEX	z/OS Sysplex 全体で同じ名前の他のすべてのグローバルバッファプールに変更が伝搬されます。(*)
	GPLEX	z/OS Sysplex 全体で他のすべてのグローバルバッファプールに変更が伝搬されます。(*) BS2000/OSD に関する注：設定 GPLEX には GLOBAL と同じ効果があります。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

* **z/OS** の場合：伝搬は常に、変更が発生した Natural サブシステムに制限されます。つまり、BPPROP パラメータで設定された伝搬の範囲は、そのサブシステム内でのみ適用され、他のサブシステムには適用されません。詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural サブシステム」を参照してください。

伝搬の詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* グローバルバッファプール」を参照してください。

24 BPSFI-バッファプール内のオブジェクトを最初に 検索

この Natural プロファイルパラメータでは、実行対象のオブジェクトが要求されたときにバッファプール内およびシステムファイル内を検索する順序を決定します。

次の2つの検索順序を選択できます。

可能な設定	ON	<p>検索順序1が使用されます。すべてのライブラリについて、最初にバッファプール内を検索され、次にシステムファイル内を検索されます。</p> <p>オブジェクトは見つかるまで次の順序で検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. バッファプールで、最初に現在のライブラリが検索され、次に STEPLIB が順番に検索されます。その後、2つの SYSTEM ライブラリが検索されます。2. システムファイルで、最初に現在のライブラリが検索され、次に STEPLIB が順番に検索されます。その後、2つの SYSTEM ライブラリが検索されます。 <p>パフォーマンス上の理由で、実稼働環境では BPSFI=ON を設定することをお勧めします。</p> <p>注意: BPSFI=ON を設定する場合、検索対象のすべてのライブラリでオブジェクト名が一意であることを確認してください。検索対象の複数のライブラリに同名のオブジェクトが存在する場合、予期しない結果が生じることがあります。</p>
	OFF	<p>検索順序2が使用されます。各ライブラリについて、バッファプール内とシステムファイル内が交互に検索されます。</p> <p>オブジェクトは見つかるまで次の順序で検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 現在のライブラリで、最初にバッファプール内を検索され、次にシステムファイル内を検索されます。2. 各 STEPLIB で、最初にバッファプール内を検索され、次にシステムファイル内を検索されます。


		<p>3. 2つの各 SYSTEM ライブラリで、最初にバッファプール内が検索され、次にシステムファイル内が検索されます。</p> <p>開発環境で、現在の独自ライブラリから最新のオブジェクトを確実に取得するには、BPSFI=OFF を設定することをお勧めします。</p>
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* の使用』ドキュメントの「*Steplib* ライブラリ」および「オブジェクト実行の検索順序」を参照してください。

25 BPSIZE - Natural ローカルバッファプールのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ローカルバッファプールのサイズを指定します。

BPI プロファイルパラメータまたは NTBPI マクロの SIZE 指定に対応します。

 **注意:**

1. **Com-plete** では、ローカルバッファプールのサイズは Natural の『インストール』ドキュメントに記載されているように設定します。
2. **BS2000/OSD** では、ローカルバッファプールのサイズは ADDON マクロのパラメータ SIZE で指定します。

可能な設定	256~2097151	Natural ローカルバッファプールのサイズ (KB 単位)。
デフォルト設定	256	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

BPSIZE は、プライマリ Natural ローカルバッファプール (TYPE=NAT、SEQ=0) にのみ適用されます。グローバルバッファプールの場合、これは無視されます。NATPARM で SEQ=0 を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの SIZE 設定のみが更新されます。

マルチユーザー環境 (例えば、CICS) では、BPSIZE パラメータは、ローカルバッファプールを初期化する最初の Natural セッションにのみ影響します。

内部的に、BPSIZE 指定は同等の BPI 指定に変換されます。

例：

```
BPSIZE=1500
```

次の形式に変換されます。

```
BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,SIZE=1500)
```

全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* バッファプール」を参照してください。

26 BPTEXT-Natural バッファプール内のテキストセグメントのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural バッファプールのテキストプールエリアを分割したときのセグメントのサイズを指定します。

BPI プロファイルパラメータまたは NTBPI マクロの TXTSIZE 指定に対応します。

可能な設定	1, 2, 4	セグメントのサイズ (KB 単位)。
デフォルト設定	4	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

BPTEXT パラメータは、プライマリ Natural バッファプール (TYPE=NAT、SEQ=0) にのみ適用されます。グローバルバッファプールの場合、これは無視されます。NATPARM で SEQ=0 を指定したプライマリバッファプールが存在する場合、このバッファプールの TXTSIZE 設定のみが更新されます。

マルチユーザー環境 (例えば、CICS) では、BPTEXT パラメータは、ローカルバッファプールを初期化する最初の Natural セッションにのみ影響します。

内部的に、BPTEXT 指定は同等の BPI 指定に変換されます。

例：

```
BPTEXT=4
```

次の形式に変換されます。

```
BPI=(TYPE=NAT,SEQ=0,TEXTSIZE=4)
```

Natural バッファプールの全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* バッファプール」を参照してください。

27 BSIZE - EntireX Broker バッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、EntireX Broker がインストールされている場合にのみ適用されます。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` (Natural の『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照) を使用して `BSIZE` 値を指定することもできます。

現在、EntireX Broker を使用している場合、EntireX Broker で自動的にバッファサイズが指定されます。

可能な設定	1~64	KB 単位のバッファサイズ。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	


28 BX - 外枠の定義

このセッションパラメータでは、フィールドの周囲に表示する外枠の部分を指定します。

取り囲み（外枠の縁取り）とは、端末画面に特定のフィールドが表示されたときにそのフィールドの周囲に線を生成する機能です。フィールドの周囲にそのような「外枠」を描画することは、フィールドの長さや画面上での位置をユーザーに示すためのもう1つのメソッドです。

取り囲み機能は、通常、ダブルバイト文字セットの表示もサポートしている特定のタイプの端末でしか使用できません。使用している端末で取り囲み機能がサポートされていない場合、このパラメータは実行時に無視されます。

可能な設定	T	上部の水平線。注1を参照してください。
	B	下部の水平線。注1を参照してください。
	L	左側の垂直線。注1と注2を参照してください。
	R	右側の垂直線。注1と注2を参照してください。
	ON	BX=TBRLRに対応します。
	OFF	関係するフィールドの周囲に外枠は描画しません。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	DISPLAY INPUT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	なし	

 **注意:**

1. 値 T、B、L、R は任意の順序で指定できます。

- セッションパラメータ設定 BX=L または BX=R を使用している場合、プロファイルパラメータ設定 DSC=OFF または Natural 端末コマンド %R0 を使用して、Natural の画面最適化をオフにする必要があります。

例：

```
DISPLAY #FIELD1 (BX=RLT) /  
        #FIELD2 (BX=TLRB)
```

端末コマンド %D= も参照してください。

29 CANCEL - ダンプによるセッションのキャンセル

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションをダンプによって終了させる文字列を指定できます。これは、デバッグに役立つことがあります。

可能な設定	1~8 文字	(最初の入力フィールドで始まる) Natural セッション内の任意の入力フィールドにこの文字列を入力すると、セッションが即座に終了し、ダンプが生成されます。
デフォルト設定	*CANCEL	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

30 CC - バッチモードでのエラー処理

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、バッチモードでの Natural プログラムのコンパイル/実行中にエラーが検出された場合の処理を指定します。このパラメータはバッチモードにのみ適用されます。

ユーザー記述のエラー処理ルーチンを使用している場合は適用されません。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ CC をセッションパラメータ CC で上書きできます。

可能な設定	ON	Natural は、先頭 2 桁が %% の行が見つかるまで、またはエンドオブファイル条件になるまで、バッチ入力ファイル CMSYNIN および CMOBJIN に対する入力データストリームをフラッシュします。入力ストリームにデータがまだ存在する場合、Natural は %% を含む行の後から再びデータを読み込みます。	
	OFF	Natural は入力ストリームの次のプログラム（またはコマンド）を処理しようとしています。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定			
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural セッションの終了時に（CC 設定とは関係なく）エラーが検出された場合、レジスタ 15 によってリターンコード 4 が呼び出し元プログラムに渡されます。

31 CCTAB - プリンタのエスケープシーケンス定義

■ CCTAB パラメータの構文	78
■ NTCCTAB マクロの構文	80
■ OPN、CLS、CODE、CS、CSS、または CSE の文字列構文	80
■ プロポーションナルフォント	81
■ NTCCTAB マクロの例	81
■ CCTAB パラメータの例	81

このNatural プロファイルパラメータでは、追加のレポートとハードコピーを出力するために使用するプリンタ制御シーケンスのテーブルを設定します。Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTCCTAB** マクロに対応します。

- Natural フィールド属性をエスケープシーケンスに変換することも、エスケープシーケンスに変換する特殊文字を指定することもできます。
- さらに、オープン操作の後に最初の出力レコードとして常に送信する文字列、またはクローズ操作の前に最後の出力レコードとして常に送信する文字列を指定することもできます。
- つまり、正しいプロファイル名を使用することで、縦モードまたは横モードの印刷出力を有効にすることができます。その後、Natural の単純な属性を使用して、このデバイスのすべての出力機能を利用できます。バーコード出力や縦倍角出力も可能です。
- CCTAB では、出力フィールドの特殊文字を認識し、それらの文字を定義済みの制御シーケンスで置き換えるために使用するテーブルを定義します。また、定義済みの制御シーケンスを挿入するために使用する Natural 属性を定義します。

可能な設定	下記の「 CCTAB パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	NATCONFIG のマクロ NTCCTAB 内で指定	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTCCTAB を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

CCTAB パラメータの構文

プロファイルごとに別々の CCTAB を指定する必要があります。CCTAB パラメータは、次の3種類の方法で指定できます。

第1種

```
CCTAB=( name, OPN='xxxxx', CLS='yyyyy')
```

上記の意味は次のとおりです。

name プロファイルフォームの名前、つまり DEFINE PRINTER (*n*) OUTPUT '*nnnnn*' PROFILE '*name*' です。必須で、最大長は 8 バイトです。

OPN='xxxxx' オプションで、各オープン操作時にプリンタに送信されるデータ文字列（最大 250 バイト）を定義します。

CLS='yyyyy' オプションで、各クローズ操作の前にプリンタに送信されるデータ文字列（最大 250 バイト）を定義します。

OPN および CLS は任意の順序で指定できます。

第 2 種

```
CCTAB=(name, CODE='n', CS='xxxx')
```

上記の意味は次のとおりです。

CODE='n' 出力文字列に表示された時点で Natural で認識される文字です。

CS='xxxx' CODE 文字を置き換える文字列です。

CS サブパラメータは CODE サブパラメータの直後に指定する必要があります。

第 3 種

```
CCTAB=(name, ATR=nnnn, CSS='xxxx', CSE='yyyy')
```

上記の意味は次のとおりです。

ATR='nnnn' Natural 内部フィールド属性です。名前はマクロ NAMATR で定義されます。

CSS='xxxx' フィールドの前に挿入される文字列（最大 20 バイト）です。CSS は必須です。

CSE='yyyy' フィールドの後ろに挿入される文字列（最大 20 バイト）です。CSE は必須です。

CSS および CSE サブパラメータは ATR サブパラメータの直後に指定する必要があります。

NTCCTAB マクロの構文

NTCCTAB マクロは、次の 3 種類の方法で指定できます。

第 1 種

```

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
    NTCCTAB name, *
        OPN='xxxxx', *
        CLS='yyyyy'
```

詳細については、CCTAB パラメータの構文の[第 1 種](#)を参照してください。

第 2 種

```

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
    NTCCTAB name, *
        CODE='n', *
        CS='xxxx'
```

詳細については、CCTAB パラメータの構文の[第 2 種](#)を参照してください。

第 3 種

```

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
    NTCCTAB name, *
        ATR=nnnn, *
        CSS='xxxx', *
        CSE='yyyy'
```

詳細については、CCTAB パラメータの構文の[第 3 種](#)を参照してください。

OPN、CLS、CODE、CS、CSS、または CSE の文字列構文

文字列を、（アポストロフィで囲んだ）文字として指定するか、対応する 16 進文字表現（アポストロフィなし）で指定します。

プロポーショナルフォント

プロポーショナルフォントを使用する場合、正しい配置が必要なテーブルを使用する前に、必ず固定幅フォントに戻すようにしてください。

NTCCTAB マクロの例

```
.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
NTCCTAB DBCST
NTCCTAB CODE=0E,CS=400E
NTCCTAB CODE=0F,CS=0F40<
NTCCTAB ATR=P5DBCS,CSS=0E,CSE=0F
```

```
.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
NTCCTAB TEST,OPN=27C5274DA2F1F188275093F0D6,CLS='LAST LINE'
NTCCTAB CODE='<',CS=' B(SOB'
NTCCTAB CODE='>',CS='B(S3B '
NTCCTAB CODE='(',CS=' B(S1S'
NTCCTAB CODE=')',CS='B(SOS '
NTCCTAB ATR=P2UL,CSS=' B&&DD',CSE='B&&D$'
NTCCTAB ATR=P2UL,CSS=405FF1C25084C4,CSE=5FF1C250847C
NTCCTAB ATR=P2ITAL,CSS=' B(S1S',CSE='B(SOS'
NTCCTAB ATR=P1HIGH,CSS=' B(S3B',CSE='B(SOB'
NTCCTAB ATR=P2RVID,CSS=' B(S-3B',CSE='B(SOB'
```

CCTAB パラメータの例

```
CCTAB=(DBCST,CODE=0E,CS=400E,CODE=0F,CS=0F40,ATR=P5DBCS,CSS=0E,CSE=0F)
```

```
CCTAB=(OPN=27C5274DA2F1F188275093F0D6,CLS='LAST LINE')
```


32 CD - カラー定義

このセッションパラメータでは、フィールドのカラー属性を指定します。カラー画面を使用しない場合、このパラメータはランタイムに無視されます。

関連セッションパラメータ：AD - 属性定義

可能な設定	BL	青
	GR	緑
	NE	デフォルト色
	PI	ピンク
	RE	赤
	TU	空色
	YE	黄色
デフォルト設定	NE	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	ASSIGN MOVE REINPUT	パラメータはステートメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

例：

```
INPUT (CD=RE) #A #B
```

33 CDYNAM - Natural 以外のプログラムのダイナミックロード

この Natural プロファイルパラメータでは、単一の Natural プログラムの実行時に、Natural によって Natural 以外のプログラムをダイナミックにロードするかどうかを定義します。

可能な設定	1 - 1024	CDYNAMが0に設定されている場合、Natural以外のプログラムのダイナミックロードは実行されません。 CDYNAMが0より大きい値に設定されている場合、NaturalによってNatural以外のプログラムのダイナミックロードが実行されます。
	0	
デフォルト設定	> 0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

34 CF - 端末コマンドの文字

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Natural 端末コマンドの先頭に使用する文字（制御文字）を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ CF をセッションパラメータ CF で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	<p>端末コマンドは指定文字で開始する必要があります。CFパラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ HI パラメータ（ヘルプ文字）または IA パラメータ（INPUT 割り当て文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ DC パラメータ（小数点文字）または ID パラメータ（INPUT 区切り文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ マップエディタでは、CFパラメータで定義された文字に関係なく、端末コマンドの制御文字は（マップで使用されるデリミタ文字とのコンフリクトを避けるため）常に「%」です。 	
	OFF	<p>端末コマンドに制御文字は使用できません。ただし、SET CONTROL ステートメントで端末コマンドを発行することはできます。</p>	
デフォルト設定	%	<p>端末コマンドは「%」で始める必要があります。</p>	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0350N、USR1005N *	<p>『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。</p> <p>* 推奨。</p>	

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

35 CFICU - Unicode とコードページのサポート

- CFICU パラメータの構文 90
- NTCFICU マクロの構文 91
- キーワードサブパラメータ 91
- NTCFICU マクロの例 94
- ダイナミックパラメータ CFICU の例 94

この Natural プロファイルパラメータは、各種 Unicode 設定について Unicode とコードページのサポートを有効にするために必要です。例えば、Uフォーマットの変数またはステートメント MOVE ENCODED を使用する場合などです。パラメータモジュール NATPARM の **NTCFICU** マクロに対応します。

『Unicode and Code Page Support』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	次の構文を参照してください。	使用可能なサブパラメータキーワード：下記の「 キーワードサブパラメータ 」を参照してください。
デフォルト設定	ON または OFF	Unicode とコードページのサポートを有効または無効にします。プロファイルパラメータ CP が OFF に設定されている場合、デフォルト値は OFF です。それ以外の場合、デフォルト値は ON です。
ダイナミックな指定	可	パラメータ CFICU はダイナミックに指定することしかできません。NATPARM では、マクロ NTCFICU を使用してください。
セッション内の指定	不可	

プロファイルパラメータ CP が OFF 以外の値に設定されている場合、CFICU=ON が強制的に使用されます。

以下では次のトピックについて説明します。

CFICU パラメータの構文

CFICU プロファイルパラメータは次のように指定します。

```
CFICU=(ON, COLLATE=value, COLNORM=value, CNVNORM=value, LOCALE=value, CPOPT=value, DATFILE=value)
```

または

```
CFICU=(OFF, COLLATE=value, COLNORM=value, CNVNORM=value, LOCALE=value, CPOPT=value, DATFILE=value)
```


または

```
CFICU={ { (ON)
          (OFF) } }
```

NTCFICU マクロの構文

NTCFICU マクロは次のように指定します。

```
.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
    NTCFICU ON/OFF, *
        COLLATE=value, *
        COLNORM=value, *
        CNVNORM=value, *
        LOCALE=value, *
        CPOPT=value *
        DATFILE=value
```

または

```
NTCFICU ON
```

または

```
NTCFICU OFF
```

キーワードサブパラメータ

COLLATE | COLNORM | CNVNORM | LOCALE | CPOPT | DATFILE

COLLATE - 照合サービス

照合は、テキスト情報の単位を順序付けるプロセスです（アルファベット順）。通常、照合は特定の言語に固有です。

例：文字「Ä」はドイツ語ロケールでは A と「B」の間にソートされますが、スウェーデン語ロケールでは「Z」の後にソートされます。リトアニア語では、「y」は「i」と「k」の間にソートされます。

このサブパラメータでは、使用する照合サービスを決定します。

ON	ロケール ID と ICU の照合サービスを使用して Unicode 設定を比較します。これはデフォルト値です。
OFF	ICU の単純な Unicode 比較を使用します。

COLNORM - 照合サービスの正規化チェック

正規化は、テキストデータから同等シーケンスの代替表現を削除して、等価性についてバイナリ比較できるフォームにデータを変換するプロセスです。

このサブパラメータは、COLLATE=ON が設定されている場合にのみ有効です。

ICU 照合サービスでは非正規化テキストが適切に処理され、テキストが正規化されている場合と同様の結果が得られます。これにより、正規化が必要なほとんどのテキストで、最大のパフォーマンスが得られます。Unicode データに非正規化テキストが含まれないことが確実な場合、非正規化のオーバーヘッドチェックも除外できます。

ON	非正規化テキストをチェックします。
OFF	非正規化テキストのチェックを無効にします。これはデフォルト値です。

CNVNORM

例えば、ドイツ語文字「ä」は、Unicode で U+00E4 として表現するか、結合文字を使用して U+0061、U+0308 として表現できます。コードページへの変換では、結合された「ä」（U+0061 U+0308）は 2 つのコードポイントとしてみなされ、U+0308 がターゲットコードページの有効な文字でない場合、「a」と置換文字が生成されます。変換前の正規化では、結合コードポイント U+0061 U+0308 から 1 つのコードポイント U+00E4 が作成され、その後の変換によって結果「ä」が生成されます。このパラメータは、出力デバイスが端末エミュレーションのときに、U フォーマットから A フォーマットへの変換が実行されるたびに適用されます（例えば、MOVE U TO A または DISPLAY U）。追加操作では、当然ながら追加のストレージと CPU 時間が消費されます。

CNVNORM=OFF の場合は、MOVE NORMALIZED ステートメントを使用して、選択した文字列を正規化できます。

このサブパラメータでは、変換前の正規化を有効または無効にします。

ON	変換前の正規化を有効にします。
OFF	変換前の正規化を無効にします。これはデフォルト値です。

LOCALE - ロケール ID

ロケール ID は、言語と地域依存の照合機能を考慮するために ICU の照合サービスで使用されます。ロケール ID の言語コードは ISO639 に準拠し、地域コードは ISO 3166 に準拠する必要があります。

設定可能値	<i>LLL_RRR</i>	<i>LLL</i> は、小文字の言語コード (2 バイトまたは 3 バイト) です。大文字で指定した場合、自動的に小文字に変換されます。 <i>RRR</i> は、言語を分類するための大文字の地域コード (2 バイトまたは 3 バイト) です。
デフォルト値	en_US	

例：

en_US	英語 (米国)
en_UK	英語 (英国)
de_DE	ドイツ語 (ドイツ)
de_AT	ドイツ語 (オーストリア)
de_CH	ドイツ語 (スイス)
sv_SE	スカンジナビア語 (スウェーデン)

CPOPT - コードページの高速変換

デフォルトでは、英字フォーマットから Unicode フォーマットへの変換 (またはその逆) は、ICU 機能呼び出して実行されます。特定のコードページは、Unicode に対する 1:1 関係のマッピング文字です。この場合、ICU 機能の代わりに内部変換テーブルを使用したほうが変換パフォーマンスが向上します。

ON	可能な場合、ICU 機能の代わりに内部変換テーブルを使用します。
OFF	常に ICU 機能を使用します。これはデフォルト値です。

DATFILE - 追加データファイル

オプションのデータファイル名。RCA 手法を使用してロードできる必要があります。データファイルには、コンバータマッピングテーブル、照合ルール、改行イタレータルール、および他のロケールデータが含まれます。ICU 開発キットには、特定の要件に準拠したデータファイルを構築するためのツールが用意されています。詳細については、『*ICU User Guide*』の章「*Data Management*」を参照してください。

設定可能値	<i>name</i>	データファイル名の長さは最大 8 文字です。
	OFF	定義済みのすべてのデータファイルを削除します。つまり、デフォルトのデータファイルが使用されます。
デフォルト値	なし	追加データファイルは定義されません。デフォルトのデータファイルが使用されます。

NTCFICU マクロの例


```
NTCFICU COLNORM=ON, LOCALE=de_DE, DATFILE=TEST15
```

ダイナミックパラメータ CFICU の例

```
CFICU=(COLNORM=ON, LOCALE='de_DE', DATFILE=TEST15)
```

36 CFWSIZE (内部使用)

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

37 CLEAR - NEXT モードでの CLEAR キーの処理

NEXT モードでプログラムを実行中に CLEAR キーが押されると、Natural で特定の Natural 端末コマンドが実行されるようになります。

可能な設定	任意の文字	デフォルトの処理を変更するには、端末コマンド制御文字（CFパラメータで指定した文字）の後に追加したときに有効な Natural 端末コマンドとなる文字を、このパラメータ値として指定します。 例： CF=% CLEAR=R NEXT モードで CLEAR キーが押されると、Natural では端末コマンド %R を実行します。
デフォルト設定	%	デフォルトでは、CLEAR キーが押されると、Natural ではユーザーが端末コマンド %% を入力した場合と同じ処理を実行します。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

38 CM-コマンドモード

この Natural プロファイルパラメータは、Natural コマンドモード（NEXT および MORE）を抑制するために使用します。

可能な設定	ON	NEXT および MORE は、コマンド入力に有効です。
	OFF	NEXT になると、Natural セッションは終了します。MORE 行は、書き込み保護（入力不可能）されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	yes	
セッション内の指定	不可	

39

CMPO - コンパイルオプション

■ CMPO パラメータの構文	102
■ NTCMPO マクロの構文	102
■ キーワードサブパラメータ	103
■ CMPO パラメータの例	103
■ NTCMPO マクロの例	103

このNaturalプロファイルパラメータは、セッションの開始時に動的に指定するために使用できます。また、パラメータモジュールの **NTCMPO** マクロ、または **COMPOPT** システムコマンド（アクティブセッション中）でスタティックに指定可能な同じオプションを上書きするために使用できます。

可能な設定	システムコマンド	
デフォルト設定	COMPOPT を参照してください。	
動的な指定	可	このパラメータは動的に指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTCMPO を使用する必要があります。
セッション内の指定	可	システムコマンド COMPOPT を参照してください。

以下では次のトピックについて説明します。

CMPO パラメータの構文

CMPO パラメータの構文は次のとおりです。

```
CMPO=(keyword-subparameter1=value,keyword-subparameter2=value,...)
```

NTCMPO マクロの構文

Natural パラメータモジュールの **NTCMPO** マクロの構文は次のとおりです。

```
NTCMPO keyword-subparameter1=value,keyword-subparameter2=value,...
```

各キーワードサブパラメータには値 **ON** または **OFF** を使用できます（**GFID** には値 **VID** も使用できます）。次のキーワードサブパラメータの説明を参照してください。

キーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

CPAGE | DB2ARRY | DBSHORT | GFID | FINDMUN | KCHECK | LOWSRCE | MASKCME |
NMOVE22 | PCHECK | PSIGNF | THSEP | TQMARK | TSENABL | V41COMP

マクロでは、キーワードサブパラメータは任意の順序で指定できます。詳細については、上記のリンクに従ってください。完全な説明については、『システムコマンド』ドキュメントのシステムコマンド COMPOPT を参照してください。

CMPO パラメータの例

```
CMPO=(KCHECK=ON,PCHECK=ON)
```

NTCMPO マクロの例

```
.....+.....1.....+.....2.....+.....3.....+.....4.....+.....5.....+.....6.....+.....7..
      NTCMPO KCHECK=ON,
            PCHECK=ON
```


40

COMPR - RPC バッファ圧縮の設定

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータは、RPC バッファ圧縮を設定するために使用します。自動的な Natural RPC 実行が使用されており (`AUTORPC=ON`)、スタブなしで `CALLNAT` が実行される場合にのみ有効です。スタブが使用される場合は、圧縮はスタブ生成中にすでに設定されています。詳細については、Natural の『リモートプロシージャコール』ドキュメントの「圧縮の使用」を参照してください。

COMPR はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	0	圧縮は実行されません。
	1	送信バッファには、変更可能なフィールドと出力フィールドおよびフォーマットバッファが含まれます。返信バッファには、変更可能なフィールドと入力フィールドが含まれます。
	2	COMPR=1 と同様、さらに返信バッファにもフォーマットバッファが含まれます。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	ランタイムに、SYSRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用してこの値を上書きできます。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

41 CP - デフォルトのコードページ名

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural データおよび Natural ソースのデフォルトのコードページを定義します。

Unicode との間のデータ変換のようなコードページセンシティブなオペレーションに対して、例えば、ステートメント固有の ENCODED オプションや他のプロファイルパラメータなどによってコードページが指定されていない場合は、デフォルトコードページが適用されます。

現在の Natural セッションについては、すべてのコードページデータ (Natural ソース、A フォーマットフィールドの内容など) がこのコードページフォーマットで保存されると想定されます。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	code-page	目的のコードページの名前です。長さ：1~64 文字 任意の文字列を指定できますが、ソースモジュール NATCONFIG のマクロ NTCPAGE のコードページパラメータである CCSID、CCSN、IANA、または ALIAS のうちのいずれかで定義済みである必要があります。UTF-32 は指定できません。 マルチバイトコードページのサポートの詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「マルチバイトコードページ」を参照してください。
	ON	次のようにして、IBM および Siemens メインフレームのデフォルトコードページを設定します。 Siemens メインフレームの場合、コードページは EDF031RV です。 IBM メインフレームの場合、これは次の Natural プロファイルパラメータ ULANG の設定によって異なります。
	ULANG 設定：	
	ULANG=1 (英語)	使用されるコードページ： IBM01140
ULANG=2 (ドイツ語)		IBM01141

		ULANG=3 (フランス語)	IBM01147
		ULANG=4 (スペイン語)	IBM01145
		他の言語の場合、IBM01140 がデフォルトコードページとして使用されます。 注意: プロファイルパラメータ CP の言語コード関連の適合は、セッション時にアクティブな ULANG プロファイルパラメータにのみ適用されます。その後に Natural Security または端末コマンド %L= を使用して言語コードを変更しても、デフォルトコードページの初期定義は影響を受けません。	
	OFF	コードページのサポートを無効にします。	
	' '	(空白) ON と同じです。	
	AUTO	ユーザー端末のコードページ名が使用されます (使用可能な場合)。オンライン環境 TSO、CICS、Com-plete、および VM/CMS にのみ適用されます。 マルチバイトコードページのサポートの詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「マルチバイトコードページ」を参照してください。 注意: CP=AUTO は、Natural Single Point of Development 環境ではサポートされていません。	
デフォルト設定	OFF	コードページのサポートを無効にします。	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		

CP プロファイルパラメータが OFF 以外の値に設定されている場合、CFICU プロファイルパラメータの値は ON に変更されます。

プロファイルパラメータ CP がマルチバイトコードページ (MBCS) に設定されている場合、論理シフトイン/シフトアウト文字はコードページで提供され、SOSI は無視されます。

ヒント：

- CP パラメータの評価の結果であるデフォルトコードページを確認するには、システム変数 *CODEPAGE の内容を表示するか、または SYSCP ユーティリティの Unicode プロパティ機能を使用します。
- LIST DIRECTORY システムコマンドまたは SYSCP ユーティリティを使用すると、Natural ソースオブジェクトのエンコーディングに使用されるデフォルトコードページを確認できます。また、SYSCP ユーティリティは、ソースオブジェクトのコードページを変更する場合にも使用できます。

42

CPCVERR - コードページ変換エラー

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、次の変換時に発生する変換エラーが Natural エラーにつながるかどうかを指定します。

- Unicode からコードページへの変換
- コードページから Unicode への変換
- あるコードページから別のコードページへの変換

いずれにしても、変換後には、ターゲットオペランドに変換結果が格納されます。この変換結果では、関連するコードページについて、変換できないすべての文字が、ICU で定義された置換文字で置き換えられます。このパラメータは、Natural ソースの変換（ソースエリアへのロード時、またはカタログ時）には関係しません。

メインフレームプラットフォームでは、端末エミュレーションの I/O の前に Unicode フィールドがコードページに変換されたとは見なされません。この場合、置換文字は NATCONFIG で定義されたプレースホルダ文字に置き換えられます。

以下の項目も参照してください。

- 『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」
- 『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「メインフレーム上のエディタ、システムコマンド、およびユーティリティ用のコードページのサポート」

可能な設定	ON	ICU 変換時に 1 つ以上のコードポイントが正しく変換されなかった場合、Natural エラー NAT3413 が発行されます。出力ステートメントの場合、エラーメッセージは発行されません。
	OFF	ICU 変換時に 1 つ以上のコードポイントが正しく変換されなくても、エラーは生成されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	

セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS

43 CPOBJIN - バッチ入力ファイルのコードページ

このNatural プロファイルパラメータでは、バッチ入力ファイル CMOBJIN（「バッチモードでの Natural」を参照）のコードページを指定します。

（例えば、パラメータ CP=OFF によって）Natural コードページのサポートが無効になっている場合、このパラメータに指定した値は無視されます。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	目的のコードページの名前です。任意の文字列を指定できますが、ソースモジュール NATCONFIG のマクロ NTCPAGE のコードページパラメータである CCSID、CCSN、IANA、または ALIAS のうちのいずれかで定義済みである必要があります。UTF-32 は指定できません。
	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
デフォルト設定	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

44 CPPRINT - バッチ出力ファイルのコードページ

このNatural プロファイルパラメータでは、バッチ出力ファイル CPPRINT（「バッチモードでの Natural」を参照）のコードページを指定します。

（例えば、パラメータ CP=OFF によって）Natural コードページのサポートが無効になっている場合、このパラメータに指定した値は無視されます。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	目的のコードページの名前です。任意の文字列を指定できますが、ソースモジュール NATCONFIG のマクロ NTCPAGE のコードページパラメータである CCSID、CCSN、IANA、または ALIAS のうちのいずれかで定義済みである必要があります。
	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
デフォルト設定	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

45 CPRPC - コードページ名の定義

スタティクな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、EntireX Broker で使用されるコードページの名前を指定します。現在、トランスポートプロトコル ACI (EntireX Broker) が使用されるとき、Natural RPC 機能にのみ適用されます。

EntireX Broker の詳細については、EntireX Broker ドキュメントの Software AG の国際化に関するセクションを参照してください。

『Unicode およびコードページのサポート』の「Unicode / コードページ環境の設定と管理」の「プロファイルパラメータ」も参照してください。

CPRPC は、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

可能な設定	1~40 文字	EntireX Broker の有効なコードページ名
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

46 CPSYNIN-コマンド用のバッチ入力ファイルのコードページ

このNatural プロファイルパラメータでは、コマンド用バッチ入力ファイルCMSYNIN（「バッチモードでのNatural」を参照）のコードページを指定します。

（例えば、パラメータ CP=OFF によって）Natural コードページのサポートが無効になっている場合、このパラメータに指定した値は無視されます。

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	1~64 文字	目的のコードページの名前です。任意の文字列を指定できますが、ソースモジュール NATCONFIG のマクロ NTCPAGE のコードページパラメータである CCSID、CCSN、IANA、または ALIAS のうちのいずれかで定義済みである必要があります。UTF-32 は使用できません。
	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
デフォルト設定	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

47 CSIZE - Con-nect バッファエリア

この Natural プロファイルパラメータでは、Con-nect バッファエリアのサイズを決定します。Con-nect がインストールされている場合にのみ適用されます。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` を使用することもできます。バッファサイズの指定方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照してください。

可能な設定	1~512	KB 単位のバッファサイズ。
	0	CSIZE=0 を指定した場合、または要求したスペースを利用できない場合、Con-nect は使用できません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、Con-nect の『インストール』ドキュメントを参照してください。

48 CSTATIC - Natural にスタティックにリンクするプログラム

■ CSTATIC パラメータの例	122
■ NTCSTAT マクロの例	123

この Natural プロファイルパラメータは、Natural パラメータモジュール (NATPARM) にリンクする Natural 以外のプログラムの名前のリストを定義するために使用します。

可能な設定	プログラム名のリスト	プログラム名 (1~8 文字) ごとに、リンケージエディタ用に外部参照が生成されます。外部参照 (エントリ名) がプログラム名と異なる場合、エントリ名は次のように名前の後ろに角カッコで囲んで指定できます。 <i>Program-name(Entry-name)</i>
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	不可	

Natural にリンクするように指定した Natural 以外の各プログラムは、CALL ステートメントを使用して Natural プログラムから呼び出すことができます。

パラメータの値は 256 バイトに制限されているため、CSTATIC パラメータで指定するプログラム名数は限られます。また、マクロ NTCSTAT を使用して、スタティックにリンクするプログラムをさらに定義できます。次の例を参照してください。

スタティックにリンクしたモジュールは、セッションの初期化時にロードすることでダイナミックに置き換えることができます。プロファイルパラメータ RCA を参照してください。スタティックにもダイナミックにもリンクしていないモジュールは、CALL ステートメントで最初に呼び出されたときにダイナミックにロードされます。

プログラムを共有ニュークリアスにリンクする場合、2つのパラメータモジュールで CSTATIC パラメータによって定義する必要があります。1つは共有ニュークリアスにリンクし、もう1つは環境依存のニュークリアスにリンクします。

詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「スタティックにリンクされる Natural 以外のプログラム」を参照してください。

以下では次のトピックについて説明します。

CSTATIC パラメータの例

```
CSTATIC=(PROG1,PROG7(ENTRY2),PROG12,PROG27($MAIN))
```


NTCSTAT マクロの例

```
NTCSTAT PROG1,PROG7(ENTRY2),PROG12  
NTCSTAT PROG27($MAIN)
```


49 CV - 属性制御変数

このセッションパラメータは、属性制御変数を参照するために使用します。属性制御変数はフォーマットC（『プログラミングガイド』の「特別なフォーマット」）で定義され、フィールド属性をダイナミックに割り当てるために使用されます。

可能な設定	B、C、D、I、N、U、V	フィールド表現属性（セッションパラメータ AD を参照）。
	P	フィールド保護（セッションパラメータ AD を参照）。
	BL、GR、NE、PI、RE、TU、YE	カラー（カラーコードの詳細については、セッションパラメータ CD を参照）。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント：	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

例：

```

DEFINE DATA LOCAL
1 #ATTR(C)
1 #A (N5)
END-DEFINE
...
MOVE (AD=I CD=RE) TO #ATTR
INPUT #A (CV=#ATTR)
...

```

IFステートメントのMODIFIEDオプションを指定することで、属性制御変数を使用して、フィールドの内容が INPUT ステートメントの実行時に変更されたかどうかをチェックできます。

```
IF #ATTR MODIFIED ...
```

単一の属性制御変数を複数の入力フィールドに適用できます。そのためには、ステートメントレベルで1回指定するか、エレメントレベルで複数回指定します。この場合、制御変数を参照しているフィールドが変更されると、「modified」ステータスインジケータが設定されます。ステートメントレベルとフィールドレベルの両方で CV パラメータが指定され、個々のフィールドの属性制御変数が空の場合、フィールドにはステートメントの属性制御変数が使用されます。

属性制御変数は、対応する配列のランクに応じて、最大3次元まで拡張できます（例えば、CONTR(*)、CONTR(*,*)、CONTR(*,*,*)）。

50

CVMIN - 入力時に変更された制御変数

このNaturalプロファイルパラメータでは、属性制御変数が付加されているフィールドの設定が同じ設定で上書きされたときに属性制御変数に MODIFIED ステータスを割り当てるかどうかを決定します。属性制御変数に MODIFIED ステータスが割り当てられた場合、MODIFIED オプションはこれを TRUE として評価します。これは、入力が手動によるものか、スタックからの読み込みによるものか、またはバッチモードでの指定によるものかに関係なく、適用されます。

可能な設定	ON	フィールド設定が同じ設定で上書きされた場合、対応する制御変数に MODIFIED ステータスが割り当てられます。
	OFF	フィールド設定が同じ設定で上書きされた場合、対応する制御変数に MODIFIED ステータスは割り当てられません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

51 DATSIZE-ローカルデータ用バッファの最小サイズ

この Natural プロファイルパラメータは、ローカルデータバッファ (DATSIZE) の最小サイズを設定するために使用します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` (『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照) を使用して DATSIZE 値を指定することもできます。

可能な設定	10~2097151	最小バッファサイズ (KB 単位)。
デフォルト設定	32	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

DATSIZE バッファは「可変サイズ」バッファです。セッション中にローカルデータエリア用にさらにストレージが必要になった場合、DATSIZE バッファがダイナミックに拡張されます。スレッド環境では、ストレージスレッドが大きくなりすぎた場合、DATSIZE を一時的にストレージスレッド外に割り当てることができます。アプリケーションで使用していたスペースが不要になった場合、DATSIZE バッファのサイズは最小サイズに戻されます。

DATSIZE バッファの機能

実行時に、DATSIZE バッファには、実行している Natural メインプログラムで使用されるローカルデータと、このプログラムによって呼び出されるすべての下位オブジェクト (「FETCHed」プログラムを除く) のローカルデータが保持されます。

開発環境で Natural を使用する場合、必要な最小 DATSIZE はデフォルト設定 (つまり、32 KB) になります。Natural をランタイム専用環境として使用し、他の Natural ユーティリティを使用しない場合は、DATSIZE を小さくすることのみ可能です。

DATSIZE 要件の計算

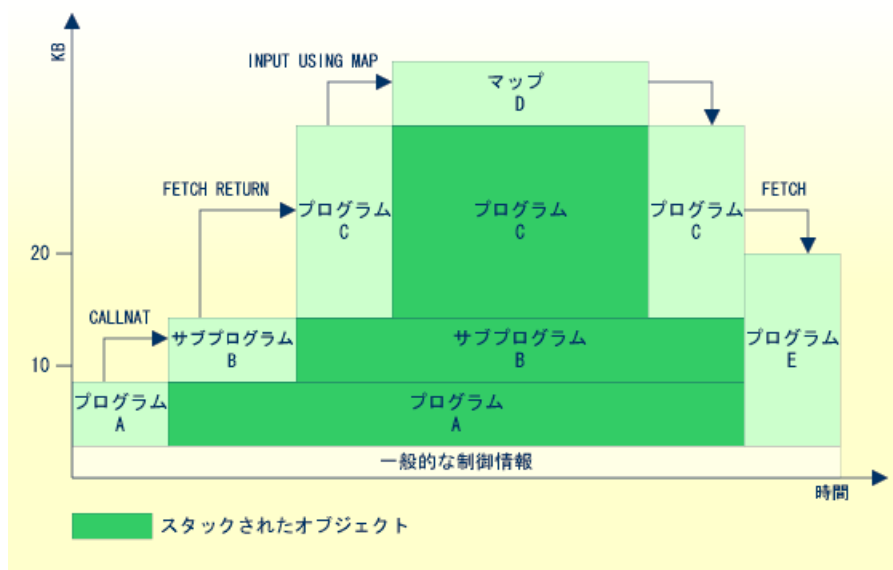
実際の DATSIZE 要件は、次のように計算できます (次の図を参照)。

メインプログラムから別のオブジェクトが呼び出された場合、このオブジェクトのローカルデータも DATSIZE バッファに保持されます。

呼び出されたオブジェクトから他のオブジェクトが呼び出された場合（CALLNAT、PERFORM、FETCH RETURN、INPUT USING MAP ステートメントを使用すると、ヘルプルーチン/ヘルプマップが呼び出される）、そのローカルデータも DATSIZE バッファに保持されます。呼び出されたオブジェクトのローカルデータは、呼び出し先オブジェクトから呼び出し元オブジェクトに制御が戻されるまで DATSIZE バッファに保持されます。

FETCHステートメントで別のメインプログラムが呼び出された場合、前に呼び出されたすべてのオブジェクトのローカルデータが DATSIZE バッファから削除され、「FETCHed」プログラムのローカルデータが DATSIZE に保持されます。

また、DATSIZE には、実行に関する全般的な制御情報が約 128 バイト保持されます。それに加え、ローカルデータが DATSIZE バッファに保持されている各オブジェクトについて約 128 バイトの制御情報が保持されます。次の図を参照してください。



システムコマンド LIST には、オブジェクトに関するディレクトリ情報を表示するためのオプションが備わっています。この情報には、オブジェクトの DATSIZE ストレージ要件が含まれます（制御情報は含まれません）。

52 DB - データベースタイプとオプション

■ DB パラメータの構文	132
■ NTDB マクロの構文	133
■ 使用可能なデータベースオプション	134
■ NTDB マクロの例	135
■ DB パラメータの例	135

このNatural プロファイルパラメータは、データベースタイプとオプションを定義するために使用します。すべてのデータベースを対象にすることも、特定のデータベース ID を対象にすることもできます。

パラメータモジュール NATPARM の **NTDB** マクロに対応します。

可能な設定	<i>database-type</i>	<i>database-type</i> は ADABAS とその同義語 ADAV7 以外です。例えば、ADAV8、DLI、VSAM、DB2 などが該当します。対応する Natural データベース管理インターフェイスの詳細については、『データベース管理システムインターフェイス』ドキュメントを参照してください。 NTDB マクロでは、このサブパラメータは必須です。
	<i>database-ID</i>	<i>database-ID</i> は 0～65535 の範囲にする必要があります。 データベース ID 255 は指定しないでください。内部使用のために予約されています。 単一のデータベース ID を指定することも、データベース ID を丸カッコで囲んでリストとして指定することも、明示的に指定されていないすべてのデータベースのデフォルトを示すアスタリスクを指定することもできます。
	<i>options</i>	<i>options</i> については、下記の「 使用可能なデータベースオプション 」を参照してください。
デフォルト設定	ADABAS,*	Adabas バージョン7
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTDB を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

DB パラメータの構文

DB パラメータは次のように指定します。

1. デフォルトのデータベースの定義

デフォルトのデータベースタイプとデフォルトのオプションは次のように指定します。DBパラメータまたは NTDB マクロで明示的に指定されていないすべてのデータベース ID に適用されます。オプションがない場合は、コンマとアスタリスクを省略できます。

```
DB=(データベースタイプ,*,オプション)
```

2. 単一のデータベースの定義

単一のデータベース ID は次のように指定します。

```
DB=(データベースタイプ,データベース ID,オプション)
```

3. 複数のデータベースの定義

データベースタイプが同じで指定するオプションも同じ複数のデータベース ID は、次のように丸カッコで囲んでまとめて指定できます。

```
DB=(データベースタイプ,(データベース ID1,データベース ID2,...),オプション)
```

NTDB マクロの構文

NTDB マクロは次のように指定します。

1. デフォルトのデータベースの定義

デフォルトのデータベースタイプとデフォルトのオプションは次のように指定します。DBパラメータまたは NTDB マクロで明示的に指定されていないすべてのデータベース ID に適用されます。オプションがない場合は、コンマとアスタリスクを省略できます。

```
NTDB データベースタイプ,*,オプション
```

2. 単一のデータベースの定義

単一のデータベース ID は次のように指定します。

NTDB データベースタイプ,データベース ID,オプション

3. 複数のデータベースの定義

データベースタイプが同じで指定するオプションも同じ複数のデータベース ID は、次のように丸カッコで囲んでまとめて指定できます。

NTDB データベースタイプ,(データベース ID1,データベース ID2,...),オプション

使用可能なデータベースオプション

次のオプションは、DB パラメータと NTDB マクロの両方に指定できます。

ACODE	使用されている Adabas DBID が文字エンコードとデータ変換に有効な場合、コードページまたは Unicode のサポートが必要かどうかにかかわらず、Natural アプリケーションは Adabas と通信する必要があります。したがって、すべての A フィールドにアプリケーション固有のコードページを指定する ACODE 設定、またはすべての W フィールドの WCODE=4095 (UTF-16) 設定、あるいはその両方を OP コールを使用して送信する必要があります。『Unicode およびコードページのサポート』も参照してください。
WCODE	
ENTIRE	データベースは Entire DB で処理されます。
ETP	データベースは Entire Transaction Propagator で処理されます。
OPEN	このオプションは、Adabas でオープン要求の発行が必要な Adabas データベースにのみ適用されます。このようなデータベースに OPEN を指定した場合、オープン要求が常に発行されます (ETID が空白の場合でも同様です)。

次のオプションは、ダイナミックパラメータ DB にのみ指定できます。

NOOPEN	OPEN オプションをリセットします。
NOREAD	READ オプションをリセットします。
NOETP	ETP オプションをリセットします。
NOENTIRE	ENTIRE オプションをリセットします。
OFF	指定したデータベースの DB または NTDB 定義を削除します。下記の「DB パラメータの例」を参照してください。

NTDB マクロの例

NTDB DLI,7 データベース 7 を DL/I データベースとして定義します。

NTDB
ADAV8,(10,15,57),ETP Natural パラメータモジュール NATPARM においては、データベース 10、15、および 57 を、Entire Transaction Propagator で処理される Adabas バージョン 8 データベースとして定義します。

DB パラメータの例

DB=(VSAM,(22,26,33)) データベース 22、26、および 33 を VSAM データベースとして定義します。

DB=(*,READ) デフォルトのデータベース定義を読み取り専用にするすべてのデータベースを設定します。

DB=(8,9),NOREAD) データベース 8 および 9 の読み取り専用オプションを削除します。

DB=(17,OFF) データベース 17 のデータベース定義をデフォルトにリセットします。

53 DB2SIZE - DB2 または SQL/DS 用の Natural バッファ エリア

この Natural プロファイルパラメータは、Natural for DB2 および Natural for SQL/DS にのみ適用されます。

Natural for DB2 および Natural for SQL/DS で必要なバッファエリアの最大サイズを設定します。

可能な設定	0 - 64	バッファエリアの最大サイズ (KB 単位)。 要求したスペースを利用できない場合、Natural for DB2 または Natural for SQL/DS インターフェイスは使用できません。 Natural を DB2 または SQL/DS 用には使用しない場合は、DB2SIZE を 0 に設定してください。 Natural を DB2 または SQL/DS 用を使用する場合は、DB2SIZE を 40 KB 以上に設定する必要があります。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

54 DBCLOSE - セッション終了時のデータベースクローズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural がセッション中にアクセスしたすべてのデータベースを該当セッションの終了時にクローズするかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural は、すべてのデータベースをクローズします。
	OFF	Natural は、明示的なオープンコマンドによってオープンされたデータベースのみをクローズします。 明示的なオープンコマンドは次の場合に発行されます。 <ul style="list-style-type: none">■ プロファイルパラメータ ETID が ' ' (空白) に設定されていない場合■ プロファイルパラメータ DBOPEN=ON の場合■ マクロ NTDB またはプロファイルパラメータ DB の OPEN オプションによってオープンが強制される場合
	ETDB	Natural は、プロファイルパラメータ ETDB で指定されたデータベースのみをクローズします。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ADAMODE](#) | [DBOPEN](#) | [ENDBT](#) | [ET](#) | [ETDB](#) | [ETEOP](#) | [ETIO](#) | [ETSYNC](#)

55 DBGERR - ランタイムエラー発生時のデバッグの自動起動

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural でランタイムエラーが発生した場合に Natural デバッグを自動的に起動するかどうかを指定します。

Natural エラーが発生した場合、デバッグがすでに起動しているかどうかにかかわらず、ランタイム環境は制御をデバッグに渡します。したがって、このような場合に Natural システムコマンド TEST ON の使用を手動で制御する必要はありません。

可能な設定	ON	デバッグが自動的に起動され、既存エラーに関する詳細を示す画面が表示されます。
	OFF	デバッグは自動的に起動されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、Natural の『デバッグ』ドキュメントの「デバッグの開始」を参照してください。

56 DBID - Natural システムファイルのデフォルトのデータベース ID

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural システムファイル (FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、FSPool) が保存されているデフォルトのデータベースを識別します。

可能な設定	0 - 254, 256 - 65535	データベース ID。 注意: データベース ID 255 は内部使用のために予約されています。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	DBID パラメータをダイナミックに指定した場合、すべてのシステムファイルのデータベース ID にこの設定が適用されます。したがって、個々のシステムファイルパラメータ (FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、FSPool) も指定する場合、DBID パラメータはこれらのパラメータの前に指定する必要があります。
セッション内の指定	不可	

個々のシステムファイルのデータベース ID は、パラメータ FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSPool で指定できます。DBID パラメータで指定したデータベース ID は、個々のデータベース ID が指定されていないすべての Natural システムファイルに適用されます。

データベースシステムのタイプは、NTDB マクロ内の指定によって決定されます。

57 DBOPEN - ETID を使用しないデータベースオープン

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural のデータベースオープン処理を制御します。DBOPEN は設定 `ETID=' '`（空白）を無効にします。

可能な設定	ON	ETID パラメータが空白に設定されている場合も、データベースオープンが発行されます。
	OFF	ETID パラメータが空白に設定されている場合、データベースオープンは発行されません。 例外：ETDB として指定されたデータベースには、ETID が空白に設定され、DBOPEN が OFF に設定されている場合も、1つのオープンコマンドが必ず送信されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ADAMODE](#) | [DBCLOSE](#) | [ENDBT](#) | [ET](#) | [ETDB](#) | [ETEOP](#) | [ETIO](#) | [ETSYNC](#)

58

DBROLL - ロールアウト前のデータベースコール

この Natural プロファイルパラメータは、CICS および Com-plete でのみ適用されます。

データベースコールの後に Natural スレッドのロールアウトが実行されるコールの数を決定します。

可能な設定	0 - 32767	データベースコールの後にロールアウトが実行されるコールの数。
デフォルト設定	0	データベースコールに対してロールアウトは実行されません。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ロールアウト中、Natural セッションは中断します。

59 DBUPD - データベース更新

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッション中にデータベース更新を許可するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	データベース更新は許可されます。
	OFF	データベース更新は許可されません。データベースを更新する Natural ステートメント (STORE、UPDATE、DELETE) は実行されず、エラーメッセージが生成されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR1042N *	

DBUPD 設定は、Natural システムコマンドの実行には影響しません。

60 DC - 小数点表記の文字

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、小数点表記に使用する文字を決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DC をセッションパラメータ DC で上書きできます。

可能な設定	任意の文字 (数値を除く)	DC パラメータは DC='c' として指定します。ここで、c は小数点として使用する文字を表します。DC パラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ IA プロファイル/セッションパラメータ (INPUT 割り当て文字) または ID プロファイル/セッションパラメータ (INPUT 区切り文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ CF プロファイル/セッションパラメータ (端末コマンドの制御文字) または HI プロファイルパラメータ (ヘルプ文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 		
デフォルト設定	. (ピリオド)			
ダイナミックな指定	可			
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS	パラメータはランタイムに評価されます。
		適用可能なコマンド:	GLOBALS	パラメータは GLOBALS システムコマンドを使用してダイナミックに指定できます。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0350N、 USR1005N *	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。		

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

61 DD - 日差

このNaturalプロファイルパラメータでは、現在のマシン日付（内部マシンタイムで読み込まれる）を調整するために加算／減算する日数を指定します。これにより、ある特定の日付に実行すべきであったが、何らかの理由でその日に実行できなかったアプリケーションを再実行できます。

DD プロファイルパラメータは次のように指定します。

DD=+nn

または

DD=-nn

上記の nn は日数です。

可能な設定	-32767～+32767	マシンの日付が調整されます。「+」の指定は任意です。
	0	調整されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

プロファイルパラメータ TD および YD も参照してください。

62 DELETE-ダイナミックにロードされたプログラムの削除

このNatural プロファイルパラメータでは、ダイナミックにロードされたNatural 以外のプログラムを、対象のNatural プログラムの終了時に削除するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	ダイナミックにロードされたNatural 以外のプログラムは、対象のNatural プログラムの終了時に削除されます。
	OFF	ダイナミックにロードされたNatural 以外のプログラムは、対象のNatural プログラムの終了時に削除されません。これらのプログラムは、コマンドモードが再び開始するまで保持され、Natural でコマンドモード処理が開始される直前に削除されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

次のプラットフォーム固有の要件が適用されます。

プラットフォーム：	コメント：
CICS	CICS 環境では、このパラメータは、Natural 以外のプログラムが標準リンケージ規則 (SET CONTROL 'P=S') を使用して呼び出される場合にのみ適用されます。
z/OS Batch、TSO、z/VSE Batch、および IMS/TM	このパラメータは、IBM 言語環境 (LE) では適用されません。Natural セッション中にロードされたすべてのダイナミックサブプログラムがLE 環境の終了時 (つまり、Natural セッションの終了時) に削除されます。LE 環境でのNatural の詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「IBM 言語環境サブプログラムのサポート」を参照してください。

63 DF - 日付フォーマット

DF セッションパラメータでは、編集マスクを指定しないで英数字表現に変換するときの日付の長さを決定します。DF パラメータはコンパイル時に評価されます。

年月日の各コンポーネントの順序と使用されるデリミタ文字は、プロファイルパラメータ **DTFORM** によって決定されます。

可能な設定	S	2桁の年コンポーネントとデリミタを使用する8バイトの表記です (<i>yy-mm-dd</i>)。 DF=S で提供される年情報は2桁のみです。つまり、日付の値に世紀が含まれる場合、その情報は変換時に失われます。
	I	4桁の年コンポーネント（デリミタなし）を使用する8バイトの表記です (<i>yyyymmdd</i>)。*注を参照してください。
	L	4桁の年コンポーネントとデリミタを使用する10バイトの表記です (<i>yyyy-mm-dd</i>)。*注を参照してください。
デフォルト設定	S	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	INPUT DISPLAY WRITE PRINT	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	MOVE COMPRESS STACK RUN FETCH	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
	なし	

日付フィールドの値を英数字フォーマットに変換するとき（例えば、MOVE、DISPLAY、WRITE、または INPUT ステートメント）、変換用に編集マスクを指定していないと、プロファイルパラメータ **DTFORM** で決定されたデフォルトの日付フォーマットが編集マスクとして使用されます。INPUT ステートメントで使用される日付変数の入力チェックについても同様です。編集マスクが指定されていないと、入力は **DTFORM** パラメータで決定された日付フォーマットに従ってチェックされます。



注意: DF=I または DF=L を使用すると、アプリケーションを 4 桁の年表記に段階的に変更し、同時にプロファイルパラメータ **DTFORM** で提供した柔軟な使用を継続できます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」、「英数字表現の日付フォーマット - DF パラメータ」も参照してください。

64

DFOUT - 出力の日付フォーマット

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、INPUT、DISPLAY、PRINT、およびWRITE ステートメントで表示される日付変数の設定のフォーマットを決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DFOUT をセッションパラメータ DFOUT で上書きできます。

可能な設定	S	日付変数は、2桁の年コンポーネント、およびプロファイルパラメータ DTFORM で決定されたデリミタで表示されます。例：yy-mm-dd。	
	I	日付変数は、完全な4桁の年コンポーネント（デリミタなし）で表示されます。例：yyyymmdd。	
デフォルト設定	S		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意:

1. プロファイルパラメータ DFOUT はランタイムに評価されます。編集マスクが明示的に指定されておらず、セッションパラメータ DF が設定されていない、INPUT、DISPLAY、PRINT、およびWRITE ステートメントの日付フィールドに適用されます。
2. 日付設定の日、月、および年コンポーネントの順番は、**DTFORM** プロファイルパラメータで決定されます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」も参照してください。

65 DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバー アドレスの指定

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータは、RPC のデフォルトのサーバーアドレスを定義するために使用します。サーバー名、サーバーノード、ログオンインジケータ、およびトランスポートプロトコルを決定します。サービスディレクトリに適切なサーバーが見つからない場合にのみ、デフォルトのサーバーアドレスが使用されます。詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「RPC サーバーアドレスの指定」を参照してください。

デフォルトのサーバーアドレスを定義するには、最大 4 つのサブパラメータを指定します。

DFS はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	<code>server-name</code>	(1~192 文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。	
	<code>server-node</code>	(1~192 文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。	
	<code>logon-indicator</code>	L	クライアントは、クライアントの現在のライブラリのライブラリ名を使用して、サーバーへの <i>Natural</i> ログオンを開始します。
		(空白)	サーバーログオンは実行されません。
何も指定しない場合、空白がデフォルトになります。			
Windows プラットフォームに関する注：			

DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定

		<p>Lを指定する代わりに、選択ボックスをチェックしてください。</p>
	<i>transport-protocol-name</i>	<p>使用されるトランスポートプロトコル。指定できる値はACIのみで、これがデフォルトです。</p>
	<i>service-directory-indicator</i>	<p>SERVDIR DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリが存在している必要があります。</p>
		<p>NOSERVDIR DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリは使用されません。つまり、サービスディレクトリはクライアントサイドで不要です。</p>
		<p>何も指定しない場合、SERVDIRがデフォルトになります。</p>
デフォルト設定	なし	<p>サブパラメータのデフォルトについては、上記を参照してください。</p>
ダイナミックな指定	可	<p>下記を参照してください。</p>
セッション内の指定	可	<p>ランタイムに、NaturalアプリケーションプログラミングインターフェイスUSR2007Nを使用してこの値を上書きできます。</p>
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR2007N	<p>『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「NaturalRPCで使用するアプリケーションプログラミングインターフェイス」および『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。</p>

ダイナミック指定の構文は次のとおりです。

```
DFS=(server-name,server-node,logon-indicator,transport-protocol-name,service-directory-indicator)
```

server-name および *server-node* に有効な値については、SRVNAME および SRVNODE を参照してください。

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

66

DFSTACK - スタックの日付フォーマット

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、STACK、RUN、またはFETCHステートメントを介してスタックに配置される日付変数の設定のフォーマットを決定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータDFSTACKをセッションパラメータDFSTACKで上書きできます。

可能な設定	S	日付変数は、2桁の年コンポーネント、およびプロファイルパラメータ DTFORM で決定されたデリミタでスタックに配置されます。例： <i>yy-mm-dd</i> 。	
	C	DFSTACK=Sと同じです。さらに、設定がスタックから読み込まれるときに使用される世紀が元の日付設定の世紀と同じでない場合、Naturalからランタイムエラーが発行されます。	
	I	日付変数は、完全な4桁の年コンポーネント（デリミタなし）でスタックに配置されます。例： <i>yyyymmdd</i> 。	
デフォルト設定	S		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

プロファイルパラメータDFSTACKは、セッションパラメータDFが設定されているSTACK、RUN、またはFETCHステートメントには適用されません。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」も参照してください。

67 DFTITLE-標準レポートタイトルの日付出力フォーマット

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、(DISPLAY、WRITE、またはPRINT ステートメントを使用して出力する) レポートページのデフォルトタイトルの日付出力フォーマットを決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DFTITLE をセッションパラメータ DFTITLE で上書きできます。

可能な設定	S	日付は、2桁の年コンポーネントおよびデリミタで出力されます。例： <i>yy-mm-dd</i> 。	
	L	日付は、4桁の年コンポーネントおよびデリミタで出力されます。例： <i>yyyy-mm-dd</i> 。	
	I	日付は、4桁の年コンポーネント (デリミタなし) で出力されます。 例： <i>yyyymmdd</i> 。	
デフォルト設定	S		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意:

1. DFTITLE はランタイムに評価されます。また、日付の年コンポーネントを2桁にするか4桁にするか、またデリミタ付きにするかデリミタなしにするかを決定します。(WRITE TITLE ステートメントで指定する) ユーザー定義ページタイトルには影響しません。

2. 年月日の各コンポーネントの順序と使用されるデリミタ文字は、プロファイルパラメータ `DTFORM` によって決定されます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」および「デフォルトページタイトル用の日付フォーマット - `DFTITLE` パラメータ」も参照してください。

68 DL - 出力の表示長

このセッションパラメータでは、フォーマット A または U のフィールドの表示長を指定します。デフォルトの表示長はフィールド長です。

可能な設定	1~ n	n は LS (行サイズ) パラメータから 1 を引いた値
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント:	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド:	なし	

例:

```
FORMAT DL=20
```

詳細および DL セッションパラメータの使用例については、『プログラミングガイド』の次のトピックを参照してください。

- フィールドの出力に影響を与えるパラメータ
- 出力長 - AL パラメータと NL パラメータ
- 出力の表示長 - DL パラメータ

69

DLISIZE - DL/I 用の Natural バッファエリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、Natural for DL/I にのみ適用されます。

Natural for DL/I で必要なバッファエリアの最大サイズを決定します。要求したスペースを利用できない場合、Natural for DL/I は使用できません。

可能な設定	26 - 512	KB 単位のバッファサイズ。実際に必要となるサイズは、NDLPARM マクロでの指定によって異なります（『Natural for DL/I』ドキュメントを参照）。NDLPARM でデフォルトの指定を使用する場合、DLISIZE=26 で十分です。
	0	Natural セッション中に DL/I のサポートが不要な場合、DLISIZE=0 で Natural を呼び出し、未使用バッファの処理によるオーバーヘッドを防止することをお勧めします。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

DLISIZE パラメータで指定したサイズが十分でない場合、Natural for DL/I の初期化時に対応するエラーメッセージが表示され、指定する必要のあるサイズが通知されます。

Natural for DL/I がインストールされている場合、Natural セッションの初期化時に対応する Natural バッファが要求されます。

70 DO - 出力データの表示順序

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、双方向データがサポートされている端末に表示する場合のフィールドの解釈方法を指定します。

I/Oデバイスは、文字プロパティに応じて適切な表示順序を作成する必要があります。このことは、例えば、アプリケーションがNatural Web I/O インターフェイスを介してブラウザで実行されている場合に当てはまります。これ以外の端末タイプでは、このパラメータは無効になります。

可能な設定	L	アプリケーションからのデータを論理表示順序にすることを指定します。 フィールド文字は、その文字プロパティに基づいて（左から右へ、または右から左へ）表示されます。	
	V	アプリケーションからのデータを視覚的順序にすることを指定します。 すべてのフィールドは、端末に送信される前にNaturalによりインバートされます。このオプションは、プロファイルパラメータ PM=I または端末コマンド %VON を使用してインバース（右から左へ）出力モードをサポートする端末用に作成された古いアプリケーションで必要となります。	
デフォルト設定	L		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS

設定 PM=I を使用方法の詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「双方向言語サポート」を参照してください。

71 DS - ストレージバッファのサイズの定義

■ DS パラメータの構文	175
■ NTDS マクロの構文	175
■ バッファサイズの表	175
■ 例	177

この Natural プロファイルパラメータでは、各種 Natural ストレージバッファのデフォルトの初期サイズを定義します。

以前のバージョンの Natural では、個々のプロファイルパラメータ（例えば、SSIZE）を使用してバッファのサイズを定義していました。DS プロファイルパラメータは、すべてのバッファサイズを指定するための汎用パラメータです。Natural パラメータモジュール NATPARM の NTDS マクロに対応します。

『オペレーション』ドキュメントの「Natural ストレージ管理」および「パラメータ使用の一般ルール」も参照してください。



注意: サイズが大きなバッファの一部であったり、サイズが多数のバッファの合計最大値を定義するものである場合など、特定の理由により、プロファイルパラメータ DS では指定できないバッファサイズもいくつかあります（例えば、ESIZE、VSIZE など）。

可能な設定	(name, size)	name はバッファ名 (1~8 文字) です。下記の「 バッファサイズの表 」を参照してください。 size はバッファサイズ (KB 単位) です。制限値については、下記の「 バッファサイズの表 」を参照してください。
デフォルト設定	下記の表を参照	
ダイナミックな指定	可	バッファ名/サイズの複数ペアを指定できます。このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりに対応するマクロ NTDS を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

個々のパラメータを引き続き使用することも、個々のパラメータとパラメータ DS を併用することもできます。ダイナミックパラメータの評価中、個々のバッファサイズパラメータは新しい DS パラメータフォーマットに内部的に変換されます（例えば、SSIZE=55 は DS=(SSIZE,55) に変換されます）。

以下では次のトピックについて説明します。

DS パラメータの構文

DS パラメータは次のように指定します。

```
DS=(name1,size1,name2,size2,...)
```

NTDS マクロの構文

NTDS マクロは次のように指定します。

```
NTDS name1,size1
NTDS name2,size2
...
```

バッファサイズの表

バッファ名	説明	バッファサイズ (KB)	デフォルト	DS のサブパラメータとして、また個々のプロファイルパラメータの代わりとして使用可能
ASIZE	Entire System Server 補助バッファ	0、1～64	0	○
BSIZE	EntireX Broker バッファのサイズ	0、1～64	0	○
CSIZE	Con-nect バッファエリアのサイズ	0～512	0	○
DATSIZE	ローカルデータ用のバッファのサイズ	10～2097151	32	○
DSIZE	DBLOG バッファの初期サイズ	0、2 - 2097151	2	○ 注意: 個々のプロファイルパラメータ DSIZE を使用すると、最大サイズを追加設定できます。
EDPSIZE	Software AG Editor 補助バッファプールのサイズ	0、48～2097151	0	○
ETPSIZE	Entire Transaction Propagator バッファのサイズ	0、10～128	0	○
EXCSIZE	Natural Expert C インターフェイス用のバッファのサイズ	0、1～256	0	○

DS - ストレージバッファのサイズの定義

バッファ名	説明	バッファサイズ (KB)	デフォルト	DS のサブパラメータとして、また個々のプロファイルパラメータの代わりとして使用可能
EXRSIZE	Natural Expert ルールテーブル用のバッファのサイズ	0、1～256	0	○
MONSIZE	SYSTP モニタバッファのサイズ	0、5～256	0	○
MULFETCH	マルチフェッチバッファのサイズ	0～1024	64	× (DSのサブパラメータとしてのみ使用可能) 注意: このバッファに指定された値は、デフォルトの初期サイズではなく、マルチフェッチの目的で割り当てることのできる最大サイズを表しています。
NAFSIZE	Natural Advanced Facilities 用のバッファのサイズ	0、1～64	0	○
NSFSIZE	SAF インターフェイスバッファのサイズ	0、8～64	0	× (DSのサブパラメータとしてのみ使用可能)
RDCSIZE	Natural Data Collector 用のバッファのサイズ	0、2～128	0	○
RJESIZE	NATRJE バッファの初期サイズ	0、1～2097151	8	○
RUNSIZE	ランタイムバッファのサイズ	10～64	16	○
SSIZE	Software AG Editor バッファのサイズ	0、40～512	64	○
TSIZE	Adabas Text Retrieval 用のバッファのサイズ	0、1～2097151	0	○
XSIZE	ユーザーサブシステム用のバッファのサイズ	0、1～64	0	○
ZSIZE	Entire DB バッファエリアのサイズ	0、1～64	0	○

詳細については、個々のバッファサイズパラメータの説明を参照してください。

例

DS パラメータの例：

```
DS=(ASIZE,33,TSIZE,60,EDPSIZE,500)
```


Natural パラメータモジュール NATPARM で同じ値を指定した場合：

```
NTDS ASIZE,33  
NTDS TSIZE,60  
NTDS EDPSIZE,500
```


72 DSC - データストリーム圧縮 (3270 タイプの端末用)

この Natural プロファイルパラメータは、3270 タイプの端末にのみ適用されます。

このパラメータでは、3270 タイプの端末の画面データストリームに対する Natural の自動最適化および圧縮を無効にすることができます。

 **注意:** 画面最適化が有効な場合、画面のフィールドの中で内容が変更されたものだけが端末に送信されます。画面圧縮では、繰り返し文字のカウンタを使用して送信されるデータの量を（さらに）削減します。

可能な設定	ON	データストリームの最適化および圧縮が使用されます。
	OFF	データストリームの最適化および圧縮は使用されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural の画面最適化機能では、画面データができるだけ圧縮されて送信されます。これが TP モニタの画面最適化またはハードウェア制限と矛盾する場合、このパラメータを使用して Natural の画面最適化を無効にすることができます。その場合、画面データは非圧縮形式で送信されるようになります。例については、「CICS 環境での Natural」ドキュメントの「プロファイルパラメータ DSC=OFF の推奨」を参照してください。

このパラメータの機能は、端末コマンド %R0 の機能と同じです。

BX セッションパラメータ設定 BX=L または BX=R を使用する場合、DSC=OFF または %R0OFF を使用して Natural の画面最適化を無効にする必要があります。

73 DSIZE - DBLOG バッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural DBLOG バッファのサイズを指定します。

代わりに、Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS`（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して `DSIZE` を指定することもできます。

可能な設定	<i>initial-size</i>	2 - 2097151	DBLOG バッファの初期サイズ (KB)。 初期サイズが十分でない場合、バッファサイズは、指定された最大値（下記参照）まで自動的に拡張されず（必要に応じて、繰り返し行われます）。
	0		DBLOG ユーティリティを無効にします。
	<i>maximum-size</i>	2 - 2097151	DBLOG バッファの最大サイズ (KB)。 この値が初期サイズ（上記参照）以下の場合、 <code>DSIZE</code> バッファは拡大されません。
デフォルト設定	2,256		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		

Natural DBLOG バッファエリアは、DBLOG ユーティリティ（『ユーティリティ』ドキュメントを参照）により使用されます。

例：

DSIZE=100

DSIZE=(,2500)

DSIZE=(50,800)

74 DTFORM - 日付フォーマット

この Natural プロファイルパラメータは、Natural で自動的に生成される Natural レポートのデフォルトタイトルの日付、日付定数および日付入力のリポートのデフォルトのフォーマットを示します。

可能な設定	値	地域	日付フォーマット
	E	ヨーロッパ式	DD/MM/YYYY
	G	ドイツ式	DD.MM.YYYY
	I	国際式	YYYY-MM-DD
	U	アメリカ式	MM/DD/YYYY
デフォルト設定	I		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可		
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

週の最初の曜日には、DTFORM=U が指定されていない場合は月曜日、指定されている場合は日曜日が使用されます。

日付定数に対して、年コンポーネントは 4 桁 (YYYY) で構成されます。レポート、日付入力、Natural システム関数 VAL には、年コンポーネントの末尾 2 桁のみが使用されます。また、日付が英数字フィールドに転送される場合も同様に末尾 2 桁が使用されます。

デフォルトのレポートページタイトルの日付出力フォーマットは、プロファイルパラメータ **DFTITLE** でも指定されます。

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」および「デフォルトの日付編集マスク-DTFORM パラメータ」も参照してください。


75 DU - ダンプ生成

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Natural セッション中に異常終了が発生した場合にメモリダンプを生成するかどうかを決定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DU をセッションパラメータ DU で上書きできます。

可能な設定	ON	異常終了が発生した場合にメモリダンプが生成されます (z/OS バッチモードまたは TSO での TP モニタダンプデータセットまたは SYSUDUMP)。その後、エラーメッセージ NAT9967 または NAT9974 が発行され、Natural セッションが終了します。
	OFF	メモリダンプは生成されません。バッチモードでは、Natural で実行される後続のアクションは、CC プロファイルパラメータの設定によって決定されます。オンラインモードでは、Natural はエラーメッセージ NAT0950、NAT0953、NAT0954、NAT0955、または NAT0956 に応答します。異常終了の詳細については、システムコマンド DUMP を使用できます。
	SNAP	この設定では、Natural セッション中に異常終了が発生した場合に即座にダンプを生成します。ダンプが生成された後、Natural セッションは DU=OFF の場合と同じように継続します。
	FORCE	この設定では、Natural セッション中に異常終了が発生した場合に即座にダンプを生成するとともに、Natural セッションを終了します。この設定は、一部の環境でテスト目的に役立ちます。 注意: Natural が LE 対応の場合、Natural はダンプを生成することなく Natural セッションを即座に終了し、制御を LE エラー処理に渡します。したがって、必要なすべての診断情報を取得するには、LE ランタイムオプション TERMTHDACT(UAIMM) を指定することをお勧めします。
	ABEND	DU=ON の場合と同じように機能します。ただし、エラーメッセージ NAT9974 ではなくアベンズが発生してセッションが終了した場合を除きます。 Natural セッションパラメータ DU では、DU=ABEND は使用できません。
デフォルト設定	OFF	

ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS

 **注意:**

1. DU プロファイルパラメータを設定すると、ダンプデータセットに対する I/O 処理により、システムパフォーマンスが大幅に低下することがあります。
2. 現在のユーザーに対して現在有効になっているすべてのプログラムとサブルーチンが Natural バッファプールに保持されるため、このパラメータを使用する際は注意してください。
3. DU=ON、DU=SNAP、または DU=FORCE を指定すると、バッファフラグメントが発生し、システムパフォーマンスが大幅に低下することがあります。
4. UTM では、このパラメータは無視されます。つまり、プログラムの異常終了が発生した場合、常にダンプが生成されます。
5. プロファイルパラメータ **DUE** を使用すると、特定のエラーについてストレージダンプを取得できます。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

76 DUE - 特定のエラーのダンプ

この Natural プロファイルパラメータでは、ストレージダンプを取得する Natural エラー番号を指定できます。これは、Software AG の担当者が特定のエラー状況を分析するためにダンプを取得する際に役立ちます。

可能な設定	番号の 1-9999 のリスト	ダンプを取得する 1 つ以上のエラー番号。DUE を複数回指定した場合、すべてのエラー番号が 1 つのテーブルに保存されます。
	OFF	テーブルを削除します。前に指定したすべてのエラー番号が削除されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	端末コマンド %DUE

DUE で指定したエラーが発生した場合、プログラムチェックが強制的に実行されます。プロファイル/セッションパラメータ DU=OFF が設定されている場合、DU=ON に変更されます。追加の処理には、DU パラメータ設定が適用されます。

例：

```
DUE=1302
DUE=(6501,6502,6503,1500)
DUE=OFF
```


77 DY - ダイナミック属性

■ DY パラメータの構文	191
■ 例	192

このセッションパラメータは、ダイナミック属性フィールド表示に属性を割り当てるために使用します。

可能な設定		下記を参照してください。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント：	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

特別な識別文字（エスケープ文字）は、属性定義の前後に付けます。

INPUT、DISPLAY、WRITE、またはPRINTステートメントで処理され、エスケープ文字を含む英数字フィールドは、エスケープ文字の位置でサブフィールドに分割されます。その後、対応する属性がサブフィールドに割り当てられます。エスケープ文字は空白で置き換えられます。

DY 指定が適用されるフィールドの一部について、現在のフィールド表示とカラーがDY エントリ内に新しく定義された設定に変更されます。フィールド表示とカラーについてDY セグメントに新しい設定が含まれていない場合は、次のようになります。

■ フィールド表示

（つまり、B、C、D、I、N、U、Vがない場合）：フィールド全体に対してアクティブになっている属性が、静的な設定（例えば、AD=I）から最初に導出されたか、制御変数（例えば、CV=#C）から最初に導出されたかに関係なく、引き続き有効になります。

■ フィールドのカラー

（つまり、BL、GR、NE、PI、RE、TU、YEがない場合）：カラーは、（CD=.. を使用して）フィールドに静的に割り当てられた値に設定されます。制御変数（CV=..）によってカラーが割り当てられていても、そのカラーは考慮されません。フィールドに静的に（CD=..で）割り当てられた値がない場合、カラー情報は、DY 操作の影響を受けるフィールドセグメントから完全に削除されます。

DY パラメータの構文

```
DY={{escape-character1}[color-attribute][i/o-characteristics]  
[field-representation-attribute]}...{escape-character2}
```

有効な設定について次に説明します。

escape-character1

属性定義の始めを表すエスケープ文字。任意の特殊文字、またはアポストロフィと16進数 ('xx)を使用できます。

color-attribute

カラー属性の割り当て。セッションパラメータ [CD](#) (カラー定義) も参照してください。

BL	青
GR	緑
NE	デフォルト色
PI	ピンク
RE	赤
TU	空色
YE	黄色

i/o-characteristics

値	意味
P	サブフィールドの書き込み保護。

サブフィールドを書き込み保護するために P を指定できます。セッションパラメータ [AD](#) (属性定義) も参照してください。

field-representation-attribute

追加属性の割り当て。セッションパラメータ [AD](#) (属性定義) も参照してください。

値	意味
B	点滅 (*)
C	手書き/斜体 (*)
D	デフォルトの輝度
I	高輝度
N	非表示
U	下線付き
V	反転表示 (*)

escape-character2

属性定義の終わりを表すエスケープ文字。任意の特殊文字 (*c*)、またはアポストロフィと 16 進数 ('*xx*') を使用できます。

属性定義の終わりを表す文字の前に、エスケープシーケンス (エスケープ文字および属性) を 8 組まで指定できます。

例

例 1 :

```
DY=<U>
```

テキスト文字列は次のとおりです。

```
THIS <i> UNDERLINED
```

次のよう出力されます。

```
THIS i UNDERLINED
```

例 2 :

```
DY=<BL|RE/GR>
```

割り当て :

< は青

| は赤

/ は緑

> は初期フィールドカラーに戻ること示します。

例 3 :

```
DY=<P>;
```

テキスト文字列は次のとおりです。

```
Do not overwrite <this>
```

次のように出力されます。

```
Do not overwrite this
```

(この場合、this が保護されます)

78 DYNPARAM - ダイナミックパラメータ使用の制御

■ DYNPARAM パラメータの構文	197
■ NTDYNP マクロの構文	197
■ 例	197

このNatural プロファイルパラメータは、**PROFILE** および **SYS** プロファイルパラメータ文字列外でダイナミックプロファイルパラメータの使用を制限するために使用します。パラメータモジュール NATPARM の **NTDYNP** マクロに対応します。

可能な設定	ON	すべてのプロファイルパラメータはダイナミックに指定できます。
	OFF	プロファイルパラメータはダイナミックに指定できません。
	DYNPARM=(ON,parameter-name,...)	<i>parameter-name</i> が指定されているパラメータのみをダイナミックに指定できます。他のパラメータについては、エラーメッセージNAT7008が発行されます。
	DYNPARM=(OFF,parameter-name,...)	すべてのプロファイルパラメータをダイナミックに指定できます。ただし、 <i>parameter-name</i> が指定されているパラメータを除きます。これらのパラメータについては、エラーメッセージNAT7008が発行されます。
デフォルト設定	ON	すべてのプロファイルパラメータはダイナミックに指定できます。
ダイナミックな指定	可	PROFILE または 「 SYS 」 パラメータ文字列外では、DYNPARMパラメータはNaturalパラメータモジュールで NTDYNP マクロが指定されていない場合にのみ1回だけ使用できます。
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

DYNPARM（またはNTDYNPマクロ）で定義されたパラメータ制限は、**PROFILE** または **SYS** プロファイルパラメータ文字列内では適用されません。DYNPARMを**PROFILE** または **SYS** 文字列内で使用した場合、DYNPARM またはマクロ **NTDYNP** で定義された前の制限が置き換わります。

DYNPARM は、1つの文字列内で1回のみ使用でき、文字列の末尾に配置する必要があります。

以下では次のトピックについて説明します。

DYNPARM パラメータの構文

DYNPARM パラメータは次のように指定します。

```
DYNPARM=(ON,parameter-name1,parameter-name2,...)
```

または

```
DYNPARM=(OFF,parameter-name1,parameter-name2,...)
```

NTDYNP マクロの構文

NTDYNP マクロは次のように指定します。

```
NTDYNP ON,parameter-name1,parameter-name2,parameter-name3,...  
NTDYNP parameter-name4,parameter-name5,...  
...
```

または

```
NTDYNP OFF,parameter-name1,parameter-name2,parameter-name3,...  
NTDYNP parameter-name4,parameter-name5,...  
...
```

例

この例は、ダイナミックパラメータ **FNAT** および **FSEC** を制限する方法を示しています。Natural パラメータモジュール NATPARM では、次のパラメータ制限を定義する必要があります。

```
NTPRM DBID=0,FNR=0  
NTDYNP ON,PROFILE
```

また、ほとんどすべてのパラメータプロファイルが次の形式になります。

```
..., FNAT=(22,7,PASSW), FSEC=(22,9,PASSW), DYNPARM=(OFF, FNAT, FSEC)
```

特別なユーザーにすべてのパラメータ（FNAT および FSEC を含む）の使用を許可する場合、パラメータプロファイルは次の形式になります。

```
USER=(ADM1,ADM2), ..., FNAT=(22,8), FUSER=(22,12), DYNPARM=(OFF, DUMMY)
```

この場合、通常のユーザーは **PROFILE** パラメータを最初のダイナミックパラメータとして入力する必要があります。それ以降、FNAT および FSEC を除くすべてのパラメータが許可されます。当然ながら、パラメータプロファイルアプリケーション SYSPARM へのアクセスは制限する必要があります。

79

ECHO - バッチ入力データの出力制御

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードにのみ適用されます。

バッチモード処理中に Natural に提供された INPUT ステートメントのデータセット CMSYNIN または CMOBJIN からの入力データの出力を有効または無効にするために使用します。

可能な設定	ON	Natural では、バッチモード処理中に提供された入力データをバッチ出力ファイル CMPRINT に出力します。
	OFF	Natural では、バッチモード処理中に提供された入力データを出力しません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

単一入力行の出力を抑制することもできます。その場合、レコード抑制用の端末コマンド %* を含む行を前に指定します。

80

EDBP - Software AG Editor バッファプール定義

■ EDBP パラメータの構文	203
■ NTEDBP マクロの構文	203
■ キーワードサブパラメータ	203

このNatural プロファイルパラメータでは、エディタバッファプールとそのワークファイルの初期化と操作を制御します。Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTEDBP** マクロに対応します。

可能な設定	下記参照	各種キーワードサブパラメータを使用できます。
デフォルト設定	下記参照	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTEDBP を使用する必要があります。
セッション内の指定	可	SYSEDT エディタバッファプールサービスユーティリティを使用します。

セッションにエディタバッファプールを定義するには、**BPI** とともに **TYPE=EDIT** 指定を使用するか、プロファイルパラメータ **EDPSIZE** (エディタ補助バッファプール) を使用します。

共有エディタバッファプール

エディタバッファプールが複数の Natural セッション間で共有される場合、すべてのサブパラメータ (**DDNAME**、**DSNAME**、および **FMODE**) は、バッファプールコールドスタート時にエディタバッファプールワークファイルを初期化する最初のセッションでのみ有効です。バッファプールウォームスタート時には、エディタバッファプールサブパラメータ (**DDNAME**、**DSNAME**、および **FMODE**) がバッファプールワークファイルから読み込まれます。

サブパラメータ **COLD=ON** を指定すると、エディタバッファプールの初期化時にバッファプールコールドスタートを強制的に実行できます。

エディタ補助バッファプール

エディタ補助バッファプールを使用する場合 (プロファイルパラメータ **EDPSIZE** を参照)、次のサブパラメータのみが適用されます。

FTOUT、**LRECL**、**MAXLF**

追加情報

エディタバッファプールの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「エディタバッファプール」を参照してください。

バッファプールパフォーマンスの詳細については、SYSEDT エディタバッファプールサービスユーティリティのドキュメントを参照してください。

以下では次のトピックについて説明します。

EDBP パラメータの構文

EDBP パラメータは次のように指定します。

```
EDBP=(keyword1=value1, keyword2=value2,...)
```

NTEDBP マクロの構文

NTEDBP マクロは次のように指定します。

```
NTEDBP keyword1=value1, keyword2=value2,...
```

キーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

COLD | **CTOUT** | **DDNAME** | **DSNAME** | **DTOUT** | **FMODE** | **FTOUT** | **IMSG** | **ITOUT** | **LRECL** | **LTOUT** | **MAXLF** | **PWORK** | **RECNUM** | **RWORK** | **UTOUT**

COLD - バッファプールコールドスタート

バッファプールコールドスタートを実行するかどうかを決定します。

設定可能値	ON または OFF
デフォルト値	OFF

コールドスタートとは、バッファプール初期化中にバッファプールワークファイルが作成され、再初期化されることを意味します。ワークファイルに格納されているすべてのエディタリカバリ情報とすべてのバッファプールパラメータが失われます。

CTOUT - 変更されたバッファプールブロックのタイムアウト

変更されたバッファプールブロックのタイムアウト値（秒数）を決定します。

設定可能値	1~32767
デフォルト値	120

指定した時間間隔が経過し、未変更のブロックまたは空きブロックがない場合、変更されたバッファプールブロックがワークファイルに書き込まれます。

DDNAME - JCL 定義の論理ワークファイル名

JCL 定義の論理ワークファイル名を決定します。

設定可能値	1~8 バイト
デフォルト値	CMEDIT



注意:

1. CICS の場合：対応するファイル制御テーブルエントリをエディタワークファイルに定義する必要があります。
2. Com-plete の場合：指定した論理ワークファイル名は SD ファイルの名前です。

DSNAME - ワークファイルデータセット名

z/OS 専用のバッチおよび TSO のワークファイルデータセット名を決定します。

設定可能値	1~44 バイト
デフォルト値	なし

エディタワークファイルに対して、DD JCL ステートメントが指定されておらず、ALLOC ステートメントが発行されていない（TSO のみ）場合、DSNAME がダイナミックに割り当てられます。

DTOUT - 論理ファイルのタイムアウトチェック値

論理ファイルのタイムアウトチェック値（秒数）を決定します。

設定可能値	1~32767
デフォルト値	300

指定した時間間隔が経過するたびに、論理ファイルのタイムアウトがチェックされます。

FMODE - ワークファイルモード (VM/CMS および Com-plete/SMARTS のみ)

ワークファイルのファイルモードを決定します。

設定可能値	1~2 文字
デフォルト値	A1

VM/CMS では、指定した値によってワークファイルのファイルモードが決定されます。ファイルタイプは常に DATA です。

Com-plete/SMARTS では、値 SM によって SMARTS ワークファイルが使用されることが決定されます。この場合、SMARTS 環境変数 \$NAT_WORK_ROOT によってパスが決定されます。

Com-plete/SMARTS では、SM 以外の値を指定すると、Com-pleteSD ファイルが使用されます。

Com-plete なしの SMARTS 環境では、SM を指定する必要があります。

FTOUT - 論理ファイルのタイムアウト値

論理ファイルのタイムアウト値（秒数）を決定します。

設定可能値	60~16777215
デフォルト値	86400

指定した時間間隔が経過し、アクセスがなかった場合、論理ファイルは削除されます。

IMSG - バッファプールの初期化および終了メッセージ

オペレータコンソールでバッファプールの初期化および終了メッセージを発行するかどうかを決定します。

設定可能値	ON または OFF
デフォルト値	OFF

ITOUT - バッファプールの初期化タイムアウト値

マルチユーザーバッファプールのみについて、バッファプールの初期化タイムアウト値（秒数）を決定します。

設定可能値	1~32767
デフォルト値	300

バッファプールは、最初にアクセスしたユーザーによって初期化されます。他のユーザーは、最初のユーザーによる初期化が終了まで待機する必要があります。指定した時間間隔内に初期化が終了しなかった場合（例えば、最初のユーザーの異常終了のため）、他のすべてのユーザーにエラーメッセージが返されます。

LRECL - ワークファイルレコード長

バッファプールブロックサイズとワークファイルレコード長を決定します。

このパラメータは、BS2000/OSD、Com-plete、VM/CMS、およびエディタ補助バッファプールでのみ有効です。

他の環境では、ワークファイルレコード長は、エディタワークファイルの作成時に決定されません。

設定可能値	800~16384
デフォルト値	4096

BS2000/OSD では、レコード長は 2048 バイトの倍数にする必要があります。

LTOUT - ロックされたバッファプールブロックのタイムアウト値

ロックされたバッファプールブロックのタイムアウト値（秒数）を決定します。

設定可能値	1~32767
デフォルト値	20

ワークファイルからの読み込み中にロックされたバッファプールブロックは、指定した時間間隔が経過した後、解放されます。

MAXLF - 論理ファイルの最大数

論理ファイルの最大数を決定します。

設定可能値	100~999999
デフォルト値	1000

PWORK - ワークレコードとして使用されるワークファイルレコードのパーセンテージ

エディタバッファプールコールドスタート時にワークレコードとして使用されるワークファイルレコードのパーセンテージを決定します。

設定可能値	0~100
デフォルト値	50

残りのレコードはリカバリレコードとして使用されます。

RECNUM - ワークファイルレコードの数

エディタバッファプールコールドスタート時のワークファイルレコードの数を決定します（VM/CMS および **Com-plete** のみ）。

設定可能値	100~65535
デフォルト値	200

この数値によって、ワークファイルのサイズが決定されます。



注意: CMS 以外の環境では、ワークファイルレコードの数は、エディタワークファイルの作成時に決定されます。

RWORK - 通常の論理ファイルに使用されるワークレコードのパーセンテージ

エディタバッファプールコールドスタート時に通常の論理ファイルに使用されるワークレコードのパーセンテージを決定します。

設定可能値	51~100
デフォルト値	90

残りのレコードは、バッファプールからブロックを解放するために内部的に使用されます。

UTOUT - 未変更のバッファプールブロックのタイムアウト値

未変更のバッファプールブロックのタイムアウト値（秒数）を決定します。

設定可能値	1~32767
デフォルト値	20

指定した時間間隔が経過し、空きブロックがない場合、未変更のバッファプールブロックがワークファイルに書き込まれます。

81 EDPSIZE - Software AG Editor 補助バッファプールの サイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Software AG Editor 補助バッファプールのサイズを決定します。

Software AG Editor を Sysplex 環境で実行する場合に使用する必要があります。これにより、Software AG Editor (ローカルまたはグローバル) バッファプールなしで Software AG Editor を実行できるようになります。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` を使用することもできます。バッファサイズの指定方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照してください。

可能な設定	0、48~2097151	エディタ補助バッファプールサイズ (KB 単位)。
デフォルト設定	0	エディタ補助バッファプールは使用されません。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

補助バッファプールには、Software AG Editor ワークファイルは不要です。

補助バッファプールを使用する場合、Software AG Editor のリカバリ機能は使用できません。

EDPSIZE がゼロでない場合、(ローカルまたはグローバル) Software AG Editor バッファプールが `BPI` プロファイルパラメータまたは `NTBPI` マクロで定義されていても、補助バッファプールが割り当てられ、使用されます。

Software AG Editor の詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「Software AG Editor の操作」を参照してください。


82 EJ - ページ換え

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、論理改ページ、プログラム入力および出力間のブレイク、また「normal end」メッセージの出力時にページ換えを行うかどうかを指定するために使用します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ EJ をセッションパラメータ EJ で上書きできます。EJ 設定は EJECT ステートメントでも上書きできます。

可能な設定	ON	ページ換えを行います。		
	OFF	ページ換えを行いません。この設定を使用して、ページ換えの必要のないテスト実行時に用紙を節約できます。		
デフォルト設定	ON			
ダイナミックな指定	可			
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS	パラメータはランタイムに評価されます。
		適用可能なコマンド:	GLOBALS	パラメータは GLOBALS システムコマンドを使用してダイナミックに指定できます。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。		

このパラメータは、最初のレポート（レポート0）にのみ適用されます。他のレポートについては、レポート指定（rep）付きの EJECT ステートメントを使用する必要があります。

 **注意:** プロファイルパラメータ EJ を CICS でバッチモードの Natural セッションに指定した場合（例えば、TTYTYPE=ASYL または TTYTYPE=BTCH）、意味が若干異なります。『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「CICS での非同期 Natural 処理」を参照してください。

Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

83 EM - 編集マスク

▪ 構文	214
▪ 編集マスク内の空白	215
▪ デフォルトの編集マスク	215
▪ 数値フィールドの編集マスク	216
▪ 英数字フィールドの編集マスク	218
▪ バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク	220
▪ 16 進編集マスク	221
▪ 日付（フォーマット D）と時刻（フォーマット T）のフィールドの編集マスク	223
▪ 論理フィールド（フォーマット L）の編集マスク	227

このセッションパラメータでは、DEFINE DATA、DISPLAY、INPUT、MOVE EDITED、PRINT、PROCESS PAGE、または WRITE ステートメントで使用される入力/出力フィールドに編集マスクを指定できます。

パラメータ EM は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、『Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート』の「セッションパラメータ」で「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定		下記を参照してください。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント：	FORMAT	
	DEFINE DATA DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	MOVE EDITED	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

以下では次のトピックについて説明します。

『プログラミングガイド』の「編集マスク-EM パラメータ」を参照してください。

構文

入力フィールドについては、値は編集マスクと正確に一致するように入力する必要があります。入力フィールドに編集マスクを表示する場合、フィールドを変更可能フィールド (AD=M) として定義する必要があります。

データベースフィールドについては、デフォルトの編集マスクが DDM で定義されている場合があります。データベースフィールドに EM パラメータで編集マスクを指定した場合、指定した編集マスクがデフォルトの編集マスク (DDM でフィールドに定義) の代わりに使用されます。

フィールドに EM=OFF を指定した場合、DDM で編集マスクが定義されていても、フィールドには編集マスクは使用されません。

DISPLAY、FORMAT、INPUT、または WRITE ステートメントのステートメントレベルでは、EM=OFF 以外に、詳細なフィールド編集マスクは指定できません。

編集マスクの指定は、セッションパラメータ AL、NL、および SG の設定を上書きします。

文字 9、H、X、および Z は、数値 (9,Z)、16 進数 (H)、および英数字 (X) 編集マスクの有効な出力桁を表します。9 と Z の違いについては、下記の「[数値フィールドの編集マスク](#)」を参照してください。

例：

```
DISPLAY AA(EM=OFF) AB(EM=XX.XX)
WRITE SALARY (EM=ZZZ,ZZ9)
```

長い編集マスクに対しては、省略表記を使用できます。次の例は、数値、16 進数、および英数字の編集マスクに使用できる省略表記を示しています。

```
EM=9(4)-9(5) is equivalent to: EM=9999-99999
EM=H(10)      is equivalent to: EM=HHHHHHHHHHH
EM=X(6)..X(3) is equivalent to: EM=XXXXXX..XXX
```

編集マスク内の空白

編集マスク内の空白は、使用しているキーボードの文字で表され、16 進コードの H'20' (ASCII) または H'5F' (EBCDIC) に対応します。つまり、文字 ^ (または ~) です。

デフォルトの編集マスク

フィールドに編集マスクを指定しなかった場合、フィールドフォーマットに応じて、デフォルトの編集マスクが割り当てられます。

フィールドフォーマット	デフォルトの編集マスク
A	X
B	H
N、P、I	Z9
F	技術表記
D	デフォルトの日付フォーマット (プロファイルパラメータ DTFORM で設定) によって異なる
T	HH:II:SS
L	空白 / X

数値フィールドの編集マスク

フォーマット N、P、I、または F のフィールドに指定した編集マスクには、1 つ以上の 9 または Z が含まれている必要があります。

フィールド値の桁数より多くの 9 または Z を含めると、編集マスクの出力桁は、フィールド値に定義されている桁数に調整されます。

逆に、フィールド値の桁数よりも 9 または Z が少ないと、小数点よりも前の桁または後の桁が切り捨てられます。

以下では次のトピックについて説明します。

- 数値編集マスクの定義用文字
- 符号文字
- リテラルリーディング文字
- リテラル挿入および末尾文字
- 末尾の符号文字
- 数値編集マスクの例

数値編集マスクの定義用文字

文字	機能
9	出力桁（フィールド値の 1 桁）
.	<p>挿入された最初のピリオドは小数点として使用されます。後続のピリオドはリテラル文字として扱われます。</p> <p>注意: このとき、ピリオドは、現在小数点文字として定義されている記号を表します。セッションまたはプロファイルパラメータ DC を使用して別の文字（コンマなど）が選択されている場合は、この文字が代わりに使用されます。</p>
Z	<p>先頭のゼロの省略。数値フィールドのデフォルト値です。文字 Z は浮動位置のゼロ省略を明示するために繰り返し指定できます。Z は小数点より右の桁には指定できません。編集マスクですべて Z を指定し、ゼロ値を空白として表示することもできます（セッションパラメータ ZP も参照）。</p>

9 または Z は、1 文字以上の他の文字の後に続けることができます。

符号文字

9 または Z の前の最初の文字が +、-、S、または N の場合、符号が表示されます。

文字	機能
+	浮動位置の符号は、値の直前（先頭の符号文字）または直後（末尾の符号文字）に表示されます。符号は、フィールドの値に応じて、プラスまたはマイナスとして生成されます。
-	浮動位置のマイナス記号は、フィールド値が負の場合に、値の直前（先頭の符号文字）または直後（末尾の符号文字）に表示されます。
S	符号は、列の左側に表示されます。正の値にはプラス記号が表示され、負の値にはマイナス記号が表示されます。
N	フィールド値が負の場合に、列の左側にマイナス記号が表示されます。

リテラルリーディング文字

最初の出力桁（Z または 9 で示される）の前に任意の数のリテラルリーディング文字を表示できます。これらの文字は、符号文字の後に続く必要があります。符号文字がなく、最初のリテラルリーディング文字が +、-、S、または N の場合、アポストロフィで囲む必要があります。リテラルリーディング文字が H、X、Z、または 9 の場合、アポストロフィで囲む必要があります。

値に先頭のゼロが含まれており、編集マスクが Z（先頭のゼロの省略）で定義されている場合のみ、指定された最初のリテラルリーディング文字が出力に表示されます。そのとき、この文字は、先頭のゼロに対する空白の代わりに、充填文字として表示されます。後続のリテラルリーディング文字は、入力されたとおりに表示されます。

リテラル挿入および末尾文字

リテラル挿入および末尾文字も使用できます。記号 (^) は、先頭の空白、挿入された空白、または末尾の空白を表すために使用できます。有意文字 (9、H、Z、X) をアポストロフィで囲むことで、先頭文字、挿入文字、または末尾文字として一般の文字と同じように使用できます。有意性のない編集マスク文字については、アポストロフィで囲む必要はありません。同様の編集マスク表記で、先頭文字、挿入文字、または末尾文字をグループとして扱うこともできます。アポストロフィで囲む必要がある場合と、そうでない場合があるので注意してください。

末尾の符号文字

末尾の符号文字は、数値編集マスクの最後に + または - 文字を使用して指定できます。+ のときは、フィールドの値に応じて、末尾の + 記号または - 記号が生成されます。- のときは、フィールドの値に応じて、末尾のスペースまたは - 記号が生成されます。編集マスクに先頭符号と末尾符号の両方を指定した場合は、どちらも出力されます。

数値編集マスクの例

次の表は、各列の先頭に示した値を編集マスクに従って編集した結果を示しています。列ヘッダーとして使用されている値はすべて N フォーマットのフィールドです。先頭の列の下の方は、異なる編集マスクを使用して得られたフォーマットです。

値	0000.03 (N4.2)	-0054 (N4)	+0087 (N4)	0962 (N4)	1830 (N4)
編集マスク					
EM=9.9	0.0	4.	7.	2.	0.
EM=99	00	54	87	62	30
EM=S99	+00	-54	+87	+62	+30
EM=+Z9	+0	-54	+87	+62	+30
EM=-9.99	0.03	-4.	7.	2.	0.
EM=N9	0	-4	7	2	0
EM=*9.99	0.03	4.	7.	2.	0.
EM=Z99	00	54	87	962	830
EM=*DMZZ9.9	DM**0.0	DM*54.	DM*87.	DM962.	DM830.
EM=999+	000+	054-	087+	962+	830+
EM=999-	000	054-	087	962	830
IC=\$ EM=ZZZ.99	\$.03	\$54.	\$87.	\$962.	\$830.
EM=H(6)					
- ASCII:	303030303033	30303574	30303837	30393632	31383330
- EBCDIC:	F0F0F0F0F0F3	F0F0F5D4	F0F0F8F7	F0F9F6F2	F1F8F3F0

パラメータ IC および TC を組み合わせれば、負の数でも DISPLAY ステートメントを使用してさまざまな形式で出力できます。

英数字フィールドの編集マスク

A フォーマットのフィールドにのみ使用される英数字編集マスクには、出力される文字を表す X が 1 つ以上含まれている必要があります。最初の文字が H のときは、**16 進の編集マスク**となります。空白は (^) 記号で表されます。カッコを除くすべての文字は、先頭文字、末尾文字、および挿入文字として使用できます。アポストロフィで囲まれた先頭文字、挿入文字、または末尾文字を指定することも可能です。文字 X、閉じカッコ、または引用符を挿入文字として指定する場合は、アポストロフィで囲む必要があります。

先頭文字を英数字編集マスクの最初の出力桁 X の前に使用した場合、これらの先頭文字の最初の文字は出力されず、充填文字として英数字出力フィールドの先頭のすべての空白を置き換えるために使用されます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #X (A4) INIT <' 34'>
END-DEFINE
WRITE #X (EM=*A:X:)
  6X #X (EM=*A:XX:)
  6X #X (EM=*A:XXX:)
  6X #X (EM=*A:XXXX:)
  6X #X (EM=1234XXXX5678)
END
```

出力の生成：

```
A:*:      A:**:      A:**3:      A:**34:      23411345678
```

最後の出力桁の直後の末尾文字は出力されません。

マスクで指定した桁数がフィールド長より短い場合、マスクの長さに合わせて出力されません。

マスクで指定した桁数がフィールド長より長い場合、マスクの先頭の余分な桁が切り捨てられます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT (A4) INIT <'BLUE'>
END-DEFINE
WRITE #TEXT (EM=X-X-X)
WRITE #TEXT (EM=X-X-X-X-X)
```

```
displays as 'B-L-U'      .. only three bytes of field
displayed
displays as 'B-L-U-E-'   .. mask definition was
truncated to (EM=X-X-X-X-)
```

英数字編集マスクの例

次のプログラムでは、値 BLUE を含むフィールド（フォーマット／長さ A4）の英数字編集マスクのリストを作成しています。

```

** Example 'EMMASK1': Edit mask
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT (A4)
END-DEFINE
*
ASSIGN #TEXT = 'BLUE'
WRITE NOTITLE 'MASK 1:' 5X #TEXT (EM=X.X.X.X)
/           'MASK 2:' 5X #TEXT (EM=X^X^X^X)
/           'MASK 3:' 5X #TEXT (EM=X--X--X)
/           'MASK 4:' 5X #TEXT (EM=X-X-X-X-X-X)
/           'MASK 5:' 5X #TEXT (EM=X' 'X' 'X' 'X)
/           'MASK 6:' 5X #TEXT (EM=XX....XXX)
/           'MASK 7:' 5X #TEXT (EM=1234XXXX)
END

```

プログラム EMMASK1 の出力：

```

MASK 1:      B.L.U.E
MASK 2:      B L U E
MASK 3:      B--L--U
MASK 4:      B-L-U-E-
MASK 5:      B L U E
MASK 6:      BL....UE
MASK 7:      234BLUE

```

バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク

バイナリフィールドの編集マスクは、XまたはH表記を使用して設定できます。バイナリフィールドについては、X表記は、Xの代わりにHが指定した場合のようにサポートされます。


16 進編集マスク

編集マスクの最初の文字としてHを指定した場合、英数字フィールドまたは数値フィールドの内容は16進形式で出力されます。各Hは、ソースフィールドの1バイトに対する2つの出力桁を表します。H以外の文字は、マスク内の挿入文字または末尾文字として扱われます。編集マスクの長さがフィールド長より短い場合、出力桁はマスクの長さに調整されます。フィールド長が編集マスクの長さより短い場合、マスクの長さがフィールド長に調整されます。

挿入文字または末尾文字は、必要に応じてアポストロフィで囲んで指定することもできます。

16進編集マスクで出力されたフィールドはすべて英数字として扱われます。そのため、編集マスクが編集対象のフィールドよりも短い場合、数値または英数字の桁は、小数点位置を無視して左から右へ出力されます。

16進編集マスクを入力編集マスクとして使用する場合、0~9、a~f、A~F、空白、および16進ゼロは、16進数字として受け入れられます。

 **注意:** 空白と16進ゼロは0としてみなされ、小文字(a-f)は大文字としてみなされません。

16 進フィールドの編集マスクの例:

次の表は、16進編集マスクの例を示しています。この結果は、各列の上部に示したフィールドと値に基づいています。編集マスクが適用されているすべての数値(-10、+10、01)が、N2フォーマットで定義されたフィールドに格納されています。英数字値ABは、フォーマット/長さA2で定義されたフィールドに格納されています。

ASCII:

値=>	AB	-10	+10	01
EM=HH	4142	3170	3130	3031
EM=H^H	41 42	31 70	31 30	30 31
EM=HH^H	4142	3170	3130	3031

EM - 編集マスク

EM=H-H	41-42	31-70	31-30	30-31
EM=H	41	31	31	30

EBCDIC :

値=>	AB	-10	+10	01
EM=HH	C1C2	F1D0	F1F0	F0F1
EM=H:H	C1 C2	F1 D0	F1 F0	F0 F1
EM=HH:H	C1C2	F1D0	F1F0	F0F1
EM=H-H	C1-C2	F1-D0	F1-F0	F0-F1
EM=H	C1	F1	F1	F0

16進編集マスクを使用したプログラムの例 :

```

** Example 'EMMASK2': Edit mask
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT1 (A2)
1 #TEXT2 (N2)
END-DEFINE
*
ASSIGN #TEXT1 = 'AB'
ASSIGN #TEXT2 = 10
*
WRITE NOTITLE
    'MASK (EM=HH) :' 18T #TEXT1 (EM=HH)      30T #TEXT2 (EM=HH)
  / 'MASK (EM=H^H) :' 18T #TEXT1 (EM=H^H)    30T #TEXT2 (EM=H^H)
  / 'MASK (EM=HH^H) :' 18T #TEXT1 (EM=HH^H)  30T #TEXT2 (EM=HH^H)
  / 'MASK (EM=H-H) :' 18T #TEXT1 (EM=H-H)    30T #TEXT2 (EM=H-H)
  / 'MASK (EM=H)   :' 18T #TEXT1 (EM=H)      30T #TEXT2 (EM=H)
END

```

プログラム EMMASK2 の出力 (ASCII) :

```

MASK (EM=HH) : 4142      3130
MASK (EM=H^H) : 41 42    31 30
MASK (EM=HH^H) : 4142    3130
MASK (EM=H-H) : 41-42    31-30
MASK (EM=H)   : 41       31

```

プログラム EMMASK2 の出力 (EBCDIC) :

```

MASK (EM=HH) : C1C2      F1F0
MASK (EM=H^H) : C1 C2    F1 F0
MASK (EM=HH^H) : C1C2    F1F0
MASK (EM=H-H) : C1-C2    F1-F0
MASK (EM=H)   : C1       F1

```

日付 (フォーマットD) と時刻 (フォーマットT) のフィールドの編集マスク

フォーマットD (日付) またはフォーマットT (時刻) で定義されたフィールドの編集マスクでは、次に示す文字を指定できます。

- [日付 \(フォーマットD\) および時刻 \(フォーマットT\)](#)
- [日付文字の構文制限](#)
- [入力編集マスクのヒント](#)
- [出力編集マスクでの週表示 \(WW または ZW\) のヒント](#)
- [時刻 \(フォーマットT\)](#)
- [日付と時刻の編集マスクの例](#)

日付 (フォーマットD) および時刻 (フォーマットT)

文字	使用方法
DD	日
ZD	日、ゼロ省略
MM	月
ZM	月、ゼロ省略
YYYY	年、4桁 (「 入力編集マスクのヒント 」を参照)
YY	年、2桁 (「 入力編集マスクのヒント 」を参照)
Y	年、1桁 入力フィールドでは使用しないでください。
WW	週 (「 入力編集マスクのヒント 」および「 出力編集マスクでの週表示のヒント 」を参照)

文字	使用方法
ZW	週、ゼロ省略（「 入力編集マスクのヒント 」および「 出力編集マスクでの週表示のヒント 」を参照）
JJJ	ユリウス日
ZZJ	ユリウス日、ゼロ省略
NN... または N(n)	曜日名（言語に依存） 最大長は N の個数または n の値で決まります。名前が最大長より長い場合、切り捨てが発生します。短い場合には、実際の長さの名前が使用されます。
0	曜日番号 プロファイルパラメータ DTFORM によって、週の開始が月曜日か日曜日かが決まります。DTFORM=U の場合：（日曜日=1、月曜日=2 など） DTFORM=other の場合：（月曜日=1、火曜日=2 など）
LL... または L(n)	月名（言語に依存） 最大長は L の個数または n の値で決まります。名前が最大長より長い場合、切り捨てが発生します。短い場合には、実際の長さの名前が使用されます。
R	ローマ数字の年（最大 13 桁） 入力フィールドでは使用しないでください。年の出力値の上限は 2887 です。

日付文字の構文制限

入力および出力編集マスクに対して、次のものを使用することはできません。

テキスト			文字		
月	with	月名	MM または ZM	with	LL または L(n)
曜日名	with	曜日番号	NN または N(n)	with	0

入力編集マスクに対して、次のものを使用することはできません。

テキスト			文字		
1 桁年	nor	ローマ数字の年	Y	nor	R
日	without	月または月名	DD または ZD	without	MM、ZM、LL、または L(n)
週	without	年	WW または ZW	without	YYYY または YY
月	without	年	MM または ZM	without	YYYY または YY
ユリウス日	without	年	JJJ または ZZJ	without	YYYY または YY
曜日名	without	週	NN または N(n)	without	WW または ZW
曜日番号	without	週	0	without	WW または ZW
ユリウス日	with	月	JJJ または ZZJ	with	MM または ZM
ユリウス日	with	週	JJJ または ZZJ	with	WW または ZW
月	with	週	MM または ZM	with	WW または ZW

入力編集マスクのヒント

有効の年の値 (YYYY) の範囲は 1582~2699 です。プロファイルパラメータ `MAXYEAR` が 9999 に設定されている場合、1582~9999 が年の値の有効な範囲になります。

入力編集マスクに年 (YY または YYYY) のみを指定し、月や日を指定しなかった場合、月と日の値は両方とも 01 に設定されます。入力編集マスクに年 (YY または YYYY) と月 (MM) のみを指定し、日を指定しなかった場合、日の値は 01 に設定されます。

2桁年 (YY) を使用する場合、年表記を満たすために使用される世紀は、デフォルトで現在の世紀になります。ただし、スライディングまたは固定ウィンドウが設定されているとき、これは適用されません。詳細については、『Natural パラメータリファレンス』ドキュメントのプロファイルパラメータ `YSLW` を参照してください。

週番号 (WW または ZW) を曜日番号 (0) または曜日名 (NN...) なしで指定した場合、週の最初の曜日とみなされます。

出力編集マスクでの週表示 (WW または ZW) のヒント

`DTFORM=U` (USA 形式) が設定されている場合、週は日曜日から始まります。他のすべての `DTFORM` 設定については、最初の曜日は月曜日です。週が旧年の 52/53 週であるか、新年の 01 週であるかどうかは、年にその週を超える日が含まれているかに依存します。つまり、その週の木曜日 (`DTFORM=U` では水曜日) が前年にある場合、その週は前年に属します。翌年にある場合、その週は翌年に属します。

週番号 (WW または ZW) と年表記 (YYYY、YY、または Y) が同じ編集マスク内にある場合、年の表示は、基礎となる日付フィールドの年に関係なく、常に週番号に対応します。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 D (D)
END-DEFINE
MOVE EDITED '31-12-2003' TO D(EM=DD-MM-YYYY)
DISPLAY D(EM=DD-MM-YYYY_N(10)) D(EM=DD-MM-YYYY/WW)
```

週番号 WW が編集マスクに含まれている場合、基礎となる日付が 2003 年 12 月 31 日であっても、次のように表示されます。

```

          D          D
-----
31-12-2003_Wednesday 31-12-2004/01

```

時刻（フォーマット T）

文字	使用方法
T	10 分の 1 秒
SS	秒
ZS	秒、ゼロ省略
II	分
ZI	分、ゼロ省略
HH	時間
ZH	時間、ゼロ省略
AP	AM/PM 要素

日付と時刻の編集マスクの例

```

** Example 'EMDATI': Edit mask for date and time variables
*****
*
WRITE NOTITLE
  'DATE INTERNAL :' *DATX (DF=L) /
  '                :' *DATX (EM=N(9)' 'ZW.'WEEK 'YYYY) /
  '                :' *DATX (EM=ZZJ'.DAY 'YYYY) /
  '    ROMAN      :' *DATX (EM=R) /
  '    AMERICAN   :' *DATX (EM=MM/DD/YYYY)      12X 'OR ' *DAT4U /
  '    JULIAN     :' *DATX (EM=YYYYJJJJ)      15X 'OR ' *DAT4J /
  '    GREGORIAN  :' *DATX (EM=ZD.' 'L(10)''YYYY) 5X 'OR ' *DATG ///
*
  'TIME INTERNAL :' *TIMX                14X 'OR ' *TIME /
  '                :' *TIMX (EM=HH.II.SS.T) /
  '                :' *TIMX (EM=HH.II.SS' 'AP) /
  '                :' *TIMX (EM=HH)
END

```

プログラム EMDATI の出力：


```

DATE INTERNAL : 2005-01-12
               : Wednesday 2.WEEK 2005
               : 12.DAY 2005
  ROMAN       : MMV
  AMERICAN    : 01/12/2005          OR 01/12/2005
  JULIAN      : 2005012             OR 2005012
  GREGORIAN   : 12.January2005     OR 12January 2005

TIME INTERNAL : 16:04:14           OR 16:04:14.8
               : 16.04.14.8
               : 04.04.14 PM
               : 16

```

論理フィールド（フォーマットL）の編集マスク

フォーマットL（論理フィールド）のフィールドに対しては、次のように編集マスクを定義できます。

```
(EM=[false-string]/true-string)
```

false-string は 31 文字を超えないようにする必要があります。

論理フィールドの編集マスクの例

```

** Example 'EMLOGV': Edit mask for logical variables
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #SWITCH (L) INIT <true>
1 #INDEX (I1)
END-DEFINE
*
FOR #INDEX 1 5
  WRITE NOTITLE #SWITCH (EM=FALSE/TRUE) 5X 'INDEX =' #INDEX
  WRITE NOTITLE #SWITCH (EM=OFF/ON)      7X 'INDEX =' #INDEX
  IF #SWITCH
    MOVE FALSE TO #SWITCH
  ELSE
    MOVE TRUE TO #SWITCH
  END-IF
/*
SKIP 1
END-FOR
END

```

プログラム EMLOGV の出力：

```
TRUE      INDEX = 1
ON        INDEX = 1

FALSE     INDEX = 2
OFF       INDEX = 2

TRUE      INDEX = 3
ON        INDEX = 3

FALSE     INDEX = 4
OFF       INDEX = 4

TRUE      INDEX = 5
ON        INDEX = 5
```

84 EMFM - 編集マスクフリーモード

この Natural プロファイルパラメータは、セッション開始時に編集マスクフリーモードを有効または無効にするために使用します。このモードでは、数値編集マスク付きのフィールドへの入力中、リテラルを省略することが可能です。

可能な設定	ON	編集マスクフリーモードを有効にします。
	OFF	編集マスクフリーモードを無効にします。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	実行中の Natural セッション内で、端末制御コマンド %FM+ または %FM- を使用してこの設定を上書きできます。

詳細については、『ステートメント』ドキュメントの INPUT ステートメントの「数値編集マスクフリーモード」を参照してください。

85 ENDBT - セッション終了時の BACKOUT

TRANSACTION

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションの終了時に暗黙的な BACKOUT TRANSACTION ステートメントを発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural は、セッションの終了時に暗黙的な BACKOUT TRANSACTION ステートメントを発行します。
	OFF	Natural は、セッションの終了時に暗黙的な BACKOUT TRANSACTION ステートメントを発行しません。
	ETDB	Natural は、プロファイルパラメータ ETDB で指定されたデータベースに対してのみ、セッションの終了時に暗黙的な BACKOUT TRANSACTION ステートメントを発行します。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：**ADAMODE** | **DBCLOSE** | **DBOPEN** | **ET** | **ETDB** | **ETEOP** | **ETIO** | **ETSYNC**

86

ENDMSG - セッション終了メッセージの表示

デフォルトでは、Naturalセッションが正常終了したことを示すメッセージ NAT9995 が Natural セッション終了時に表示されます。この Natural プロファイルパラメータでは、このメッセージの表示を抑制できます。

可能な設定	ON	セッションの終了時に、メッセージ NAT9995 が表示されます。
	OFF	セッションの終了時に、メッセージ NAT9995 は表示されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

プロファイルパラメータ **PROGRAM** でセッションバックエンドプログラムが定義されている場合、ENDMSG プロファイルパラメータは効果がありません。メッセージテキストはパラメータエリアのバックエンドプログラムに渡され、Natural では出力されません。

87 ES - 空行省略

このセッションパラメータでは、DISPLAYまたはWRITEステートメントで生成された空行の出力を省略できます。

可能な設定	ON	DISPLAY または WRITE ステートメントの結果、1 行の内容がすべて空白値の場合は出力されません。 この設定は、配列（例えば、マルチプルバリュースフィールドやピリオディックグループ内のフィールド）の出力時に空行が多数出力されないようにするために特に役立ちます。
	OFF	空行の省略は無効です。
デフォルト設定	OFF	
セッション内の指定	可	
適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT WRITE	
適用可能なコマンド：	なし	

数値に対しても空行の省略を行うには、ZP=OFF および ES=ON を指定し、空値を空白として出力するようにしておく必要があります。セッションパラメータ IS および ZP も参照してください。

例：

```
DISPLAY (ES=ON) NAME CITY
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

88

ESCAPE - 端末コマンド %% および % の無効化

この Natural プロファイルパラメータは、端末コマンド %% および % . を無効にするために使用します。

可能な設定	ON	端末コマンド %% および % . の使用を有効にします。
	OFF	端末コマンド %% および % . は無視されます。つまり、%% または % . を入力して、現在アクティブな Natural プログラムまたは Natural セッションから抜けることはできません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

89

ESIZE - ユーザーバッファ拡張エリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、ユーザーバッファ拡張エリアのサイズを設定します。Natural エディタで使用される Natural ソースエリアのサイズを決定します。

可能な設定	2 - 512	バッファ拡張エリアのサイズ (KB 単位)。 注意: (エディタが使用されない) ランタイム環境では、デフォルト設定より大きい値を設定することはできません。
デフォルト設定	28	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ユーザーバッファ拡張エリアには次のものが含まれます。

- コンパイル対象の Natural プログラミングオブジェクトのソースコード
- 現在アクティブな PA/PF キーのテーブル
- Natural で内部的に使用されるその他のテーブルとワークエリア


実稼働環境では、Natural ソースは必要ないため、それに応じて ESIZE 値を削減できます。

このエリアのサイズが十分でなく、必要な情報を格納できない場合、エラーメッセージ NAT0886 が発行されます。

90 ET - END/BACKOUT TRANSACTION ステートメント の実行

この Natural プロファイルパラメータでは、データベースに対する END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行を制御します。

可能な設定	ON	END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントは、Natural セッションの開始、または END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントの最後の実行から参照されたすべてのデータベースに対して実行されます。
	OFF	END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントは、トランザクションによる影響を受けたデータベースに対してのみ（および該当する場合はトランザクションデータが書き込まれるデータベースに対して）実行されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

 **注意:** Natural の制御下で実行されていないデータベースに対する更新（つまり、データベースリンクルーチンのネイティブな呼び出しによる更新）は、Natural トランザクションロジックには影響しません。


その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ADAMODE](#) | [DBCLOSE](#) | [DBOPEN](#) | [ENDBT](#) | [ETDB](#) | [ETEOP](#) | [ETIO](#) | [ETSYNC](#)

91 ETA - エラートランザクションプログラム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural プログラムの実行時にエラー条件が検出された場合、制御を受け取るプログラムの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	エラートランザクション用のプログラム名。
	空白	ETA=' ' (空白) を指定した場合、エラートランザクションプログラムは呼び出されません。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	

このパラメータの設定は、システム変数 *ERROR-TA を使用してユーザープログラムで変更できます。

 **注意:** エラートランザクションプログラムは、現在ログオンしているライブラリ内、または現在の STEPLIB ライブラリ内に存在する必要があります。

エラーが発生した場合、Natural では STACK TOP DATA ステートメントを実行し、スタックの先頭に次の情報を配置します。

- エラー番号 (セッションパラメータ SG=OFF のとき N4、SG=ON のとき N5)
- 行番号 (N4)
- ステータス (A1)
- プログラム名 (A8)
- レベル (N2)

この情報は、エラートランザクションで INPUT データとして使用できます。ステータスは次の設定のいずれかです。

設定	説明
C	コマンド処理エラー。（行番号は 0）
L	ログオン処理エラー。（行番号は 0）
R	リモートサーバーでのエラー（Natural RPC 関連）。
O	オブジェクト時間。
S	修正不可能な構文エラー。

Natural Security がインストールされている場合、次のルールが適用されます。

- Natural への初回ログオン時にエラーが発生した場合、ETA パラメータで指定されたプログラムが適用されます。エラートランザクションは、初回ログオン時に FNAT または FUSER システム上のライブラリ SYSLIB 内または SYSTEM 内に存在している必要があります。
- 初回ログオンの後にエラーが発生した場合、現在のライブラリのセキュリティプロファイルにエラートランザクションとして指定されたプログラムが適用されます。エラートランザクションが指定されていない場合は、ETA パラメータが適用されます。

エラートランザクションプログラムの定義と使用の詳細については、『*Natural Security*』ドキュメントの「*Transactions*」を参照してください。

92

ETDB - トランザクションデータのデータベース

このNaturalプロファイルパラメータでは、END TRANSACTIONステートメントで指定されたトランザクションデータを保存するデータベースを指定します。

可能な設定	1~65535、255は除く	データベース ID。 データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
	0	トランザクションデータは、Natural Security システムファイル（FSEC）が存在するデータベースに書き込まれます。FSECが指定されていない場合、Natural システムファイル FNAT と同じであるとみなされます。Natural Security がインストールされていない場合、トランザクションデータは FNAT が存在するデータベースに書き込まれます。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ADAMODE](#) | [DBCLOSE](#) | [DBOPEN](#) | [ENDBT](#) | [ET](#) | [ETEOP](#) | [ETIO](#) | [ETSYNC](#)

93 ETEOP - プログラム終了時の END TRANSACTION の発行

このNaturalプロファイルパラメータでは、Naturalプログラムの終了時（つまり、NEXTモードになる前）に、暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Naturalは、Naturalプログラムの終了時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行します。
	OFF	Naturalは、Naturalプログラムの終了時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ADAMODE](#) | [DBCLOSE](#) | [DBOPEN](#) | [ENDBT](#) | [ET](#) | [ETDB](#) | [ETIO](#) | [ETSYNC](#)

94 ETID - Adabas ユーザー ID

この Natural プロファイルパラメータは、Adabas 関連の情報の ID として使用されます（例えば、END TRANSACTION ステートメントの結果として保存されるデータの ID）。

可能な設定	1~8 文字	この設定は、Adabas OPEN コールのユーザー ID 設定として使用されま す。
	OFF	Natural は、Natural セッションの開始時に Adabas オープンコマンドおよ びクローズコマンドを発行しません。ただし、ETID または OPRB 指定（あ るいは両方）が Natural Security に存在する場合、これらの指定は、Natural Security によって発行される後続のオープンで使用されます。このパラ メータ設定は、Natural Security と組み合わせて使用し、初期化段階での Adabas オープンコールで、同時送信の Natural バッチジョブによって重 複したユーザー ID 設定が生じないようにするためのものです。
	' ' (空白)	ETID パラメータが空白に設定されている場合、Natural は Adabas オープ ンコマンドおよびクローズコマンドを発行しません。OPRB パラメータ（指 定されている場合）と、Natural Security での ETID および OPRB 指定は無 視されます。この場合、Natural プロファイルパラメータ DBCLOSE を ON に設定して、セッションの終了時にクローズコマンドを強制することをお 勧めします。そうしないと、ユーザーは Adabas からログオフせず、Adabas ユーザーキューエレメントが削除されません。これにより、Adabas ユー ザーキューでオーバーフローが発生する可能性があります。
デフォルト設定	*INIT-USER	
ダイナミックな 指定	可	
セッション内の 指定	不可	

ETID 設定が Natural システム変数 *INIT-USER の設定と異なる場合、Natural は Natural セッ
ションの開始時に、指定されている ETID 設定を使用して（また指定されている場合は OPRB も
使用）、Adabas オープンを発行します。このオープンは、Natural セッションが終了するまで
有効です。Natural Security での ETID および OPRB 指定は無視されます。

ETID 設定が *INIT-USER の設定と同一の場合、または ETID パラメータが指定されていない場合、Natural は Natural セッションの開始時に、*INIT-USER 設定を ETID として使用し（また指定されている場合は OPRB 設定も使用）、Adabas オープンを発行します。Natural Security ログオン（初期ログオンまたはその後のログオン）によって現在有効な ETID または OPRB 設定（Natural Security でのライブラリ/ユーザー固有の ETID および OPRB 指定）が変更された場合、Natural Security は新しい ETID および OPRB 設定を使用して新しいオープンを発行します。ログオン後も設定が変更されない場合、Natural Security は新しいオープンを発行しません。

ETID および *INIT-USER は、セッションの開始時にユーザー出口 NATUEX1 によって変更されます。『オペレーション』ドキュメントの「NATUEX1-認証制御のユーザー出口」を参照してください。

95

ETIO - 端末 I/O 時の END TRANSACTION の発行

この Natural プロファイルパラメータでは、端末 I/O 時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural は、端末 I/O が発生するたびに暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行します。端末 I/O が原因でトランザクションモニタによって対応するデータベースがコミットされるたびに、すべての関連データベースもコミットされます。これは、データベーストランザクションの同期に役立ちます。 注意: Natural アドオン製品 (Natural Security を除く) は、ETIO=ON では正しく機能しないことがあります。
	OFF	Natural は、端末 I/O 時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：[ADAMODE](#) | [DBCLOSE](#) | [DBOPEN](#) | [ENDBT](#) | [ET](#) | [ETDB](#) | [ETEOP](#) | [ETSYNC](#)

96 ズ

ETPSIZE - Entire Transaction Propagator Buffer のサイ


この Natural プロファイルパラメータは、Entire Transaction Propagator がインストールされている場合にのみ適用されます。Entire Transaction Propagator バッファのサイズを決定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して ETPSIZE 値を指定することもできます。

可能な設定	10 - 128	Entire Transaction Propagator バッファのサイズ (KB 単位)。 Entire Transaction Propagator を使用する場合、このパラメータに適切な値を指定する必要があります。Entire Transaction Propagator のドキュメントを参照してください。 要求したスペースを利用できない場合、Entire Transaction Propagator は使用できません。
	0	Entire Transaction Propagator は使用されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

97 ETRACE - 外部トレース機能

この Natural プロファイルパラメータは、（標準の）外部トレース機能、または z/OS および TSO で提供される Generalized Trace Facility（GTF）を有効または無効にするために使用します。

 **注意:** このパラメータは、必ず事前に Software AG サポートに相談したうえで使用してください。

トレース機能は、デバッグ用として Software AG の内部でを使用することを主に目的としています。Natural が稼働している TP 環境に応じて、トレースデータが外部トレースデータセットに書き込まれます。バッチ環境および TSO 環境では、外部トレース用のデータセット（『オペレーション』ドキュメントの「CMTRACE - Natural トレース用のオプションレポート出力」も参照）が必要になります。

可能な設定	ON	（標準の）外部トレース機能を有効にします。
	OFF	（標準の）外部トレース機能を無効にします。
	(ON,GTF) (OFF,GTF)	Generalized Trace Facility（GTF）を有効または無効にします。トレースレコードは GTF に書き込まれます。
	(ON,NOGTF) (OFF,NOGTF)	（標準の）外部トレース機能を有効または無効にします。
	(,GTF)	ETRACE=GTF と同等です。トレースデータは GTF に書き込まれます。ON または OFF は変更されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	Natural セッション内で、端末コマンド %TRE を使用して、外部トレース機能（GTFを除く）を有効または無効にすることができます。

98 ETSYNC-トランザクションの終了時／バックアウトトランザクション時の同期地点の発行

この Natural プロファイルパラメータでは、END TRANSACTION または BACKOUT TRANSACTION ステートメントが発行されるたびに暗黙的な同期地点を発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural は、END TRANSACTION ステートメントが発行されるたびに暗黙的な同期地点 COMMIT を発行します。 Natural は、BACKOUT TRANSACTION ステートメントが発行されるたびに暗黙的な同期地点 ROLLBACK を発行します。 これは、3GL プログラム内から実行されるデータベーストランザクションの同期に役立ちます。
	OFF	Natural は、END TRANSACTION または BACKOUT TRANSACTION ステートメントが発行されたときに暗黙的な同期地点を発行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

注：

同期地点を発行するために、Natural では次のものが使用されます。

- TSO およびバッチモードでは、リカバリの単位をコミットまたはロールバックするための Resource Recovery Services (RRS)
- CICS では、CICS コマンド SYNCPOINT および SYNCPOINT ROLLBACK
- IMS/TM では、システムサービスコール CHECKPOINT (CHKP) および ROLLBACK (ROLB)

処理順序は次のとおりです。

ETSYNC - トランザクションの終了時/バックアウトトランザクション時の同期地点の発行

- END TRANSACTION / BACKOUT TRANSACTION ステートメントが、プロファイルパラメータ **ETDB** で指定されたデータベースに発行されます。
- 同期地点 COMMIT / ROLLBACK が発行されます。
- 残りのデータベースに対して END TRANSACTION または BACKOUT TRANSACTION ステートメントが発行されます。

制限および制約事項

- この機能は、次の環境の z/OS オペレーティングシステムで使用できます。
 - バッチモード
 - TP モニタ CICS 環境
 - TP モニタ TSO 環境
 - 非メッセージドリブン BMP の TP モニタ IMS/TM 環境（IMS/TM の他のすべての環境では、ROLLBACK のみが実行され、CHECKPOINT は実行されません）
- Adabas トランザクションを同期するには、Adabas Transaction Manager (ATM) がインストールされている必要があります。
- DB2 データベースに保存されているデータを更新するトランザクションをこの機能でコミットする場合、RRSAF インターフェイスを使用するように Natural for DB2 または 3GL アプリケーションを構成する必要があります。
- DL/I データベースに保存されているデータを更新するバッチモードのトランザクションでは、DL/I 制限のため Resource Recovery Services はサポートされていません。また、DB2 データベースに保存されているデータが同じトランザクションで更新される場合、DL/I 同期メカニズムを使用して同期が実行されます。

したがって、DB2 および DL/I データベースに保存されているデータに加えて、Adabas データベースに保存されているデータが更新される場合、Adabas Transaction Manager がインストールされていても、同期は不可能です。

その他のトランザクション処理関連のパラメータ：**ADAMODE** | **DBCLOSE** | **DBOPEN** | **ENDBT** | **ET** | **ETDB** | **ETEOP** | **ETIO**

99 EXCSIZE - Natural Expert C インターフェイス用の バッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural Expert の C インターフェイスに必要なバッファのサイズを決定します。Natural Expert ドキュメントを参照してください。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS`（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して EXCSIZE 値を指定することもできます。

可能な設定	1~256	KB 単位のバッファサイズ。
	0	Natural Expert は使用されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

100 EXRSIZE - Natural Expert ルールテーブル用のバッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural Expert のルールテーブルに必要なバッファのサイズを決定します。Natural Expert ドキュメントを参照してください。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して EXRSIZE 値を指定することもできます。

可能な設定	1 - 256	KB 単位のバッファサイズ。
	0	Natural Expert は使用されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

101 FAMSTD - 出力ファイルおよびワークファイルの アクセスメソッド割り当ての上書き

この Natural プロファイルパラメータでは、セッションの初期化時に、ジョブ制御内のデータセット定義に基づいて、出力ファイルおよびワークファイルのアクセスメソッド割り当てに対する自動上書きを制御します。

マクロ `NTPRINT` および `NETWORK` の `AM` サブパラメータも参照してください。

可能な設定	ON	論理データセット名 (DEST サブパラメータで定義) がジョブ制御で定義されている場合、すべての出力ファイルおよびワークファイルデータセットが自動的にバッチアクセスメソッド <code>AM=STD</code> に割り当てられます (Natural バージョン 2.2 の動作と同様)。
	OFF	ファイルが別のアクセスメソッド (例えば、 <code>AM=NAF</code>) に割り当てられていない場合にのみ、 <code>AM=STD</code> への出力ファイルおよびワークファイルの自動割り当てが実行されます。 <code>AM=OFF</code> が指定されている場合、自動割り当ては実行されません。アクセスメソッドタイプをリセットし、自動割り当てを許可する場合は、 <code>AM=0</code> を指定してください。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

102

FC - INPUT ステートメントの充填文字

この Natural プロファイルパラメータでは、INPUT ステートメントで出力されるフィールドに使用するデフォルトの充填文字を指定します。

可能な設定	任意の文字	デフォルトの充填文字。 フィールドが INPUT ステートメントで端末に書き出される時、保護されていない入力フィールド（フィールド属性指定が AD=A）に前もって埋める値として使用されます。 変更可能な入力フィールド（フィールド属性指定が AD=M）については、フィールド値の残りを埋めるために使用されます。
デフォルト設定	X'00'	TTY または バッチモードでは、デフォルト設定は X'40'（つまり、16 進形式の空白）です。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

103 FC - DISPLAY ステートメントの充填文字

このセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントで列幅全体に出力されるヘッダーの両側を埋める充填文字を指定します。

列グループにわたるヘッダーに適用される GC パラメータとは異なり、FC パラメータは個々の列に適用されます。

可能な設定	任意の文字	個々のヘッダーの充填文字。 FC は、列幅がヘッダー長ではなくフィールド長で決まる場合にのみ適用されます（セッションパラメータ HW も参照）。そうでない場合、FC 設定は無視されます。	
デフォルト設定	空白		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY (FC=*)
```


104 FCDP - ダイナミックに保護された入力フィールドの充填文字

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータは、ダイナミックに書き込み保護された入力フィールド（つまり、属性制御変数により属性 AD=P が割り当てられた入力フィールド）の充填文字出力を抑制するために使用します。

FCDP パラメータの設定に応じて、ダイナミックに保護された入力フィールドは、空白または定義された充填文字で埋められて出力されます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ FCDP をセッションパラメータ FCDP で上書きできます。

可能な設定	ON	ダイナミックに保護された入力フィールドは、充填文字で埋められて出力されます。これにより、フィールドに何かを入力できたことをユーザーに示すことができます。	
	OFF	ダイナミックに保護された入力フィールドは、空白で埋められて出力されます。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #FIELD1 (A5)
1 #FIELD2 (A5)
1 #CVAR1 (C) INIT <(AD=P)>
1 #CVAR2 (C)
END-DEFINE
*
INPUT #FIELD1 (AD=Y'_' CV=#CVAR1) /* field is protected
      #FIELD2 (AD=Y'_' CV=#CVAR2) /* field is not protected
...
END
```

上記のプログラムを実行すると、次のように出力されます。

FCDP=ON:

#FIELD1 _____ #FIELD2 _____

FCDP=OFF:

#FIELD1 #FIELD2 _____

105

FDIC - Predict システムファイル

この Natural プロファイルパラメータでは、Predict でデータの検索や保存に使用される Predict システムファイルに対する 5 つのサブパラメータを定義します。

 **注意:** リモート開発環境では、Development Server File（開発サーバーファイル）が代わりに使用されます。『SPoD - Natural's Single Point of Development』および『Natural Development Server』ドキュメントを参照してください。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~65535、 255 は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。
	<i>file-number</i>	1~65535 :	ファイル番号。
	<i>password</i>	1~8 文字	Predict システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 VSAM システムファイルを使用した Natural に関する注: VSAM の定義に基づくシステムファイルの論理名 (DD または DLBL) を指定するには、パスワードを使用します。例： FDIC=(10,5,SYSVSAM) 詳細については、『Natural for VSAM』ドキュメントの「VSAM システムファイルによる Natural の使用」を参照してください。
	<i>cipher-key</i>	1~8 の 10 進 数値	Predict システムファイル用のサイファキー。Predict システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。
	RO		読み取り専用フラグです。RO は、Predict システムファイルが「読み取り専用」であることを示し、ファイルの変更操作が無効である場合にのみ明示されます。
デフォルト 設定	なし		

ダイナミックな指定	可	FDIC パラメータを DBID 、 FNR 、 SYSPSW 、および SYSCIP パラメータのいずれかと組み合わせでダイナミックに指定する場合、これらの他のパラメータの後に FDIC パラメータを指定する必要があります。
セッション内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FDIC=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

例：

```
FDIC=(10,5,PASSW1,12345678)
FDIC=(1,200,,12345678)
FDIC=(1,5)
FDIC=(,5)
```

FDIC 設定のサブパラメータが指定されていない場合、Predict システムファイルにはパラメータ **DBID**、**FNR**、**SYSPSW**、または **SYSCIP** の対応する設定が適用されます。

106 FL - 浮動小数点数の仮数部長

このセッションパラメータでは、入出力時の浮動小数点変数の仮数部の長さを指定します。

可能な設定	1~16	仮数部の長さ。 全体の長さは、FL + 6（符号、指数部、小数点）になります。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY FL=5 -> +1.2345E+03
```


107 FNAT-システムプログラム用の Natural システム ファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システムプログラム用の Natural システムファイルにデータベース ID、ファイル番号、パスワードとサイファキー、および読み取り専用フラグを指定するために使用します。

Natural システムファイルは、すべての Natural システムプログラムが取得され、すべてのシステムコマンドが機能するデータベースファイルです。このシステムファイルには、エラーテキストや Natural ヘルプ情報も保存されています。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~65535、 255 は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ <code>LFILE</code> を参照）。
	<i>file-number</i>	1~65535	ファイル番号。
	<i>password</i>	1~8 文字	Natural システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 VSAM システムファイルを使用した Natural の場合：VSAM の定義に基づくシステムファイルの論理名（DD または DLBL）を指定するには、パスワードを使用します。例： FNAT=(22,5,SYSVSAM) 詳細については、『 <i>Natural for VSAM</i> 』ドキュメントの「VSAM システムファイルによる <i>Natural</i> の使用」を参照してください。
	<i>cipher key</i>	8 の 10 進数 値	Natural システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 サイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。


	RO	読み取り専用フラグです。RO は、Natural システムファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合のみ指定できることを示します。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	FNAT パラメータを DBID、FNR、SYSPSW、SYSCIP、または ROSY パラメータのいずれかと組み合わせてダイナミックに指定する場合、これらのパラメータの後に FNAT パラメータを指定する必要があります。
セッション内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FNAT=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

例：

```
FNAT=(,8)
FNAT=(22,5,PASSW2)
```

 **注意:**

1. FNAT 設定のサブパラメータが指定されていない場合、システムプログラム用の Natural システムファイルにはパラメータ DBID、FNR、SYSPSW、SYSCIP、または ROSY の対応する設定が適用されます。
2. Adabas FNAT ファイルを再編成する場合、または FNAT ファイルからデータをアンロード／ロードする場合（例えば、ADAULD/ADALOD を使用）、ADALOD ユーティリティに USERISN=YES を指定する必要があります。

108 FNR - Natural システムファイルのデフォルトの ファイル番号

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural システムファイル (FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、FSP00L) が保存されているデフォルトのファイル番号を識別します。

可能な設定	1 - 65535	ファイル番号。個々のファイル番号が指定されていないすべての Natural システムファイルに適用されます。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	FNRパラメータを、システムファイル FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSP00L を定義する個々のプロファイルパラメータのいずれかと組み合わせて指定する場合、個々のシステムファイルパラメータの前に FNR パラメータを指定する必要があります。
セッション内の指定	可	

個々のシステムファイルのファイル番号は、プロファイルパラメータ FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSP00L で指定できます。

例 1 :

```
FNR=5,DBID=10,FUSER=(,8)
```

この例では、ユーザープログラムのシステムファイルをデータベース 10 のファイル 8 に割り当てています。他のすべてのシステムファイルは、データベース 10 のファイル 5 に割り当てられます。

例 2 :

```
FUSER=(,8),FNR=5,DBID=10
```

この例では、すべてのシステムファイルをデータベース 10 のファイル 5 に割り当てています。

109 FREEGDA - ユーティリティモードでの GDA の解放

この Natural プロファイルパラメータでは、ユーティリティがユーティリティモード（『ユーティリティ』ドキュメントの「ユーティリティのアクティブ化」を参照）で起動される（ユーティリティの名前に対応するダイレクトコマンドを使用）とき、現在のユーザーグローバルデータエリア（GDA）およびアプリケーション独立変数（AIV）をリセットするかどうかを制御します。

可能な設定	ON	現在のユーザー GDA および AIV 変数は、ユーティリティが起動される前にリセットされます。この動作は、ユーティリティがシステムコマンド LOGON <library> を使用して起動されたときの以前の状況に対応しています。
	OFF	ユーティリティが起動される時、現在のユーザー GDA および AIV 変数は保持されます。これに対応してデータサイズが増加し、特定のオペレーティングシステム環境ではスレッド問題を引き起こす可能性があることに注意してください。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

110 FS-ユーザー定義変数のデフォルトのフォーマット／長さの設定

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータは、レポートモードにのみ適用されます。ストラクチャードモードには無効です。

このパラメータでは、レポートモードでのユーザー定義変数の定義に対してデフォルトのフォーマット／長さの設定を有効にするかどうかを決定します。『プログラミングガイド』の「ユーザー定義変数のフォーマットおよび長さ」を参照してください。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ FS をセッションパラメータ FS で上書きできます。

可能な設定	ON	Natural では、レポートモードで新しく導入された変数にデフォルトのフォーマット／長さは割り当てられません。ユーザー定義変数にはすべてフォーマット／長さを明示的に指定する必要があります。	
	OFF	Natural プログラムでフォーマット／長さの指定がないユーザー定義変数に、デフォルトのフォーマット／長さ N7 が割り当てられます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

111

FSEC - Natural Security システムファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Security が使用されている場合にのみ適用されます。

このパラメータでは、Natural Security でセキュリティ情報の検索／保存に使用される Natural Security システムファイルに対する 5 つのサブパラメータを定義します。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~65535、 255 は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています (プロファイルパラメータ LFILE を参照)。
		0	DBID=0 では、FSEC を無効に設定します。これは、非セキュリティ環境では必須です。
	<i>file-number</i>	1~65535	Natural Security システムファイルのファイル番号。
		0	FNR=0 では、FSEC を無効に設定します。これは、非セキュリティ環境では必須です。
	<i>password</i>	1~8 文字	Natural Security システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。
<i>cipher-key</i>	8 の 10 進数値	Natural Security システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。	
	RO		読み取り専用フラグです。RO は、Predict システムファイルが「読み取り専用」であることを示し、ファイルの変更操作が無効である場合にのみ明示されます。
デフォルト設定	なし		
ダイナミックな指定	可	FSEC パラメータを DBID 、 FNR 、 SYSPSW 、 SYSCIP 、または ROSY パラメータのいずれかと組み合わせてダイナミックに指定する場合、これらの他のパラメータの後に FSEC パラメータを指定する必要があります。	

セッション 内の指定	不可
---------------	----

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FSEC=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

例： FSEC=(10,8)

 **注意:** FSEC 設定のサブパラメータが指定されていない場合、Natural Security システムファイルにはパラメータ **DBID**、**FNR**、**SYSPSW**、**SYSCIP**、または **ROSY** の対応する設定が適用されます。

112

FSPPOOL - Natural Advanced Facilities スプールファイル

イル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Advanced Facilities にのみ適用されます。

Natural Advanced Facilities スプールファイルに対する 5 つのサブパラメータを定義します。スプールファイルは、Natural Advanced Facilities で使用されるデータベースファイルです。このファイルは、FNAT、FUSER、FDIC、および FSEC システムファイルとは異なる必要があります。

可能な設定	database-ID	1～65535、255 は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。 FSPPOOL 設定のコンポーネントが指定されていない場合、スプールファイルにはパラメータ DBID、FNR、SYSPSW、または SYSCIP の対応する設定が適用されます。
	file-number	1 - 65535	データベースファイル番号。
	password	1～8 文字	スプールファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 VSAM システムファイルを使用した Natural に関する注：VSAM の定義に基づくシステムファイルの論理名 (DD または DLBL) を指定するには、パスワードを使用します。例： FSPPOOL=(10,8,SYSVSAM) 詳細については、『Natural for VSAM』ドキュメントの「VSAM システムファイルによる Natural の使用」を参照してください。
	cipher-key	8 文字	スプールファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。
	RO		RO は、Natural Advanced Facilities スプールファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合にのみ指定できることを示します。つまり、スプールファイルにはレポートは保存されないなどのことを示します。

デフォルト 設定	なし	
ダイナミックな 指定	可	FSP00L パラメータを DBID 、 FNR 、 SYSPSW 、または SYSCIP パラメータのいずれかと組み合わせてダイナミックに指定する場合、これらのパラメータの後に FSP00L パラメータを指定する必要があります。
セッション 内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

`FSP00L=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)`

例：

FSP00L=(10,8)

113 FUSER - ユーザープログラム用の Natural システムファイル

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ユーザープログラムのシステムファイルに対する 5 つのサブパラメータを定義します。このシステムファイルは、すべてのユーザー作成 Natural プログラムが取得されるデータベースファイルです。

可能な設定	<i>database-ID</i>	1~65535、 255 は除く	データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
	<i>file-number</i>	1~65535	ファイル番号。
	<i>password</i>	1~8 文字	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 VSAM システムファイルを使用した Natural に関する注： VSAM の定義に基づくシステムファイルの論理名（DD または DLBL）を指定するには、パスワードを使用します。例： FUSER=(22,5,SYSVSAM) 詳細については、『 <i>Natural for VSAM</i> 』ドキュメントの「VSAM システムファイルによる <i>Natural</i> の使用」を参照してください。
	<i>cipher-key</i>	8 の 10 進数 値	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。
	R0		R0 は、Natural ユーザープログラムのシステムファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合にのみ指定できることを示します。
デフォルト設定	なし		

ダイナミックな指定	可	FUSER パラメータを DBID 、 FNR 、 SYSPSW 、 SYSCIP 、または ROSY パラメータのいずれかと組み合わせてダイナミックに指定する場合、これらのパラメータの後に FUSER パラメータを指定する必要があります。
セッション内の指定	不可	

このパラメータの構文は次のとおりです。

```
FUSER=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

例：

```
FUSER=(,8) FUSER=(22,5,PASSW2)
```



注意: FUSER 設定のサブパラメータが指定されていない場合、Natural ユーザープログラムのシステムファイルにはパラメータ **DBID**、**FNR**、**SYSPSW**、**SYSCIP**、または **ROSY** の対応する設定が適用されます。

114 GC - グループヘッダーの充填文字

このセッションパラメータでは、DISPLAYステートメントで対象のグループに属す全フィールド列にわたって出力されるグループヘッダーの両側を埋める充填文字を指定します。

個々の列に適用されるFCパラメータとは異なり、GCパラメータは列グループにわたるヘッダーに適用されます。

可能な設定	任意の文字	グループヘッダーの充填文字。	
デフォルト設定	空白		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY (GC=*)
```


115 HC - ヘッダーの中央揃え

このセッションパラメータでは、列ヘッダーの配置を決定します。

可能な設定	C	ヘッダーは中央揃えで表示されます。	
	L	ヘッダーは左揃えで表示されます。	
	R	ヘッダーは右揃えで表示されます。	
デフォルト設定	C		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

DISPLAY (HC=L)

116

HCAM - ハードコピーアクセスメソッド

このNaturalプロファイルパラメータでは、ハードコピー出力処理に使用するアクセスメソッドを決定します。

HCAM=xxx は、出力ファイル0用のプロファイルパラメータ PRINT の AM サブパラメータ（つまり、PRINT=((0),AM=xxx)）と同等です。

次のいずれかのアクセスメソッド名を指定できます。

可能な設定	値：	アクセスメソッド：
	STD	標準シーケンシャルファイル（TSO、TIAM、VM/CMSOSシミュレーション）。
	COMP	Com-plete 出力ファイル。
	CMS	VM/CMS ディスクおよび SFS ファイル。
	CICS	CICS 一時データまたは一時ストレージ。
	IMS	IMS/TM プリンタ。
	NAF	Natural Advanced Facilities.
	USER	サードパーティベンダの出力インターフェイス。
	SMARTS	SMARTS 出力ファイル。
	ESS	Entire System Server.
	ANY	ハードコピー出力処理は、利用可能な最初のアクセスメソッドで行われ ます（利用可能なアクセスメソッドの検索順序は、このリストに表示されて いる順序です）。
OFF	ハードコピー出力処理はどのアクセスメソッドでも実行されません。	
デフォルト設定	ANY	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ハードコピー出力先は、プロファイルパラメータ **HCDEST** を使用して指定します。ハードコピー出力ファイルに関するその他の指定は、プリンタ 0 用の **PRINT** プロファイルパラメータまたは **NTPRINT** マクロを使用して行うことができます。

BS2000/OSD ユーザーに関する注：HCAM=STD 設定は、ハードコピー出力を標準出力ファイルにルーティングするために必須です。

117 HCDEST - ハードコピー出力先

この Natural プロファイルパラメータでは、端末コマンド %H (*destination* オペランドなし) に対してハードコピー出力先をプリセットします。

HCDEST=xxx は、出力ファイル 0 用のプロファイルパラメータ PRINT の DEST サブパラメータ (つまり、PRINT=((0),DEST=xxx)) と同等です。

可能な設定	1~8 文字	有効なハードコピー出力先。
	空白	
デフォルト設定	空白	環境によっては、オペレーティングシステムまたは TP モニタによってデフォルトの出力先が指定される場合があります。ハードコピーに HCAM=STD が割り当てられている場合、デフォルトのハードコピー出力先はデータセット CMHCOPY になります。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	ハードコピー出力先は、セッション中に %H <i>destination</i> を指定して上書きできます。端末コマンド %H も参照してください。

TSO または バッチモードで Natural を実行している場合、JCL 内またはダイナミックアロケーションでデータセットを定義する必要があります。

TSO では、HCDEST で指定したハードコピーデータセットは、次の端末 I/O 時に %H の後、クローズされます。デフォルトの CMHCOPY データセットは、端末 I/O 時ではなく、セッション終了時にクローズされます。

ハードコピー出力アクセスメソッドは、プロファイルパラメータ HCAM、またはプリンタ 0 用のプロファイルパラメータ PRINT の DEST サブパラメータで指定できます。ハードコピー出力ファイルに関するその他の指定は、プリンタ 0 用の PRINT プロファイルパラメータまたは NTPRINT マクロを使用して行うことができます。

118 HD-ヘッダ定義

このセッションパラメータでは、次の場合に使用するデフォルトのテキストを定義します。

- フィールドが DISPLAY ステートメントで出力される場合
- WRITE または INPUT ステートメント内のフィールドの直前に等号 (=) が配置されている場合

このパラメータは次のように指定できます。

- DEFINE DATA ステートメントのフィールド／エレメントレベルで指定します（「ビューの定義」および「フィールド／変数の EM、HD、PM パラメータ」を参照）。
- データエリアエディタの Miscellaneous フィールドで指定します（「編集エリアの列」を参照）。
- SYSDDM ユーティリティで指定します（「拡張フィールド属性の指定」を参照）。

可能な設定	'text'	最大 120 文字の英数字または Unicode 文字。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント：	DEFINE DATA	パラメータはフィールド／エレメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

119 HE・ヘルプルーチン

■ HE パラメータの構文	300
■ ヘルプルーチンの実行	302
■ 例	302

このセッションパラメータでは、フィールドにヘルプルーチンまたはヘルプマップを割り当てます。

可能な設定		下記の「 HE パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	INPUT
		適用可能なコマンド：	なし

ヘルプルーチンは Natural プログラムエディタで作成し、ヘルプマップは Natural マップエディタで作成できます。

その後、ヘルプルーチンまたはヘルプマップは、次のいずれかの方法を使用して、INPUT ステートメントまたはマップの処理中に呼び出すことができます。

- ヘルプ要求を呼び出すフィールドで、ヘルプ文字（デフォルトでは疑問符 (?) を入力し、Enter キーを押します。
- ヘルプ要求を呼び出すフィールドにカーソルを置き、SET KEY ステートメントでヘルプファンクションキーとして定義されている PF キーを押します。

以下では次のトピックについて説明します。

HE パラメータの構文

このパラメータの構文は次のとおりです。

HE=オペランド1	[,	{	オペランド2	}]	...20
			=				
			nX				

オペランド定義テーブル：

オペランド	構文要素	フォーマット	ステートメント参照	ダイナミック定義
operand1	C S	A	不可	不可
operand2	C S A	A U N P I F B D T L C O	不可	不可

構文の説明：

operand1	<p>operand1 は、呼び出すヘルプルーチンまたはヘルプマップの名前です。名前には、1~8 文字の英数字定数またはユーザー定義変数を使用できます。変数を使用する場合、事前にこれを定義しておく必要があります。名前にはアンパサンド (&) を含めることができます。この文字は実行時に Natural システム変数 *LANGUAGE の現在の値で置き換えられます。この機能により、複数言語のヘルプルーチンまたはヘルプマップを使用できるようになります。</p> <p>マップ内での operand1 の使用の詳細については、『エディタ』ドキュメントの「マップエディタ」の項の、「拡張フィールド編集」に記載された HE ヘルプルーチンオプションに関する説明を参照してください。</p>
operand2	<p>ヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡される 1~20 のパラメータ (operand2) を指定できます。これらのパラメータは、定数として指定することも、パラメータ値を含むユーザー定義変数として指定することもできます。</p> <p>マップ内での operand2 の使用の詳細については、『エディタ』ドキュメントの「マップエディタ」の項の、「拡張フィールド編集」に記載された HE ヘルプルーチンオプションに関する説明を参照してください。</p>
=	<p>等号 (=) は、オブジェクト名またはフィールド名をヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡すために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ステートメントレベルで HE= 指定に等号を入力した場合、実行対象のオブジェクト (システム変数 *PROGRAM に含まれる) の名前がヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡されます。例 3 では、渡されるオブジェクト名は PROGRAM1 です。 ■ フィールドレベルで HE= 指定に等号を入力した場合、フィールドの名前がヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡されます。例 3 では、渡されるフィールド名は #PARM1 です。 <p>等号をパラメータとして使用する場合、ヘルプルーチンまたはヘルプマップ内の対応するパラメータをフォーマット/長さ A65 で指定する必要があります。</p>
nX	<p>表記 nX は、省略する (つまり、値が渡されない) パラメータを指定するために使用できます。呼び出されたヘルプルーチンの DEFINE DATA PARAMETER ステートメント内の対応する受け取り側パラメータは、OPTIONAL として定義する必要があります。</p>



注意:

- オペランドは、INPUT 区切り文字 (セッションパラメータ ID で指定) またはコンマで区切る必要があります。ただし、セッションパラメータ DC でコンマを小数点文字として定義している場合は、この目的でコンマを使用することはできません。
- パラメータ指定がある場合、ヘルプルーチンは DEFINE DATA PARAMETER ステートメントで始める必要があります。このステートメントでは、パラメータと同じフォーマットと長さのフィールドを定義します。
- ヘルプルーチンが指定されたフィールドの値をヘルプルーチン内で参照できます。その場合、元のフィールドと同じフォーマットと長さのフィールドを DEFINE DATA PARAMETER ステートメントで指定します。DEFINE DATA PARAMETER ステートメント内で定義されたフィールドのブロックで、このフィールドは必ずパラメータ (存在する場合) の後に定義する必要があります。

- ヘルプルーチンが指定されたフィールドが配列要素である場合、そのインデックスをヘルプルーチンで参照できます。その場合、DEFINE DATA PARAMETER ステートメントの最後にインデックスパラメータをフォーマット/長さ I2 で指定します。配列の次元に応じて、最大3つのインデックスパラメータを指定できます。

ヘルプルーチンの実行

フィールドに疑問符 (?) を入力するか、ヘルプキー (SET KEY ステートメントで定義) を押すか、または REINPUT USING HELP ステートメントを使用することでヘルプルーチンまたはヘルプマップを要求した場合、フィールドに入力した他のすべてのデータは、ヘルプ要求がすべて処理されるまでプログラム変数には割り当てられません。



注意: 1つの INPUT ステートメントでは1つのヘルプ要求のみが可能です。つまり、ヘルプが複数のフィールドで要求された場合 (例えば、複数のフィールドに疑問符を入力)、最初のヘルプ要求のみが実行されます。

例

例 1:

```
/* MAIN PROGRAM
DEFINE DATA
1 #A(A20/1:3)
END-DEFINE
...
SET KEY PF1=HELP
...
INPUT #A (2) (HE='HELPA',=)
...
END
```

例 2:

```
/* HELP-ROUTINE 'HELPA'
DEFINE DATA PARAMETER
1 #VARNAME (A65)
1 #PARM1 (A20)
1 #VARINDEX (I2)
END-DEFINE
...
```

例 3 :

```
* Program 'PROGRAM1'
*
DEFINE DATA LOCAL
1 #PARM1 (A65) INIT <'valueparm1'>
END-DEFINE
SET KEY PF1 = HELP
FORMAT KD=ON
*
INPUT (AD=M HE='HELP1',=)
  'Enter ? for name of executed object:'
  / #PARM1
*
INPUT (AD=M)
  'Enter ? for field name:'
  / #PARM1 (HE='HELP1',=)
*
END
```

サンプルヘルプルーチン HELP1 内のパラメータデータエリア :

```
* Helproutine 'HELP1'
*
DEFINE DATA PARAMETER
1 #FLD1 (A65)
END-DEFINE
...
```


120 HI - ヘルプ文字

このNatural プロファイルパラメータでは、フィールド固有のヘルプルーチンまたはマップヘルプルーチン（特定のマップに定義されている場合）の呼び出しに使用する文字を定義します。

可能な設定	任意の特殊文字	<p>フィールド固有のヘルプルーチンまたはマップヘルプルーチンの呼び出しに使用する文字。</p> <p>プロファイルパラメータHIで指定する文字は、プロファイル/セッションパラメータCF（メインフレーム端末コマンドの制御文字）、プロファイル/セッションパラメータDC（小数点文字）、プロファイル/セッションパラメータIA（INPUT割り当て文字）、またはプロファイル/セッションパラメータID（INPUT区切り文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。</p>
	空白	<p>数値フィールドにヘルプルーチンが割り当てられている場合、ヘルプルーチンに疑問符(?)を入力してヘルプルーチンを呼び出せるように、内部的に英数字フォーマットに変換されます。</p> <p>この内部的な変換を避けるには（つまり、数値フィールドへの英字の入力を不可にするには）、プロファイルパラメータHIを空白に設定します。</p> <p>HI=' 'を設定する場合は、NaturalアプリケーションでSETKEYステートメントを使用してヘルプキーを定義する必要があります。そうしないと、どのフィールドのヘルプルーチンも呼び出すことはできません。</p>
デフォルト設定	?	疑問符。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0350N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

121 HW・ヘッダ幅

このセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントでの列出力の幅を決定します。

可能な設定	ON	DISPLAY 列の幅は、ヘッダーテキストの長さまたはフィールドの長さのどちらか長いほうによって決定されます。この規則は、DISPLAY ステートメントにキーワード NOHDR が含まれていたり、DISPLAY ステートメントが 2 番目以降の DISPLAY であるために、ヘッダーテキストが出力されない場合にも適用されます (DISPLAY ステートメントも参照)。	
	OFF	DISPLAY 列の幅は、フィールドの長さによって決定されます。HW=OFF は、ヘッダーを作成しない DISPLAY ステートメント (つまり、NOHDR オプションが指定された最初の DISPLAY ステートメント、または 2 番目以降の DISPLAY ステートメント) にのみ適用されます。	
デフォルト設定	ON		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド:	なし

例:

```
DISPLAY (HW=OFF)
```


122

IA - INPUT 割り当て文字

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、INPUT ステートメント（キーワード/デリミタモード、またはNatural スタックからデータを処理する場合）で入力パラメータ処理の割り当て文字として使用する文字を定義します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ IA をセッションパラメータ IA で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	INPUT ステートメントでの入力パラメータ処理の割り当て文字。IA パラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ プロファイル/セッションパラメータ CF（メインフレーム端末コマンドの制御文字）、DC（小数点文字）、または ID（INPUT 区切り文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ プロファイルパラメータ HI（ヘルプ文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 	
デフォルト設定	=	等号。	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0350N、USR1005N *	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。	

例：

次の例では、最初にデフォルトの INPUT 割り当て文字 (=) が適用されることを想定していません。

```
** Example 'IACHAR': Input Assign character
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #A (A1)
1 #B (A1)
END-DEFINE
*
INPUT #A #B
*
WRITE 'Field #A:' #A / 'Field #B:' #B
*
END
```

1. コマンドを入力します

```
IACHAR #A=Y,#B=X
```

プログラムが次の出力を生成します。

```
Page      1                                05-01-19  11:05:51
Field #A: Y
Field #B: X
```

2. コマンドを入力します

```
GLOBALS IA=:
```

INPUT 割り当て文字がコロン (:) に設定されます。

3. コマンドを入力します

```
IACHAR #B:X,#A:Y
```

プログラムが次の出力を生成します。

Page 1

06-11-13 12:12:24

Field #A: Y

Field #B: X

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

123 IC - 挿入文字

このセッションパラメータを使用して、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の値の直前にある列に挿入される文字列を指定します。出力列の幅は、それに従って拡大します。

数値の場合、挿入文字は出力される最初の重要な 10 進数の前に配置されます。

IC および LC パラメータは相互排他的です。

パラメータ IC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。

可能な設定	任意の文字	挿入される文字列。1~10 文字の文字列を指定できます。 挿入文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列内の空白は、シルコンフレクス (^) で表します。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY AA(IC=*)  
DISPLAY SALARY(IC='$')
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

124 ID - INPUT 区切り文字

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、キーワード/デリミタモードで INPUT ステートメントのデリミタ文字として使用する文字を定義します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ID をセッションパラメータ ID で上書きできます。

可能な設定	任意の特殊文字	INPUT 区切り文字。このパラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ プロファイル/セッションパラメータ DC (小数点文字) または IA (INPUT 割り当て文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 ■ CF パラメータ (メインフレーム端末コマンドの制御文字) または HI パラメータ (ヘルプ文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。 <p>プログラム終了のピリオドを INPUT 区切り文字と誤って解釈することがあるため、ピリオド (.) を INPUT 区切り文字として使用しないでください。アスタリスク (*) も使用しないでください。</p>	
	空白	INPUT 区切り文字は定義されません。	
デフォルト設定	, (コンマ)	ダイナミックパラメータ機能を使用する場合、コンマ文字 (,) は個々のパラメータを区切るため、INPUT 区切り文字をコンマにするには、ID=', ' と指定する必要があります。	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド:	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

125

IKEY - PA キーおよび PF キーの処理

この Natural プロファイルパラメータでは、SET KEY ステートメントで Natural プログラムに定義されていないビデオ端末のプログラムアテンションキー（PA キー）やプログラムファンクションキー（PF キー）をデータ入力に使用したときの処理を指定します。

可能な設定	ON	ENTR は Natural システム変数 *PF-KEY に設定されます。つまり、Natural は Enter キーが押された場合と同じように動作します。
	OFF	有効なキーを押すように促す REINPUT メッセージが出力されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

126 IM - 入力モード

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ビデオ端末入力のデフォルトモードを決定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ IM の設定をセッションパラメータ IM で上書きできます。

可能な設定	F	フォームモード。	
	D	デリミタモード。	
デフォルト設定	F		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	




注意:

1. IMパラメータ設定は、Natural 端末コマンド %D および %F でも変更できます。
2. デリミタモードとフォームモードの詳細については、INPUTステートメントを参照してください。

Natural Security環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

127 MSG - セッション初期化エラーメッセージ

このNaturalプロファイルパラメータは、初期化エラーメッセージ画面を抑制するために使用します。プリンタセッション用などの予期しない出力を防止するために役立ちます。

 **注意:** エラー診断が困難になる場合があるため、このパラメータは慎重に使用してください。

可能な設定	ON	エラーが発生した場合、初期化エラーメッセージ画面が表示されます。
	OFF	初期化エラーメッセージ画面は表示されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

128

INTENS - 高輝度フィールドの出力

このNaturalプロファイルパラメータでは、高輝度フィールドまたは下線文字を出力デバイスに出力するときの刷り重ね回数を指定します。

可能な設定	1 - 10	高輝度フィールドまたは下線文字を刷り重ねる回数。 下線文字は、パラメータに1より大きい値を設定した場合にのみ出力されます。INTENS=1を指定した場合、下線付きフィールドは下線なしで出力されます。
デフォルト設定	3	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

129

IP - INPUT プロンプトテキスト

このセッションパラメータは、INPUT ステートメントのプロンプトテキストを制御するために使用します。

可能な設定	ON	INPUT ステートメントの中で入／出力の前にテキストを指定していなくても、プロンプトテキストとしてフィールド名がデフォルトで表示されます。	
	OFF	INPUT ステートメントの入／出力フィールドに対して自動プロンプトテキストは表示されません。フィールドの前にテキストを明示した場合にのみ、プロンプトテキストが表示されます。	
デフォルト設定	ON		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	FORMAT INPUT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT IP=OFF
```


130 IS - 重複抑制

このセッションパラメータでは、WRITEまたはDISPLAYステートメントで生成される連続行で、同一情報の出力を抑制できます。

SUSPEND IDENTICAL SUPPRESS ステートメントを発行することにより、1件のレコードに対してISパラメータの設定を無効にすることができます。

ISパラメータをESやZPパラメータと組み合わせて、空行を省略できます。

可能な設定	ON	フィールドの前の値と同一の値は表示されません。 DISPLAY または WRITE ステートメントで、VERT やスラッシュ (/) 指定を使用して複数行を出力する場合は、IS=ON は最初の行にのみ適用されます。	
	OFF	自動的な省略は行われません。	
デフォルト設定	OFF		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT IS=ON
```


『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

131 ISIZE - 初期化バッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural 初期化バッファのサイズを指定します。

このバッファは、Natural を初期化するパラメータのほか、初期化中に Natural で使用されるワークエリアとテーブルを保持するために使用されます。

可能な設定	8~32	KB 単位のバッファサイズ。
デフォルト設定	12	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

 **注意:** `SYS` または `PROFILE` プロファイルパラメータで有効になるパラメータ文字列、あるいは代替パラメータモジュール (`PARM` プロファイルパラメータで指定) でプロファイルパラメータ `ISIZE` を指定した場合、その値は無視されます。

132

ITERM-初期化エラーが発生した場合のセッション終了

ン終了

この Natural プロファイルパラメータでは、セッション初期化エラーが発生した場合に Natural セッションを続行するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	セッション初期化エラーが発生した場合、初期化エラーメッセージの直後にセッションを終了します。
	OFF	セッション初期化エラーが発生した場合、次のようになります。 オンラインモード：初期化エラーが表示され、セッションを続行するか終了するかを選択できます。 バッチモード：初期化エラーの通知なしでセッションが続行されます。セッションで後でエラーまたは予期しない結果が発生する可能性があります。 Natural セッションの開始時に Natural コマンドスタックに INPL コマンドが配置されている場合（つまり、STACK=INPL を指定した場合）、ITERM=OFF を設定することはできません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

133 ITRACE - 内部トレース機能

このNaturalプロファイルパラメータは、内部トレース機能を有効または無効にするために使用します。

 **重要:** このパラメータは、必ず事前に Software AG サポートに相談したうえで使用してください。

内部トレース機能は、デバッグ用として Software AG の内部でを使用することを主に目的としています。

可能な設定	ON	トレースデータは SYSRDC ユーティリティに渡されます。
	OFF	トレースデータは SYSRDC ユーティリティに渡されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	Natural セッション内で、端末コマンド %TRI を使用して、内部トレース機能を有効または無効にすることができます。

134 KD - キー定義

このセッションパラメータは、PFキー（SET KEY ステートメントを参照）に割り当てられた名前を表示するために使用します。

この情報は、INPUT、WRITE、DISPLAY、およびPRINTステートメントで生成された出力を示す物理画面の下部2行に自動的に表示されます。

この情報の表示には2行必要であるため、論理ページサイズ（セッションパラメータPSを参照）を2行減らす必要があります。

可能な設定	ON	PF キーに割り当てられた名前が表示されます。	
	OFF	PF キーに割り当てられた名前は表示されません。	
デフォルト設定	OFF		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT KD=ON
```


135 KEY - PA、PF、および CLEAR キーへの設定の割り当て

このNatural プロファイルパラメータは、ビデオ端末上の CLEAR キー、プログラムアテンションキー（PA キー）、およびプログラムファンクションキー（PF キー）に設定を割り当てるために使用します。

可能な設定	任意の文字列	設定は、キー PA1~PA3、PF1~PF24、および CLEAR キーに割り当てることができます。 各キーに割り当てる設定は任意の文字列にすることができます。文字列は、Natural システムコマンドまたはユーザーコマンド（ユーザープログラム）を表す必要があります。設定に埋め込み空白が含まれている場合、アポストロフィで囲む必要があります。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR4005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

プロファイルパラメータ KEY による割り当ては、Natural NEXT プロンプトから指定する場合のみ有効です。

プロファイルパラメータ KEY で指定する文字列全体をカッコで囲む必要があります（KEY=OFF を除く）。KEY=OFF は、すべてのキーの割り当てを解除します。


例：

```
KEY=(PF4=OFF,PF1=HELP,PF3='EDIT MAP',PF2=USERPGM1,CLR=LOGOFF)
KEY=OFF
KEY PF4=OFF
KEY PF3="EDIT MAP"
KEY CLR=LOGOFF
KEY OFF
```



136

LC - 小文字から大文字への変換

この Natural プロファイルパラメータでは、入力文字の小文字から大文字への変換を制御します。

 **注意:** このパラメータは、STACK ステートメントで Natural スタックに配置された Natural スタックデータには適用されません。

可能な設定	ON	小文字から大文字への変換は行われません。
	OFF	Natural で、すべての小文字 (STACK ステートメントで配置された Natural スタックからの入力を除く) が大文字に変換されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	アクティブな Natural セッション内で小文字から大文字への変換をダイナミックに無効または有効にするには、端末コマンド %L または %U を使用してください。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

 **注意:**

1. 小文字／大文字変換は、Natural に制御が渡される前に TP モニタで実行することもできます。変換が正確に実行されるよう、小文字／大文字変換の対応する TP モニタパラメータを確認する必要もあります。
2. ユーザー指定の変換テーブルを使用して、小文字から大文字への変換を実行できます。NTUTAB1 マクロ (UTAB1 プロファイルパラメータの説明に記載) を参照してください。

137 LC - 先頭文字

このセッションパラメータを使用すると、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の直前に表示される先頭文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

セッションパラメータ LC および IC は相互排他的です。

パラメータ LC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、「*Natural* プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 先頭文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列で空白を表現するには、シルコンフレクス (^) を使用します。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY {LC=*}
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

138

LE - 処理ループの制限を超過したときの処理

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、取得レコードの制限が READ、FIND、または HISTOGRAM 処理ループで超過したときに実行する処理を制御します。制限は、LIMIT ステートメントを使用して Natural オブジェクトにグローバルに指定するか、データベース処理ループに適用される明示的な制限値を指定することもできます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ LE をセッションパラメータ LE で上書きできます。

可能な設定	ON	データベースループは限界に達すると終了します。プログラムフローは通常、終了したデータベースループに続くステートメントで続行します。 Natural オブジェクトの実行が完了すると、エラー NAT0957（「データベースループが "LE=ON" で指定された制限に達しました。」）が発生します。 LE=ON は、システムファイル FUSER にあるライブラリ（つまり、ライブラリ SYSTEM、または接頭辞 SYS で始まっていない名前のライブラリ）からロードされるプログラムにのみ適用されます。	
	OFF	データベースループは限界に達すると終了します。プログラムフローは通常、終了したデータベースループに続くステートメントで続行します。 Natural オブジェクトの実行が完了しても、エラーメッセージは表示されません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

LE パラメータは、指定した制限付きの READ、FIND、および HISTOGRAM ステートメントに適用されます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 EMPL-VIEW VIEW OF EMPLOYEES
  2 NAME
END-DEFINE
READ (10) EMPL-VIEW BY NAME
  WRITE NAME
END-READ
END
```

LE=OFF：10 レコードの後、ループはメッセージなしで終了します。

LE=ON：10 レコードの後、ループはエラーメッセージ NAT0957（「データベースループが "LE=ON" で指定された制限に達しました。」）で終了します。

139

LFILF - 論理システムファイルの定義

▪ LFILF パラメータの構文	347
▪ NTLFILF マクロの構文	347
▪ 古い NTLFILF マクロの構文	347
▪ LFILF パラメータの例	347
▪ NTLFILF マクロの例	348

このNatural プロファイルパラメータでは、Software AG 製品の論理システムファイルに関連付ける物理データベースファイルに関する情報を指定します。

独自のシステムファイルを持つ Software AG 製品（例えば、Con-nect や Natural Elite）で、これらのシステムファイルの配置場所を指定するために使用できます。これらの製品では、それぞれのデータ定義モジュール（DDM）でデータベースID 255 および論理ファイル番号（FNR）を使用しています。LFIL パラメータまたはマクロ NTLFILE で、その論理ファイル番号に関連付ける物理データベースID（DBID）とファイル番号（および適用可能な場合はパスワードとサイファキー）を指定します。

Natural では物理ファイル情報を記録し、データベース ID=255 およびファイル番号=logical-ID. へのデータベースコールにその情報を使用します。

可能な設定	logical-FNR	1 - 251	論理ファイル番号 (LFL) このパラメータは必須です。
	physical-DBID	0~65535、255 は除く	物理データベース ID (DBID)。データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。
	physical-FNR	1 - 65535	物理ファイル番号 (FNR)。
	password		1~8 文字に設定する必要があります。*
	cipher-key		8 桁の数値に設定する必要があります。*
	options	R0	読み取り専用アクセス用。
デフォルト設定	なし		
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTLFILE を使用する必要があります。引き続き使用可能ではあるが、今後使用してはならない論理システムファイル定義用の古いマクロ NTFIL の代わりとなります。	
セッション内の指定	不可		
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0011N USR2004N*	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。	

* データベースファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護/暗号化されている場合、パスワードとサイファキーのみ必要となります。



注意: LFIL は、論理ファイル番号 212 のスクラッチパッドファイルを定義するためにも使用できます。プロファイルパラメータ ROSY も参照してください。また、『オペレーション』ドキュメントの「Natural スクラッチパッドファイル」を参照してください。

異なる論理ファイルを定義するには、LFILEパラメータまたはマクロNTLFILEを複数回指定する必要があります。

以下では次のトピックについて説明します。

LFILE パラメータの構文

LFILE パラメータは次のように指定します。

```
LFILE=(論理 FNR,物理 DBID,物理 FNR,パスワード,サイファキー,RO)
```

NTLFILE マクロの構文

キーワードサブパラメータを含む旧 NTFILE マクロとは異なり、NTLFILE マクロには位置指定サブパラメータ（LFILEパラメータと同様）が含まれます。このマクロは次のように指定します。

```
NTLFILE 論理 FNR,物理 DBID,物理 FNR,パスワード,サイファキー,RO
```

古い NTFILE マクロの構文

互換性の理由で、古いマクロ NTFILE も引き続きサポートされています。このマクロは次のように指定します。

```
NTFILE ID=論理 FNR,DBID=物理 DBID,FNR=物理 FNR,PASSW=パスワード,CIPH=サイファキー,OPT=RO
```

LFILE パラメータの例

```
LFILE=(180,73,10),LFILE=(251,40,9,TEST99)
```

NTLFILE マクロの例

Natural パラメータモジュールで同じ値を指定した場合：

```
NTLFILE 180,73,10  
NTLFILE 251,40,9,TEST99
```

140 LIBNAM - 外部プログラムロードライブラリの名前

この Natural プロファイルパラメータは、BS2000/OSD、z/OS バッチモード、および TSO でのみ適用されます。


Natural を BS2000/OSD、z/OS バッチモード、または TSO で使用している場合にプログラムをダイナミックにロードするロードライブラリの名前を指定します。

可能な設定	文字列	有効な BS2000/OSD ファイル名、またはロードライブラリの 8 バイト DDNAME
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

z/OS では、LIBNAM 設定と等価の DDNAME を含む JCL ステートメントも指定する必要があります。デフォルトでは、プログラムはジョブ STEPLIB からロードされます。

141 LOG（内部使用）

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

142

LOGONRQ - RPC サーバー要求にログオンが必要

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、RPCサーバー要求に対してログオンデータが必要かどうかを決定します。

LOGONRQ はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	ON	ログオンは必要です。つまり、サーバーは、RPCサーバー要求にログオンデータを含むクライアントからの要求だけを受け入れます。会話型要求の場合、会話が開かれるときのみ、ログオンデータが必要です。
	OFF	ログオンデータは不要です。それにもかかわらず、ログオンデータは処理されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural クライアントについては、ログオンデータは次のように要求できます。

- **SYSRPC** サービスディレクトリメンテナンスの LOGON オプションを設定します。
- プロファイルパラメータ **DFS** のログオンインジケータを使用します。

Natural RPC サーバーを **Natural Security** で実行している場合、LOGONRQ=ON を設定することをお勧めします。詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「*Natural Security* での *Natural RPC* の使用」を参照してください。

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

143 LS - 行サイズ

■ プロファイルパラメータ LS	356
■ セッションパラメータ LS	356
■ ステートメントでの指定	357

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY、INPUT、および WRITE ステートメントの行ごとに許可する文字の最大数を指定します。

以下では次のトピックについて説明します。


プロファイルパラメータ LS

プロファイルパラメータとして使用する場合、LS はバッチモードでのみ有効で、物理行サイズを定義します。オンラインモードでは、行サイズは常に物理画面の幅に設定されます。

可能な設定	35 - 250	1 行に許可された文字の最大数。
	0	物理行サイズ（たいていは 132）を使用します。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	

セッションパラメータ LS

可能な設定	2 - 250	1 行に許可された文字の最大数。
デフォルト設定	0	物理行サイズ。
適用可能なコマンド：	GLOBALS	
適用可能なステートメント：	FORMAT SET GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

 **注意:** ライブラリへのログオン時、LS は物理行サイズにリセットされます。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

ステートメントでの指定

ステートメントで指定する場合、LS パラメータはコンパイル時に評価されます。

適用可能なステートメント：	DISPLAY INPUT WRITE	パラメータはステートメントレベルで指定できます。
---------------	---------------------------	--------------------------

144

LT - 処理ループの制限

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural アプリケーション内で取得可能なデータベースレコードの数を制限するために使用します。この制限は、データベースからレコードを取得するすべてのステートメント、つまり次のステートメントに適用されます。

- 処理ループを開始するステートメント (READ、FIND、HISTOGRAM、SELECT など)
- 単一レコードのみを取得するステートメント (FIND UNIQUE、FIND NUMBER、FIND FIRST、GET (SAME)、SELECT SINGLE など)

取得レコードはすべてカウントされ、カウント結果が LT 制限と比較されます。カウントには、FIND、READ、または HISTOGRAM ステートメントの WHERE 節で拒否されたレコードも含まれます。LT 制限は、ステートメント STORE、UPDATE、DELETE、END TRANSACTION、および BACKOUT TRANSACTION には影響しません。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ LT をセッションパラメータ LT で上書きできます。

レコードがデータベースから取得されると、取得レコードのカウントが増加し、その後で LT パラメータの現在の値と比較されます。増加したカウントが現在の LT 値を超過した場合、Natural エラー NAT1003 ("データベースコールに対するグローバルリミットに達しました") が発生します。Natural プログラムがレベル 1 で起動されるたびに取得レコードのカウントがゼロにリセットされます。レベル 1 のプログラムが別の Natural オブジェクトを呼び出した場合は、カウントはリセットされません (『プログラミングガイド』の「呼び出されるオブジェクトの複数レベル」を参照)。したがって、LT パラメータでは、レベル 1 のプログラムによってデータベースから取得されたレコードの数と、そのプログラムによって 1 以外のレベルで呼び出されたオブジェクトの数を制限します。

LT - 処理ループの制限

LT パラメータの値が SET GLOBALS LT= n ステートメントを使用してプログラム内で動的に変更された場合、データベースからレコードを取得する次のステートメントで新しい制限値が有効になります。

可能な設定	0 - 2147483647 セッション内：0～ n (セッション開始時は n = プロファイルパラ メータ LT の値)	取得可能なレコードの最大数。すべての取得レコード (WHERE 節で拒否されたレコードを含む) がカウントされ、この制限値と比較されます。 LT=0 を指定した場合、取得レコードの数に制限は適用されません。
デフォルト設定	99999999	
動的な指定	可	
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント： SET GLOBALS (注参照)
		適用可能なコマンド： GLOBALS (注参照)
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意: LT パラメータをステートメント SET GLOBALS またはシステムコマンド GLOBALS と組み合わせて使用する場合、設定する制限値は Natural パラメータモジュール NATPARM で定義された LT 値を超えないようにする必要があります。

145

MADIO - 画面 I/O 処理間の最大 DBMS コール

この Natural プロファイルパラメータは、2つの画面 I/O 処理間（またバッチモード）で許可される DBMS コールの最大数を指定するために使用します。

可能な設定	30 - 32767	DBMS コールの最大数。
	0	MADIO=0 は、制限が適用されないことを示します。
デフォルト設定	512	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR1068N *	

指定した制限を超過した場合、Natural プログラムは中断し、ユーザーは Natural エラーメッセージ 1009 を受け取ります。

146 MAINPR - デフォルトの出力レポート番号の上書き

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システム出力とプログラム出力を区別するために使用します。特に、バッチモードで役立ちます。

可能な設定	0 - 31	有効なプリンタ番号。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR6002N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

DISPLAY、PRINT、WRITE、または INPUT ステートメント（非保護入力フィールド（フィールド属性指定 AD=A）または変更可能な入力フィールド（AD=M）を含む INPUT ステートメントを除く）で生成されるレポート 0 のプログラム出力に適用されます。

MAINPR パラメータを指定した場合、レポート 0 のプログラム出力（通常は、レポート 0 に割り当てられたプリンタで出力される）が、代わりに MAINPR で指定したプリンタで出力されます。一方、システム出力（NEXT プロンプト、DATA プロンプトなど）は常にプライマリ出力デバイス（レポート 0）で出力されます。MAINPR 設定は、有効なプリンタ番号（0~31）にする必要があります。

指定したレポート番号に対応する論理プリンタは、Natural に定義する必要があります。プリンタは、プロファイルパラメータ PRINT またはマクロ NTPRINT で定義するか、JCL（バッチモードまたは TSO）で自動的に定義されます。

MAINPR パラメータは、Natural システムライブラリ SYSLIB 内のシステムプログラムからの出力には適用されません。これらの出力は、常にプライマリ出力デバイス（レポート 0）で出力されます。

147

MAXBUFF - 最大バッファサイズ

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

MAXBUFF は、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

サーバーサイドでは、データを含むクライアント要求を受け取って、結果を送り返すために、サーバーが提供するバッファのサイズを決定します。バッファは、すべてのクライアント要求に対して次の2つのデータエリアの最大を保持できるほど十分大きくする必要があります。

- クライアントが受け取る要求
- クライアントに送り返す結果

要求に対してバッファのサイズが小さすぎる場合、必要なサイズの一時バッファが割り当てられて、この要求に対して使用されます。

クライアントサイドでは、NaturalRPC コールの自動実行に提供されるバッファのサイズを決定します。このバッファは、データを含むクライアント要求を構築し、サーバーから結果を受け取るために使用されます。バッファは、クライアントによって送られるすべての要求に対して次の2つのデータエリアの最大を保持できるほど十分大きくする必要があります。

- サーバーへ送る要求
- サーバーから受け取る結果

要求に対してバッファのサイズが小さすぎる場合、必要なサイズの一時バッファが割り当てられて、この要求に対して使用されます。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントの「スタブおよびRPC 自動実行」を参照してください。

クライアントおよびサーバー間で交換されるデータのサイズは、SYSRPC ユーティリティのスタブ生成機能によって提供されます。RPC の自動実行のためのサイズを計算するには、SYSRPC CSMASS コマンドを使用できます（『SYSRPC ユーティリティ』ドキュメントの「サイズ要件の計算」を参照）。

可能な設定	1~2097147（ただし、RPCSIZE-4 以下）	最大バッファサイズ (KB 単位)。最大バッファサイズは、プロファイルパラメータ RPCSIZE で指定した値 (-4) 以下にする必要があります（サーバーサイドについては、 下記 を参照）。
	0	バッファは割り当てられません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

サーバーサイドでのパラメータ数への依存

サーバーサイドでは、RPCSIZE と MAXBUFF の違いは、PDA でのパラメータの最大数 n に依存し、次のように計算できます。

- グループ構造が存在する場合：

$$\text{MAXBUFF} = \text{RPCSIZE} - (3 + n/10)$$

- グループ構造が存在しない場合：

$$\text{MAXBUFF} = \text{RPCSIZE} - (3 + n/20)$$

例：

$n=100$ および $\text{RPCSIZE}=128$ の場合、 $\text{MAXBUFF}=120$ です。

ACIVERS 設定への依存

EntireX Broker ノードの場合、Entire Net-Work をトランスポート層として使用しているなら、特別な考慮事項が適用されます。Entire Net-Work では、EntireX Broker スタブに渡される受信バッファ長は起動パラメータ IUBL によって制限され、32 KB を超過しないようにする必要があります。Natural プロファイルパラメータ ACIVERS の設定に応じて、受信バッファ長は次のように設定されます。

- ACIVERS=1：32000

- ACIVERS=2：30K

- ACIVERS>2：MAXBUFF で指定された値

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

148

MAXCL - プログラムコールの最大数

この Natural プロファイルパラメータは、2つの画面 I/O 処理間で許可されるプログラムコールの最大数を指定するために使用します。

指定した制限を超過した場合、Natural プログラムは中断し、ユーザーは該当する Natural エラーメッセージ (NAT1029) を受け取ります。

可能な設定	10 - 32767	プログラムコールの最大数。
	0	MAXCL=0 は、制限が適用されないことを示します。
デフォルト設定	50	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR1068N *	

149 MAXROLL - ロールアウト前の CMROLL コールの数

この Natural プロファイルパラメータは、Com-plete および CICS でのみ適用されます。

CMROLL コールの後に Natural スレッドのロールアウトが実行されるコールの数を指定します。

可能な設定	1 - 32767	CMROLL コールの数。
	0	MAXROLL=0 は、条件付き CMROLL 要求が発行されないことを示します。
デフォルト設定	128	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

MAXROLL パラメータは、条件付き CMROLL 要求の頻度を制御するために使用します。例えば、MAXROLL=128 は、128 番目のステートメントの後のコンパイル時に毎回、条件付き CMROLL 要求が発行されることを意味します。

特定の状況では、Natural ニュークリアスによって条件付き CMROLL 要求（待ち時間=0）が発行されます（特に、各ステートメントの後のコンパイル時）。これにより、（Com-plete で）CPU 時間ウィンドウがリセットされ、CPU 時間制限の超過による自動キャンセルが防止されます。ただし、この場合、パフォーマンスが低下します。


150

MAXYEAR - 日付／時刻値の最大年

このNaturalプロファイルパラメータでは、定数または端末入力として入力可能な日付／時刻値の年部分の最大値を設定します。

可能な設定	2699	入力可能な最大年は 2699 です。つまり、入力可能な日付の最大値は 2699-12-31 です。
	9999	入力可能な最大年は 9999 です。つまり、入力可能な日付の最大値は 9999-12-31 です。
デフォルト設定	2699	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

MAXYEAR=9999 では、入力可能な日付の最大値を 2699-12-31 から 9999-12-31 に変更します。

 **注意:** MAXYEAR の値を 9999 に設定する前に、アプリケーションの算術演算、または日付／時刻以外のデータフォーマットを持つフィールドへの日付／時刻値の割り当てを十分にチェックし、必要な変更を加える必要があります。そうしないと、実行時に Natural エラーにつながる予期しないオーバーフローが発生する可能性があります。例えば、次の点をチェックする必要があります。

- P6/P12 フィールドでの日付／時刻フィールドの再定義
- 日付／時刻フィールド以外への日付／時刻値の割り当て (P6 := D など)
- 結果が日付／時刻フィールド以外に割り当てられる日付／時刻値での算術演算 (P6 := D + 7 など)

- 後で日付／時刻フィールド以外での算術演算に使用される日付／時刻フィールドの入力（次の例を参照）

```
INPUT D(D)
P6 := D + 1
```


アプリケーションのチェックには、Natural Engineer を使用することをお勧めします。

MAXYEAR の設定は、次に点に影響します。

- コンパイラによる日付／時刻定数のチェック（例えば、P6 := D'2699-12-31'）
- 日付／時刻入力フィールドまたは変更可能な日付／時刻フィールドを含む INPUT ステートメント
- ソース日付／時刻フィールドまたはターゲット日付／時刻フィールドを含む MOVE EDITED ステートメント
- 論理条件の IS (D) オプション
- 論理条件の MASK オプション（4桁の年チェック付き (YYYY)）
- 日付フィールドをターゲットオペランドとして使用する VAL システム関数

MAXYEAR 設定は、次の点で同一に必要があります。


- Natural アプリケーションのカatalogと実行
- Natural RPC サーバーと Natural RPC クライアント

 **注意:** Natural Optimizer Compiler で OVFLW=ON オプション（詳細については、「*Optimizer Options*」を参照）を使用してカatalogされた Natural アプリケーションは、MAXYEAR プロファイルパラメータの設定が正しく適用されるように、Natural Optimizer Compiler バージョン 4.2.2 以降で再カatalogし、Natural バージョン 4.2.2 以降で実行する必要があります。日付／時刻フィールドを使用するアプリケーションを Natural Optimizer バージョン 4.2.2 以降で再カatalog化し、その後で Natural バージョン 4.2.1 で実行した場合、ランタイムに ABEND が発生します。

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フォーマット D（日付）および T（時刻）」
- 『プログラミングガイド』の「日付／時刻の定数」
- 『パラメータリファレンス』ドキュメントのセッションパラメータ [EM](#)
- 『パラメータリファレンス』ドキュメントのプロファイルパラメータ [YD](#)

151 MC - マルチプルバリュースフィールドカウント

 **注意:** このパラメータはレポートモードでのみ使用できます。

このセッションパラメータでは、DISPLAYまたはWRITEステートメントでインデックスを付けずにマルチプルバリュースフィールドを指定したときに、デフォルトで出力する値の個数を決定します。

可能な設定	0 - 191	値の数。MC=0 を指定した場合、MU フィールドの出力のデフォルトのインデックス範囲はありません。したがって、MUフィールドを出力するときは、明示的なインデックスまたはインデックス範囲を指定する必要があります。そうしないと、構文エラー（NAT0281）が発生します。	
デフォルト設定	1		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT MC=5
```


152 MENU・メニューモード

この Natural プロファイルパラメータは、Natural メニューモードを有効または無効にするために使用します。

可能な設定	ON	メニューモードは有効になります。
	OFF	メニューモードは無効になります。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	Natural セッション内で、MENU パラメータを Natural システムコマンド MAINMENU (『システムコマンド』ドキュメントを参照) で上書きできます。

153 ML - メッセージ行の位置

このプロファイルパラメータでは、SET CONTROL 'M' ステートメントでメッセージ行の位置を明示的に設定していないアプリケーションに対してメッセージを表示する行を指定します。オペランド 'M' の詳細については、Natural 端末コマンド %M (メッセージ行の制御) も参照してください。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ML をセッションパラメータ ML で上書きできます。

可能な設定	B	Natural メッセージは画面の最下行に表示されます。	
	T	Natural メッセージは画面の最上行に表示されます。	
デフォルト設定	T		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET CONTROL 'M'
		適用可能なコマンド：	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

154 MONSIZE - SYSTP モニタバッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、SYSTP ユーティリティ（『ユーティリティ』ドキュメントを参照）のモニタ機能で使用するバッファのサイズを指定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` を使用することもできます。バッファサイズの指定方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照してください。

可能な設定	5~256	KB 単位のバッファサイズ。
	0	MONSIZE=0 を指定した場合、または要求されたスペースを利用できない場合、SYSTP ユーティリティのモニタ機能は使用できません。ただし、プロファイルパラメータ <code>BPI</code> またはパラメータマクロ <code>NTBPI</code> によって定義されたモニタバッファプールが存在する場合は例外です。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

155 MP - レポートの最大ページ数

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、レポート用に生成する最大ページ数を指定します。

Naturalセッション内で、FORMATステートメントを使用して、プロファイルパラメータMPの設定を減らすことができます。ただし、増やすことはできません。セッションパラメータMPで指定した値は、指定したレポートにのみ適用されます。

可能な設定	1 - 99999	指定する値は物理ページ数を表します。使用される開始ページ番号には影響しません。MP値を超過した場合、プログラムはエラーメッセージで終了します。	
	0	ページ制限は定義されません。	
デフォルト設定	0		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	不可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	

156 MS - 手動による省略

このセッションパラメータでは、INPUT ステートメント処理中のカーソルの位置を制御します。

可能な設定	ON	下記の例を参照してください。 注意: 設定 MS=ON は、BS2000/OSD ではサポートされていません。	
	OFF	現在入力中のフィールドの全桁に値が入るとすぐに次の入力フィールドにカーソルが移動します。	
デフォルト設定	OFF		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	FORMAT INPUT
		適用可能なコマンド:	なし

例:

```
INPUT (MS=ON) #A #B
```


157 MSGSF - システムエラーメッセージの短い形式

／完全な形式での表示

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システムエラーメッセージの切り捨てを防止するために使用します。

可能な設定	ON	システムエラーメッセージが完全な形式で表示されます。つまり、プログラム名、行番号、および実際のメッセージテキストが表示されます。
	OFF	システムエラーメッセージが短い形式で表示されます。つまり、実際のメッセージテキストのみが表示されます（プログラム名と行番号は表示されません）。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	Natural セッション内で、プロファイルパラメータ MSGSF を Natural 端末コマンド %MSGSF で上書きできます。

デフォルトでは、Natural システムエラーメッセージの構成は次のとおりです。

- プログラムの名前
- エラーが発生した行の番号
- メッセージの実際のテキスト

メッセージが表示されるウィンドウのサイズに応じて、テキストは切り捨てられます。このパラメータでは、このような切り捨てを防止できます。

158 MT - 最大 CPU 時間

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural 開発サーバー (SPoD) または Natural for TSO においてバッチモードで実行されるプログラムにのみ適用されます。

Natural プログラムで使用可能な最大 CPU 時間を決定します。

CPU 時間の測定は、Natural プログラムが NEXT モードから起動したとき、または FETCH ステートメント (つまり、プログラムレベル1) を使用して起動したときに開始されます。バッチモード以外 (Natural 開発サーバー、Natural for TSO) では、CPU 時間測定は端末 I/O ごとに再開されます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ MT をセッションパラメータ MT で上書きできます。

可能な設定	1 - 9999999	最大 CPU 時間 (秒)。 Natural Security がインストールされている場合、プロファイルパラメータ MT は Natural Security 内で上書きできます。Natural Security では、プロファイルパラメータ MT の最大値は 32767 です。MT プロファイルまたはセッションパラメータでの指定で高い値を使用するには、Natural Security 内で MT=0 を指定します。	
	0	MT=0 を指定した場合、Natural CPU 時間制限は適用されません。	
デフォルト設定	60		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意:

1. 対話式モードで動作するプログラムの制限は、使用中の TP モニタで制御されます。
2. 使用可能な最大値は、オペレーティングシステム環境で決定されます。最大値を超過するすべての設定は、オペレーティングシステムでサポートされている最大値に減らされます。
3. CPU 時間測定をサポートしていないシステム環境では、制限は経過時間として解釈されます。タイマーサポートのないシステムでは、CPU 時間制限は無視されます。



重要: サーバー自体がオペレーティングシステム制御の CPU 時間制限なしで実行されるサーバー環境では、プロファイルパラメータ MT をゼロ以外の値に設定して、アプリケーションエラーなどが原因で発生する無限ループの形成を防止することをお勧めします。この推奨事項は、Natural RPC および Natural 開発 (NDV) サーバーに適用されます。

159 NAFSIZE - Natural Advanced Facilities 用のバッファ のサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Advanced Facilities がインストールされている場合にのみ適用されます。

Natural Advanced Facilities で使用されるワークバッファのサイズを指定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS`（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して `NAFSIZE` を指定することもできます。

可能な設定	1 - 64	KB 単位のバッファサイズ。
	0	<code>NAFSIZE=0</code> を指定した場合、Natural Advanced Facilities は無効になります。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural Advanced Facilities を使用する場合、このパラメータの指定が必要です。『Natural Advanced Facilities』ドキュメントの「NATSPool 初期化」を参照してください。

要求したスペースを利用できない場合、Natural Advanced Facilities は使用できません。

160 NAFUPF - Natural Advanced Facilities ユーザープロ ファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Advanced Facilities がインストールされている場合にのみ適用されます。

Natural Advanced Facilities のユーザープロファイル名を指定するために使用します。

可能な設定	1~8 文字	ユーザープロファイルの名前。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

『*Natural Advanced Facilities*』ドキュメントの「NATSPool 初期化」を参照してください。

161

NC - Natural システムコマンドの使用

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Natural セッション中に Natural システムコマンドを使用できるようにするかどうかを制御します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ NC をセッションパラメータ NC で上書きできます。


可能な設定	ON	システムコマンドは使用できません。ただし、FIN、LAST、LOGOFF、LOGON、MAINMENU、RENUMBER、RETURN、SETUP、および TECH を除きます。 Natural Security がインストールされている場合、NC プロファイルパラメータの設定にかかわらず、Natural Security で設定したシステムコマンド制限が有効になります。 メインフレームコンピュータの Natural 開発サーバー環境では、NC=ON が指定されている場合でも、Natural 開発サーバーに対しては値 OFF としてみなされます。 クライアントサイドで NC=ON が指定されている場合、クライアントサイドで発行される後続のシステムコマンドは上記のように拒否されます。	
	OFF	すべてのシステムコマンドを使用できます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意: Natural 端末コマンドおよびユーザー作成コマンド（オブジェクトモジュール名）は、NC パラメータの影響を受けません。

162 NISN (内部使用)

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

163 NL - 数値出力長

このセッションパラメータでは、DISPLAY、INPUT、PRINT、またはWRITE ステートメントで使用する数値フィールドのデフォルトの入力／出力長を決定します。

NL パラメータはグループに対して指定しないでください。

フィールドに編集マスクと NL パラメータの両方が指定されている場合は、編集マスクが優先されます。

可能な設定	<i>nn.m</i>	<p>長さは <i>nn.m</i> の形式で指定します。 <i>nn</i> は小数点前の桁数を表し、 <i>m</i> は小数点後の桁数を表します。</p> <p><i>m</i> の指定は任意です。 <i>m</i> の値は 7 を超えないようにする必要があります。 <i>n+m</i> の合計は 29 を超えないようにする必要があります。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> NL がフィールド長より短いと、値は桁落ちします。桁落ちしてもエラーにはなりません。 NL がフィールド長より長いと、値は空白で埋められます。入力フィールドが桁落ちしてもエラーにはなりません。 	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
DISPLAY #AA(NL=20) #AB(NL=3.2)
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

164

NTASKS - 開始するサーバータスクの数

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

`NTASKS=(min[,max])` では、サーバの初期化中に開始するサーバータスクの最小数 *min* と、いつでもアクティブにできるサーバータスクの最大数 *max* を指定します。 *min* のみを指定する場合、カッコは省略できます。

サーバで多数のクライアント要求を処理する必要がある場合、このサブパラメータを使用して、同じサーバータスクの複数のレプリカ（名前は同一）を開始することでスループットを向上させることができます。

`NTASKS` は、z/OS または VSE においてバッチモードで開始されるサーバ、および `RPC` サーバフロントエンドで開始されるサーバにのみ適用されます。

サーバータスクの最大数 *max* は、`RPC` サーバフロントエンドで開始されるサーバにのみ適用されます。

設定可能値：	<i>min</i>	サーバの初期化中に開始するサーバータスクの最小数：1～99
	<i>max</i>	いつでもアクティブにできるサーバータスクの最大数： 0 - <i>n</i> 0 = 無制限
デフォルト値：	1,0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントおよび特に「レプリカ付きメインフレーム *Natural* RPC サーバの考慮事項」を参照してください。

165

NUCNAME - 共有ニュークリアスの名前

このNaturalプロファイルパラメータでは、ダイナミックにロードされ、環境依存Naturalニュークリアスにリンクされない（環境非依存）Natural 共有ニュークリアスの名前を指定します。

 **注意:** プロファイルパラメータ NUCNAME は BS2000/OSD では適用されません。

『オペレーション』ドキュメントの「z/OS およびz/VSE でのNatural 共有ニュークリアス」も参照してください。

可能な設定	1~8文字	有効なロードモジュール名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータをダイナミックに指定することで、異なるNatural 共有ニュークリアス（例えば、実稼働用とテスト用）を同一の環境依存Naturalニュークリアスと一緒に使用できます。この際、ニュークリアスを再リンクする必要はありません。
セッション内の指定	不可	

SYSまたはPROFILEプロファイルパラメータで有効になるパラメータ文字列、あるいは代替パラメータモジュール（PARMプロファイルパラメータで指定）でプロファイルパラメータ NUCNAME を指定した場合、その値は無視されます。

166

OBJIN - Natural 入力ファイルとしての CMOBJIN

の使用

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードにのみ適用されます。

CMOBJIN ファイル（『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの *Natural*」を参照）を、バッチモードでの INPUT ステートメントに提供される入力データに使用するかどうかを指定します。

可能な設定	Y	Natural INPUT ステートメント用のデータは CMOBJIN ファイルから読み込まれます。
	N	CMOBJIN ファイルは使用されず、INPUT ステートメント用のデータは CMSYNIN ファイルから読み込まれます。
	R	Natural では、Natural 実行 JCL/JCS での CMOBJIN DD/FILE ステートメントの有無によって、特定のセッションに選択されているオプションを判断します。
デフォルト設定	R	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	

167 OPF - ヘルプルーチンによる保護されたフィールドの上書き

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、書き込み保護されたフィールド（属性定義 AD=P）の内容を、フィールドに割り当てられたヘルプルーチンで上書きできるかどうかを指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ OPF をセッションパラメータ OPF で上書きできます。

可能な設定	ON	フィールドが書き込み保護されていても、フィールドに割り当てられたヘルプルーチンでフィールドの内容を上書きできます。	
	OFF	ヘルプルーチンでは書き込み保護されたフィールドの内容を上書きできません。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

注意:

1. OPF プロファイルパラメータは、ヘルプルーチンが呼び出されるフィールドにのみ適用されます。ヘルプルーチンに明示的に渡されるパラメータには影響しません。つまり、ヘルプが呼び出されるフィールドをヘルプルーチンに渡すパラメータとして明示的に指定しても、OPF プロファイルパラメータは効果がありません。
2. また、レポートモードでは、SET GLOBALS ステートメントを使用して OPF 設定を変更できます。

168

OPRB-データベースのオープン／クローズ処理

■ Natural Security でのダイナミック OPRB	409
■ OPRB for VSAM	409
■ OPRB for Adabas	409
■ NTOPRB マクロの構文	411
■ NTOPRB マクロの例	411

このNatural プロファイルパラメータは、Adabas および VSAM データベースにのみ適用されま
す。

Natural セッション中にデータベース Open/Close コマンドの使用を制御します。

NTOPRB マクロは、NTPRM マクロのプロファイルパラメータ OPRB の代わりとして使用できます。
OPRB パラメータ指定の最大長は 256 バイトです。これより長い指定が必要な場合は、OPRB パラ
メータの代わりに NTOPRB マクロを使用してください。

すべてのデータベースに適用する OPRB 指定を行う場合は、NTPRM マクロ (NTOPRB マクロではな
い) の OPRB パラメータを使用することをお勧めします。

可能な設 定	OPRB=(<i>string</i>)	この構文では、すべてのデータベ ースに対する Open 要求を指定しま す。
	OPRB=(DBID= <i>nn1</i> , <i>string</i> ,DBID= <i>nn2</i> , <i>string</i> , ...)	この構文では、個々の特定のデー タベースに対する Open 要求を指定し ます。マクロ NTDB に定義されてい るとおり、指定した DBID ではデー タベースのタイプを識別します。
	OPRB=(<i>string</i> ,DBID= <i>nn1</i> , <i>string</i> ,DBID= <i>nn2</i> , <i>string</i> , ...)	この構文では、個々の特定のデー タベースに対する Open 要求とデフ ォルトの Open 要求 (最初の <i>string</i>) を指定します。デフォルトの Open 要求は、個々の <i>string</i> を指定しな いすべてのデータベースに適用され ます。
	OPRB=(DBID= <i>nn1</i> ,NR=ON/OFF, <i>string</i> , ...)	この構文では、Adabas データベ ースに最初にアクセスしたときに、 Natural で制限付きまたは制限なし Open 要求を発行するかどうかを指 定します。これにより、排他更新 (EXU) の使用が必要な Adabas ファイルの制御が高まります。
デフォルト設定	なし	
ダイナ ミックな 指定	不可	
セッシ ョン内の指 定	不可	

一般に、OPRB パラメータでは上記の構文のいずれかを使用します (*strings* の内容はデータベ
ースシステムによって異なります)。

OPRB パラメータを使用する代わりに、Natural パラメータモジュール NATPARM のマクロ `NTOPRB` を使用することもできます。

以下では次のトピックについて説明します。

- [Natural Security でのダイナミック OPRB](#)
- [OPRB for VSAM](#)
- [OPRB for Adabas](#)
- [NTOPRB マクロの構文](#)
- [NTOPRB マクロの例](#)

Natural Security でのダイナミック OPRB

ダイナミックに指定した OPRB パラメータは、セキュリティプロファイルに OPRB パラメータが指定されていないライブラリへのすべてのログオンに適用されます。セキュリティプロファイルに OPRB パラメータが指定されているライブラリへのログオンに対しては、ダイナミックに指定した OPRB パラメータは無視され、セキュリティプロファイル内のパラメータが適用されません。

OPRB for VSAM

VSAM データベースに対して指定できる *strings* については、『*Natural for VSAM*』ドキュメントの「VSAM データベース用の OPRB パラメータ」を参照してください。

OPRB for Adabas

Adabas データベースについては、Natural セッションに対して次のいずれかの条件が当てはまる場合に OPRB パラメータが必要となります。

- アクセス/更新対象の Adabas ファイルの明示的なリストが提供される。例えば、Adabas クラスタの更新または排他ファイル制御が要求された場合、これが必要になります。
- 単一の論理トランザクションが2つ以上の Natural プログラムにまたがるため、特定の Natural プログラムの終了時に Natural で `END TRANSACTION` および `CLOSE` コマンドを発行する必要はありません。

パラメータ文字列の内容：

UPD=(<i>file-list</i>)	ファイルリストのファイルに対してアクセス/更新権限（読み取り/書き込み）を指定します。
ACC=(<i>file-list</i>)	ファイルリストのファイルに対してアクセス権限（読み取り）を指定します。
EXU=(<i>file-list</i>)	ファイルリストのファイルに対して排他的な更新権限（排他的読み取り/書き込み）を指定します。
ACODE	A フィールドのユーザーエンコードを強制するオプションを指定します。 注意: ACODE に必要なエンコードコードは、Natural セッションの現在の CP 設定から取得されます。
WCODE	W フィールドのユーザーエンコードを強制するオプションを指定します。 注意: WCODE に必要なエンコードコードは常に 4095 です。

OPRB パラメータが NATPARM モジュールで省略されている場合、または OPRB=OFF がダイナミックパラメータとして指定されている場合、Natural システムファイルに UPD（アクセス/更新）を要求する Adabas Open コマンドを発行して Natural セッションが開始されます。Natural でも、すべての ISN リストを解放するために RELEASE CID（Adabas RC）コマンドが発行されます（Natural FIND ステートメントの RETAIN 節で指定された ISN リストは解放されません）。

初期の Adabas OP コマンドで使用される Adabas レコードバッファは、明示的に提供することが可能です。フォーマットは、OP コマンドの Adabas レコードバッファで使用されるフォーマットと類似しています。ただし、空白を埋め込むことはできず、設定全体をカッコ（アポストロフィではない）で囲む必要があります。

例 1：

```
OPRB=(ACC=2,4,6,UPD=8.)
```

Adabas ファイル 2、4、および 6 をアクセス専用にし、Adabas ファイル 8 を更新（アクセスも含む）用にすることを指定しています。

例 2：

```
OPRB=(EXU=1,2,3.)
```

Adabas ファイル 1、2、および 3 をこの Natural セッションの排他制御対象にすることを指定しています。

キーワード ACC、UPD、および EXU を組み合わせる場合、関連する Adabas ドキュメントに定義されている規則に従う必要があります。これらのキーワードをコード化した場合、Natural では Natural セッションの開始時に OP コマンドを発行し、Natural セッションの終了時に CL コマンドを発行します。Natural プログラムの最後で、保持された ISN リストを解放するために必要な RC コマンドのみが発行されます。

上記すべての状況で、Natural セッションの開始時に常に発行される OP コマンドは、Natural セッションのユーザー ID を Adabas コントロールブロックのアディション 1 フィールドに格納します。バッチモードでは、これはジョブ名になります。TP モードでは、これは Natural インターフェイスモジュールによってシステムの初期化時に提供される設定になります。いずれの場合も、使用される設定は Natural システム変数 *INIT-USER で利用可能です。

NTOPRB マクロの構文

NTOPRB マクロの構文は次のとおりです。

```
NTOPRB dbid,'string'
```

使用可能な値については、OPRB パラメータを参照してください。VSAM で Natural を使用する場合、『*Natural for VSAM*』ドキュメントも参照してください。

string が非常に長い場合、コンマで区切って最大 5 つの文字列に分割できます（下記参照）。アセンブラでは、1 つの文字列は 256 バイトまでに限られるためです。

NTOPRB マクロの例

```
NTOPRB 12,'ACC=40,UPD=20'
```

```
NTOPRB 15,'EXU=1','2,3'
```


169

OPT - Natural Optimizer Compiler の制御

- OPT パラメータの構文 414
- NTOPT マクロの構文 414

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Optimizer Compiler を使用する場合にのみ適用されます。

このパラメータは、Natural Optimizer Compiler を有効または無効にするとともに、関連する各種オプションを制御するために使用します。Natural パラメータモジュール NATPARM の `NTOPT` マクロに対応します。

可能な設定		Natural の『 <i>Optimizer Compiler</i> 』ドキュメントの「ダイナミックプロファイルパラメータ <code>OPT</code> 」を参照してください。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ <code>NTOPT</code> を使用する必要があります。
セッション内の指定	可	

以下では次のトピックについて説明します。

OPT パラメータの構文

OPT パラメータの構文例を次に示します。

```
OPT=(INDX,OVFLW,ZD=OFF)
```

他の構文例については、Natural の『*Optimizer Compiler*』ドキュメントの「ダイナミックプロファイルパラメータ `OPT`」を参照してください。

NTOPT マクロの構文

NTOPT マクロの構文例を次に示します。

```
NTOPT 'INDX,OVFLW,ZD=OFF'
```

他の構文例については、Natural の『*Optimizer Compiler*』ドキュメントの「マクロ `NTOPT`」を参照してください。

170

OUTDEST - 非同期処理の出力先

この Natural プロファイルパラメータは、CICS、Com-plete、および UTM での Natural にのみ適用されます。

非同期アプリケーションによって生成される Natural エラーメッセージの送信先を指定します。

可能な設定	1~8 文字。	Natural エラーメッセージの送信先。1~8 文字。
デフォルト設定	プロファイルパラメータ <code>SENDER</code> の設定	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

エラーメッセージが送信された後、Natural は非同期セッションを終了します。

UTM では、このパラメータは、非同期アプリケーションからの出力を表示する端末の ID を指定するために使用します。

非同期アプリケーションからのエラーメッセージ/出力の出力タイミングと出力方法は、それぞれの TP モニタによって異なります。詳細については、以下を参照してください。

- CICS 環境での Natural の非同期処理
- Com-plete/SMARTS 環境での Natural の非同期処理
- UTM 環境での非同期トランザクション処理

171 OVSIZE - ストレージスレッドオーバーフローサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、1つの Natural セッションによってストレージスレッド外に割り当てることができる可変ストレージの最大合計量を指定します。

可能な設定	0~2097151	スレッド外の最大合計ストレージ (KB 単位)。
デフォルト設定	2097151	つまり、スレッド外のストレージはリージョンサイズによってのみ制限されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural セッション中にスレッド内のストレージ残量がなくなった場合、スレッド外から追加のストレージを割り当てることができます。OVSIZE は、可変ストレージの合計量を制限するために使用できます。常にスレッド外に割り当てられる物理ストレージ (プロファイルパラメータ [WPSIZE](#) を参照) には影響しません。

非スレッド環境 (例えば、バッチモードまたは TSO) では、このパラメータは適用されません。

172

PARM - 代替パラメータモジュール

このNaturalプロファイルパラメータでは、プロファイルパラメータ定義を含むオブジェクトモジュールを指定します。

可能な設定	1~8 文字	モジュール名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

これらの定義は、『オペレーション』ドキュメントの「新しいNaturalパラメータモジュールの作成」に記載のとおり、各種マクロを使用してコード化されます。その後、マクロがアセンブルされ、オブジェクトモジュールが生成されます。このモジュールの名前はユーザーが指定します。

PARMパラメータを（リンク先のパラメータモジュール内で、またはNaturalセッション開始時のダイナミックパラメータとして）指定すると、該当するオブジェクトモジュールがロードされ、その中のプロファイルパラメータ定義が有効になります。パラメータモジュールはSTEPLIBからダイナミックにロードされます。

CICSでは、このパラメータモジュールにPPTエントリが必要になります。

BS2000/OSD、z/OSバッチモード、およびTSOでは、現在のSTEPLIBはプロファイルパラメータLIBNAMで定義できます。

PARMパラメータが処理される前に有効になるプロファイルパラメータ定義（例えば、リンク先パラメータモジュール内の定義、または先行ダイナミックパラメータ）は、指定したパラメータモジュールがロードされると上書きされます。ただし、プロファイルパラメータISIZEおよびNUCNAMEを除きます。したがって、ダイナミックパラメータは、PARM指定の後に指定する必要があります。

プロファイルパラメータISIZEおよびNUCNAMEを代替パラメータモジュールで指定した場合は無視されます。

代替パラメータモジュールの使用を制限するために、マクロ `NTUSER` (USER プロファイルパラメータの説明を参照) を使用できます。

173 PC - パーソナルコンピュータのアクセスメソ ドの制御

このNatural プロファイルパラメータは、Natural Connection がインストールされている場合にのみ適用されます。

パーソナルコンピュータのアクセスメソッドのサポートを Natural Connection を使用して提供するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	パーソナルコンピュータのサポートが有効になります。Natural ステートメント READ PC FILE または WRITE PC FILE を（アップロードやダウンロードに）使用できます。UPLOAD PC FILE および DOWNLOAD PC FILE を参照してください。 PC=ON を指定した場合、システム変数 *DEVICE の値は常に PC です。
	OFF	パーソナルコンピュータのサポートは提供されません。
	NAM	データがアップロード/ダウンロードされる時、フィールド名が送信されます。この値はメインフレーム環境でのみ使用されます。
	NONAM	データがアップロード/ダウンロードされる時、フィールド名は送信されません。この値はメインフレーム環境でのみ使用されます。
デフォルト設定	(OFF, NAM)	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	PC サポートを制御するために、端末コマンド %+ および %- を使用できます。

値リストには複数の値を指定します。

例：

PC=(ON, NONAM)

詳細については、『Natural Connection』ドキュメントを参照してください。

PC アクセスメソッド用に使用されるファイルは、マクロ `NTPRINT` および `NTWORK`、またはプロファイルパラメータ `PRINT`、`WORK`、および `HCAM` で定義する必要があります。

174 PC - ピリオディックグループカウント

このセッションパラメータはレポートモードでのみ使用できます。DISPLAYまたはWRITEステートメントでインデックスを付けずにピリオディックグループ（またはピリオディックグループ内のフィールド）を指定したときに、デフォルトで出力するピリオディックグループオカレンスの数を決定します。

可能な設定	0 - 191	値の数。PC=0を指定した場合、PEフィールドの出力のデフォルトのインデックス範囲はありません。したがって、PEフィールドを出力するときは、明示的なインデックスまたはインデックス範囲を指定する必要があります。そうしないと、構文エラー（NAT0281）が発生します。
デフォルト設定	1	
適用可能なステートメント：	FORMAT INPUT DISPLAY WRITE PRINT	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド：	なし	

例：

```
FORMAT PC=5
```


175 PCNTRL - 出力制御文字

この Natural プロファイルパラメータでは、各出力行の列0に挿入される出力用の行送り文字を指定します。


可能な設定	任意の文字列	このパラメータは、文字または 16 進形式で指定できます。
デフォルト設定	Siemens 環境	X'404142434445464748494A4B4C4D4E4F'
	IBM 環境	デフォルト設定 (ASA 標準設定に基づく) は次のとおりです。 ' 0- ' 空白は 1 行送り、0 は 2 行送り、- は 3 行送りを示します。 注意: IBM 環境では、このパラメータのデフォルト設定は変更しないでください。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

176 PD - NATPAGE のページ制限

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、NATPAGE 画面ページングユーティリティを使用して、Naturalシステムファイル（FUSER）に同時に保存できる最大ページ（画面）数を指定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ PD をセッションパラメータ PD で上書きできます。

可能な設定	0 - 255	最大ページ（画面）数。	
デフォルト設定	50		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS

 **注意:**

1. 保存された画面の数が PD の設定を超過した場合、最も古いページが上書きされるラップアラウンド方式が使用されます。
2. NATPAGE 画面ページングユーティリティの詳細については、端末コマンド %E、%I、%O、%P、および %S を参照してください。

177

PLOG - ダイナミックパラメータのロギング

この Natural プロファイルパラメータは、TSO および CICS におけるバッチモードにのみ適用されます。

セッションの開始時にダイナミックに指定されたすべてのプロファイルパラメータのリストを出力できるようになります。実際に使用されたダイナミックプロファイルパラメータを確認する場合に役立ちます。特に、**PROFILE** または **SYS** などのプロファイルパラメータが指定され、その中に他のプロファイルパラメータが「含まれる」場合に使用します（PROFILE または SYS パラメータについては、それによって有効になるプロファイルパラメータの文字列全体がリストされます）。

可能な設定	ON	バッチモード：	セッション開始時に、ダイナミックに指定されたプロファイルパラメータおよびその設定のリストが、出力データセット CMPLOG に書き込まれます。 (CMPLOG を利用できない場合、リストは標準出力データセット CMPRINT に書き込まれます)
		TSO でのオンラインモード：	セッション開始時に、ダイナミックに指定されたプロファイルパラメータおよびその設定のリストが、出力データセット CMPLOG に書き込まれます。 (CMPLOG を利用できない場合、リストは端末に送信されます)
		CICS でのオンラインモード：	セッション開始時に、ダイナミックに指定されたプロファイルパラメータおよびその設定のリストが、端末に送信されます。
	OFF	ダイナミックプロファイルパラメータのリストは書き込まれません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可	ダイナミックに指定した場合、PLOG パラメータは、次の PLOG 指定があるまで、後続のすべてのダイナミックプロファイルパラメータに適用されます。これにより、個々のパラメータを出力から除外できます。例えば、設定にパスワードまたは他の機密情報が含まれている場合、それらの情報を出力されなくすることができます。	


PLOG - ダイナミックパラメータのロギング

		PLOG=OFF 指定および後続の PLOG=ON 指定の間に指定されたすべてのダイナミックパラメータは出力されません。
セッション内の指定	不可	

178 PLUGIN - Natural プラグインコンポーネントの有効化

この Natural プロファイルパラメータは、新しい Natural コンポーネントまたは追加の Natural コンポーネントを、Natural ニュークリアスにリンクしたり、特定の修正プログラムを適用したりすることなく有効にするために使用します。

可能な設定	OFF	すべてのプラグインコンポーネントを無効にします（下記の注を参照）。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

 **注意:** プロファイルパラメータ PLUGIN を使用して有効にすることができる Natural バージョン 3.1 のコンポーネントはすべて Natural バージョン 4.1 以降で必要不可欠なため、このパラメータの設定は OFF のみ可能です。

179 PM - 出力モード

■ プロファイルパラメータ PM	434
■ セッションパラメータ PM	435

以下では次のトピックについて説明します。

プロファイルパラメータ PM

この Natural プロファイルパラメータでは、フィールドの出力方法または表示方法を指定します。

可能な設定	C、P、I、R または上記の組み合わせ CI、CR、PI、PR	PM=C	代替文字セットが使用されます。プロファイルパラメータ TAB1 および TAB2 で定義できます。
		PM=P	プライマリ（標準）文字セットが使用されます。
		PM=I	逆方向（右から左）を指定します（例えば、中東諸国で使用する場合など）。
		PM=R	PM=I 設定を標準出力方向（左から右）にリセットします。
デフォルト設定	PR		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可		システムコマンド GLOBALS または端末コマンド %V
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N		『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

PM=I は、システム制御の出力画面項目（システム変数と PF キー行）に影響を与えます。さらに、英数字以外のフィールド（数値や日付など）はいずれも影響を受けます。また、Natural WebI/O インターフェイス端末の場合、左から右のフィールドシーケンスは、右から左に変更されます。フィールドのインバートルーチンは、Natural ソースライブラリ内にアセンブラモジュール NATPM として提供されており、必要に応じて変更できます。

設定 PM=I を使用方法の詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』の「双方向言語サポート」を参照してください。

セッションパラメータ PM

このセッションパラメータは、フィールドの表示方法を指定するために使用します。

可能な設定	PM=C	代替文字セットが使用されます (Natural ソースライブラリのモジュール NATPM を参照)。
	PM=D	シフトアウト/シフトイン文字を含まない DBCS のみのフィールドを定義します (『オペレーション』ドキュメントの「ダブルバイト文字セット」を参照)。
	PM=I	フィールド値は逆方向 (右から左) に表示されます (例えば、中東諸国での使用時)。
	PM=N	表示のハードコピーを作成できません。
デフォルト設定	なし	標準文字セットが使用されます。
適用可能なステートメント	DEFINE DATA DISPLAY FORMAT INPUT MOVE LEFT/RIGHT JUSTIFIED PRINT WRITE	



注意: 複数の値を指定できます。

例:

```
LIMIT 1
  READ EMPLOYEES
  DISPLAY NOTITLE NAME
  DISPLAY NOTITLE NAME (PM=I)
  DISPLAY NOTITLE NAME
  END
```

結果:

```

          NAME
-----
MORENO
          ONEROM
MORENO
```



180 POS22 - POS システム関数用のバージョン 2.2 アルゴリズム

この Natural プロファイルパラメータは、フィールドが正しくマーク／参照されるようにするために使用します。

『システム関数』ドキュメントの「POS - フィールド ID 関数」も参照してください。

可能な設定	ON	古いバージョン 2.2 アルゴリズムが使用され、正しいフィールドがマーク／参照されます。 注意: Natural Optimizer Compiler バージョン 2.2 でコンパイルされたシステム関数 POS を使用してオブジェクトを実行する場合にのみ、POS22=ON を設定してください。他のオブジェクトについては、内部 POS アルゴリズム内の変更により異なる結果が生じることはありません。
	OFF	Natural バージョン 2.3 に導入されているアルゴリズムが使用されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural for Mainframes バージョン 2.3 以降では、システム関数 POS (内部フィールド ID) を計算するための内部アルゴリズムは異なります。そのため、バージョン 2.3 以降で、Natural Optimizer Compiler のバージョン 2.2 でコンパイルされ、なおかつ POS 関数を INPUT または REINPUT ステートメントの MARK オプション、またはシステム変数 *CURS-FIELD と組み合わせて使用するプログラミングオブジェクトを実行した場合、間違ったフィールドがマーク／参照されることがあります。

 **注意:** このパラメータは、バージョン 2.2 からの移行を円滑に行えるようにするために用意されており、限られた期間にのみ使用できます。Natural の後続リリースでは削除されます。

Sysplex 環境の場合、または Natural スレッドサイズによりバッファの再割り当てが必要になった場合、POS22=ON で必ずしも目的の結果が得られるとは限りません。このような場合、関係するオブジェクトを新しいバージョンの Natural Optimizer Compiler で再カタログし、正しい POS 結果が確実に得られるようにする必要があります。

181 PRINT - 出力ファイルの割り当て

▪ PRINT パラメータの構文	441
▪ NTPRINT マクロの構文	441
▪ すべての環境で使用できるキーワードサブパラメータ	442
▪ すべての環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	446
▪ z/OS 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	449
▪ z/VSE 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	451
▪ BS2000/OSD 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	452
▪ AM=CICS のキーワードサブパラメータ	452
▪ AM=COMP (Com-plete) のキーワードサブパラメータ	453
▪ AM=SMARTS (Com-plete) のキーワードサブパラメータ	454
▪ AM=IMS のキーワードサブパラメータ	454
▪ DEFINE PRINTER ステートメントのキーワードサブパラメータ	455

この Natural プロファイルパラメータでは、セッション中に使用する出力ファイルを指定します。セッション内で、最大 31 の論理出力ファイル（番号 1~31）とハードコピー出力ファイル（番号 0）を使用できます。

古いダイナミックパラメータ PRINTER を、PRINT のシノニムとして使用することができます。

PRINT は、パラメータモジュール NATPARM の **NTPRINT** マクロに対応します。異なる出力ファイル定義を提供するには、PRINT または NTPRINT を複数回指定します。

可能な設定	下記のキーワードサブパラメータの項目を参照してください。	
デフォルト設定	下記を参照してください。	
ダイナミックな指定	可	パラメータ PRINT はダイナミックに指定することしかできません。NATPARM では、マクロ NTPRINT を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

異なる環境の出力ファイルにアクセスするためのソフトウェアコンポーネントは、アクセスメソッドと呼ばれます。Natural セッションの期間中、各論理出力ファイルを割り当てることができるアクセスメソッドは 1 つのみです。出力ファイル用のアクセスメソッドは、キーワードサブパラメータ AM で決定されます（下記参照）。

TSO およびバッチモードでの z/OS では、出力ファイルを JCL で事前に定義する必要はありません。出力ファイルがサブパラメータ AM=STD で定義されている場合、Natural プログラムで DEFINE PRINTER ステートメントまたはアプリケーションプログラミングインターフェイス USR2021（ライブラリ SYSEXT 内）を使用してセッション中にダイナミックに割り当てることができます。

このドキュメントでは、以下のトピックについて説明します。

『オペレーション』ドキュメントの「サーバー環境における外部データセットでの出力ファイルおよびワークファイルの処理」も参照してください。

PRINT パラメータの構文

PRINT パラメータでは、最初に1つ以上の論理出力ファイル番号を指定し、次にいくつかのキーワードサブパラメータを指定してこれらの出力ファイルの特性を定義します。

```
PRINT=((print-file-numbers),keyword-subparameters,...)
```

出力ファイル番号

ファイル番号は最初に指定し、カッコで囲む必要があります。番号は0~31の範囲で選択可能です。指定する順序は任意です。複数の番号を指定する場合は、コンマか空白で区切る必要があります。特定の範囲の番号を指定するには、ハイフン (-) を使用します。

キーワードサブパラメータ

以下では、さまざまな種類のキーワードサブパラメータについて説明します。

特性の異なる出力ファイルについては、複数の PRINT パラメータを指定します。同じ出力ファイルの以前の定義（またはデフォルト）が存在する場合、指定されたキーワードサブパラメータの値のみが上書きされ、その他の値はすべてそのまま保持されます。

例：

```
PRINT=((2,12,18),AM=STD,DEST='PRINT**',OPEN=INITOBJ,CLOSE=CMD)
PRINT=((1,3,6-11,15),AM=NAF)
PRINT=((0),AM=STD,DEST=HARDCOPX)
```

NTPRINT マクロの構文

NTPRINT マクロでは、最初に1つ以上の論理出力ファイル番号を指定し、次にいくつかのキーワードサブパラメータを指定してこれらの出力ファイルに適用する特性を定義します。

```
NTPRINT (print-file-numbers),keyword-subparameters,...
```

出力ファイル番号

ファイル番号は最初に指定し、カッコで囲む必要があります。番号は 0~31 の範囲で選択可能です。指定する順序は任意です。複数の番号を指定する場合は、コンマで区切る必要があります。特定の範囲の番号を指定するには、ハイフン (-) を使用します。

キーワードサブパラメータ

以下では、さまざまな種類のキーワードサブパラメータについて説明します。

特性の異なる出力ファイルについては、複数の NTPRINT マクロを指定します。同じ出力ファイルの以前の定義（またはデフォルト）が存在する場合、指定されたキーワードサブパラメータの値のみが上書きされ、その他の値はすべてそのまま保持されます。

例：

```
NTPRINT (2,12,18),AM=STD,DEST='PRINT**',OPEN=INITOBJ,CLOSE=CMD
NTPRINT (1,3,6-11,15),AM=NAF

NTPRINT (0),AM=STD,DEST=HARDCOPX
```

すべての環境で使用できるキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。AM | DEST | OPEN | CLOSE | ROUTE | CP

AM - アクセスメソッドのタイプ

AM=xxx によって、使用されるアクセスメソッドのタイプが指定されます。

オンラインセッションの場合、使用するすべての出力ファイルを特定のアクセスメソッドに割り当てる必要があります。

バッチセッションの場合、特定のアクセスメソッドに割り当てられていない出力ファイルは標準バッチアクセスメソッド (AM=STD) によって自動的に検出されて割り当てられます (これらの出力ファイルが JCL で事前に定義されている場合)。プロファイルパラメータ FAMSTD (出力ファイルおよびワークファイルのアクセスメソッド割り当ての上書き) も参照してください。

値	意味
STD	標準シーケンシャルバッチファイル（バッチ、TSO、TIAM、VM/CMSOSシミュレーション）。
CMS	CMS ディスクおよび SFS ファイル。
COMP	Com-plete 出力ファイル。
CICS	CICS 一時データまたは一時ストレージ。
NAF	Natural Advanced Facilities.
IMS	IMS/TM 宛先。
PC	Entire Connection。
USER	サードパーティベンダの出力インターフェイス。
SMARTS	SMARTS 出力ファイル。
ESS	Entire System Server.
NOM	Entire Output Management。オペレーティングシステムのスプールを使用することなく、Entire Output Management コンテナファイルをポイントします。詳細については、『Entire Output Management』ドキュメントを参照してください。
OFF	未割り当て。FAMSTD=OFF が設定されている場合、自動割り当ては行われません。
0	未割り当て。FAMSTD=OFF が設定されている場合、自動割り当てが行われます。これはデフォルト値です。



注意: PRINT=OFF は PRINT=((1-31)), AM=OFF) と同等です。この設定は、他のどのキーワードサブパラメータ指定にも影響しません。PRINT=((0),AM=xxx) または NTPRINT ((0),AM=xxx) では、ハードコピー出力アクセスメソッドを決定します。プロファイルパラメータ HCAM=xxx と同等です。

DEST - 外部データセット名

DEST=*name* では、応答先（1～8文字）を指定します。

DEFINE PRINTER ステートメントの OUTPUT 値に対応します（また、DEFINE PRINTER OUTPUT 指定によって上書きできます）。

このキーワードサブパラメータの意味は、アクセスメソッドによって異なります。

アクセスメソッド	DEST の意味
AM=STD	DEST は論理データセット名です（DDNAME、LINK 名、DTF 名）。 応答先が複数のファイルである場合、ファイル番号に2つのアスタリスク（**）を指定する必要があります。アスタリスクは、出力ファイルごとに対応する論理ファイル番号に置き換わります。2つのアスタリスクを含むDEST値は、ダイナミックパラメータとして使用する場合、アポストロフィで囲む必要があります。 デフォルト値は、IBM 環境の場合 DEST='CMPRT**'、SIEMENS 環境の場合 DEST='P**' です。

アクセスメソッド	DEST の意味
	z/VSE では、7 文字の名前のみがサポートされます。
AM=CICS	CICS では、出力ファイルのデフォルト値はありません。この場合、DEST サブパラメータは必須です。つまり、有効な DEST 指定なしで定義された CICS 出力ファイルは無視されます。 Natural CICS インターフェイスでは、DEST 値の一部として変数 (NCIPARM 生成マクロの TERMPARM パラメータを参照。デフォルトは &TID) を使用することもサポートされています。変数を指定した場合、実際の CICS 端末 ID で置き換わります。『TP モニターインターフェイス』ドキュメントの「CICS 環境での Natural 出力ファイルとワークファイル」も参照してください。
AM=CMS	CMS での DEST の使用方法については、『オペレーション』ドキュメントの VM/CMS 環境での Natural に関する説明を参照してください。
AM=IMS	IMS/TM 宛先を指定します。

 **注意:** PRINT=((0),DEST=xxx) または NTPRINT (0),DEST=xxx では、ハードコピー出力先を決定します。Natural プロファイルパラメータ HCDEST=xxx と同等です。

OPEN - ファイルをオープンするタイミング

OPEN=xxx によって、ファイルがオープンされるタイミングが決定します。

値	次の場合にファイルをオープン
INIT	セッション初期化時に出力を行うとき。
OBF	各種環境 (バッチ、CICS、Com-plete、TSO) のデフォルトの OPEN 値に基づく。
OBJ	ファイルにアクセスする最初のオブジェクトの実行が開始されたとき。全般的なデフォルト値です (AM=COMP および AM=IMS を除く)。
OBJ1	ファイルにアクセスするレベル 1 での最初のオブジェクトの実行が開始されたとき。さもなければ、最初にアクセスした時点。
ACC	ステートメントが最初にアクセスしたとき。AM=COMP および AM=IMS のデフォルト値です。
INITOBF	セッション初期化時に出力を行うとき。続けてファイルを再オープンすると、各種環境 (バッチ、CICS、Com-plete、TSO) のデフォルトの OPEN 値が設定されます。
INITOBJ	セッション初期化時に出力を行うとき。ファイルにアクセスする最初のオブジェクトの実行が開始されると、続けてまたファイルがオープンされます。
INITOBJ1	ファイルにアクセスするレベル 1 での最初のオブジェクトの実行が開始されたとき。さもなければ、最初にアクセスした時点。
INITACC	セッション初期化時に出力を行うとき。ステートメントが最初にファイルにアクセスしたときに、続けてまたファイルがオープンされます。

CLOSE - ファイルをクローズするタイミング

CLOSE=xxx によって、ファイルがクローズされるタイミングが決定します。

値	次の場合にファイルをクローズ
OBJ	最初にアクセスしたファイルを含むオブジェクトの処理が完了したとき、またはコマンドモード時に NEXT モードまたは MAINMENU に到達したとき。
CMD	コマンドモード時に NEXT モードまたは MAINMENU に到達したとき。AM=NAF、AM=COMP、および AM=IMS のデフォルト値です。
FIN	セッションが終了したとき (AM=STD のデフォルト値です)。CLOSE=FIN を指定した場合、プリンタがすでにオープンされていると、DEFINE PRINTER ステートメントでエラーが発生します。プリンタに対する CLOSE PRINTER ステートメントは無視されます。
USER	ファイルがオープンされていて、次のいずれかの条件が当てはまる場合のみ。 <ul style="list-style-type: none"> ■ CLOSE PRINTER ステートメントが発行されたとき。 ■ DEFINE PRINTER ステートメントが発行されたとき。 ■ セッションが終了したとき。

ROUTE - 論理出力ファイルのルーティング

ROUTE=xxx では、DEFINE PRINTER ステートメントの OUTPUT 節に応じて論理出力ファイルのルーティングを行うかどうかを決定します。

ON	出力ファイルのルーティングが行われます。PC以外のすべての出力ファイルをターゲット出力ファイルとして指定できます。これはデフォルト値です。
OFF	出力ファイルのルーティングは行われません。
am	出力ファイルのルーティングは、指定したアクセスメソッド <i>am</i> のプリンタに対してのみ行われません。任意の有効な出力ファイルアクセスメソッドを値として使用できます (上記のサブパラメータ AM の説明を参照)。PC は <i>am</i> には使用できません。

出力ファイルのルーティングとは、DEFINE PRINTER ステートメントの OUTPUT 節で定義された名前が、異なる論理プリンタで定義されている出力ファイルの宛先を示している場合に、すべての出力がこの出力ファイルにルーティングされることを意味します。指定した名前のプリンタが見つからない場合、出力は空いている任意のプリンタにルーティングできます。

CP - 出力のコードページ

このキーワードサブパラメータでは、出力のコードページを定義します。すべてのコードページデータ（Natural ソース、A フォーマットフィールドの内容など）がこのコードページで保存されると想定されます。キーワードサブパラメータ CP でコードページが指定されていない場合、プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。

（例えば、パラメータ CP=OFF によって）Natural コードページのサポートが無効になっている場合、このパラメータに指定した値は無視されます。

プロファイルパラメータ CP、および『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

値	意味
1~64 文字	<p>目的のコードページの名前です。</p> <p>任意の文字列を指定できますが、ソースモジュール NATCONFIG のマクロ NTCPAGE のコードページパラメータである CCSID、CCSN、IANA、または ALIAS のうちのいずれかで定義済みである必要があります。</p>

すべての環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。RECFM | BLKSIZE | LRECL | TRUNC | PAD | PADCHRO | ASA | STRIP

RECFM - データセットのデフォルトのレコードフォーマット

RECFM=xxxx によって、データセットのデフォルトのレコードフォーマットが決定します。

次のフォーマットがサポートされています。

F	固定長
V	可変長
U	未定義
B	ブロック式
S	スパンド
A	ASA
M	機械制御文字

次の値およびその組み合わせが使用可能です。

可能な値：	F、FA、FM、FB、FBA、FBM、V、VA、VM、VB、VBA、VBM、VBS、VBSA、VBSM、U、UA、UM
デフォルト値：	RECFM=VBA (ASA の可変長ブロック式)。

RECFM の指定は、レコードフォーマットが JCL または データセット DCB (z/OS の場合のみ) で定義されていない場合にのみ適用されます。

BLKSIZE - データセットのデフォルトのブロックサイズ

BLKSIZE=nnnnn によって、データセットのデフォルトのブロックサイズ (バイト単位) が決定します。

設定可能値：	0 または 8~32767
デフォルト値：	1016

BLKSIZE の指定は、ブロックサイズが JCL または データセット DCB (z/OS の場合のみ) で定義されていない場合にのみ適用されます。

LRECL - データセットのデフォルトレコード長

LRECL=nnn では、データセットのデフォルトのレコード長 (バイト単位) を決定します。

設定可能値：	0 または 5~254
デフォルト値：	0

このサブパラメータは、特に切り捨てやパディングの有無をチェックする場合に使用します。

RECFM=V (B) の場合、LRECL 値には 4 バイトのレコードディスクリプタワードが含まれます。

LRECL=0 が定義されている場合、以下が適用されます。

- RECFM=V (B) の場合、LRECL のデフォルトは BLKSIZE-4 の最小値および 254 です。
- RECFM=U の場合、LRECL のデフォルトは BLKSIZE です。
- RECFM=F (B) の場合、実行中の Natural プログラムでファイルを開いたときに最大レコード長が必要になります。OPEN=INIT などファイルがオープンされるときにプログラムからのレコード長を利用できない場合、レコード長 132 が使用されます (レコードフォーマットが可変の場合、ASA または機械制御文字については +1、レコードディスクリプタワードについては +4)。

LRECL の指定は、レコード長が JCL または データセット DCB (z/OS の場合のみ) で定義されていない場合にのみ適用されます。

PRINT - 出力ファイルの割り当て

TRUNC - 出力レコードの切り捨て

TRUNC=xxx では、出力レコードを切り捨てるかどうかを決定します。

ON	データセットのレコード長 (LRECL) より長い出力レコードで、切り捨てが発生します。これはデフォルト値です。
OFF	出力レコードがデータセットのレコード長よりも長い場合、エラー NAT1512 が発行されます。

PAD - 出力レコードのパディング

PAD=xxx によって、出力レコードのパディングが発生させるかどうか決定します (固定レコード長のデータセットにのみ適用されます)。

ON	データセットのレコード長 (LRECL) より短い出力レコードでは、キーワードサブパラメータ PADCHRO で定義されたパディング文字でパディングが行われます。これはデフォルト値です。
OFF	出力レコードがデータセットのレコード長よりも短い場合、エラー NAT1510 が発行されます。

PADCHRO - 出力レコードのパディング文字

このサブパラメータでは、出力ファイルに PAD=ON が定義されている場合にパディングに使用される文字を定義します。

設定可能値:	'x'	(一重引用符で囲まれた特定の文字 x)
	x'xx'	(特定の 16 進文字 xx)
デフォルト値:	' '	(空白または x'40')

ASA - ASA レコードフォーマットの使用

ASA=xxx では、ASA レコードフォーマットを使用するかどうかを決定します。

ON	出力レコードに ASA 文字が含まれます。z/OS では、これにより、DCB または RECFM サブパラメータの RECFM 設定にかかわらず、ASA レコードフォーマットが強制されます。これはデフォルト値です。
OFF	出力レコードに ASA 文字は含まれません。z/VSE バッチアクセスメソッド (AM=STD) では、出力ファイルがスプールファイルの場合、出力レコードの 1 列目に有効な ASA 文字を指定する必要があります。そうしないと、エラー NAT1530 が発行されます。

STRIP - 末尾の空白の削除禁止

ディスクスペースを軽減するためにデータセットが可変長レコードフォーマット (RECFM=VB) で定義されている場合、バッチシーケンシャル出力ファイル (AM=STD) の末尾の空白が削除されます。そのため、空白がないことが原因で、このデータセットに後からアクセスするアプリケーションで問題が発生することがあります。このような問題は、STRIP=OFF を設定することで回避できます。

ON	末尾の空白が削除されます。これはデフォルト値です。
OFF	末尾の空白は削除されません。

z/OS 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

REREAD | **FREE** | **BUFNO** | **DISP** | **VMAX**

REREAD - テープファイルデータセットのクローズ

REREAD=xxx によって、テープファイルをクローズする REREAD オプションが設定されます。

ON	REREAD オプションが CLOSE SVC に対して設定されます。これにより、データセットを再処理するためにボリュームが再配置されます。これはデフォルト値です。
OFF	REREAD オプションが CLOSE SVC に対して設定されません。

FREE - ファイルをクローズした時点でデータセットの割り当てを解除

FREE=xxx によって、ファイルをクローズするときにデータセットの割り当てを解除するかどうかが決まります。

ON	FREE オプションが CLOSE SVC に対して設定されます。つまり、データセットのクローズ時に (ステップ終了時ではなく) 割り当てが解除されます。
OFF	FREE オプションが CLOSE SVC に対して設定されません。これはデフォルト値です。

BUFNO - データセットの z/OS I/O バッファのデフォルト番号

BUFNO=nnn によって、データセットの z/OS I/O バッファのデフォルト番号が定義されます。

設定可能値	0 - 255
デフォルト値	0
	この場合、z/OS はデフォルトごとに 5 つの I/O バッファを割り当てます。

I/O バッファの数により出力ファイルアクセスのパフォーマンスが大幅に向上します。I/O バッファのストレージは、16 MB を越えないように割り当てられることに注意してください。

BUFNO の指定は、BUFNO パラメータがデータセットの JCL で指定されていない場合にのみ適用されます。

DISP - 出力ファイルの修正用オープン

DISP=xxx では、出力ファイルを修正用にオープンするかどうかを決定します。

このサブパラメータは、JCL DD ステートメントのサブパラメータ DISP=MOD に対応しています。

MOD	ファイルの末尾に新しいレコードが追加されます。
NOMOD	出力ファイルは先頭から書き換えられます。これはデフォルト値です。

VMAX - さまざまなレコードフォーマットの LRECL をコントロール

VMAX=xxx によって、さまざまなレコードフォーマット (RECFM=V) で出力ファイル LRECL の設定を制御できます。

ON	ファイルの BLKSIZE の値がゼロ以外とすると、VMAX=ON の場合、DCB または LRECL サブパラメータの LRECL 設定にかかわらず、変数レコードフォーマットとして LRECL=BLKSIZE-4 と設定されます。
NAT	この値がデータセットの DCB の LRECL 未満の場合、LRECL はアプリケーションプログラムの最長レコード+4 の長さに設定されます。
OFF	データセットの DCB または LRECL サブパラメータからの LRECL が使用されます。これはデフォルト値です。

z/VSE 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

SYSNR | LABEL | REWIND

SYSNR - 論理 VSE SYS 番号

SYSNR=*nn* によって、論理 VSE SYS 値が決定します。

設定可能値：	1 - 99
デフォルト値：	デフォルトでは、SYS 番号は出力ファイル番号に 40 を加えた値です（出力ファイル 1～31 の場合）。出力ファイル 0、つまりハードコピープリンタの場合、デフォルト値は SYSLST です。 例： 出力ファイル 11 の z/VSE デフォルト SYS 番号は 11 + 40 => SYS051 です。

LABEL - テープラベルの処理

LABEL=*xxx* によって、テープラベルの処理方法が決定します。

ON	テープは標準のラベルフォーマットです。これはデフォルト値です。
OFF	テープはラベルなしで、フロントテープマークが使用されます。
NOTM	テープはラベルなしで、フロントテープマークも使用されません。

REWIND - ファイルのクローズ時のアクション

REWIND=*xxx* によって、テープファイルをクローズするときのアクションが決定します。

ON	ファイルをクローズするとテープが巻き戻されます。これはデフォルト値です。
OFF	ファイルをクローズしてもテープは巻き戻されません。
UNLOAD	ファイルをクローズするとテープがアンロードされます。

BS2000/OSD 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。DISP | FREE

DISP - ファイルオープンモード

DISP=xxx によって、ファイルのオープンモードが決定します。

EXT	オープンモードは EXTEND に設定されます。
NOEXT	オープンモードは、デフォルト値の OUTPUT に設定されます。これはデフォルト値です。

FREE - ファイルクローズ時のリンク名の解放

FREE=xxx では、宛先ファイルが別のファイルに切り替えられたときにファイルのリンク名を解放するかどうかを決定します。

ON	リンク名は解放されます。
OFF	リンク名は維持されます。

例：

```
DEFINE PRINTER (1) OUTPUT 'P01'
WRITE (1) 'TEST'
CLOSE (1)
DEFINE PRINTER (1) OUTPUT 'FILE=REPORT01.NEW, LINK=LINKP01'
```

FREE が ON に設定されている場合、リンク名は解放されます。FREE=OFF の場合、リンク名は維持されます。

AM=CICS のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

TYPE | DISP

TYPE - CICS ストレージ媒体のタイプ

TYPE=xxxx によって、使用される CICS ストレージ媒体のタイプが指定されます。

MAIN	一時的なメインストレージ。
AUX	一時的な補助ストレージ。
TD	一時データ。


使用されるデフォルト値は、DEST パラメータの設定によって異なります。DEST サブパラメータ値が有効な CICS 一時データキューに一致する場合、TYPE サブパラメータはデフォルトで TD になり、一致しない場合は MAIN がデフォルト値になります。

DISP - CICS 一時ストレージキューの処理

DISP=(xxx,xxx) によって、CICS 一時ストレージキューの処理方法が指定されます。

可能な値のペアは次のとおりです。

(NEW,KEEP)	ストレージキューはファイルのオープン時に削除されます。これはデフォルト値です。
(NEW,DELETE)	ストレージキューは、ファイルのオープン時およびクローズ時に削除されます。
(OLD,DELETE)	ストレージキューはファイルのクローズ時に削除されます。
(OLD,KEEP)	ストレージキューは削除されません。

 **注意:** DISP の指定は、CICS 特別パーティション一時データキューには適用されません。

AM=COMP (Com-plete) のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。DRIVER

DRIVER - Com-plete 出力ドライバの名前

DRIVER=name では、使用する Com-plete 出力ドライバの name を指定します。

AM=SMARTS (Com-plete) のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。DEST

DEST - 論理プリンタ

DEST=*print-server-queue* 環境変数 SAG_APS_LPD_xyz では、Com-plete での論理プリンタを定義します。xyz は出力サーバーキューの名前です。

指定した DEST に対して環境変数 SAG_APS_LPD_xyz が存在する場合、出力はそのラインプリンタに直接ルーティングされます。詳細については、『*Complete Initialization and Startup Manual*』の「*Defining Terminals and Printers*」セクションを参照してください。

DEST=*printer-file-name* そのプリンタの出力サーバーキューが利用できない場合、DEST ではプリンタファイル名を指定します。ファイルシステム内の出力ファイルの場所を指定します。出力ファイルの名前は、ユーザー ID およびシーケンス番号に基づいて生成されます。

DEST 節は最大 8 文字に制限されているため、PFS 絶対パス指定でファイルを定義する場合には使用できません。DEST 節では、出力ファイルのルートディレクトリに対して相対的な名前を指定します。出力ファイルのルートディレクトリは、環境変数 NAT_PRINT_ROOT で指定します。

例：

```
NAT_PRINT_ROOT=/nat/printer
DEST=printer1
UserId=xyz
```

最初の出力はファイル /nat/printer/printer1/xyz1 に書き込まれます。

絶対パス定義でファイルを指定するには、DEFINE PRINTER ステートメントの OUTPUT 節を使用する必要があります。

AM=IMS のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

BLKSIZE | DRIVER

BLKSIZE - 出力バッファのサイズ

BLKSIZE=*nnnnn* では、IMS/TM 宛先に送信される出力バッファのサイズを指定します。

DRIVER - Natural IMS 出力ドライバの名前

DRIVER=*name* では、使用する Natural IMS 出力ドライバの *name* を指定します。

使用可能な値については、『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「IMS/TM での Natural」セクションの NIMPARM マクロパラメータおよび Natural WRITE (*n*) ステートメントのサポートに関する説明を参照してください。

DEFINE PRINTER ステートメントのキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータでは、同じ名前の DEFINE PRINTER ステートメントオプションのデフォルト値を設定できます（『ステートメント』ドキュメントを参照）。プリンタがクローズされると、すべての DEFINE PRINTER ステートメントオプションがデフォルト値にリセットされます。

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

PROFILE | NAME | FORMS | DISP | COPIES | CLASS | PRTY

PROFILE - プリンタ制御文字テーブルの名前

PROFILE=*name* では、プリンタ制御文字テーブル（NTCCTAB マクロ）の *name* を指定します。

NAME - リストの名前

NAME=*name* では、リストの *name* を指定します。

FORMS - リストフォームの名前

FORMS=*name* では、リストフォームの *name* を指定します。

DISP - リストの処理

DISP=*disposition* では、リストの *disposition* (HOLD、KEEP、DELETE、または LEAVE) を指定します。

COPIES - コピーの数

COPIES=*nnn* では、出力するコピーの数 (1~255) を指定します。

CLASS - スプールクラス

CLASS=*class* では、スプールクラス (1 バイト) を指定します。

PRTY - リストの優先度

PRTY=*nnn* では、リストの優先度 (1~255) を指定します。

182 PROFILE-ダイナミックパラメータプロファイル の有効化

このNaturalプロファイルパラメータは、ダイナミックパラメータプロファイルを有効にするために使用します。

ダイナミックプロファイルパラメータを使用してNaturalを呼び出す場合、パラメータの文字列を1回指定し、その文字列をプロファイル名で保存することで、その後で1つのダイナミックパラメータのみを使用してNaturalを呼び出せるようになります（下記参照）。Naturalを呼び出すたびに個々のパラメータの文字列全体を指定する必要はありません。

```
PROFILE=profile-name
```

このプロファイルで定義されたパラメータは、ダイナミックプロファイルパラメータとしてNaturalに渡されます。これらのプロファイルの作成および管理には、ユーティリティ SYSPARM（『ユーティリティ』ドキュメントを参照）を使用します。

可能な設定	1~8文字	プロファイル名。または特殊オプション（下記参照）。
デフォルト設定		
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

特殊オプション

また、PROFILE パラメータには、次の特殊オプションが用意されています。

PROFILE=AUTO	Natural では、現在の TP ユーザー ID (システム変数 *INIT-USER 内に含まれる) がプロファイル名として使用されます。つまり、その ID に対応する名前前で定義されたプロファイルが使用されます。このようなプロファイルが見つからない場合、AUTO という名前のプロファイルが代わりに使用されます (使用可能な場合)。個々のプロファイルを使用しなくても、このような AUTO プロファイルをユーザーのデフォルトプロファイルとして定義できます。
PROFILE=TERMINAL	Natural では、現在の端末 ID (システム変数 *INIT-ID 内に含まれる) がプロファイル名として使用されます。つまり、その ID に対応する名前前で定義されたプロファイルが使用されます。
PROFILE=PROGRAM	Natural では、Natural として現在実行中のプログラムの名前 (システム変数 *INIT-PROGRAM) がプロファイル名として使用されます。つまり、この名前前で定義されたプロファイルが使用されます。

デフォルトでは、プロファイルは現在の FNAT システムファイルから読み込まれます。

プロファイルを別のシステムファイルから読み込むには、目的のデータベース ID、ファイル番号、パスワード、およびサイファコードを *profile-name* の後 (または上記の特殊オプションのいずれかの後) に指定します。

```
PROFILE=(profile-name,dbid,fnr,password,cipher-code)
```

すべてのプロファイルパラメータが同じシステムファイル (FNAT 以外) から読み込まれるようにするには、パラメータモジュールで次のように指定します。

```
PROFILE=(,dbid,fnr)
```

パラメータモジュール内で PROFILE パラメータが指定されている場合、パラメータモジュール内の他のパラメータの後に評価されますが、ダイナミックに指定されたプロファイルパラメータの前に評価されます。つまり、プロファイル内で指定されたパラメータは、個々に指定するダイナミックパラメータで上書きできます。

プロファイルの使用を制限するには、プロファイルパラメータ **USER** を使用します。

他のパラメータと異なり、PROFILE パラメータ指定は、別の PROFILE で上書きすることはできません。したがって、すべてが順次評価される複数のパラメータプロファイルを指定できます。

PROFILE パラメータを ADARUN MODE=SINGLE と併用することはできません。

183 PROGRAM-セッション終了後に制御を受け取る

Natural 以外のプログラム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションの終了後に制御を受け取る Natural 以外のバックエンドプログラムを指定します。

可能な設定	1~8 文字	Natural 以外のバックエンドプログラム。
	数値	数値（例えば、PROGRAM=0）を設定した場合、「バックエンド処理は実行されません」。この設定は、特に Natural がフロントエンドプログラムから呼び出されるときに関連します。PROGRAM が空白または指定されない場合、デフォルト値が使用されることがあるためです。『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「XCTL を介して起動されたフロントエンド」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	ライブラリ SYSEXTP に用意されている Natural サブプログラム CMPGMSET を呼び出すことで、Natural プログラム内からダイナミックに設定することもできます。
セッション内の指定	可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR4001N（メインフレームで利用可能）	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。
	USR6204N（すべてのプラットフォームで利用可能）	

PROGRAM パラメータで指定したプログラムには、TERMINATE ステートメントでデータを渡すことができます。

Natural 以外のバックエンドプログラムの呼び出し規則については、『オペレーション』ドキュメントの「バックエンドプログラムの呼び出し規則」を参照してください。

CICS 固有の情報：

バックエンドプログラムに加え、Natural CICS インターフェイスでは、プログラム名の代わりに RET=XXXX または STR=XXXX 使用して指定できるバックエンドトランザクションもサポートされています。XXXX は有効な CICS トランザクション ID です。

- RET=XXXX は、CICS に対して、CICS RETURN TRANSID ('XXXX') コマンドによって戻りトランザクション ID とともに制御を渡す必要があることを示します。
- STR=XXXX は、CICS RETURN コマンドによって制御を中止する前に、START TRANSID ('XXXX') TERMID (*INIT-ID) によって新しいトランザクションを開始する必要があることを示します。

184

PS - Natural レポートのページサイズ

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY または WRITE ステートメントで作成される Natural レポートに使用されるページ当たりの最大行数を指定します。プロファイルパラメータとして使用する場合、PS パラメータはバッチモードでのみ有効で、物理ページサイズを定義します。オンラインモードでは、物理ページサイズは常に物理画面の高さに設定されます。

可能な設定	1 - 250	ページ当たりの最大行数	
	0	物理ページサイズが使用されます。 出力する最初のレポート（レポート0）に PS=0 を指定した場合、物理デバイスページサイズから 1 を引いた行数が使用されます。 レポート 1~31 に PS=0 を指定した場合、自動的な改ページ処理が抑制されます。つまり、自動改ページ処理は行われません。	
デフォルト設定	0		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT SET GLOBALS WRITE
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

『プログラミングガイド』の「ページサイズ-PS パラメータ」も参照してください。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

185

PSEUDO - CICS 擬似会話型モード

この Natural プロファイルパラメータでは、CICS でのオペレーションのモードを制御します。TP モニタ CICS の制御下で Natural を実行している場合、2つのモード（会話型モードと擬似会話型モード）が可能です。

可能な設定	ON	PSEUDO=ON では、擬似会話型モードが有効になります。このモードでは、Natural セッションは一連の異なるトランザクションです。端末への各出力の後、すべての Natural ワークエリアが保存され、トランザクションが終了します。ユーザーが Enter キー（他の入力キー）を押してメッセージに回答すると、新しいトランザクションが開始されます。Natural ワークエリアがリストアされ、端末入力を読み込まれ、Natural セッションが続行されます。その後続く各トランザクションのトランザクション ID は、ライブラリ SYSEXTP に用意されているサブルーチン CMTRNSET を呼び出すことで動的に設定できます。
	OFF	PSEUDO=OFF では、擬似会話型モードが無効になり、会話型モードが有効になります。会話型モードでは、Natural セッションは1つのトランザクションです。このトランザクションは、Natural セッションがアクティブな限りアクティブになります。 CICS に関する注：PSEUDO=OFF の指定は、Natural サーバーセッションでは無視されます。『オペレーション』ドキュメントの CICS での Natural サーバーセッションに関する説明を参照してください。
デフォルト設定	ON	
動的な指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「CICS 環境での Natural」セクションにある「TYPE - グループのスレッドタイプ」を参照してください。

186 RCA - スタティックな Natural 以外のプログラムのアドレス解決

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションの初期化中に Natural ニュークリアスへのスタティックな Natural 以外のプログラムのダイナミックリンクを制御します。

可能な設定	ON	<p>Natural 起動時に、Natural にリンクされるスタティックな Natural 以外の全プログラムのリストがスキャンされ、アドレスが未解決のすべてのモジュールに対してロード要求が発行されます。ロード要求が失敗した場合、エラーメッセージは発行されません。</p> <p>Natural 起動時に多数の処理オーバーヘッドが発生するため、RCA=ON の使用はお勧めしません。</p>
	OFF	<p>スタティックな Natural 以外のプログラムのダイナミックリンクは実行されません。</p>
	<i>name-list</i>	<p>RCA=<i>name-list</i> を指定した場合、Natural にリンクされるスタティックな Natural 以外のプログラムのリストは、指定した名前リストで拡張されます。すでにリンクされている場合でも、これらのモジュールに対してロード要求が発行されます。このようにして、リンクされた Natural 以外のプログラムを置き換えることができます。ロード要求が失敗した場合、エラーメッセージが発行されます。</p> <p>複数の名前を指定する場合、次のようにそれぞれをコンマで区切り、リストをカッコで囲む必要があります。</p> <p>RCA=(PROGRAM1,PROGRAM2,PROGRAM3)</p>
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural に内部的に（モジュール NATPARM および NATCONFIG 内のマクロ NTINV を使用）または外部的に（プロファイルパラメータ CSTATIC を使用）リンクされるスタティックな Natural 以外のプログラムを定義する必要があります。

Natural 以外のプログラムの外部名が内部名（CALL ステートメントで使用される）と異なる場合、プロファイルパラメータ RCALIAS またはマクロ NTALIAS を使用して、ロード要求に使用する外部名を定義できます。

CICS の場合：PPT エントリを定義して、Natural 以外のプログラムに対するロード要求を許可する必要があります。スタティックな Natural 以外のプログラムは、EXEC CICS LINK 要求の代わりに標準リンケージ規則を介して呼び出されます。

187 RCALIAS - Natural 以外のプログラムの外部名定

義

- RCALIAS パラメータの構文 468
- NTALIAS マクロの構文 469
- NTALIAS マクロの例 469
- RCALIAS パラメータの例 469

この Natural プロファイルパラメータは、プロファイルパラメータ **RCA** で定義され、Natural セッションの初期化中にダイナミックリンク用にロードされるスタティックな Natural 以外のプログラムの外部名を定義するために使用します。パラメータモジュール NATPARM の **NTALIAS** マクロに対応します。

可能な設定	<i>internal-program-name</i>	名前ペアのリスト：
	<i>external-program-name</i>	<i>internal-program-name</i> では、(CALL ステートメントで使用される) Natural 以外のプログラムの内部名を定義します。この名前は、パラメータ RCA または CSTATIC でも定義する必要があります (RCA=ON の場合のみ)。 <i>external-program-name</i> では、セッション初期化中のロード要求に対応する外部エイリアス名を定義します。
	OFF	RCA モジュールの外部名は定義されません。この値はダイナミックに指定することしかできません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTALIAS を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

RCALIAS パラメータの構文

RCALIAS パラメータの構文は次のとおりです。

```
RCALIAS=(  
internal-program-name1,external-program-name1,internal-program-name2,external-program-name2,...)
```

NTALIAS マクロの構文

NTALIAS マクロは次のように指定します。

```
NTALIAS internal-program-name,external-program-name
```

NTALIAS マクロの例

```
NTALIAS PROGRAM1,ALIAS1  
NTALIAS PROGRAM2,ALIAS2
```

RCALIAS パラメータの例

```
RCA=(PROGRAM1,PROGRAM2),RCALIAS=(PROGRAM1,ALIAS1,PROGRAM2,ALIAS2)
```


188 RCFIND-FIND ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理

この Natural プロファイルパラメータでは、FIND ステートメント処理ループの実行中に Adabas レスポンスコード 113（要求した ISN が見つからない）が返された場合の対処を指定します。

可能な設定	ON	レスポンスコード 113 によってプログラムが終了しました。
	OFF	レスポンスコード 113 は無視され、FIND ループの処理は次のレコードの読み込みに続きます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	


189 RCGET - GET ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理

この Natural プロファイルパラメータでは、GET ステートメントの実行中に Adabas レスポンスコード 113（要求した ISN が見つからない）が返された場合の対処を指定します。

可能な設定	ON	レスポンスコード 113 によってプログラムが終了しました。
	OFF	レスポンスコード 113 は無視され、システム変数 *ISN が 0 に設定され、処理が継続します。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

190 RDACT - (内部使用)

この Natural プロファイルパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

191

RDCEXIT - Natural Data Collector ユーザー出口の定義

義

この Natural プロファイルパラメータは、SYSRDC ユーティリティの Natural Data Collector 用のユーザー出口、およびオプションで各出口のワークエリアサイズを定義するために使用します。リンクされている場合、出口は Natural 内の特定ポイントで Natural Data Collector から制御を取得します。特定のセッション情報が出口に渡されます。

可能な設定	各ユーザー出口の名前とそれぞれのワークエリアサイズのリスト。	RDCEXIT では、任意の出口名を指定できます。Natural パラメータモジュール NATPARM では、出口名が CSTATIC プロファイルパラメータの設定リストに自動的に追加されます。						
デフォルト設定	なし							
ダイナミックな指定	可	RDCEXIT をダイナミックに指定する場合、プロファイルパラメータ CSTATIC または RCA で出口を定義する必要があります (RCA はダイナミックに指定することもできます)。オプションで、出口名の後に出口ワークエリアのサイズを指定することもできます。 <table border="1"><tr><td>可能な設定</td><td>400 - 32760</td></tr><tr><td>デフォルト設定</td><td>400</td></tr><tr><td>例</td><td>RDCEXIT=(MYEXIT,2000,RDCEX1)</td></tr></table>	可能な設定	400 - 32760	デフォルト設定	400	例	RDCEXIT=(MYEXIT,2000,RDCEX1)
可能な設定	400 - 32760							
デフォルト設定	400							
例	RDCEXIT=(MYEXIT,2000,RDCEX1)							
セッション内の指定	不可							

詳細については、『SYSRDC ユーティリティ』ドキュメントの「デバッグとモニタリング」を参照してください。

192

RDCSIZE - Natural Data Collector 用のバッファのサ

イズ

このNatural プロファイルパラメータでは、SYSRDCユーティリティで使用されるNatural Data Collector 用のバッファサイズを指定します。また、Data Collector のトレース記録機能を制御します。


代わりに、同等のNatural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` を使用することもできます。バッファサイズの指定方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照してください。

可能な設定	2 - 128	KB 単位のバッファサイズ。 Data Collector を（トレース記録なし）で有効にするには、RDCSIZE=2 を指定します。トレース記録も有効にするには、RDCSIZE を 2 より大きい値に設定する必要があります。要求したスペースを利用できない場合、Natural Data Collector は使用できません。
	0	Data Collector を無効にします。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『SYSRDC ユーティリティ』ドキュメントを参照してください。


193 RDNODE (内部使用)

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

194 RDPORT (内部使用)

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

195

RDS - リモートディレクトリサーバーの定義

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、最大10台のリモートディレクトリサーバーを定義できます。各リモートディレクトリサーバーに対して、最大5つのサブパラメータを指定します。

RDSはクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	<code>server-name</code>	サーバー名 (1~8文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。		
	<code>server-node</code>	サーバーノード (1~8文字)。デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。		
	<code>subprogram</code>	インターフェイスとして使用する <code>CALLNAT</code> サブプログラムの名前 (1~8文字、デフォルトは <code>RDSSCDIR</code>)。		
	<code>logon-indicator</code>	L	クライアントは、クライアントの現在のライブラリのライブラリ名を使用して、サーバーへの <code>Natural</code> ログオンを開始します。	
		空白	サーバーログオンは実行されません。	
Windowsプラットフォームに関する注：Lの代わりに、選択ボックスをチェックしてください。				
<code>transport-protocol-name</code>	使用されるトランスポートプロトコル。ACI以外に設定可能な値はなく、これがデフォルトです。			
デフォルト設定	なし	サブパラメータのデフォルトについては、上記を参照してください。		

RDS - リモートディレクトリサーバーの定義

ダイナミックな指定	可	下記を参照してください。
セッション内の指定	不可	

ダイナミック指定の構文は次のとおりです。

1 台のサーバーを使用：

```
RDS=(server-name,server-node-name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)
```

2～10 台のサーバーを使用：

```
RDS=((server-name,server-node  
name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)(server-name,server-node  
name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)...(server-name,server-node  
name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name))
```

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

196

READER - 入力用の z/VSE システム論理ユニット

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural で入力用に使用される z/VSE システム論理ユニットを指定します。

可能な設定	READER=(<i>n, device, ...</i>)	<i>n</i> は、CMSYNIN の場合は 0、CMOBJIN の場合は 1 <i>device</i> は、SYSRDR または SYSIPT
デフォルト設定	READER=(0, SYSRDR, 1, SYSIPT)	デフォルトでは、プライマリ入力ストリーム (CMSYNIN) は SYSRDR から読み込まれ、入力ストリーム (CMOBJIN) は SYSIPT から読み込まれます (必要な場合)。 CMSYNIN または CMOBJIN がディスクファイルまたはテープファイルの場合、関連付けられた READER サブパラメータは無視されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

システム論理ユニット数の上書きは、関連するファイルがカードファイルの場合にのみ適用されます。

197

RECAT - ダイナミックな再カタログ

この Natural プロファイルパラメータでは、現在実行中のプログラム内で定義したグローバルデータエリア定義に矛盾が検出された場合、つまり、プログラム内のグローバルデータエリアが現在使用中のグローバルデータエリアの定義と合致しない場合の Natural の処理を指定します。

可能な設定	ON	<p>重要: このプロファイルパラメータは、バージョン 2.3 以降の Natural オブジェクトにのみ適用されます。</p> <p>バージョン 2.2 プログラムまたはグローバルデータエリアに関する矛盾が検出された場合、エラーメッセージが発行されます。</p> <p>Natural は、自動的にオブジェクトを調整し、システムコマンド CATALOG および SAVE を無効にします。</p> <p>注意: 調整されたオブジェクトが、STEPLIB ライブラリからオブジェクトを呼び出し、そのオブジェクトも調整する必要がある場合、STEPLIB ライブラリからのオブジェクトが呼び出し元オブジェクトのライブラリにコピーされます。</p> <p>注意: Natural Optimizer Compiler でカタログされたプログラムでは、RECAT=ON の設定は利用できません。</p>
	OFF	Natural はエラーメッセージを発行します。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

198 REINP-不正データに対する内部的な REINPUT ステートメントの発行

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、不正データに対する内部的な REINPUT を回避するために使用します。

デフォルトでは、INPUT ステートメントに応答して不正なデータが入力された場合、Natural は内部的な REINPUT ステートメントを自動的に発行します。このパラメータでは、このメカニズムをオフに切り替えることができます。それにより、アプリケーションでこのような入力エラーを独自に処理できるようになります。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ REINP をセッションパラメータ REINP で上書きできます。

可能な設定	ON	不正なデータが入力されたとき、内部的な REINPUT ステートメントが発行されます。	
	OFF	不正なデータが入力されたとき、内部的な REINPUT ステートメントは発行されません。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N		

199

RELO - ストレージスレッドの再配置

このNaturalプロファイルパラメータでは、スレッド環境（CICS、Com-plete、IMS/TM、UTM、およびサーバーとしてのNatural）で端末I/Oの後にNaturalスレッドの再配置を制御します。

可能な設定	ON	端末I/Oの後に元のストレージエリアが別のユーザーによって占有されている場合、Naturalスレッドとその中に含まれるすべてのバッファを別のストレージエリアに再配置できます。
	OFF	再配置は行われません。端末I/Oの後、Naturalスレッドとその中に含まれるすべてのバッファは、同じ仮想アドレスに配置されたままです。 この設定は、CICS、Com-plete、およびサーバー環境にのみ適用されます。他のすべてのスレッド環境では、Naturalはスレッドを同じアドレスに配置したままにすることを保証できません。 CICS に関する注： ■ CICSでTYPE=GETMスレッドを使用する場合、RELO=OFFには、PSEUDOプロファイルパラメータのPSEUDO=OFF設定と同じ効果があります。『TP モニターインターフェイス』ドキュメントの「CICS環境でのNatural」セクションで、TYPE（グループのスレッドタイプ）に関する記載も参照してください。 ■ RELO=OFFの指定は、TYPE=GETMスレッドを使用するCICSでのNaturalサーバーセッションでは無視されます。
	FORCE	Naturalスレッドとその中に含まれるすべてのバッファの別のストレージエリアへの再配置を強制します。この設定は、一部の環境でテスト目的に役立ちます。 この設定はUTMでは適用されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

200

RFILE - 記録用のファイル

この Natural プロファイルパラメータでは、記録（つまり、レコーディング機能で記録されるデータ）の保存場所を指定します。

可能な設定	SPAD	記録はスクラッチパッドファイルに保存されます。（スクラッチパッドファイルが定義されていない場合、記録はシステムファイル FUSER に保存されます。）
	FUSER	記録はシステムファイル FUSER に保存されます。
	FNAT	記録はシステムファイル FNAT に保存されます。
デフォルト設定	SPAD	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

レコーディング機能の詳細については、『ユーティリティ』ドキュメントの「レコーディングユーティリティ」を参照してください。

201 RI-ISN のリスト

この Natural プロファイルパラメータでは、読み込まれてホールド状態のまま更新されなかったレコードの ISN（内部シーケンス番号）をそのままの状態に保持するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	Natural は、(ACCEPT/REJECT ステートメントの WHERE 節の結果、レコードが拒否されたことなどが原因で) ホールド状態のまま更新されなかった各レコードの ISN を解放します。これにより、ホールドキュー内の ISN の数が軽減されます。ただし、ISN を解放するたびに Adabas コールが必要になるため、追加のパフォーマンスオーバーヘッドが発生する可能性があります。
	OFF	ホールド状態になった各レコードの ISN は、トランザクションが終了するまで解放されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

ネスト構造の処理ループでは、RI=ONにより内側の処理ループで解放されるレコードは、外側のループでホールド状態のまま保持されることはありません。

202

RJESIZE - NATRJE バッファの初期サイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、NATRJE バッファの初期サイズを指定します。

Natural ユーティリティ NATRJE（『ユーティリティ』ドキュメントを参照）を使用すると、JCL ジョブを収集して一度にまとめて送信できます。RJESIZE は、送信前の JCL ジョブを保持するバッファの初期サイズを設定するために使用します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して RJESIZE を指定することもできます。

可能な設定	1~2097151	KB 単位のバッファサイズ。初期サイズが十分でない場合、バッファサイズが 8 KB ずつ自動的に拡張されます（必要に応じて、繰り返し行われます）。
	0	NATRJE ユーティリティを無効にします。
デフォルト設定	8	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

203

RM - 修正されたフィールドの再転送

この Natural プロファイルパラメータでは、修正されたフィールドの再転送を制御します。

一部の TP モニタでは、入力データが自動的に大文字に変換されます。Natural の画面最適化では修正されたデータが画面に再転送されるだけであるため、TP モニタによる変換が原因で、修正されたフィールドの入力が再転送されなくなることがあります。

可能な設定	ON	Natural は、修正されたすべてのフィールドを常に送り返します。
	OFF	Natural は、修正されたフィールドが変更されている場合にのみ、そのフィールドを送り返します。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

204 ROSY-システムファイルへの読み取り専用アクセス

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural システムファイル **FNAT**、**FUSER**、**FDIC**、**FSEC** に対する修正を無効にします。

可能な設定	ON	システムファイルに対してデータの書き込み、変更、削除を行うことはできません。Natural は、これらのシステムファイルを修正する操作を実行する代わりに、エラーメッセージを発行します。
	OFF	システムファイルに対してデータの書き込み、変更、削除を行うことができます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

注意:

- システムファイルが読み取り専用 (ROSY=ON) として指定されている場合、Natural ユーティリティ/機能であるレコーディングおよび NATPAGE は使用できません。これらの機能では Natural システムファイル FNAT または FUSER にデータを書き込むためです。
- したがって、これらの一時データを保持するには、スクラッチパッドファイルを割り当てて使用することをお勧めします。スクラッチパッドファイルはオプションであり、マクロ **NFILE** またはプロファイルパラメータ **LFILE** を使用してリカバリ可能として定義する必要があります。その後、上記の機能では、FNAT/FUSER の代わりにこのファイルにデータを書き込みます。
- ROSY=OFF の場合も、レコーディング機能および NATPAGE 機能をデータベーストランザクションロジックとともに使用するときは、スクラッチパッドファイルを定義する必要があります。そうしないと、FNAT/FUSER に予期しない結果が発生することがあるためです。

4. システムファイルが対応するプロファイルパラメータ **FNAT**、**FUSER**、または **FSEC** で読み取り専用として指定されている場合、**ROSY=OFF** を設定することで更新を有効にすることはできません。

205

RPC - リモートプロシージャコールの設定

■ RPC パラメータの構文	506
■ NTRPC マクロの構文	506
■ キーワードサブパラメータ	506
■ RPC パラメータの例	507
■ NTRPC マクロの例	507

このNatural プロファイルパラメータでは、Natural RPC の処理を制御するサブパラメータを指定できます。パラメータモジュール NATPARM の **NTRPC** マクロに対応します。

可能な設定	サブパラメータ	下記の「 キーワードサブパラメータ 」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTRPC を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

RPC パラメータの構文

RPC パラメータの構文は次のとおりです。

```
RPC=(keyword_subparameter1=value,keyword_subparameter2=value,...)
```

keyword_subparameters の名前と値については、以下の「**キーワードサブパラメータ**」を参照してください。

NTRPC マクロの構文

Natural パラメータモジュールの NTRPC マクロの構文は次のとおりです。

```
NTRPC keyword_subparameter1=value,keyword_subparameter2=value,...
```

keyword_subparameter - 下記を参照してください。

キーワードサブパラメータ

次の3つのグループのキーワードサブパラメータが用意されています。

- クライアントとサーバーの両方に適用
(**ACIVERS** | **MAXBUFF** | **RPCSIZE** | **SERVER** | **CPRPC**)

■ サーバーにのみ適用

(LOGONRQ | NTASKS | RPCUCT | SRVCMIT | SRVNAME | SRVNODE | SRVTERM | SRVUSER | SRVWAIT | TRACE | TRANSP)

■ クライアントにのみ適用

(AUTORPC | COMPR | DFS | RDS | RPCSDIR | TIMEOUT | TRYALT)

RPC パラメータの例

クライアント：

RPC=(RPCSIZE=80,MAXBUFF=30,AUTORPC=ON,DFS=(MYSERV,MYNODE,,ACI))

サーバー：

RPC=(RPCSIZE=80,MAXBUFF=30,SRVNAME=MYSERV,SRVNODE=MYNODE,SERVER=ON)

NTRPC マクロの例

クライアント：

```

.....1.....+.....2.....+.....3.....+.....4.....+.....5.....+.....6.....+.....7..
NTRPC RPCSIZE=80, *
      MAXBUFF=30, *
      AUTORPC=ON, *
      DFS=(MYSERV,MYNODE1,,ACI), *
      RDS=((SRVX,NODEX),(SRVY,NODEY)

```

サーバー：

```

.....1.....+.....2.....+.....3.....+.....4.....+.....5.....+.....6.....+.....7..
NTRPC RPCSIZE=80, *
      MAXBUFF=30, *
      SRVNAME=MYSERV, *
      SRVNODE=MYNODE, *
      SERVER=ON

```

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

206

RPCSDIR - サービスディレクトリのライブラリ

スタティクな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、ランタイムにクライアントにより使用される `Natural` ライブラリ（またはその `steplib` の 1 つ）の名前を指定します。このパラメータは、`SYSRPC` ユーティリティ機能であるサービスディレクトリメンテナンスおよびサーバーコマンドの実行によって評価されます。

`RPCSDIR` はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	1~8 文字	有効な <code>Natural</code> ライブラリ名
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

`Natural RPC` の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

207

サイズ

RPCSIZE - Natural RPC で使用されるバッファの

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、Natural RPC で使用されるバッファのサイズを指定します。指定したサイズが十分でない場合、バッファが必要に応じて拡大されます。

RPCSIZE は、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

可能な設定	1 - 2097151	KB 単位のバッファサイズ。
	0	Natural RPC は使用できません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

208

RPCUCT - サブプログラム名の大文字への変換

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、Natural RPC サーバーで実行されるリモート CALLNAT の名前を大文字に変換するかどうかを指定します。

RPCUCT はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	ON	Natural RPC サーバーで実行されるリモート CALLNAT の名前が、CALLNAT が呼び出される前に大文字に変換されます。 このオプションを使用すると、Natural 以外の RPC クライアントで、サブプログラム名に大文字と小文字を混在させることができます。 注意: UNIX、OpenVMS、および Windows プラットフォームでは、暗黙的な大文字への変換が Natural 自体によって前もって行われます。したがって、RPCUCT=ON は、メインフレーム上の Natural RPC サーバー、および UNIX、OpenVMS、Windows プラットフォーム上の Natural RPC サーバーに対応する互換モードになります。
	OFF	Natural RPC サーバーで実行されるリモート CALLNAT の名前は変更されません。名前に小文字が含まれる場合、NAT00082 エラーメッセージが発行されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural RPC の詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

209

RUNSIZE - ランタイムバッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ランタイムバッファのサイズを指定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して **RUNSIZE** を指定することもできます。

可能な設定	10 - 64	KB 単位のバッファサイズ。
デフォルト設定	16	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural ランタイムバッファには、次の項目に関する情報が含まれます。

- 定義済みの STEPLIBS
- ファイル変換テーブル（プロファイルパラメータ **TF**）
- 最新のコマンドのログ情報
- 環境スタック（ユーザー設定に対応）
- アクティブなグローバルデータエリア
- 呼び出されたサブルーチン（サブルーチン名とオブジェクト名）
- 呼び出されたオブジェクト（高速ロケット用のバッファプール内のアドレス）

指定したサイズのランタイムバッファが Natural ユーザーによってすべて使用された場合、呼び出されたオブジェクトに関する情報用のサイズが適宜減らされます。ただし、このサイズが減ると、バッファプールの高速ロケットが可能な数も減ります。そして、サイズが 0 に近づくと、エラーメッセージが発行されます。

210 SA - サウンド端末アラーム

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、端末アラーム機能を使用するかどうかを指定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ SA をセッションパラメータ SA で上書きできます。

可能な設定	ON	ユーザーが入力を促されるたびに端末アラームが鳴ります。 注意: この機能を使用するには、該当する端末用の端末アラームハードウェア機能がインストールされている必要があります。	
	OFF	入力を促すために端末アラームは使用されません。ただし、REINPUT ステートメントの SOUND ALARM オプションでアラームを有効にすることはできます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド:	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

211 SB - 選択ボックス

■ 構文上の考慮事項	520
■ ランタイムの考慮事項	521
■ 機能	522
■ 制限事項	524

INPUT ステートメントの選択ボックスは、メインフレームコンピュータでのみ利用可能です。他のプラットフォームでは、選択ボックスはマップエディタでのみ定義できます。

選択ボックスは入力フィールドに付加することができます。選択ボックスはコーディングをプログラム内で直接行うことができるため、フィールドにヘルプルーチンを添付する方法に代わる最適な選択肢です。ヘルプルーチンと同様に、特別なプログラムは必要ありません。

英字タイプのすべての INPUT 変数に対して、このフィールドが入力か出力かに関係なく、選択ボックス節を定義できます。

構文は次のとおりです。

```
SB=operand1 [,operand1]...
```

operand1 は、選択ボックスを項目で満たすために使用される値オペランドを表します。

オペランド	構文要素	フォーマット	ステートメント参照	ダイナミック定義
<i>operand1</i>	C S A	A	可	不可

SB では、選択ボックス内に表示する値を指定します。

選択ボックスをフィールドに割り当てるには

次の構文例を使用して、Natural プログラムの英字 INPUT フィールドに属性 SB を指定します。

```
INPUT #FLD (SB='value1', #ITEM1, #ITEM2(1:3), #ITEM3(*))
```

以下では次のトピックについて説明します。

構文上の考慮事項

選択ボックスとヘルプルーチンの両方を 1 フィールドに割り当てることができます。

選択ボックスは、INPUT ステートメントのすべての変数フィールドに定義できます。例外は次のとおりです。

システム変数	例：*PROGRAM、*COM
名前付き定数（メインフレームのみ）	DEFINE DATA ステートメントの CONST 節で定義されます。

SB 属性に加えて、他の属性（例：AD または CD）も同様に定義できます。

選択ボックスは、AD=A または AD=M の場合と同様に、修正可能である必要はありません。つまり、AD=0 のように書き込み保護されている出力フィールドにでも、選択ボックス（および選択値）を提供することが可能です。AD=0 を使用する場合、ユーザーは事前に定義された値のセットから選択するように強制されます。これらの値は選択ボックスに表示されます。

ランタイムの考慮事項

選択ボックスの位置

選択ボックスを含むプログラムを実行するとき、選択ボックスは、ヘルプウィンドウに使用される同じ位置決めアルゴリズムに従って画面に配置されます。つまり、選択ボックスのサイズと位置は、フィールドの「近く」に自動的に決定されます。

選択ボックスの属性

フィールドに割り当てられたカラーおよび高輝度属性は、対応する選択ボックスに表示される値にも適用されます。

選択ボックスの編集マスク

編集マスクがフィールドに定義されている場合、その編集マスクはすべての選択ボックスの値に適用されます。

フィールドに編集マスクを定義するには

INPUT ステートメントを使用して、フィールドに編集マスクを定義できます。次のコード例を参照してください。

```
DEFINE DATA  
LOCAL  
1 A(A4)  
END-DEFINE  
MOVE 'ABCD' TO A  
*  
SET KEY PF1 = HELP  
FORMAT KD=ON  
*  
INPUT A (AD=M EM=X.X.X.X SB='1234','WXYZ')  
WRITE A  
END
```

選択ボックスの行サイズ

選択ボックスの行サイズは、ボックスが対応するフィールドの長さに一致します。

選択ボックスに入力された値が選択ボックスの行サイズを超過した場合、値は切り捨てられます。

選択ボックスの値の順序

選択ボックスの値は、SB 属性に指定された順序で表示されます。

機能

選択ボックスを表示する方法

選択ボックスが連結されているフィールドには、インジケータ「V」がフィールドの横に表示されます。

選択ボックスの呼び出し

選択ボックスを開くには

選択ボックスを開くには2つの方法があります。

- V フィールドに疑問符 (?) を入力し、Enter キーを押します。

V フィールドにカーソルを合わせ、ヘルプキー (例: PF1) を押します (そのように定義している場合)。詳細については、次のセクションを参照してください。

選択ボックスを呼び出すヘルプキーを定義するには

選択ボックスを簡単に呼び出せるようにヘルプキー (例: PF1) を定義できます。

そのためには、次のコード行をプログラムに追加します。

```
SET KEY PF1=HELP
```

選択ボックスのスクロール

選択ボックスをスクロールするには2つの方法があります。

- MORE 行にカーソルを合わせ、Enter キーを押します。
- PF キー（例：PF7/PF8）に割り当てられた端末コマンド %W- および %W+ を使用します。

選択ボックスの値の選択

値にカーソルを合わせ、Enter キーを押すと、値が選択ボックスから選択され、フィールドにコピーされます。

選択ボックスの重複行

同じ内容の連続する行は省略されます。

例えば、次のコードにより

```
INPUT #FLD (SB='123', '456', 'XYZ', 'XYZ', 'XYZ', 'ABC', 'DEF')
```

選択ボックスに次の出力が生成されます。

```
123  
456  
XYZ  
ABC  
DEF
```

上記の例では、XYZ は1回だけ表示されます。他のオカレンスは連続しているため、余分であるとみなされます。

ただし、コード行が次のような場合

```
INPUT #FLD (SB='123', 'XYZ', '456', 'XYZ', 'ABC', 'XYZ', 'DEF')
```

選択ボックスに次の出力が生成されます。

```
123
XYZ
456
XYZ
ABC
XYZ
DEF
```

この場合、XYZ の 3 オカレンスは連続していないため、すべて表示されます。

選択ボックスの空行

空行については、最初に出現するもののみが表示されます。後続のすべての空行は省略されません。

制限事項

SB 節のオペランドの数は 20 個に制限されます。

選択ボックスの値の最大数は 248 個です。その制限に達すると、以降の値は表示されません。制限を超過したときにエラーメッセージは発行されません。

212

SCTAB - スキャナ文字

- SCTAB パラメータの構文 526
- NTSCTAB マクロの構文 527
- NTSCTAB マクロの例 527
- SCTAB パラメータの例 528

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれるスキャナ文字タイプテーブル NTSCCTAB 内の定義を上書きできます。NTSCCTAB テーブルでは、次のような文字のプロパティを定義します。

- MASK 機能用のマスク定義に使用される文字
- EXAMINE および SEPARATE ステートメントでデリミタとして認識される文字

SCTAB は、Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTSCCTAB** マクロに対応します。

可能な設定	下記の「SCTAB パラメータの構文」を参照してください。	
デフォルト設定	NATCONFIG のマクロ NTSCCTAB 内で指定	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTSCCTAB を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

SCTAB パラメータの構文

SCTAB パラメータは次のように指定します。

```
SCTAB=(文字1,属性タイプ1,属性タイプ2,...,character2,attribute-type1,attribute-type2,...)
```

character

文字を指定し、その後に属性タイプを指定します。

文字を指定するには、1バイトの文字自体を（アポストロフィで囲んで）指定するか、その文字の 16 進表現として指定します。

attribute-type(s)

指定できる属性タイプは次のとおりです。

UPPER	大文字の英字
LOWER	小文字の英字
NUM	数値
HEX	16進
ALFANUM	英数字
SPECIAL	特殊
NDELIM	非デリミタ

値のリストには複数の文字を指定できます。文字／属性ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

NTSCTAB マクロの構文

NTSCTAB マクロは次のように指定します。

```
NTSCTAB 文字1,属性タイプ1,属性タイプ2,...
NTSCTAB character2,attribute-type1,attribute-type2,... ..
```

上書きする文字ごとに、別々の NTSCTAB マクロを指定する必要があります。

NTSCTAB マクロの例

```
NTSCTAB 5E,LOWER,NDELIM
NTSCTAB 'B',SPECIAL
NTSCTAB 7B,SPECIAL
NTSCTAB 'Ä',UPPER,NDELIM
```

SCTAB パラメータの例

```
SCTAB=(5E,LOWER,NDELIM,'B',SPECIAL,7B,SPECIAL,'Ä',UPPER,NDELIM)
```

213

SENDER - 非同期処理の画面出力先

この Natural プロファイルパラメータは、CICS、Com-plete、IMS/TM、および UTM での Natural にのみ適用されます。

非同期アプリケーションからの出力を表示する場所を指定します。指定した出力先は、ハードコピー出力およびプライマリレポートに適用されます。

可能な設定	1~8 文字	出力先 (例えば、プリンタ)。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

追加のレポートは、DEFINE PRINTER ステートメントで指定した出力先に送信されます (同期オンラインセッションの場合と同様)。

次のプラットフォーム固有の特性が適用されます。

プラットフォーム:	コメント:
CICS	<p>プロファイルパラメータ SENDER では、CICS 一時データ (TD) の出力先、および非同期セッションからの端末出力用の端末またはプリンタを指定します。指定した出力先が存在しない場合、セッション出力は指定した端末またはプリンタに送信されます。指定した端末またはプリンタも存在しない場合、セッションは異常終了します。</p> <p>非同期セッションのデフォルトの端末出力フォーマットは 3270 データストリームです。SENDER 端末指定が 3270 デバイスでない場合、最初の出力ステートメントの前に Natural アプリケーションを正しい端末タイプに切り替える必要があります。そのためには、例えば、プリンタ用の SET CONTROL 'T=PRNT' を指定するか、またはプロファイルパラメータ <code>TTYTYPE=PRNT</code> で始めます。</p>

プラットフォーム:	コメント:
	<p>すべての出力を CSSL などの（スプール）出力先にルーティングする場合、Natural アプリケーションを行モードに切り替える必要があります。そのためには、例えば、SET CONTROL 'T=xxxx' を指定するか、またはプロファイルパラメータ TTYPE=xxxx (xxxx は BTCH または ASYL) で始めます。この場合、他の 2 つのプロファイルパラメータ EJ および INTENS が関連します。</p> <p>EJ=ON を設定した場合、すべての行が先頭に ASA 制御文字を付けてルーティングされます。</p> <p>EJ=OFF を設定した場合、先頭に ASA 制御文字は付けられません。INTENS は 1 に設定する必要があります（特に、EJ=OFF を設定している場合）。</p> <p>CICS 固有の他の機能については、『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「CICS での非同期 Natural 処理」を参照してください。</p>
Com-plete	「Com-plete/SMARTS 環境での Natural の非同期処理」を参照してください。
IMS/TM	<p>プロファイルパラメータ SENDER では、デフォルトの LTERM を指定します。他のプリンタが指定されていない場合、常にこの LTERM が使用されます。NIIBOOT モジュールでは SENDER パラメータを常に動的に定義する必要があります。これは、セッションの開始時に Natural でエラーメッセージを出力するときに重要になります。SENDER パラメータが指定されていない場合、有効な LTERM が存在せず、NATIMS によってセッションが終了させられます。</p>
オープン UTM	<p>プロファイルパラメータ SENDER では、非同期トランザクションの初期化用の ID、つまりトランザクションを非同期として識別する ID を指定します。非同期トランザクションからの出力を出力する場合、SENDER パラメータで指定した設定によって出力先プリンタも識別されます。</p> <p>オープン UTM 固有の他の機能については、『TP モニタインターフェイス』ドキュメントの「UTM での非同期トランザクション処理」を参照してください。</p>

詳細については、プロファイルパラメータ **OUTDEST**、および『オペレーション』ドキュメントの「非同期処理」も参照してください。

214 SERVER-RPC サーバーセッションとしての Natural セッションの開始

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、Natural セッションを RPC サーバーセッションとして開始するかどうかを指定します。

SERVER は、クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。

可能な設定	ON	Natural セッションは RPC サーバーセッションとして開始します。
	OFF	Natural セッションは RPC サーバーセッションとして開始しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

215 SF - フィールド間の空白

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントで作成される Natural レポート上で、列のフィールド設定間に挿入されるデフォルトのスペース数を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ SF をセッションパラメータ SF で上書きできます。

可能な設定	1 - 30	スペースの数。 SFパラメータを0に設定することはできません。つまり、レポートの列間には最低1つの空白文字が必要です。	
デフォルト設定	1		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

『プログラミングガイド』の「列の間隔 - SF パラメータと nX 表記」も参照してください。

216 SG - 符号桁

このセッションパラメータでは、符号桁を数値フィールドに割り当てるかどうかを決定します。

EM（編集モード）パラメータを指定すると、SGパラメータが上書きされます。

可能な設定	ON	符号桁が割り当てられます。	
	OFF	符号桁は割り当てられません。 SG=OFFでは、負の値の数値フィールドでもマイナス記号(-)なしで出力されます。	
デフォルト設定	ON		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE
		適用可能なコマンド：	なし


例：

```
FORMAT SG=OFF
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

217 SI - ダブルバイト文字セットのシフトインコード

この Natural プロファイルパラメータは、ダブルバイト文字セット (DBCS) を使用するアジア諸国にのみ関連するパラメータです。このパラメータは、シフトインコードを指定するために使用します。

 **注意:** なお、プロファイルパラメータ SI は Natural の次回リリースでは使用できなくなります。プロファイルパラメータ SI の機能は、プロファイルパラメータ SOSI でカバーされます。

可能な設定	0F	IBM ハードウェアのシフトインコード。
	29	Fujitsu ハードウェアのシフトインコード。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

シフトインコードは、文字表現のコードがダブルバイトモードから標準 (シングルバイト) モードに戻るポイントを示すために使用されます。ダブルバイト文字表現 (シフトアウトコード) の開始は、プロファイルパラメータ SO で定義された設定によって示されます。

218 SKEY - ストレージ保護キー

この Natural プロファイルパラメータは、Com-plete でのみ適用されます。

Natural を Com-plete と同じストレージ保護キーで実行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural は Com-plete と同じストレージ保護キーで実行されます。
	OFF	Natural は Com-plete とは異なるストレージ保護キーで実行されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

ストレージ保護キーの詳細については、Com-plete のドキュメントを参照してください。

219 SL - ソース行の長さ

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、各Natural ソースコード行で解釈されるようにする文字数を指定します。このパラメータは、システムコマンド EDT で有効になる行モードエディタにも適用されます。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ SL をセッションパラメータ SL で上書きできます。

可能な設定	20 - 250	バッチモード：	データセット CMSYNIN および CMOBJIN の各行で処理する文字数。これらのデータセットの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでのNatural」セクションで、オペレーティングシステム固有の説明を参照してください。
		オンラインモード：	EDT モード（システムコマンド EDT で有効になる）のNatural プログラムエディタを使用するときに解釈されるようにする文字数。
デフォルト設定	72		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	なし
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

220

SLOCK - ソースのロック

この Natural プロファイルパラメータは、Natural ソースメンバの同時更新を処理する方法を指定するために使用します（『エディタ』ドキュメントの「ソースオブジェクトのロック」も参照）。

可能な設定	PRE	<p>ローカルまたは SPoD 環境、Natural ISPF、あるいは混合環境で編集されるソースオブジェクトのロックを有効にします。</p> <p>混合環境で作業している場合は、この設定を使用することをお勧めします。</p> <p>同時更新に対してソースメンバをロックするために、特定のレコードが Natural システムファイル FUSER または FNAT（編集対象のソースメンバが配置されている場所に基づく）に書き込まれます。</p>
	SPOD	<p>ソースオブジェクトのロックは、Natural Single Point of Development (SPoD) をベースとしているリモート開発環境でのみ行われます。この設定は、SPoD でのロックをサポートしている旧 Natural バージョンと互換性があります。</p> <p>同時更新に対してソースメンバをロックするために、特定のレコードが開発サーバーファイル (FDIC) システムファイルに書き込まれます。</p>
	POST	<p>SLOCK=POST を設定すると、編集中のソースオブジェクトがソースワークエリアに読み込まれ、複数のユーザーによる編集が可能になります。ただし、修正を最初に保存したユーザーのみがソースオブジェクトを更新できます。この更新処理は、データベースに保存されたソースオブジェクトのタイムスタンプとソースワークエリアに読み込まれたソースオブジェクトのタイムスタンプを比較対照する形で行われます。他のすべてのユーザーは、ソースを保存しようとする時該当するエラーメッセージを受け取ります。旧バージョンの Natural の SPoD ロックコンセプトとの互換性はありません。</p>
	OFF	<p>すべてのロックメカニズムを無効にします。</p>
デフォルト設定	SPOD	
ダイナミックな指定	可	

セッション内の指定	不可	
-----------	----	--

221 SM-ストラクチャードモードでのプログラミング

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ストラクチャードモードを使用する必要があるかどうかを指定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ設定 SM=OFF をセッションパラメータ SM=ON で上書きできます。

可能な設定	ON	ストラクチャードモード構文の使用を強制します。 注意: プロファイルパラメータ SM によってストラクチャードモード (SM=ON) が指定されている場合、システムコマンド GLOBALS およびセッションパラメータ SM を使用してこの設定を変更しようとするすると拒否されます (「レポーティングモードは使用できません。」)。	
	OFF	ストラクチャードモードまたはレポーティングモードでプログラミングを行うことができます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	なし
		適用可能なコマンド:	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	


Natural Security がインストールされている場合:

- ライブラリのセキュリティプロファイル内のモードオプションの設定では、SM プロファイルパラメータを使用するかどうかを決定します。『Natural Security』ドキュメントの「Programming mode」も参照してください。

- ストラクチャードモードが特定ライブラリに常に有効であるという効果に対して、Natural Security でこのパラメータを無効にすることができます。

222 SO - ダブルバイト文字セットのシフトアウト コード

この Natural プロファイルパラメータは、ダブルバイト文字セット（DBCS）を使用するアジア諸国にのみ関連するパラメータです。このパラメータは、シフトアウトコードを指定するために使用します。

 **注意:** なお、プロファイルパラメータ SO は Natural の次回リリースでは使用できなくなります。プロファイルパラメータ SO の機能は、プロファイルパラメータ SOSI でカバーされます。

可能な設定	0E	IBM ハードウェアのシフトアウトコード。
	28	Fujitsu ハードウェアのシフトアウトコード。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

シフトアウトコードは、文字表現のコードが標準（シングルバイト）モードからダブルバイトモードにシフトするポイントを示すために使用されます。ダブルバイト文字表現（シフトインコード）の終了は、プロファイルパラメータ SI で定義された設定によって示されます。

223 SORT - ソートプログラムの制御

- SORT パラメータの構文 550
- NTSORT マクロの構文 550
- キーワードサブパラメータ 551

この Natural プロファイルパラメータは、SORT ステートメントの処理に使用されるソートプログラムを制御するために使用します。Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTSORT** マクロに対応します。

SORT または NTSORT では、SORT ステートメントの実行時に使用されるソートプログラムの処理を制御する各種オプションを指定できます。

ソートプログラムとしては、Natural の内部プログラム（すべての環境でデフォルト）または外部プログラムを使用できます。使用されるソートのタイプは、キーワードサブパラメータ **EXT** の設定によって異なります。

可能な設定		個々のオプションおよび可能な設定については、下記の「 SORT パラメータの構文 」を参照してください。
デフォルト設定		WRKSIZE=10,STORAGE=MAIN,EXT=OFF,EXTNAME=SORT,EXTEOJ=OFF
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTSORT を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

SORT パラメータの構文

SORT パラメータは次のように指定します。

```
SORT=(WRKSIZE=nnn,STORAGE=medium,EXT=ON/OFF,EXTNAME=name,EXTOPT=(options,...),EXTEOJ=ON/OFF)
```

NTSORT マクロの構文

NTSORT マクロは次のように指定します。

```
NTSORT  
WRKSIZE=nnn,STORAGE=medium,EXT=ON/OFF,EXTNAME=name,EXTOPT=(options,...),EXTEOJ=ON/OFF
```

個々のキーワードサブパラメータについて次に説明します。

キーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。

WRKSIZE | STORAGE | EXT | EXTNAME | EXTOPT | EXTEOJ

WRKSIZE - ソートプログラムで使用されるワークバッファのサイズ

WRKSIZE では、ソートプログラムで使用されるワークバッファのサイズ *nnnnnnn* (KB 単位) を指定します。

設定可能値：	10~2097151、または 0
デフォルト値：	10

WRKSIZE=0 を指定した場合、ソート処理は実行できません。

WRKSIZE で指定したワークバッファには、内部ソート制御データが格納されます。残りのストレージは、レコードを収集およびソートするために使用されます。ソート制御データのサイズは、各種要因 (WRKSIZE 自体、ソートレコードの長さ、ソートキーの数、そのサイズとフォーマット) によって異なるため、形式的な方法で計算することはできません。

STORAGE - ストレージ媒体のタイプ

STORAGE では、Natural の内部ソートプログラムで使用されるストレージ *medium* のタイプを指定します。

一般に、SORT ステートメントでは、最初に WRKSIZE の残りのストレージを使用しようとします。レコードの数がこのストレージを超過した場合、SORT ステートメントではレコードをさらに処理するために中間ストレージを使用しようとします。

MAIN	WRKSIZE の残りのストレージのみが使用され、他の中間ストレージは使用できません。 これはデフォルト設定です。
BP	SORT バッファプールが中間ストレージとして使用されます。下記の注を参照してください。
SD	SD ファイルが中間ストレージとして使用されます。この値は Complete でのみ有効です。
SMARTS	SMARTS ポータブルファイルシステムが使用されます。

Com-plete/SMARTS での SD ファイルに関する注

- ファイルは一時 SD ファイルとして割り当てられます。ファイルはスタックレベルに割り当てられます。つまり、SORT SD ファイルの名前の構文は `&&STsnnn` になります。

<code>&&</code>	一時 SD ファイルのインジケータ
<code>ST</code>	SD ソートファイルの標準接頭辞
<code>S</code>	スタックレベル
<code>nnn</code>	1 回の SORT 実行におけるシーケンス番号

- SMARTS ワークファイルは、SMARTS ポータブルファイルシステム内にあります。パスは SMARTS 環境変数 `$NAT_WORK_ROOT` で指定する必要があります。SORT ワークファイル用に SORT という名前の特別なディレクトリが追加され、ユーザーごとにユーザー ID に基づいて別々のディレクトリが作成されます。結果として得られるディレクトリは `$NAT_WORK_ROOT/sort/userid` になります。SORT ワークファイルの名前は Com-plete での SD ファイルに対応します。

ソートバッファプールの使用方法に関する注

ソートバッファプールを使用する場合、SORT キーワードサブパラメータ `STORAGE=BP` を定義し、定義済みの `WRKSIZE` とは別の追加ストレージにソートバッファプールを使用することを指定します。同時に、プロファイルパラメータ `BPI` またはパラメータマクロ `NTBPI` を使用して、`TYPE= SORT` および `NAME=name` のバッファプールを Natural に認識させる必要があります（例：`BPI=(TYPE= SORT, NAME=XYZ)`）。名前を `BPI` キーワードサブパラメータ `NAME` で指定した場合、グローバルソートバッファプールが参照されます。一方で、ローカルバッファプールは `NAME=' '`（空白）で指定できます。

EXT - 外部ソートプログラムの使用

EXT では、外部ソートプログラムを使用するかどうかを指定します。

ON	外部ソートプログラムが使用されます。外部ソートプログラムは、バッチ環境（IMS/BMP、TSO、TIAM、および CMS を含む）でのみ使用できます。
OFF	Natural SORT プログラムが使用されます（デフォルト）。

EXTNAME - 外部ソートプログラムの名前

このサブパラメータは BS2000/OSD では適用されません。

EXTNAME では、使用する外部ソートプログラムの *name* (1~8 文字) を指定します。デフォルトの名前は SORT です。

EXTOPT - 外部ソートプログラム用の追加オプション

このサブパラメータは BS2000/OSD では適用されません。

EXTOPT では、外部ソートプログラム用の追加の *options* を指定します。

Natural は、必要なフィールドおよびフォーマットパラメータを生成し、それらを外部ソートプログラムに渡します。EXTOPT では、外部ソートプログラムに渡される追加のパラメータを指定できます。パラメータを指定する際は、外部ソートプログラムの制御ステートメント構文の一部として指定する必要があります。

最大 2 つのオプション文字列をスラッシュ (/) で区切って指定できます。最初のオプション文字列は SORT 制御ステートメントに追加され、2 番目のオプション文字列は OPTION 制御ステートメントを構築するために使用されます。スラッシュの前後のオプション文字列を省略することもできます。スラッシュの後のオプション文字列を省略した場合、OPTION 制御ステートメントはまったく生成されません。

オプション文字列全体を一重引用符 ('...') で囲む必要があります。互換性の理由から、オプション文字列を代わりに角カッコで囲むこともできます。

互換性の理由から、先頭または末尾のスラッシュなしの単一のオプション文字列は異なる方法で処理されます。基礎となるオペレーティングシステムに応じて、オプションは次の制御ステートメントに追加されます。

z/OS および VM/CMS :	SORT 制御ステートメント
z/VSE :	OPTION 制御ステートメント

EXTOPT の例：

追加のパラメータは次の例のように指定できます。

```
EXTOPT=(SIZE=E2000000,NOEQUALS,DYNALLOC=(3350,8))
EXTOPT='SIZE=E2000000,NOEQUALS,DYNALLOC=(3350,8) '
EXTOPT='SIZE=E2000000,NOEQUALS,DYNALLOC=(3350,8)/NOCHECK '
EXTOPT='/NOCHECK '
EXTOPT='WORK=4/ '
```

EXTEOJ - エラーが発生した場合の対処

EXTEOJ では、外部ソートプログラムの実行中にエラーが検出された場合の処理を指定します。

ON	エラーが検出された場合、SORT 処理は終了します。ON では、使用する SORT プログラムで E15 および E35 SORT 出口ルーチンの両方からリターンコード 16 を検出できる必要があります。
OFF	エラーが検出された場合、Natural はソートプログラムへのその後のコールを控え、E35 SORT 出口ルーチンに渡される各レコードを無視します（デフォルト）。

224 SOSI - ダブルバイト文字セットのシフトアウト ／シフトインコード

▪ SOSI パラメータの構文	556
▪ 位置指定サブパラメータ	557
▪ 論理シフトアウト／シフトイン文字の変換	557
▪ 変換テーブルの自動適合	558
▪ SOSI プロファイルパラメータと旧 SO および SI プロファイルパラメータの互換性	558
▪ SOSI パラメータの例	559

この Natural プロファイルパラメータは、ダブルバイト文字セット（DBCS）を使用するアジア諸国に関連するパラメータです。

SOSI は、プロファイルパラメータ `SI` および `SO` の代わりとなります。これら 2 つのパラメータは Natural の次回バージョンでは使用できなくなります。

プロファイルパラメータ `CP` がマルチバイトコードページ（MBCS）に設定されている場合、論理シフトイン／シフトアウト文字はコードページで提供され、SOSI は無視されます。

可能な設定	サブパラメータ	下記の「 位置指定サブパラメータ 」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

SOSI パラメータの構文

SOSI パラメータの構文は次のとおりです。

```
SOSI=(logical-shift-out,[physical-shift-out],logical-shift-in,  
[physical-shift-in],[SO/SI-display-length])
```

シフトアウトコードは、文字表現のコードが標準（シングルバイト）モードからダブルバイトモードにシフトするポイントを示すために使用されます。

シフトインコードは、文字表現のコードがダブルバイトモードから標準（シングルバイト）モードに戻るポイントを示すために使用されます。

位置指定サブパラメータ

位置指定サブパラメータについて次に説明します。

<i>logical-shift-out</i>	<p>論理シフトアウト文字は1文字にする必要があります。論理シフトアウト文字の16進表現を指定します。</p> <p>通常、IBMハードウェアには値0Eが使用され、Fujitsuハードウェアには値28が使用されます。</p>
<i>physical-shift-out</i>	<p>物理シフトアウト文字の値は、使用される画面ハードウェアに応じて選択する必要があります。</p> <p>物理シフトアウト文字の長さは1または2バイトにすることができます。物理シフトアウト文字の16進表現を指定します。</p> <p>デフォルト値は論理シフトアウト文字です。</p>
<i>logical-shift-in</i>	<p>論理シフトイン文字は1文字にする必要があります。論理シフトイン文字の16進表現を指定します。</p> <p>通常、IBMハードウェアには値0Fが使用され、Fujitsuハードウェアには値29が使用されます。</p>
<i>physical-shift-in</i>	<p>物理シフトイン文字の値は、使用される画面ハードウェアに応じて選択する必要があります。</p> <p>物理シフトイン文字の長さは1または2バイトにすることができます。物理シフトイン文字の16進表現を指定します。</p> <p>デフォルト値は論理シフトイン文字です。</p>
<i>SO/SI-display-length</i>	<p>画面上で物理シフトアウト／シフトイン文字で占有されるバイト数です。</p> <p>設定可能値は0および1です。デフォルト値は1です。</p> <p>IBMハードウェアには、値1を使用する必要があります。Fujitsuハードウェアには、値0を使用する必要があります。</p>

論理シフトアウト／シフトイン文字の変換

データが画面に転送される前に、論理シフトアウト／シフトイン文字は対応する物理シフトアウト／シフトイン文字に変換されます。

画面上で入力されたデータがNaturalアプリケーションに転送される前に、物理シフトアウト／シフトイン文字は対応する論理シフトアウト／シフトイン文字に変換されます。

変換テーブルの自動適合

コードページサポートが無効な場合（つまり、プロファイルパラメータ CP が CP=OFF に設定されている場合）、論理シフトアウト／シフトイン文字のエントリは、次のマクロおよびプロファイルパラメータによって提供される変換テーブルで更新されます。

テーブル	マクロ	プロファイルパラメータ
標準（プライマリ）出力変換テーブル	NTTAB	TAB
代替（セカンダリ）出力変換テーブル	NTTAB1	TAB1
セッションパラメータ PM が C に設定されている場合に使用されるセカンダリ入力変換テーブル	NTTAB2	TAB2
SYS* 出力変換テーブル	NTTABL	TABL

論理シフトアウト／シフトイン文字の変換後の文字について、Natural起動時にそれぞれの変換テーブルにまだデフォルト値（?=X'6F'）が含まれている場合（つまり、上記のいずれかのマクロまたはプロファイルパラメータによって変更されていない場合）、論理シフトアウト／シフトイン文字が入力および出力用に変換されなくならないように更新されます。

変換テーブルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「変換テーブル」を参照してください。

SOSI プロファイルパラメータと旧 S0 および SI プロファイルパラメータの互換性

サブパラメータの論理シフトアウトはプロファイルパラメータ S0 に対応し、サブパラメータの論理シフトインはプロファイルパラメータ SI に対応します。

旧プロファイルパラメータ S0 および SI も引き続き有効ですが、プロファイルパラメータ SOSI とは相互排他的に使用する必要があります。プロファイルパラメータ S0 および SI の代わりに SOSI プロファイルパラメータを使用することをお勧めします。

S0=xx,SI=yy と指定することは、SOSI=(xx,xx,yy,yy,1) と指定することと同等です。

SOSI パラメータの例

IBM ハードウェアには、 $SOSI=(0E,0E,0F,0F,1)$ を使用する必要があります。これは $SOSI=(0E,,0F,,1)$ と同等です。

Fujitsu ハードウェアには、 $SOSI=(28,28,29,29,0)$ を使用する必要があります。これは $SOSI=(28,,29,,0)$ と同等です。

IBM ハードウェア用に（パラメータ設定 $SOSI=(0E,0E,0F,0F,1)$ を適用して）作成されたアプリケーションを、変更することなく Fujitsu ハードウェア上で実行するには、 $SOSI=(0E,4028,0F,2940,1)$ を使用します。

225

SRETAIN - ソースのフォーマットの保持

この Natural プロファイルパラメータでは、新規および既存の Natural ソースを保存するときのエンコーディングフォーマットを指定します。

『Unicode and Code Page Support』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

可能な設定	ON	既存の Natural ソースの元のコードページが保持されます。 コードページ情報のない既存の Natural ソースが保存されると、コードページ情報は渡されません。 新しい Natural ソースが作成されると、プロファイルパラメータ CP で定義されているデフォルトコードページのフォーマットで保存されます。
	OFF	Natural ソースはデフォルトコードページのフォーマットで保存されます。
	(ON, EXCEPTNEW)	既存の Natural ソースの元のコードページが保持されます。 コードページ情報のない既存の Natural ソースが保存されると、コードページ情報は渡されません。 新しい Natural ソースが作成されると、コードページ情報なしで保存されます。 (ON, EXCEPTNEW) によって、新しく作成された Natural ソースと、コードページをサポートしていない以前の Natural バージョンで作成された既存のアプリケーションとの互換性が保持されます。 注：値 (ON, EXCEPTNEW) は、メインフレームコンピュータのみでサポートされています。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	可	

セッション内の指定	不可	
-----------	----	--

保存または STOW された Natural ソースのコードページの場合、結果のエンコーディングは、プロファイルパラメータ SRETAIN および CP の設定によって決まります。『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「メインフレームでのエディタ、システムコマンド、およびユーティリティのコードページのサポート」を参照してください。

226

SRVCMIT - サーバーコミット時間

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、Natural RPC サーバーが RPC 会話または非会話型の RPC 要求を自動的にコミットする時間を指定します。このパラメータは、プロファイルパラメータ **ETEOP** が ON に設定されている場合にのみ評価されます。

SRVCMIT はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	B	クライアントに応答が送信される前に、Natural RPC サーバーによって自動的にデータベーストランザクションがコミットされます。応答が失敗した場合、データベーストランザクションはすでにコミットされています。
	A	クライアントに応答が正常に送信された後、Natural RPC サーバーによって自動的にデータベーストランザクションがコミットされます。応答が失敗した場合、データベーストランザクションはロールバックされます。
デフォルト設定	B	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

227

SRVNAME - RPC サーバーの名前

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、プロファイルパラメータ `SRVNODE` で指定したノードに登録する RPC サーバーの名前を指定します。

`SRVNAME` はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	1~192 文字	有効なサーバー名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

32 文字までの物理サーバー名または 192 文字までの論理サービス名を指定できます。論理サービス名の場合、`SRVNODE` パラメータでアスタリスク (*) を指定する必要があります (意図的に空にします)。

EntireX Broker ノードの場合、`SRVNAME` の値は、Broker 属性ファイルのサービスエントリの `SERVER` 属性の値に対応します (下記参照)。

```
CLASS=RPC, SERVICE=CALLNAT, SERVER=srvname
```

例：

```
SRVNAME='PRODUCTION_SERVER'      /* physical server name */  
SRVNAME='MY_LOGICAL_SERVICE,MY_SET' /* logical server name */
```

ロケーショントランスペアレンシおよび論理サービス名の詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

228

SRVNODE - ノードの名前

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、RPC サーバーを登録するノードの名前を指定します。

SRVNODE はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	1~192 文字	ノード名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

32 文字までの物理ノード名、192 文字までの論理ノード名、または `SRVNAME` に論理サービス名が含まれることを示すアスタリスク (*) (意図的に空にします) を指定できます。

EntireX Broker ノードの場合、物理ノード名は Entire Net-Work ノードまたは TCP/IP アドレスを参照できます。使用している Broker スタブは命名表記をサポートしている必要があります。ノード名の構造および Broker スタブによるサポートの詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。

次の例は EntireX 表記を基準にしています。

```
SRVNODE=ETB001 /* Entire Net-Work node */
SRVNODE=PCBROKER /* host name for a TCP/IP address */
SRVNODE='157.189.160.95:1958:TCP' /* TCP/IP address with port number */
SRVNODE='tcpip://host.com:1958' /* host name for a TCP/IP address
with port number */
SRVNODE='LOGBROKER=MY_LOGICAL_NODE,MY_SET' /* logical node name */
SRVNODE='*' /* logical service name in SRVNAME */
```

ホスト名を TCP/IP アドレス用に使用する場合、名前を DNS サーバーに認識させる必要があります。または、TCP/IP コンフィグレーションの hosts ファイルに定義する必要があります。

ポート番号を省略した場合、EntireXBroker スタブによってデフォルトのポート番号が使用されるか、ホスト名を使用する必要があります。そして、ホスト名を DNS サーバーに認識させるか、TCP/IP コンフィグレーションの services ファイルに定義する必要があります。

ロケーショントランスペアレンシおよび論理ノード名の詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

229

SRVTERM - サーバー終了イベント

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、Natural RPC サーバーの自動終了を発生させるイベントを指定します。

SRVTERM はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	NEVER	Natural RPC サーバーが自動的に終了することはありません。Natural RPC サーバーを終了するには、『 <i>Natural</i> リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの「 <i>Natural</i> RPC サーバーの終了」および「 <i>EntireX Broker</i> サービスの終了」を参照してください。
	TIMEOUT	RPC 会話の外側で次のクライアント要求を待機している時間を超えた場合、Natural RPC サーバーは自動的に終了します。TIMEOUT は、アタッチマネージャを使用して要求時に Natural RPC サーバーをダイナミックに起動する場合にのみ設定してください。
デフォルト設定	NEVER	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

230

SRVUSER-RPC サーバーレジストリ用のユーザー

ID

スタティクな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、プロファイルパラメータ `SVRNODE` で指定したノード上に RPC サーバーを登録するために必要なユーザー ID を指定します。

EntireX Broker ノードの場合、SRVUSER は EntireX Broker へのログオンにも使用されます。パスワードは、Natural Security（下記の *NSC を参照）から取得されるか、アプリケーションプログラミングインターフェイス `USR2072N` を介して指定されます。

SRVUSER はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	<code>user-ID</code>	有効なユーザー ID（*USER または *NSC）。1~16 文字。
	*USER	SRVUSER を *USER に設定した場合、Natural サーバーは、ノードにログオンするために現在の Natural ユーザー ID（システム変数 *USER を参照）を使用します。
	*NSC	SRVUSER を *NSC に設定し、Natural Security がインストールされている場合、Natural サーバーは、ノードにログオンするために現在の Natural ユーザー ID（システム変数 *USER を参照）および Natural Security でこのユーザーに定義されているパスワードを使用します。
デフォルト設定	<code>timestamp</code>	ユーザー ID を省略した場合、タイムスタンプが使用されます。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

231 SRVWAIT - RPC サーバーの待ち時間

スタティクな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、RPC クライアント要求に対するサーバーの待ち時間（秒数）を指定します。この時間を超過した場合、トランスポート層からRPCサーバーに通知されます。RPCサーバーは、対応するメッセージを `Natural RPC` サーバートレースファイルに書き込み、RPC クライアント要求を引き続き待ちます。

SRVWAIT はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	0 - 32767	待ち時間（秒数）。
デフォルト設定	0	待ち時間無制限。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントを参照してください。

232 SSIZE-エディタによって割り当てられるソース エリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Software AG Editor で使用されるバッファのサイズを決定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` を使用して `SSIZE` 値を指定することもできます。『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照してください。

可能な設定	40 - 512	KB 単位のバッファサイズ。
	0	SSIZE=0 を指定した場合、または要求したスペースを利用できない場合、Software AG Editor は使用できません。
デフォルト設定	64	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	


4 KB（デフォルト）より大きいレコード長でエディタワークファイルを定義した場合は、64 KB より大きい `SSIZE` 値を使用する必要があります。SSIZE 内では、2つのワークファイルレコードバッファが割り当てられています。このため、ワークファイルレコードバッファサイズから 4 KB を引いた値の 2 倍を `SSIZE` に追加する必要があります。例：エディタワークファイルのレコード長が 10 KB であるとします。この場合、少なくとも `SSIZE=76` ($64+2*(10-4)$) を使用します。

SAG エディタワークファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「Software AG Editor の使用」、「エディタワークファイル」を参照してください。

233

STACK - スタックへのデータ／コマンドの配置

この Natural プロファイルパラメータは、Natural スタックにデータ／コマンドを配置するために使用します。

 **注意:** STACK を使用する場合、プロファイル（またはセッション）パラメータ DC、HI、IA、ID、および STACKD でコロン（:）を指定する必要があります。

可能な設定	任意の文字列	下記を参照してください。
デフォルト設定	HELLO	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

スタックには Natural コマンドとユーザー指定コマンドのシーケンスをデータとともに含め、Natural セッションの開始時に実行させることができます。

ユーザーが画面（TP モード）で入力を促される前にコマンドスタックが処理されるか、またはデータが CMSYNIN/CMOBJIN ファイルから読み込まれます。『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの Natural」を参照してください。

スタック処理中に INPUT ステートメントが検出された場合、スタック作成時に必要な入力データがコマンドで提供されていなければ、対応する入力画面が生成されます。スタック処理中に生成されたレポートは、通常どおり表示されます。

各システムコマンドまたはユーザー定義コマンドの後に、オプションとして、コマンド処理中に必要な情報の要求を満たすために使用されるデータが続きます。STACK パラメータのデータとして使用する文字列はカッコで囲む必要があります。コマンドがユーザーコマンド（つまり、ユーザープログラムの名前）の場合、使用するデータによってユーザープログラム内の INPUT ステートメントのデータ要件が解決されます。

表記規則：

- 1 つの INPUT ステートメントの複数の設定は、コンマ（,）で区切られます。

- 複数の INPUT ステートメントのデータは、コロン (:) で区切られます。
- コマンドは、プロファイルパラメータ `STACKD` で定義されるスタックデリミタ文字で区切られます。デフォルト設定はセミコロン (;) です。

例：

```
STACK=(LOGON USER1;UCMD1 A,B;UCMD2 C,D:E;FIN)
STACK=OFF                                     No STACK data.
STACK=UCMND Execute command UCMND           No embedded blanks.
STACK=(CMD DATA:DATA;CMD...)              Place commands/data on stack.
```

一部のコマンド (GLOBALs など) は INPUT によってパラメータを読み込まないため、最初のパラメータのデータ要素からコマンドを区切るには、コロンではなく空白文字を使用する必要があります。

```
STACK='LOGON SYSTEM'
```

マクロアセンブラではカッコ内に埋め込み空白が許可されていないため、スタティックパラメータとして指定するとき、文字列をアポストロフィで囲む必要があります。

234

STACKD - スタックデリミタ文字

この Natural プロファイルパラメータでは、STACK パラメータ用のコマンドデリミタ、および Natural Single Point of Development 環境の Natural 開発サーバー（製品コード：NDV）におけるコマンド入力用のコマンドデリミタとして使用する文字を指定します。

STACK パラメータに指定した値、または Natural 開発サーバーでのコマンド入力として渡されるデータが目的どおり解釈されなくなることを避けるために、データにスタックデリミタ文字のデフォルト値が含まれている場合、STACKD パラメータ値は、渡されるデータに含まれていない文字に設定する必要があります（下記の例を参照）。ID パラメータがセミコロンに設定されている場合、STACKD パラメータをデフォルト文字以外の文字に変更する必要があります。下位互換性の理由から、この制限は STACKD=;（デフォルト設定）に適用されません。

可能な設定	任意の特殊文字	文字は、ID プロファイル/セッションパラメータ（INPUT 区切り文字）、DC プロファイル/セッションパラメータ（小数点文字）、または IA プロファイル/セッションパラメータ（INPUT 割り当て文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。
デフォルト設定	;（セミコロン）	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

指定する文字は一重引用符で囲むことができます。コンマ（,）は個々のパラメータを区切るために使用するため、INPUT区切り文字をコンマにするには、ID=','として指定する必要があります。

例：

```
STACKD='/',ID=';' STACK=(DUMP IOB;+100/FIN)
```

DUMP IOB の後のセミコロンがコマンドデリミタとして解釈されることを避けるために、STACKD は '/' に設定されます。

235

STEPLIB - 追加の STEPLIB ライブラリ

この Natural プロファイルパラメータでは、使用する追加の Natural STEPLIB（連結されたライブラリ）の名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	STEPLIB の名前。
デフォルト設定	SYSTEM	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

詳細については、『Natural の使用』ドキュメントの「Steplib ライブラリ」および「オブジェクト実行の検索順序」を参照してください。

236

SUBSID - z/OS および z/VSE でのサブシステム ID

この Natural プロファイルパラメータは、z/OS および z/VSE でのみ使用できます。使用する Natural サブシステムを識別します。

可能な設定	1~4 文字	Natural サブシステム。 4 文字未満を指定した場合、4 バイト設定になるように空白が追加され ます。
デフォルト設定	NAT4	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

Natural CICS インターフェイス (ROLLSRV、SIPSERV、SUBSID を参照) の目的で、Natural プロファイルパラメータ SUBSID を、プロファイルパラメータ SYS または PROFILE によってパラメータ文字列で指定した場合、あるいは代替パラメータモジュール (プロファイルパラメータ PARM で指定) で指定した場合、その値は無視されます。

Natural サブシステムの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「z/OS での Natural サブシステム」または「z/VSE での Natural サブシステム」を参照してください。

237

SYNERR - 構文エラーの制御

このNaturalプロファイルパラメータでは、構文エラーをエラーランザクションプログラムに渡すかどうかを指定します。

可能な設定	ON	構文エラーはエラーランザクションプログラムに渡されます。
	OFF	構文エラーはエラーランザクションプログラムに渡されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミング インターフェイス	USR4007N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

エラーランザクションプログラムは、プロファイルパラメータ [ETA](#) で定義するか、Natural Security ライブラリプロファイル内で定義します。

238 SYS-ダイナミックプロファイルパラメータセッ トの定義と有効化

■ SYS パラメータの構文	588
■ NTSYS マクロの構文	589
■ NTSYS マクロの例	589

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural パラメータモジュールで事前に定義されているダイナミックプロファイルパラメータセットを有効にすることができます。これにより、Natural セッションの開始用に一連の多数のプロファイルパラメータが繰り返し指定されることを防止できます。また、同様の機能が **PROFILE** にも備わっています。

パラメータモジュール (NATPARM) では、ダイナミックプロファイルパラメータセットを事前に定義するために **NTSYS** マクロを使用します。このようなパラメータセットを識別するために、一意なセット名を付けます。

可能な設定	<i>set-name</i>	Natural パラメータモジュール (NATPARM) の NTSYS で定義されている <i>set-name</i> (1~8 文字)。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	不可	

指定するパラメータセットは、現在有効な Natural パラメータモジュール (NATPARM) で定義する必要があります。例えば、**PARM** パラメータで **SYS** パラメータの前に指定する場合、代替パラメータモジュールで定義します。

代わりに、パラメータセットをパラメータ文字列内の **SYS** の該当位置に指定した場合、その位置で評価されます。

以下では次のトピックについて説明します。

SYS パラメータの構文

SYS パラメータの構文は次のとおりです。

SYS=**セット名**

NTSYS マクロの構文

NTSYS マクロは、次のようにパラメータセットごとに指定します。

```
NTSYS セット名,'パラメータ文字列1','パラメータ文字列2',...
```

セット名

set-name は、後続のパラメータセットを表します。英字で始まる 1~8 文字にする必要があります。

パラメータ文字列

set-name の後に、個々のプロファイルパラメータとその値を指定します。指定できるプロファイルパラメータについては、『パラメータリファレンス』ドキュメントの「[プロファイルパラメータ](#)」を参照してください。

- NTSYS マクロで指定するパラメータセット全体は、ダイナミックパラメータの有効な文字列を構成する必要があります。指定したパラメータ文字列の妥当性は、NATPARM アセンブリ中にはチェックされません。
- *parameter-string1* が 255 文字を超過する場合、2 番目のパラメータ文字列 *parameter-string2* を定義する必要があります（以降も同様）。
- 1 つの NTSYS マクロのすべてのパラメータ文字列は、1 つのパラメータセットに連結されます。
- サブ文字列内のアポストロフィは、2 つのアポストロフィで表されます。

NTSYS マクロの例

```
NTSYS SET1, 'FUSER=(,50),LC=ON,NC=ON,ULANG=2,TQ=OFF',',',STACK=(LOGON ULIB1)'  
NTSYS SET2, 'FUSER=(,51),ULANG=4,WH=ON,KC=ON,STACK=(LOGON ULIB2)'
```


239 SYSCIP - Natural システムファイル用の Adabas

サイファキー

この Natural プロファイルパラメータは、Adabas データベースにのみ適用されます。暗号化オプションでロードされた Natural システムファイル (FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、FSPool) にアクセスするためのデフォルトの Adabas サイファキーを提供します。

可能な設定	8 文字	SYSCIP パラメータで指定したサイファコードは、個々のサイファコードが指定されていないすべての Natural システムファイルに適用されます。
	空白	Natural システムファイルが暗号化されていない場合、SYSCIP を空白に設定してください。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	SYSCIP パラメータを個々のシステムファイルパラメータ FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSPool のいずれかと組み合わせてダイナミックに指定する場合、個々のシステムファイルパラメータの前に SYSCIP パラメータを指定する必要があります。
セッション内の指定	不可	




注意: 個々のシステムファイルのサイファコードは、パラメータ FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSPool で指定できます。

240 SYSPSW - Natural システムファイル用の Adabas パスワード

この Natural プロファイルパラメータは、Adabas データベースにのみ適用されます。

パスワード保護された Natural システムファイル (FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、FSPool) にアクセスするためのデフォルトの Adabas パスワードを提供します。

可能な設定	8 文字	Natural システムファイルがパスワード保護されている場合、ファイルの更新を許可するパスワードを指定する必要があります。 SYSPSW パラメータで指定したパスワードは、個々のパスワードが指定されていないすべての Natural システムファイルに適用されます。 OPRB パラメータを指定した場合、初回の Adabas オープンコール用に SYSPSW パスワードが使用されます。また、必要に応じて、OPRB で指定したすべてのファイルへのアクセスまたは更新を許可する必要があります。
	空白	Natural システムファイルがパスワード保護されていない場合、SYSPSW を空白に設定してください。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	可	SYSPSW を個々のシステムファイルパラメータ FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSPool のいずれかと組み合わせてダイナミックに指定する場合、個々のシステムファイルパラメータの前に SYSPSW を指定する必要があります。
セッション内の指定	不可	

 **注意:** 個々のシステムファイルのパスワードは、プロファイルパラメータ FNAT、FUSER、FDIC、FSEC、および FSPool で指定できます。

241

TAB - 標準出力文字変換

■ TAB パラメータの構文	596
■ NTTAB の構文	596
■ NTTAB マクロの例	597
■ TAB パラメータの例	597

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTTAB 内の定義を上書きできます。NTTAB テーブルは標準出力変換テーブルです。

TAB は、Natural パラメータモジュール NATPARAM の NTTAB マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 TAB パラメータの構文 」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTTAB 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARAM では、代わりにマクロ NTTAB を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

TAB パラメータの構文

TAB パラメータは次のように指定します。

```
TAB=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の文字、ペアの2番目の文字が最初の文字を変換した後の文字です。

各文字を指定するには、1バイトの文字自体を（アポストロフィで囲んで）指定するか、その文字の16進表現として指定します。

NTTAB の構文

NTTAB マクロは次のように指定します。

```
NTTAB a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTTAB マクロの例

```
NTTAB 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

TAB パラメータの例

TAB パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
TAB=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


242

TAB1 - 代替出力変換

■ TAB1 パラメータの構文	600
■ NTTAB1 マクロの構文	600
■ NTTAB1 マクロの例	601
■ TAB1 パラメータの例	601

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NNTAB1 内の定義を上書きできます。NNTAB1 テーブルは、プロファイル/セッションパラメータ PM=C が設定されているときに使用されるセカンダリ文字セットの代替出力変換テーブルです。

TAB1 は、Natural パラメータモジュール NATPARM の NNTAB1 マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 TAB1 パラメータの構文」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NNTAB1 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NNTAB1 を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

TAB1 パラメータの構文

TAB1 パラメータは次のように指定します。

```
TAB1=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の文字、ペアの2番目の文字が最初の文字を変換した後の文字です。

各文字は、1バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2バイトとしてその文字を表す 16 進数を指定します。

NNTAB1 マクロの構文

NNTAB1 マクロは次のように指定します。

```
NNTAB1 a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTTAB1 マクロの例

```
NTTAB1 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

TAB1 パラメータの例

TAB1 パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
TAB1=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


243

TAB2 - 代替入力変換

- TAB2 パラメータの構文 604
- NTTAB2 マクロの構文 604
- NTTAB2 マクロの例 605
- TAB2 パラメータの例 605

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTTAB2 内の定義を上書きできます。NTTAB2 テーブルは、プロファイル/セッションパラメータ PM が PM=C に設定されているときに使用されるセカンダリ文字セットの代替入力変換テーブルです。

TAB2 は、Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTTAB2** マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 TAB2 パラメータの構文」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTTAB2 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTTAB2 を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

TAB2 パラメータの構文

TAB2 パラメータは次のように指定します。

```
TAB2=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の文字、ペアの2番目の文字が最初の文字を変換した後の文字です。

各文字は、1バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2バイトとしてその文字を表す 16 進数を指定します。

NTTAB2 マクロの構文

NTTAB2 マクロは次のように指定します。

```
NTTAB2 a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTTAB2 マクロの例

```
NTTAB2 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

TAB2 パラメータの例

TAB2 パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
TAB2=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


244

TABA1 - EBCDIC から ASCII への変換

▪ TABA1 パラメータの構文	608
▪ NTTABA1 マクロの構文	608
▪ NTTABA1 マクロの例	609
▪ TABA1 パラメータの例	609

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTTABA1 内の定義を上書きできます。このテーブルは、EBCDIC から ASCII への変換に使用されます。

TABA1 は、Natural パラメータモジュール NATPARM の NTTABA1 マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 TABA1 パラメータの構文」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTTABA1 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。 Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTTABA1 を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

TABA1 パラメータの構文

TABA1 パラメータは次のように指定します。

```
TABA1=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の EBCDIC 文字、ペアの 2 番目の文字が EBCDIC 文字を変換した後の ASCII 文字です。

各文字は、1 バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2 バイトとしてその文字を表す 16 進数を指定します。

NTTABA1 マクロの構文

NTTABA1 マクロは次のように指定します。

```
NTTABA1 a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTTABAl マクロの例

```
NTTABAl 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

TABAl パラメータの例

TABAl パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
TABAl=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


245

TABA2 - ASCII から EBCDIC への変換

▪ TABA2 パラメータの構文	612
▪ NTTABA2 マクロの構文	612
▪ NTTABA2 マクロの例	613
▪ TABA2 パラメータの例	613

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTTABA2 内の定義を上書きできます。このテーブルは、ASCII から EBCDIC への変換に使用されます。

TABA2 は、Natural パラメータモジュール NATPARM の NTTABA2 マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 TABA2 パラメータの構文 」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTTABA2 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。 Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTTABA2 を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

TABA2 パラメータの構文

TABA2 パラメータは次のように指定します。

```
TABA2=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の ASCII 文字、ペアの 2 番目の文字が ASCII 文字を変換した後の EBCDIC 文字です。

各文字は、1 バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2 バイトとしてその文字を表す 16 進数を指定します。

NTTABA2 マクロの構文

NTTABA2 マクロは次のように指定します。

```
NTTABA2 a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTTAB2 マクロの例

```
NTTAB2 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

TAB2 パラメータの例

TAB2 パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
TAB2=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


246

TABL - SYS ライブラリ出力変換

- TABL パラメータの構文 616
- NTTABL マクロの構文 616
- NTTABL マクロの例 617
- TABL パラメータの例 617

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTTABL 内の定義を上書きできます。NTTABL テーブルは、SYS... ライブラリ内のプログラムによって生成される出力を変換するために使用されます。

TABL は、Natural パラメータモジュール NATPARM の NTTABL マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 TABL パラメータの構文 」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTTABL 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTTABL を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

TABL パラメータの構文

TABL パラメータは次のように指定します。

```
TABL=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の文字、ペアの2番目の文字が最初の文字を変換した後の文字です。

各文字は、1バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2バイトとしてその文字を表す 16 進数を指定します。

NTTABL マクロの構文

NTTABL マクロは次のように指定します。

```
NTTABL a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTTABL マクロの例

```
NTTABL 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

TABL パラメータの例

TABL パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
TABL=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```

247 TC - 末尾文字

このセッションパラメータで、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力のすぐ右側に表示される末尾の文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

パラメータ TC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、「*Natural* プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 末尾の文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。	
デフォルト設定	なし		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT
		適用可能なコマンド：	なし

例：

```
FORMAT TC=*  
DISPLAY (TC='*B*')
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

248 TD - 時差

この Natural プロファイルパラメータでは、コンピュータセンタの時刻／日付ではなく実際のローカル時刻／日付の使用を保証するために、Natural時刻／日付の設定に適用する時差を指定します。このパラメータは、リモートノードがコンピュータネットワークで使用される環境に適用できます。

可能な設定	AUTO	Natural では、物理（ストアクロック）および論理（システム環境）マシンタイムを比較し、2つの差異をTDパラメータの設定として使用します。したがって、時間の変更をNaturalに適用するためには（例えば、夏時間と冬時間の切り替え）、論理マシンタイムをリセットするだけで十分です。
	+/- hh (+/- hh, mm) (+/- hh, mm, ss)	(-23,59,59) から (+23,59,59) への時間、分、秒。プラス記号（省略可能）またはマイナス記号は、TD値を加算するか減算するかを示します。 指定した時間を物理マシンタイムに加算するか、マシンタイムから減算することで、Natural で使用する時刻／日付が設定されます。
	1~32 文字	使用するタイムゾーンの名前。NATCONFIG モジュールの NTTZ マクロで有効なタイムゾーンとして定義する必要があります。「コンフィグレーションテーブル - モジュール NATCONFIG」を参照してください。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。


例：

```
TD=6           (6 hours ahead)
TD=(5,30)      (5 hours and 30 minutes ahead)
TD=(-6,12,30)  (6 hours, 12 minutes and 30 seconds behind)
TD='USA-EST'   (eastern time zone as defined in NTTZ macro)
```

z/VSE 固有の情報：VSE タイプのオペレーティングシステムでは、// ZONE および //DATE JCL ステートメントは、TD=AUTO のときに有効になります。これはプロファイルパラメータ DD の設定にも影響します。プロファイルパラメータ YD および DD も参照してください。

249 TF・データベースID／ファイル番号の変換

■ TF パラメータの構文	625
■ NTTF マクロの構文	625
■ TF パラメータの例	625
■ NTTF マクロの例	625

 **注意:** このパラメータはユーザーファイルにのみ適用されます。システムファイルには適用されません。

この Natural プロファイルパラメータは、アプリケーションの実行中にデータベース ID / ファイル番号を別のデータベース ID / ファイル番号に変換するために使用します。パラメータモジュール NATPARM の NTTF マクロに対応します。

可能な設定	<i>production-DBID</i>	0~254 または 256~65535 の範囲にする必要があります。あるいは、すべての DBID を表すアスタリスク (*) にすることもできます。データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています (プロファイルパラメータ LFILE を参照)。
	<i>production-FNR</i>	1~65535 の範囲、またはすべての FNR を表すアスタリスク (*) にする必要があります。
	<i>test-DBID</i>	0~254 または 256~65535 の範囲にする必要があります。あるいは、DBID を変更しないまま残すアスタリスク (*) にすることもできます。
	<i>test-FNR</i>	1~65535 の範囲、または FNR を変更しないまま残すアスタリスク (*) にする必要があります。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTTF を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1034N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。
	USR2005N *	

この機能は、実稼働環境でアプリケーションを開発するときに関連します。この機能により、テストデータベースでアプリケーションを開発し、完了したアプリケーションを本番データベースに転送できます。この際、アプリケーションを変更したり再コンパイルしたりする必要はありません。Natural オブジェクトは本番 DBID/FNR でカタログされます。ただし、データベースアクセスが実行されるたびに、TF パラメータ指定に応じて、テスト DBID/FNR に転送されます。つまり、テストデータベースが使用されます。言い換えると、実際の稼働環境で稼働データではないデータを使ってテストを実行できます。

TF パラメータまたは NTTF マクロは、ファイル番号の組み合わせを変更するために、複数回指定できます。

以下では次のトピックについて説明します。

TF パラメータの構文

TF プロファイルパラメータは次のように指定します。

```
TF=(本番 DBID,本番 FNR,テスト DBID,テスト FNR)
```

NTTF マクロの構文

NTTF マクロは次のように指定します。

```
NTTF 本番 DBID,本番 FNR,テスト DBID,テスト FNR
```

TF パラメータの例

```
TF=(777,39,17,88),TF=(251,*,9,*)
```

NTTF マクロの例

Natural パラメータモジュールで同じ値を指定した場合：

```
NTTF 777,39,17,88  
NTTF 251,*,9,*
```


250

THSEPCH - 千桁単位セパレータ文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ランタイムに千桁単位セパレータとして使用する文字を指定します。編集マスクのダイナミック千桁単位セパレータは、この千桁単位セパレータ文字で置き換えられます。



注意: Naturalソースでは、ダイナミック千桁単位セパレータは常にコンマ (,) またはピリオド (.) で表されます。

可能な設定	任意の文字	ランタイムに、ダイナミック千桁単位セパレータはこの文字で置き換えられます。 コンマは個々のパラメータを区切るために使用するため、千桁単位セパレータ文字をコンマにするには、引用符で囲む必要があります。つまり、ダイナミックパラメータ機能を使用するとき THSEPCH=' ,' と指定します。 千桁単位セパレータ文字を引用符にするには、2つの引用符を引用符で囲んで指定する必要があります。つまり、THSEPCH=''' ' と指定します。	
デフォルト設定	, (コンマ)	デフォルトでは、コンマが千桁単位セパレータとして使用されます。	
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	なし
		適用可能なコマンド:	GLOBALS

以下の項目も参照してください。

- 『システムコマンド』ドキュメントの、システムコマンド COMPOPT のオプション THSEP に関する項目。
- プロファイルパラメータ CMPO またはマクロ NTCMPO のキーワードサブパラメータ THSEP
- 『プログラミングガイド』の「セパレータ文字の表示方法のカスタマイズ」

251 TIMEOUT - RPC サーバーレスポンスに対する待ち時間

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、RPC サーバーレスポンスに対するクライアントの待ち時間（秒数）を指定します。この時間を超過した場合、リモートプロシージャコールは対応するエラーメッセージで終了します。

TIMEOUT はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	0~32767	秒
デフォルト設定	55	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	この値はランタイムに、SYSRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用して上書きできます。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

252

TMODEL - IBM 3270 端末モデル

この Natural プロファイルパラメータは、IBM メインフレームまたは Natural Web I/O インターフェイスにのみ適用されます。

CICS では、端末画面サイズが CICS 端末コントロールテーブルで定義されるため、端末にバインドされているセッションに対してはこのパラメータは無視されます。

TMODEL では、オンライン環境（例えば、IMS TM）用の IBM 3270 端末モデル番号を制御します。端末画面の行と列の数を決定するために使用します。また、任意のオペレーティングシステム環境の Natural 開発サーバーおよび Natural Web I/O インターフェイスサーバーで、Web I/O インターフェイスの端末画面サイズを定義するために使用することもできます。詳細については、『Natural Development Server』ドキュメントの「Configuring the Natural Development Server」、または『Natural Web I/O Interface』ドキュメントを参照してください。

可能な設定	0	画面サイズは、環境依存のドライバモジュールによって決定されます。可能な場合、画面サイズ情報がそのサブシステムから取得されます。可能でない場合、デフォルトのモデル2の定義が、例えばIMSTMなどで使用されます。 Natural Web I/O インターフェイスを使用している場合、デフォルトの画面サイズは 43 行と 132 列です。
	2	画面サイズは 24 行と 80 列です。
	3	画面サイズは 32 行と 80 列です。
	4	画面サイズは 43 行と 80 列です。
	5	画面サイズは 27 行と 132 列です。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	




注意:

1. TMODEL 指定が物理端末画面サイズと非互換の場合、出力データが正しく表示されないか、ハードウェアエラーが発生することがあります。
2. 端末画面サイズは、Natural で使用される端末 I/O バッファに必要なストレージに直接影響します。

253 TPF（内部使用）

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

254

TQ - 引用符の変換

このパラメータは、プロファイルパラメータ **CMPO** のサブパラメータ TQMARK で置き換えられています。

255

TRACE - Natural RPC サーバーのトレースレベル

の定義

スタティックな指定では、このパラメータは `NTRPC` マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ `RPC` のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、RPCトレース機能を有効にし、使用するトレースレベル n を決定します。詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントの「サーバートレース機能の使用」を参照してください。

TRACE はサーバーサイドでのみ指定されます。

可能な設定	0	トレースされません。
	1	メッセージのみ (Natural エラーを含む) がトレースされます。
	(1,E)	エラーが発生した場合にのみ、メッセージがトレースされます。
	2	メッセージおよびクライアントに対する送受信データがすべてトレースされます。
	(2,E)	エラーが発生した場合にのみ、メッセージおよびクライアントに対する送受信データがトレースされます。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

値 3~9 も受け入れられます。これらの値は将来使用するためのもので、TRACE=2 のように動作します。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

256

TRACE - トレース対象コンポーネントの定義

■ TRACE パラメータの構文	640
■ NTTRACE マクロの構文	641
■ TRACE パラメータの例	641
■ NTTRACE マクロの例	641

この Natural プロファイルパラメータは、デバッグ用として Software AG の内部で使用することを主に目的としています。どのコンポーネントについてトレースデータを書き込むかを定義するために使用できます。トレース記録は有効にはなりません。

トレース記録は、プロファイルパラメータ **ITRACE** (内部トレース) および **ETRACE** (外部トレース) で有効にするか、セッション中に対応する端末コマンド **%TRI** および **%TRE** で有効にすることができます。

 **注意:** このパラメータは、必ず事前に Software AG サポートに相談したうえで使用してください。

TRACE は、Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTTRACE** マクロに対応します。

可能な設定	<i>trace-ID</i> のリスト	<i>trace-ID</i> (それぞれ1~8バイト) では、トレース対象の Natural コンポーネントの名前を定義します。コンポーネント名は大文字で入力する必要があります。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTTRACE を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

複数の TRACE パラメータ指定の設定リストは連結されません。つまり、TRACE パラメータは、前に指定した TRACE パラメータと NTTRACE マクロ定義を上書きします。

以下では次のトピックについて説明します。

TRACE パラメータの構文

TRACE パラメータは次のように指定します。

```
TRACE=(trace-ID1,trace-ID2,...)
```

NTTRACE マクロの構文

NTTRACE マクロは次のように指定します。

```
NTTRACE trace-ID1,trace-ID2,...
```

NTTRACE マクロの複数指定は1つのトレースリストに連結されます。

TRACE パラメータの例

```
TRACE=(NATGETM,NATFREM,DYNPARMS)
```

この例では、Natural ニュークリアスコンポーネントの「ストレージ確保」、「ストレージ解放」、「ダイナミックパラメータ評価」について書き込むトレースを定義しています。

NTTRACE マクロの例

Natural パラメータモジュールで同じ値を指定した場合：

```
NTTRACE NATGETM,NATFREM,DYNPARMS
```

257

TRANSP - サーバートランスポートプロトコル

スタティクな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、使用するサーバートランスポートプロトコルを決定します。ACI を使用する場合、トランスポートメソッドも指定できます。

TRANSP はサーバースайдでのみ指定されます。

可能な設定	ACI	ACI が使用されます。トランスポートメソッドは EntireX Broker で定義されます。
	(ACI, TCP)	ACI が TCP/IP と組み合わせて使用されます。
	(ACI, NET)	ACI が Entire Net-work と組み合わせて使用されます (つまり、Adabas プロトコルを使用)。
	(ACI, TCP-NET)	ACI を TCP と組み合わせて使用しようとしています。利用できない場合、ACI は NET と組み合わせて使用されます。
	(ACI, NET-TCP)	ACI を NET と組み合わせて使用しようとしています。利用できない場合、ACI は TCP と組み合わせて使用されます。
デフォルト設定	ACI	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

SRVNODE で完全なノード名を指定できるようになったため、TRANSP を使用する必要はなくなりました。ただし、互換性の理由で引き続きサポートはされています。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

258

TRYALT - 代替サーバーアドレスの試行

スタティックな指定では、このパラメータは **NTRPC** マクロのキーワードサブパラメータとして利用可能です。ダイナミックな指定では、このパラメータはプロファイルパラメータ **RPC** のキーワードサブパラメータとして利用可能です。

このパラメータでは、RPC クライアントに代替サーバーで RPC 要求を実行させるかどうか (ON/OFF) を決定します。詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントの「RPC サーバーアドレスの指定」を参照してください。

TRYALT はクライアントサイドでのみ指定します。

可能な設定	ON	指定したノードで要求を実行できなかった場合、RPC クライアントはその要求を送信する代替サーバーアドレスを検出しようとします。
	OFF	代替サーバーを使用しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	この値はランタイムに、SYSRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用して上書きできます。

詳細については、『*Natural* リモートプロシージャコール (RPC) 』ドキュメントを参照してください。

259 TS-システムライブラリでプログラムからの出力を変換

⚠ 重要: TS パラメータはプライマリ出力 (CMPRINT) にのみ適用されます (『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの Natural」を参照)。

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural システムライブラリ (つまり、名前が SYS で始まるライブラリ) からの出力を変換テーブルに基づいて変換するために使用します。この変換は、非標準の小文字を使用する地域 (例えば、中東諸国または極東諸国) で必要になることがあります。

英語のテキストが表示される場合、エラーメッセージまたは警告が変換されます。ローカル言語 (例えば、ヘブライ語) のテキストが表示される場合、大文字には変換されません。メッセージと警告の変換は、プログラムの実行元のライブラリには依存しません。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ TS をセッションパラメータ TS で上書きできます。

可能な設定	ON	出力は変換されます。 TS=ON を指定した場合、プロファイルパラメータ LC=OFF とセッションパラメータ AD=T (両方とも入力を大文字に変換) は無視されます。これらのパラメータによって、特殊文字セットの変換が適切に行われなくなるためです。	
	OFF	出力は変換されません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド:	GLOBALS

アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。
-------------------------	----------	--



注意: 変換テーブルは、`NTTABL` マクロまたは対応するダイナミックプロファイルパラメータ `TABL` で変更できます。

IMS/TM での Natural メッセージに対する TS=ON のサポート

Natural セッションで TS=ON が指定されている場合、IMS/TM での Natural メッセージがすべて大文字に変換されます。

RPC サーバーのトレースに対する TS=ON のサポート

Natural RPC サーバーセッションで TS=ON が指定されている場合、Natural RPC サーバートレースのメッセージがすべて大文字に変換されます。クライアント間のデータのトレースに TS=ON の影響はなく、何も変更されることはありません。

大文字への変換を行う他のパラメータ

TS=ON を適用することのほか、いくつかの Natural コンポーネントには、TS パラメータの設定を（まだ）使用できない場合でも、メッセージを大文字に変換するための UCTRAN パラメータが用意されています。これらのコンポーネントは次のとおりです。

- 認可サービスマネージャ
- ロールサーバー
- z/OS および z/VSE でのグローバルバッファプールマネージャ
- Natural Com-plete/SMARTS インターフェイス
- Natural リモートプロシージャコール

『Natural リモートプロシージャコール (RPC)』ドキュメントの z/OS バッチモードでの起動パラメータおよび CICS での起動パラメータを参照してください。

Natural 開発サーバーについては、同様の機能を持つコンフィグレーションパラメータ `UPPERCASE_SYSTEMMESSAGES` を使用できます。詳細については、『Natural Development Server』ドキュメントの「Configuring the Natural Development Server」を参照してください。

260

TSIZE - Adabas Text Retrieval 用のバッファのサイ

ズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Adabas Text Retrieval 機能で使用されるバッファのサイズを指定します。


代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して TSIZE 値を指定することもできます。

可能な設定	1~2097151	KB 単位のバッファサイズ。 要求したスペースを利用できない場合、Adabas Text Retrieval 機能は使用できません。
	0	Adabas Text Retrieval 機能は使用されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

261 TTYPE - 端末タイプ

このNaturalプロファイルパラメータでは、使用する端末タイプを指定できます。この情報が自動的に提供されないTP環境でこのパラメータを指定すると、Naturalで該当する端末タイプを操作するために属性シーケンス用の適切なコンバートルーチンを有効にすることができるようになります。

可能な設定	1~4文字	TTYTYPEパラメータで指定する設定は、NATCONFIGモジュールのNTDVCEマクロで有効な端末デバイスタイプとして定義されている必要があります。「コンフィグレーションテーブル-モジュールNATCONFIG」を参照してください。
デフォルト設定	IBM	3270
	Siemens	PDNで定義されている設定（パラメータT975Xで上書きされない場合） （Naturalの『TPモニタインターフェイス』の「TIAMでのNatural」で「マクロNAMTIAMのパラメータ」を参照）。
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	可	TTYTYPEパラメータの機能は、端末コマンド%T=の機能と同じです。


 **注意:** TTYTYPEパラメータを使用する場合、端末タイプを設定するために、セッションの開始時にSET CONTROL 'T=...'ステートメントを含むプログラムを実行する必要がなくなります。

262 UC - 下線付き文字

このセッションパラメータでは、次の項目に対する下線付き文字を決定します。

- DISPLAY ステートメントで生成される列ヘッダー
- UNDERLINED オプション付きの WRITE TITLE/WRITE TRAILER ステートメントで生成されるページタイトル/トレーラ

可能な設定	任意の文字	下記の注も参照してください。	
	OFF		
デフォルト設定	- (ハイフン)		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT WRITE TITLE WRITE TRAILER
		適用可能なコマンド：	なし

 **注意:** 列ヘッダーを下線付きにしない場合は次のオプションを使用します。

- UC=- 下線の代わりに空行が出力されます。
- UC=OFF - ヘッダー行の下に空行は出力されずにフィールド値が出力されます。

UC=OFF は DISPLAY ステートメントのステートメントレベルでのみ指定できます。この場合、そのステートメントの個々のフィールドに対しては他の UC 指定を行うことはできません。

例：

```
FORMAT UC=*  
DISPLAY (UC= ) NAME AGE (UC=+)
```

『プログラミングガイド』の「タイトルおよびヘッダーの下線付き文字-UC パラメータ」も参照してください。

263

UDB - ユーザーデータベース ID

この Natural プロファイルパラメータでは、ランタイムにデータベースアクセス用に使用する DBID を指定します。Natural オブジェクトの実行時に、UDB パラメータで指定したデータベース ID によって DBID 0 が置き換えられます。

可能な設定	0~65535、255 は除く	有効なデータベース ID。データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
デフォルト設定	FUSER に適用可能なデータベース ID	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N USR1040N *	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。




注意:

1. DBID 0 および UDB パラメータで選択するデータベースは同じタイプ（例えば、ADA/ADA、SQL/SQL、または XML/XML）である必要があります。
2. 使用されている DDM で DBID が指定されていない場合、UDB プロファイルパラメータで指定された DBID がアクセスするデータベースを決定します。したがって、複数の FUSER ファイルを使用しなくても、異なるユーザー環境を実現できます。
3. DDM で DBID が指定されておらず、UDB プロファイルパラメータが指定されていない場合、FUSER システムファイルに適用される DBID が使用されます。

264 ULANG - ユーザー言語

この Natural プロファイルパラメータでは、日付編集マスク、システムメッセージ、ユーザーメッセージ、ヘルプテキスト、ヘルプルーチン、および複数言語マップに使用する言語を指定します。Natural システム変数 *LANGUAGE を設定するために使用します。

 **注意:** プロファイルパラメータ CP が ON に設定されている場合の言語コード関連の適合に関する注記も参照してください。

可能な設定	1 - 60	言語コード。 例えば、1 は英語、2 はドイツ語、3 はフランス語に割り当てられます。 言語コードの詳細なリストについては、*LANGUAGE 変数に関するドキュメントの表を参照してください。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	
アプリケーションプログラミング インターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

セッション内では、端末コマンド %L= を使用して言語コードを指定できます。

以下の項目も参照してください。

- 『オペレーション』ドキュメントの「コンフィグレーションテーブル - モジュール NATCONFIG」（言語インジケータと可能な設定の詳細について）
- 『プログラミングガイド』の「画面設計」の「スキル別ユーザーインターフェイス」

265

UPSI - z/VSE ユーザープログラムスイッチ

この Natural プロファイルパラメータは、z/VSE での Natural でデバッグを行うために使用します。

『オペレーション』ドキュメントの「z/VSE での Natural のデバッグ機能」も参照してください。

z/VSE UPSI システム制御ステートメントに対応する Natural z/VSE インターフェイスの UPSI 設定を指定します。UPSI プロファイルパラメータは、UPSI システム制御ステートメント設定によって副作用が生じる場合に特に関連します。副作用とは、この設定がフロントエンド Natural などのための他のプログラム、または Natural から呼び出されるプログラムでは異なる意味を持つという点についてです。

可能な設定	1~8 文字	文字 0、1、X の任意の組み合わせ。
デフォルト設定	XXXXXXXX	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

UPSI 文字列の構文は、z/VSE UPSI システム制御ステートメントの構文と同じです。

Natural z/VSE バッチインターフェイスは、JCL の UPSI 設定を取得し、次のルールに従って UPSI プロファイル設定をマージします。

0	対応するビットは 0 です。
1	対応するビットは 1 です。
X	対応するビットは変更されません。

266 USER - プロファイルパラメータ文字列とモ

ジュールの使用制限

- USER パラメータの構文 663
- NTUSER マクロの構文 663
- NTUSER マクロの例 663
- USER パラメータの例 663

この Natural プロファイルパラメータでは、SYSPARM プロファイル、NTSYS マクロ、またはパラメータデータセット (CMPRMIN) で指定されたダイナミックパラメータ文字列の使用を制限できます。また、代替パラメータモジュール (NATPARM) を制限することもできます。

可能な設定	ユーザー ID のリスト	後続指定のプロファイルパラメータ文字列を使用することを許可するユーザーの ID。指定したユーザーのみがそのパラメータ文字列を使用できるようになります。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。代替パラメータモジュール (NATPARM) の使用を制限するには、代わりに対応するマクロ NTUSER を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

USER パラメータは、その後に指定されたダイナミックパラメータの文字列にのみ適用されます。NTUSER マクロは、それが指定されたパラメータモジュールに適用されます。環境依存 Natural ニュークリアスにリンクされたデフォルトの Natural パラメータモジュールは制限できません。

ダイナミックプロファイルパラメータが評価され、USER パラメータが見つかったら、Natural は現在のユーザー ID (つまり、システム変数 *INIT-USER の現在の設定) が、USER パラメータで指定されたユーザー ID のリストに存在するかどうかをチェックします。存在しない場合、ユーザーは対応するエラーメッセージを受け取り、ダイナミックプロファイルパラメータの処理が即座に終了します。

代替パラメータモジュールを使用する場合、Natural は、PARM パラメータで指定された代替パラメータモジュールをロードし、現在のユーザー ID (つまり、システム変数 *INIT-USER の現在の設定) が、代替パラメータモジュールの NTUSER マクロで指定されたユーザー ID のリストに存在するかどうかをチェックします。存在しない場合、ユーザーは対応するエラーメッセージを受け取り、代替パラメータモジュールは破棄されます。

次の項目の使用を制限するには

■ SYSPARM プロファイル

USER パラメータをプロファイル内の最初のパラメータとして指定します。USER パラメータで指定したユーザーのみが、プロファイル内の後続のプロファイルパラメータ文字列 (つまり、プロファイル全体) を使用できるようになります。

■ NTSYS マクロまたは CMPRMIN データセットで定義されたパラメータ文字列

USER パラメータをパラメータ文字列内の最初のパラメータとして指定します。

■ 代替パラメータモジュール

代替パラメータモジュールでマクロ NTUSER を指定します。

以下では次のトピックについて説明します。

USER パラメータの構文

USER パラメータの構文は次のとおりです。

```
USER=(user-id1,user-id2,...)
```

NTUSER マクロの構文

NTUSER マクロは Natural パラメータモジュールで次のように指定します。

```
NTUSER user-id1,user-id2,user-id3,...  
NTUSER user-id4,user-id5,...  
...
```

NTUSER マクロの例

次の例では、Natural パラメータマクロを保護しています。


```
NTPRM ...  
...  
NTUSER ADMIN1,ADMIN2
```

USER パラメータの例

```
USER=(ADMIN1,ADMIN2),FNAT=(12,177,SECPASSW,74832055)
```


267 USERBUF (内部使用)

このパラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

 **注意:** その設定を変更しないでください。

268

UTAB1 - 小文字から大文字への変換

■ UTAB1 パラメータの構文	668
■ NTUTAB1 マクロの構文	668
■ NTUTAB1 マクロの例	669
■ UTAB1 パラメータの例	669

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTUTAB1 内の定義を上書きできます。NTUTAB1 テーブルは、小文字から大文字への変換に使用されます。

UTAB1 は、Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTUTAB1** マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 UTAB1 パラメータの構文」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTUTAB1 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTUTAB1 を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

UTAB1 パラメータの構文

UTAB1 パラメータは次のように指定します。

```
UTAB1=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の小文字、ペアの2番目の文字が変換後の大文字です。

各文字は、1バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2バイトとしてその文字を表す 16 進数を指定します。

NTUTAB1 マクロの構文

NTUTAB1 マクロは次のように指定します。

```
NTUTAB1 a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTUTAB1 マクロの例

```
NTUTAB1 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

UTAB1 パラメータの例

UTAB1 パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
UTAB1=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


269

UTAB2 - 大文字から小文字への変換

■ UTAB2 パラメータの構文	672
■ NTUTAB2 マクロの構文	672
■ NTUTAB2 マクロの例	673
■ UTAB2 パラメータの例	673

この Natural プロファイルパラメータでは、コンフィグレーションモジュール NATCONFIG に含まれる変換テーブル NTUTAB2 内の定義を上書きできます。NTUTAB2 テーブルは、大文字から小文字への変換に使用されます。

UTAB2 は、Natural パラメータモジュール NATPARM の **NTUTAB2** マクロに対応します。

可能な設定		下記の「 UTAB2 パラメータの構文」を参照してください。
デフォルト設定		NATCONFIG のマクロ NTUTAB2 内で指定
ダイナミックな指定	可	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。Natural パラメータモジュール NATPARM では、代わりにマクロ NTUTAB2 を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

UTAB2 パラメータの構文

UTAB2 パラメータは次のように指定します。

```
UTAB2=(a1,a2,b1,b2,c1,c2,...)
```

文字のペアを指定します。ペアの最初の文字が変換前の大文字、ペアの2番目の文字が変換後の小文字です。

各文字は、1バイトとしてその文字自体を指定するか（その場合はアポストロフィで囲みます）、2バイトとしてその文字を表す16進数を指定します。

NTUTAB2 マクロの構文

NTUTAB2 マクロは次のように指定します。

```
NTUTAB2 a1,a2,b1,b2,c1,c2,...
```

NTUTAB2 マクロの例

```
NTUTAB2 5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü'
```

この例では、H'5E' で表される文字が 'Ä' に変換され、'ö' が H'78' で表される文字に変換されます。H'FF' で表される文字は H'00' で表される文字に、'ü' は 'Ü' に変換されます。

UTAB2 パラメータの例

UTAB2 パラメータでは、次のように、文字ペアの文字列全体をカッコで囲む必要があります。

```
UTAB1=(5E,'Ä','ö',78,FF,00,'ü','Ü')
```


270 ズ

VSIZE - Natural/VSAM 用のバッファエリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、Natural VSAM インターフェイスがインストールされている場合にのみ適用されます。

Natural for VSAM で必要なバッファエリアの最大サイズを設定します。0 に設定した場合、または要求したスペースを利用できない場合、Natural for VSAM インターフェイスは使用できません。

可能な設定	1 - 512	KB 単位のバッファサイズ。 実際に必要となるサイズは、NVSPARM マクロでの指定によって異なります（『 <i>Natural for VSAM</i> 』ドキュメントを参照）。 要求したスペースを利用できない場合、Natural VSAM インターフェイスは使用できません。NVSPARM で指定したバッファが VSIZE エリアに収まらない場合、Natural VSAM インターフェイスの初期化時に対応するエラーメッセージが表示されます。それに応じて、NVSPARM で個々のバッファサイズを削減するか、VSIZE エリアのサイズを拡張できます。
	0	VSIZE=0 の場合、Natural VSAM インターフェイスは使用できません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	



注意: Natural for VSAM がインストールされている場合、Natural セッションの初期化時に対応する Natural バッファが要求されます。Natural セッション中に VSAM のサポートが不要な場合、VSIZE=0 で Natural を呼び出し、未使用バッファの処理によるオーバーヘッドを防止することをお勧めします。


271 WH - ホールド状態でのレコードの待機

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Adabas データベースのみが適用されます。

処理に必要なレコードが別のユーザーによってホールド状態にされているために使用できなくなっている場合の処理を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ WH をセッションパラメータ WH で上書きできます。

可能な設定	ON	要求したレコードが使用できるようになるまで、またはレコードをホールド状態にしようとするときに時間などの制限を超過したことで Adabas エラーメッセージが発行されるまで、ユーザーは待ち状態になります。	
	OFF	これらのレコードをホールド状態にできない場合、エラーメッセージが返されます。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

 **注意:** 後で更新／削除処理を行うために、Adabas レコードを読み込む Natural ステートメントを実行すると、Natural は Adabas に対してそのレコードをホールド状態にするように要求します。ホールド処理の詳細については、Adabas の『コマンドリファレンス』ドキュメントを参照してください。

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

272

WORK - ワークファイルの割り当て

▪ WORK パラメータの構文	680
▪ NETWORK マクロの構文	681
▪ すべての環境で使用できるキーワードサブパラメータ	682
▪ すべての環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	686
▪ z/OS 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	687
▪ z/VSE 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	689
▪ BS2000/OSD 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ	691
▪ AM=CICS のキーワードサブパラメータ	691
▪ AM=COMP のキーワードサブパラメータ	692
▪ AM=SMARTS のキーワードサブパラメータ	693

このNaturalプロファイルパラメータでは、セッション中に使用するワークファイルの最大数を定義できます。セッション内で、最大32の論理ワークファイル（番号1～32）を使用できます。

WORKは、パラメータモジュール NATPARM の **NTWORK** マクロに対応します。異なるワークファイル定義を提供するには、WORK または NTWORK を複数回指定します。

可能な設定		下記のキーワードサブパラメータの項目を参照してください。
デフォルト設定		下記を参照してください。アクセスメソッドと環境に応じて、デフォルト設定は異なります。
ダイナミックな指定	可	パラメータ WORK はダイナミックに指定することしかできません。NATPARM では、マクロ NTWORK を使用する必要があります。
セッション内の指定	不可	

異なる環境のワークファイルにアクセスするためのソフトウェアコンポーネントは、アクセスメソッドと呼ばれます。Naturalセッションの期間中、各論理ワークファイルを割り当てることができるアクセスメソッドは1つのみです。ワークファイル用のアクセスメソッドは、キーワードサブパラメータ AM で決定されます（下記参照）。

TSO およびバッチモードでの z/OS では、ワークファイルを JCL で事前に定義する必要はありません。ワークファイルがサブパラメータ AM=STD で定義されている場合、Natural プログラムで DEFINE WORK FILE ステートメントまたはアプリケーションプログラミングインターフェイス USR2021（ライブラリ SYSEXT 内）を使用してセッション中にダイナミックに割り当てることができます。

このドキュメントでは、以下のトピックについて説明します。

『オペレーション』ドキュメントの「サーバー環境における外部データセットでの出力ファイルおよびワークファイルの処理」も参照してください。

WORK パラメータの構文

WORK パラメータでは、最初に1つ以上の論理ワークファイル番号を指定し、次にいくつかのキーワードサブパラメータを指定してこれらのワークファイルの特性を定義します。

```
WORK=((work-file-numbers),keyword-subparameters,...)
```

work-file-numbers

ファイル番号は最初に指定し、カッコで囲む必要があります。番号は 1～31 の範囲で選択可能です。指定する順序は任意です。複数の番号を指定する場合は、コンマか空白で区切る必要があります。特定の範囲の番号を指定するには、ハイフン (-) を使用します。

keyword-subparameters

以下では、さまざまな種類のキーワードサブパラメータについて説明します。

特性の異なるワークファイルについては、複数の WORK パラメータを指定します。同じワークファイルの以前の定義（またはデフォルト）が存在する場合、指定されたキーワードサブパラメータの値のみが上書きされ、その他の値はすべてそのまま保持されます。

例：

```
WORK=((2,12,18),AM=STD,DEST='WORK**')  
WORK=((1,3,6-11,15),AM=COMP,OPEN=INITOBJ,CLOSE=CMD)
```

NETWORK マクロの構文

NETWORK マクロでは、最初に 1 つ以上の論理ワークファイル番号を指定し、次にいくつかのキーワードサブパラメータを指定してこれらのワークファイルの特性を定義します。

```
NETWORK (work-file-numbers),keyword-subparameters,...
```

work-file-numbers

ファイル番号は最初に指定し、カッコで囲む必要があります。番号は 1~31 の範囲で選択可能です。指定する順序は任意です。複数の番号を指定する場合は、コンマで区切る必要があります。特定の範囲の番号を指定するには、ハイフン (-) を使用します。

keyword-subparameters

以下では、さまざまな種類のキーワードサブパラメータについて説明します。

特性の異なるワークファイルについては、複数の NETWORK マクロを指定します。同じワークファイルの以前の定義（またはデフォルト）が存在する場合、指定されたキーワードサブパラメータの値のみが上書きされ、その他の値はすべてそのまま保持されます。

例：

```
NETWORK (2,12,18),AM=STD,DEST='WORK**'  
NETWORK (1,3,6-11,15),AM=COMP,OPEN=INITOBJ,CLOSE=CMD
```

すべての環境で使用できるキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。AM | DEST | OPEN | CLOSE | LRECL | TRUNC | PAD | PADCHRO | PADCHRI


AM - アクセスメソッドのタイプ

AM=xxx によって、使用されるアクセスメソッドのタイプが指定されます。

オンラインセッションの場合、使用するすべてのワークファイルを特定のアクセスメソッドに割り当てる必要があります。

バッチセッションの場合、特定のアクセスメソッドに割り当てられていないワークファイルは標準バッチアクセスメソッド (AM=STD) によって自動的に検出されて割り当てられます (これらのワークファイルが JCL で事前に定義されている場合)。「[FAMSTD-出力ファイルおよびワークファイルのアクセスメソッド割り当ての上書き](#)」も参照してください。

STD	標準シーケンシャルファイル (バッチ、TSO、TIAM、CMS OS シミュレーション)。
COMP	Com-plete ワークファイル。
SMARTS	SMARTS ワークファイル。SMARTS ポータブルファイルシステム (PFS) 上のワークファイル。
CICS	CICS 一時データまたは一時ストレージ。
CMS	CMS ディスクおよび SFS ファイル。
PC	Entire Connection。
USER	サードパーティベンダのワークファイルインターフェイス。
OFF	未割り当て。FAMSTD=OFF が設定されている場合、自動割り当ては行われません。
0	未割り当て。FAMSTD=OFF が設定されている場合、自動割り当てが行われます。これはデフォルト値です。

 **注意:** WORK=OFF は WORK=((1-32)),AM=OFF) と同等です。この設定は、他のどのキーワードサブパラメータ指定にも影響しません。

DEST - 外部データセット名

DEST=name では、外部データセット名 (1~8 文字) を指定します。

DEFINE WORK FILE ステートメントの operand1 に対応します (また、DEFINE WORK FILE 指定によって上書きできます)。

このキーワードサブパラメータの意味は、アクセスメソッドによって異なります。

AM=STD	<p>DEST は論理データセット名です (DDNAME、LINK 名、DTF 名)。</p> <p>応答先が複数のファイルである場合、ファイル番号に 2 つのアスタリスク (**) を指定する必要があります。アスタリスクは、ワークファイルごとに対応する論理ファイル番号に置き換わります。2 つのアスタリスクを含む DEST 値は、ダイナミックパラメータとして使用する場合、アポストロフィで囲む必要があります。</p> <p>デフォルト値は、IBM 環境の場合 DEST='CMWKF**'、SIEMENS 環境の場合 DEST='W**' です。</p> <p>z/VSE では、7 文字の名前のみがサポートされます。</p>
AM=CICS	<p>CICS では、ワークファイルのデフォルト値はありません。この場合、DEST サブパラメータは必須です。つまり、有効な DEST 指定なしで定義された CICS ワークファイルは無視されます。</p> <p>Natural CICS インターフェイスでは、DEST 値の一部として変数 (NCIPARM 生成マクロの TERMPARM パラメータを参照。デフォルトは &TID) を使用することもサポートされています。変数を指定した場合、実際の CICS 端末 ID で置き換わります。『TP モニターインターフェイス』ドキュメントの「CICS 環境での Natural 出力ファイルとワークファイル」も参照してください。</p>
AM=CMS	<p>CMS での DEST の使用方法については、『オペレーション』ドキュメントの VM/CMS 環境での Natural に関する説明を参照してください。</p>
AM=COMP	<p>DEST では、Com-plete SD ファイルの名前を定義します。長さは最大 8 文字に制限されます。ファイルが TYPE=TID で定義されている場合、DEST 値は Com-plete スタックレベルで追加されます。それに応じて、長さは最大 7 文字に制限されます。'&&' で始まる SD ファイル名は、Natural 終了後に自動的に削除される一時ファイルとして扱われます。</p>

OPEN - ファイルをオープンするタイミング

OPEN=xxx によって、ファイルがオープンされるタイミングが決定します。

値	次の場合にファイルをオープン
INIT	セッション初期化時に出力を行うとき。
OBF	各種環境 (バッチ、CICS、Com-plete、TSO) のデフォルトの OPEN 値に基づく。
OBJ	ファイルにアクセスする最初のオブジェクトの実行が開始されたとき。これはデフォルト値です。
INITOBF	セッション初期化時に出力を行うとき。続けてファイルを再オープンすると、各種環境 (バッチ、CICS、Com-plete、TSO) のデフォルトの OPEN 値が設定されます。
OBJ1	ファイルにアクセスするレベル 1 での最初のオブジェクトの実行が開始されたとき。さもなければ、最初にアクセスした時点。
ACC	ステートメントが最初にアクセスしたとき。
INITOBJ	セッション初期化時に出力を行うとき。ファイルにアクセスする最初のオブジェクトの実行が開始されると、続けてまたファイルがオープンされます。

WORK - ワークファイルの割り当て

値	次の場合にファイルをオープン
INITOBJ1	ファイルにアクセスするレベル1での最初のオブジェクトの実行が開始されたとき。さもなければ、最初にアクセスした時点。
INITACC	セッション初期化時に出力を行うとき。ステートメントが最初にファイルにアクセスしたときに、続けてまたファイルがオープンされます。

CLOSE - ファイルをクローズするタイミング

CLOSE=xxx によって、ファイルがクローズされるタイミングが決定します。

値	次の場合にファイルをクローズ
OBJ	最初にアクセスしたファイルを含むオブジェクトの処理が完了したとき、またはコマンドモード時に NEXT モードまたは MAINMENU に到達したとき。
CMD	コマンドモード時に NEXT モードまたは MAINMENU に到達したとき。これはデフォルト値です。
FIN	セッションが終了したとき。CLOSE=FIN を指定した場合、ワークファイルがすでにオープンされていると、DEFINE WORK FILE ステートメントでエラーが発生します。ワークファイルに対する CLOSE WORK FILE ステートメントは無視されます。READ WORK FILE ステートメントの実行中にエンドオブファイル条件になると、Natural はワークファイルを即座にクローズします。
USER	この値では、ファイルがオープンされていて、次のいずれかの条件が当てはまる場合にのみ、ワークファイルをクローズすることを指定します。 <ul style="list-style-type: none">■ CLOSE WORK FILE ステートメントが発行されたとき。■ DEFINE WORK FILE ステートメントが発行されたとき。■ セッションが終了したとき。

LRECL - データセットのデフォルトまたは最大レコード長

LRECL=nnn によって、データセットのレコード長（バイト単位）が決定します。

設定可能値：	0 または 5～32767
デフォルト値：	0

このサブパラメータは、特に切り捨てやパディングの有無をチェックする場合に使用します。AM=STDの詳細については、下記の「[すべての環境で使用できるAM=STDのキーワードサブパラメータ](#)」セクションのキーワードサブパラメータ LRECL を参照してください。

TRUNC - 出力レコードの切り捨て

TRUNC=xxx では、出力レコードを切り捨てるかどうかを決定します。

ON	データセットのレコード長 (LRECL) より長い出力レコードで、切り捨てが発生します。
OFF	出力レコードがデータセットのレコード長よりも長い場合、エラー NAT1512 が発行されます。これはデフォルト値です。

PAD - 出力レコードのパディング

PAD=xxxによって、出力レコードのパディングが発生させるかどうか決定します（固定レコード長のデータセットにのみ適用されます）。

ON	データセットのレコード長 (LRECL) より短い出力レコードでは、キーワードサブパラメータ PADCHRO で定義されたパディング文字でパディングが行われます。これはデフォルト値です。
OFF	出力レコードがデータセットのレコード長よりも短い場合、エラー NAT1510 が発行されます。

PADCHRO - 出力レコードのパディング文字

このサブパラメータでは、ワークファイルに PAD=ON が定義されている場合に出力レコードのパディングに使用される文字を定義します。

設定可能値：	'x'	(一重引用符で囲まれた特定の文字 x)
	x'xx'	(特定の 16 進文字 xx)
デフォルト値：	x'00'	

PADCHRI - 入力レコードのパディング文字

このサブパラメータでは、入力レコードのパディングに使用される文字を定義します。

設定可能値：	'x'	(一重引用符で囲まれた特定の文字 x)
	x'xx'	(特定の 16 進文字 xx)
デフォルト値：	x'40'	(空白)

すべての環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。 [RECFM](#) | [BLKSIZE](#) | [LRECL](#)

RECFM - データセットのデフォルトのレコードフォーマット

RECFM=xxxx によって、データセットのデフォルトのレコードフォーマットが決定します。

次のフォーマットがサポートされています。

F	固定長
V	可変長
U	未定義
B	ブロック式
S	スパンド
A	ASA
M	機械制御文字

次の値およびその組み合わせが使用可能です。

可能な値：	F、FA、FM、FB、FBA、FBM、V、VA、VM、VB、VBA、VBM、VBS、VBSA、VBSM、U、UA、UM
デフォルト値：	RECFM=VB（可変長ブロック式）。

RECFM の指定は、レコードフォーマットが JCL またはデータセット DCB (z/OS の場合のみ) で定義されていない場合にのみ適用されます。

BLKSIZE - データセットのデフォルトのブロックサイズ

BLKSIZE=nnnnn によって、データセットのデフォルトのブロックサイズ (バイト単位) が決定します。

設定可能値：	0 または 8~32767
デフォルト値：	4628

BLKSIZE の指定は、ブロックサイズが JCL またはデータセット DCB (z/OS の場合のみ) で定義されていない場合にのみ適用されます。

LRECL - データセットのデフォルトまたは最大レコード長

LRECL=*nnn* によって、データセットのレコード長（バイト単位）が決定します。

設定可能値：	0 または 5~32767
デフォルト値：	0

このサブパラメータは、特に切り捨てやパディングの有無をチェックする場合に使用します。

- RECFM=V (B) の場合、LRECL 値には 4 バイトのレコードディスクリプタワードが含まれます。
- LRECL=0 が定義されている場合、以下が適用されます。
 - RECFM=V (B) の場合、LRECL のデフォルトは BLKSIZE-4 です。
 - RECFM=U の場合、LRECL のデフォルトは BLKSIZE です。
 - RECFM=F (B) の場合、実行中の Natural プログラムでファイルを開いたときに最大レコード長が必要になります。OPEN=INIT などファイルがオープンされるときにプログラムからのレコード長を利用できない場合、エラーが発生します。

LRECL の指定は、レコード長が JCL またはデータセット DCB (z/OS の場合のみ) で定義されていない場合にのみ適用されます。

z/OS 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。 [REREAD](#) | [FREE](#) | [BUFNO](#) | [DISP](#) | [VMAX](#)

REREAD - テープファイルデータセットのクローズ

REREAD=*xxx* によって、テープファイルをクローズする REREAD オプションが設定されます。

ON	REREAD オプションが CLOSE SVC に対して設定されます。これにより、データセットを再処理するためにボリュームが再配置されます。これはデフォルト値です。
OFF	REREAD オプションが CLOSE SVC に対して設定されません。

FREE - ファイルをクローズした時点でデータセットの割り当てを解除

FREE=xxx によって、ファイルをクローズするときにデータセットの割り当てを解除するかどうか決定します。

ON	FREE オプションが CLOSE SVC に対して設定されます。つまり、データセットのクローズ時に（ステップ終了時ではなく）割り当てが解除されます。
OFF	FREE オプションが CLOSE SVC に対して設定されません。これはデフォルト値です。

BUFNO - データセットの z/OS I/O バッファのデフォルト番号

BUFNO=nnn によって、データセットの z/OS I/O バッファのデフォルト番号が定義されます。

設定可能値	0 - 255
デフォルト値	0
	この場合、z/OS はデフォルトごとに 5 つの I/O バッファを割り当てます。

I/O バッファの数によりワークファイルアクセスのパフォーマンスが大幅に向上します。I/O バッファのストレージは、16 MB を越えないように割り当てられることに注意してください。

BUFNO の指定は、BUFNO パラメータがデータセットの JCL で指定されていない場合にのみ適用されます。

DISP - ワークファイルの修正用オープン

DISP=xxx では、ワークファイルを修正用にオープンするかどうかを決定します。

このサブパラメータは、JCL DD ステートメントのサブパラメータ DISP=MOD に対応していません。

MOD	ファイルの末尾に新しいレコードが追加されます。
NOMOD	ワークファイルは先頭から書き換えられます。これはデフォルト値です。

VMAX - さまざまなレコードフォーマットの LRECL をコントロール

VMAX=xxx によって、さまざまなレコードフォーマット (RECFM=V) で出力ファイル LRECL の設定を制御できます。

ON	ファイルに非ゼロの BLKSIZE 値が存在する場合、VMAX=ON にすると、DCB の LRECL 設定や LRECL サブパラメータに関係なく、さまざまなレコードフォーマットに対して LRECL=BLKSIZE-4 が設定されます。
NAT	LRECL が、アプリケーションプログラムの最大レコードの長さ+4 に設定されます。ただし、この値がデータセットの DCB の LRECL 未満である場合です。
OFF	データセットの DCB からの LRECL が使用されます。これはデフォルト値です。

z/VSE 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。SYSNR | LABEL | REWIND | BLOCKS | DISP

SYSNR - 論理 VSE SYS 番号

SYSNR=nn によって、論理 VSR SYS 番号が決定します。

設定可能値：	1 - 99
デフォルト値：	デフォルトでは、SYS 番号はワークファイル番号と同一です。

LABEL - テープラベルの処理

LABEL=xxx d によって、テープラベルの処理方法が決定します。

ON	テープは標準のラベルフォーマットです。これはデフォルト値です。
OFF	テープはラベルなしで、フロントテープマークが使用されます。
NOTM	テープはラベルなしで、フロントテープマークも使用されません。

REWIND - ファイルのクローズ時のアクション

REWIND=xxx によって、テープファイルをクローズするときのアクションが決定します。

ON	ファイルをクローズするとテープが巻き戻されます。これはデフォルト値です。
OFF	ファイルをクローズしてもテープは巻き戻されません。
UNLOAD	ファイルをクローズするとテープがアンロードされます。

BLOCKS - ストレージブロック数

BLOCKS=nnnn では、ダイナミック NATVSE ワークファイルに割り当てるファイルブロックまたはファイルトラックの数を指定します。

設定可能値：	1 - 9999
デフォルト値：	20

『オペレーション』ドキュメントの「NATVSE ダイナミックワークファイル割り当て (DYNALLOC) のサポート」を参照してください。

DISP - VSAM/SAM 用のワークファイルの処理

DISP=(xxx,xxx) では、VSAM/SAM で制御されるダイナミック NATVSE ワークファイルの処理を指定します。

可能な値のペアは次のとおりです。

(NEW,KEEP)	ファイルは OPEN でリセットされ、CLOSE で保持されます。これはデフォルト値です。
(NEW,DELETE)	ファイルは OPEN でリセットされ、CLOSE でアクセス不可能になります。
(OLD,DELETE)	ファイルは OPEN でリセットされず、CLOSE でアクセス不可能になります。
(OLD,KEEP)	ファイルは OPEN でリセットされず、CLOSE で保持されます。

『オペレーション』ドキュメントの「NATVSE ダイナミックワークファイル割り当て (DYNALLOC) のサポート」を参照してください。

BS2000/OSD 環境で使用できる AM=STD のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。DISP

DISP - ファイルオープンモード

DISP=xxx によって、ファイルのオープンモードが決定します。

EXT	オープンモードは EXTEND に設定されます。
NOEXT	オープンモードは、デフォルト値の OUTPUT に設定されます。これはデフォルト値です。

AM=CICS のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。TYPE | DISP

TYPE - CICS ストレージ媒体のタイプ

TYPE=xxxx によって、使用される CICS ストレージ媒体のタイプが指定されます。

MAIN	一時的なメインストレージ。
AUX	一時的な補助ストレージ。
TD	一時データ。

使用されるデフォルト値は、DEST キーワードサブパラメータの設定によって異なります。DEST サブパラメータ値が有効な CICS 一時データキューに一致する場合、TYPE サブパラメータはデフォルトで TD になり、一致しない場合は MAIN がデフォルト値になります。

DISP - CICS 一時ストレージキューの処理

DISP=(xxx,xxx) によって、CICS 一時ストレージキューの処理方法が指定されます。

可能な値のペアは次のとおりです。

(NEW,KEEP)	ストレージキューはファイルのオープン時に削除されます。これはデフォルト値です。
(NEW,DELETE)	ストレージキューは、ファイルのオープン時およびクローズ時に削除されます。
(OLD,DELETE)	ストレージキューはファイルのクローズ時に削除されます。
(OLD,KEEP)	ストレージキューは削除されません。



注意: DISP の指定は、CICS 特別パーティション一時データキューには適用されません。

AM=COMP のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。 [TYPE](#) | [BLOCKS](#) | [BLKSIZE](#)

TYPE - ストレージアクセスのタイプ

TYPE=xxx では、使用するストレージアクセスのタイプを指定します。

SHR	アクセスは共有されます。つまり、ワークファイルにはすべてのユーザーがアクセス可能です。
TID	ワークファイルは、現在の Com-plete 端末 ID でのみ使用できます。
DYN	ワークファイルは、現在の端末スタックレベルでのみ使用できます。

BLOCKS - ストレージブロック数

BLOCKS=nnnn では、割り当てるストレージブロックの数を指定します。

設定可能値：	1 - 9999
デフォルト値：	20

BLKSIZE - ストレージブロックのサイズ

BLKSIZE=*nnnn* によって、データセットのデフォルトのブロックサイズ（バイト単位）が決定します。

設定可能値：	0 または 8～32767
デフォルト値：	4628

AM=SMARTS のキーワードサブパラメータ

次のキーワードサブパラメータが利用可能です。DEST | TYPE | DISP

DEST - ワークファイル名

DEST=*name* では、ワークファイル名（1～8 文字）を指定します。

DEST 節は最大 8 文字に制限されているため、PFS 絶対パス指定でファイルを定義する場合には使用できません。

DEST 節では、ワークファイルのルートディレクトリに対して相対的な名前を指定します。ワークファイルのルートディレクトリは、環境変数 NAT_WORK_ROOT で指定します。

絶対パス定義でファイルを指定するには、DEFINE WORK FILE ステートメントを使用する必要があります。

TYPE - ストレージアクセスのタイプ

TYPE=*xxx* では、使用するストレージアクセスのタイプを指定します。可能な値は次のとおりです。

BIN	各行は、終端の行末文字なしでワークファイルに書き込まれます。これはデフォルト値です。
TXT	各行は、終端の行末文字（x'15'）でワークファイルに書き込まれます。

DISP - ファイルオープンモード

DISP=(Disp1,Disp2,Disp3)では、ワークファイルのモードを指定します。可能な値は次のとおりです。

Disp1=xxx	既存のファイルを削除するか、新しいデータをファイルに追加するかを指定します。	
	NEW	既存のファイルは削除されます（ファイルが書き込み用にオープンされている場合）。これはデフォルト値です。
	OLD または MOD	書き込まれた新しいデータがファイルの末尾に追加されます。
Disp2=xxx	ファイルをアクセス後に保持するか削除するかを指定します。	
	KEEP	クローズ後に保持される常駐ファイル。これはデフォルト値です。
	DELETE	クローズ後に削除される一時ファイル。
Disp3=xxx	ファイルへのユーザーのアクセスを排他アクセスにするかどうかを指定します。	
	SHR	アクセスは共有されます。つまり、ワークファイルにはすべてのユーザーがアクセス可能です。これはデフォルト値です。
	OWN	排他アクセスです。ワークファイルには現在の Complete ユーザー ID 以外ではアクセスできません。排他アクセスのファイルは、現在のユーザー ID の名前が付いた追加ディレクトリに存在します。

273

WPSIZE - Natural ワークプールのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、1つの Natural セッションに対する 16 MB 境界の上下の Natural ワークプールのサイズを指定します。

Natural は、16 MB 境界の上下のワークプールを使用します。これらのワークプールでは、すべての一時バッファの物理ストレージ要求が満たされます。

Natural は、特別な状況でのみ物理ストレージを使用します。例えば、CICS で SET CONTROL 'P=V' ステートメントで示される「値渡しオプション」付きの CALL ステートメントの実行中に、スレッド外にパラメータエリアを渡す（スレッドは解放される）場合などです。

ワークプールの利点は、物理ストレージに対して多数の要求がある場合に、Natural 自体でこれらの要求を満たすことができ、オペレーティングシステムに渡す必要がないことです。

可能な設定	<i>size-below</i>	<i>size-below</i> (0~1024) は、16 MB 境界より下の1つのワークプールのサイズ (KB 単位) です。ワークプールの残量がなくなった場合、同じサイズの別のワークプールが割り当てられます。値 0 は、ワークプールが割り当てられないことを意味します。つまり、16 MB より下の物理ストレージに対するすべての要求は直接オペレーティングシステムに渡されます。
	<i>size-above</i>	<i>size-above</i> (0~16384) は、16 MB 境界より上の1つのワークプールのサイズ (KB 単位) です。ワークプールの残量がなくなった場合、同じサイズの別のワークプールが割り当てられます。値 0 は、ワークプールが割り当てられないことを意味します。つまり、16 MB より上の物理ストレージに対するすべての要求は直接オペレーティングシステムに渡されます。
	<i>maximum-below</i>	<i>maximum-below</i> (0~2097151) では、16 MB 境界より下に割り当てることができる合計物理ストレージ (KB 単位) を制限します。値 0 は、物理ストレージを 16 MB 境界より下に割り当てることができないことを意味します。

	<i>maximum-above</i>	<i>maximum-above</i> (0~2097151) では、16MB 境界より上に割り当てることができる合計物理ストレージ (KB 単位) を制限します。値 0 は、物理ストレージを 16 MB 境界より上に割り当てることができないことを意味します。
デフォルト設定	(32,128,2097151,2097151)	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

WPSIZE パラメータは次のように指定します。

WPSIZE=(下のサイズ,上のサイズ,下の最大サイズ,上の最大サイズ)

変更しないサブパラメータは省略できます。例えば、16 MB より上のワークプールサイズのみを 1000 KB に設定する場合、WPSIZE=(,1000) と指定できます。

Natural は、指定された設定に応じて、Natural ストレージスレッド外にワークプールを割り当てます。ワークプールは、物理ストレージに対する最初の要求時に割り当てられ、次の端末 I/O 時に解放されます。

非スレッド環境 (例えば、バッチ、TSO) での推奨設定は WPSIZE=(0,0) です。これにより、仮想ストレージを節約できます。

274 WSISIZE - Natural ワークステーションインターフェイス用のバッファ

この Natural プロファイルパラメータは、Natural ワークステーションインターフェイスがインストールされている場合にのみ適用されます。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ `DS` またはマクロ `NTDS` を使用することもできます。バッファサイズの指定方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照してください。

可能な設定	10 - 256	バッファエリアのサイズ (KB 単位)。 要求したスペースを利用できない場合、Natural ワークステーションインターフェイスは使用できません。
	0	Natural ワークステーションインターフェイスは使用できません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	


275 XML - PARSE XML および REQUEST DOCUMENT ス

テートメントの有効化

▪ XML パラメータの構文	700
▪ NXML マクロの構文	701
▪ キーワードサブパラメータ	701
▪ NXML マクロの例	703
▪ XML パラメータの例	703

この Natural プロファイルパラメータは、REQUEST DOCUMENT および PARSE XML ステートメントを有効または無効にするために使用します。

このプロファイルパラメータは、パラメータモジュール NATPARM の **NTXML** マクロに対応します。

 **注意:** XML プロファイルパラメータを使用する前提条件として、プロファイルパラメータ **CFICU** を **CFICU=ON** に設定する必要があります。

『プログラミングガイド』の「インターネットおよびXML アクセス用のステートメント」も参照してください。

可能な設定	ON	下記のサブパラメータ設定に応じて XML サポートを有効にします。 PARSE XML および REQUEST DOCUMENT ステートメントを使用するには、サブパラメータ RDOC および PARSE も同様に ON に設定する必要があります。
	OFF	XML サポートを無効にします。サブパラメータの設定はすべて無視されます。
	下記のキーワードサブパラメータの項目を参照してください。	また、次のキーワードサブパラメータが利用可能です。 RDOC PARSE RDCP RDP RDPPORT RDPS RDSPOINT RDNOP
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	可	パラメータ XML はダイナミックに指定することしかできません。NATPARM では、マクロ NTXML を使用してください。
セッション内の指定	不可	

以下では次のトピックについて説明します。

XML パラメータの構文

XML パラメータは次のように指定します。

$$\text{XML} = \left(\begin{cases} \text{ON} \\ \text{OFF} \end{cases} , \text{keyword_subparameter1} = \text{value}, \text{keyword_subparameter2} = \text{value}, \dots \right)$$

keyword_subparameters の名前と値については、以下の「キーワードサブパラメータ」を参照してください。

NTXML マクロの構文

NTXML マクロは次のように指定します。

```

.....+.....1.....+.....2.....+.....3.....+.....4.....+.....5.....+.....6.....+.....7..
      NTXML  ON/OFF                                *
              RDOC=ON/OFF,                          *
              PARSE=ON/OFF,                          *
              RDCP=code-page-name,                    *
              RDP=url,                                *
              RDPPORT=port-number,                    *
              RDPS=url,                               *
              RDSPORT=port-number,                    *
              RDNOP=domain-name                       *

```



注意: キーワードサブパラメータ RDPPORT および RDPS は、現在では z/OS でのみ使用できます。

キーワードサブパラメータ

[RDOC](#) | [PARSE](#) | [RDCP](#) | [RDP](#) | [RDPPORT](#) | [RDPS](#) | [RDSPORT](#) | [RDNOP](#)

RDOC - REQUEST DOCUMENT ステートメントのサポート

可能な値は次のとおりです。

ON	REQUEST DOCUMENT ステートメントの使用がサポートされます。
OFF	REQUEST DOCUMENT ステートメントの使用はサポートされません。これはデフォルト値です。

PARSE - PARSE XML ステートメントのサポート

可能な値は次のとおりです。

ON	PARSE XML ステートメントの使用がサポートされます。
OFF	PARSE XML ステートメントの使用はサポートされません。これはデフォルト値です。

RDCP - デフォルトの HTML/XML コードページの名前

REQUEST DOCUMENT ステートメントの *operand15* にスペースのみが含まれている場合に前提とするデフォルトのコードページを指定します。

設定可能値	<i>code-page-name</i>
デフォルト値	ISO 8859-1 : 1987

RDP - プロキシサーバーの URL

(イントラネット) プロキシサーバーの URL を指定します。このプロキシサーバーを介してすべての要求をルーティングする必要があります。

設定可能値	<i>url</i>
デフォルト値	OFF

空白は使用できません。値を OFF にすると、URL が定義されていないことになります。

RDPPORT - プロキシポート番号

プロキシのポート番号を指定します (プロキシが設定されている場合)。

設定可能値	0 - 65535
デフォルト値	80

RDPS - SSL プロキシサーバーの URL

(イントラネット) プロキシサーバーの URL を指定します。このプロキシサーバーを介してすべての要求をルーティングする必要があります。




注意: このキーワードサブパラメータは、現在は z/OS でのみ使用できます。

設定可能値	<i>url</i>
デフォルト値	OFF

空白は使用できません。値を OFF にすると、URL が定義されていないことになります。

RDSPOINT - SSL プロキシポート番号

SSL プロキシのポート番号を指定します（SSL プロキシが設定されている場合）。

 **注意:** このキーワードサブパラメータは、現在は z/OS でのみ使用できます。

設定可能値	0 - 65535
デフォルト値	443

RDNOP - ローカルドメインの名前

プロキシを介してではなく、直接アドレス指定されるローカルドメインを指定します。

設定可能値	<i>domain-name(s)</i>
デフォルト値	OFF

空白は使用できません。値を OFF にすると、URL が定義されていないことになります。

接頭辞のワイルドカード表記は *.xxx の形式でのみ使用でき、.xxx の形式では使用できません。

複数のエントリはセミコロンで区切ります。

NTXML マクロの例

NTXML

```
ON,RDP=HTTPPROXY.MYCOMPANY.COM,RDPPOINT=8080,RDPS=SSLPROXY.MYCOMPANY.COM,RDSPOINT=443,RDNOP=*.MYCOMPANY.COM,RDOC=ON,PARSE=ON
```

 **注意:** キーワードサブパラメータ RDPPOINT および RDPS は、現在では z/OS でのみ使用できます。

XML パラメータの例

```
XML=(ON,RDP='HTTPPROXY.MYCOMPANY.COM',RDPPOINT=8080,RDPS='SSLPROXY.MYCOMPANY.COM',RDSPOINT=443,RDNOP='*.MYCOMPANY.COM',RDOC=ON,PARSE=ON)
```

 **注意:** キーワードサブパラメータ RDPPOINT および RDPS は、現在では z/OS でのみ使用できます。

276

XREF - Natural 用の XRef データの作成

- 拡張 XRef データ生成（内部使用のみ） 707

この Natural プロファイルパラメータは、Natural 用の XRef データの作成を有効または無効にするために使用します。このデータは次の 2 つの場合に生成されます。

- Natural コンパイラは、Natural プログラムおよびデータエリア用の XRef データをそのカタログ時に書き込みます (XREF パラメータが ON または FORCE に設定されている場合。下記を参照)。
- Natural Security は、アプリケーションで起動、再起動、またはエラートランザクションとして使用されるプログラム用、または特別なリンクとして使用されるプログラム用の XRef データを書き込みます (アプリケーションの Natural Security 定義で XREF パラメータが ON または FORCE に設定されていて、アプリケーション用にユーザーシステムファイルが定義されている場合)。

このパラメータでは、次の 2 つの観点でコンパイルを制御します。

- 1 つは上記の場合における XRef データの生成についてです。
- もう 1 つは実装オブジェクトのドキュメントするための前提条件を満たすためです。この前提条件の準拠は、Predict FDIC システムファイルまたは Natural Single Point of Development (SPoD) で使用される開発サーバファイルでドキュメントされるオブジェクトに対してのみカタログ処理を完了できるようにすることで保証されます。

また、このパラメータでは、Natural ユーティリティ SYSMAIN または INPL、あるいはオブジェクトハンドラを使用して Natural メンバが処理される時の XRef データの扱い方を決定します。

可能な設定	ON	XRef データが上記の場合に生成されます。ドキュメントの前提条件はチェックされません。	
	OFF	XRef データは生成されません。ドキュメントの前提条件はチェックされません。	
	FORCE	Natural オブジェクトをカタログできるのは、この実装オブジェクトに対応するドキュメンテーションオブジェクトが存在する場合に限られます。XRef データが上記の場合に生成されます。	
	DOC	Natural オブジェクトをカタログできるのは、このオブジェクトに対応するドキュメンテーションオブジェクトが存在する場合に限られます。XRef データは生成されません。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント:	なし
		適用可能なコマンド:	XREF

Natural XREF パラメータを設定する別の方法もあります。

- Natural パラメータモジュールで設定します。

- Natural セッションの開始時にダイナミックパラメータとして設定します。
- Natural Security で設定します。Natural Security を使用して XREF パラメータが設定されている場合、XREF コマンドでのみこの設定を有効にすることができます（そのためには、ON から FORCE に変更するか、OFF から ON または FORCE に変更します）。
- Natural XREF コマンドで設定します。Natural Security がインストールされていない場合、XREF パラメータは通常 Natural XREF コマンドを使用して設定されます。Natural コマンド XREF ? では、XREF パラメータの現在の設定を表示します。

拡張 XRef データ生成（内部使用のみ）

 **重要:** 拡張 XREF パラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

拡張 XREF パラメータの構文は次のとおりです。

```
XREF=(normal-xref-setting,extended-xref-setting)
```



277

XSIZE-ユーザーサブシステム用のバッファのサ

イズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural プログラムから呼び出されるユーザーサブシステムで使用されるバッファエリアのサイズを指定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して XSIZE 値を指定することもできます。


 **注意:** Natural Connection がインストールされ、非同期回線が使用されている場合、XSIZE プロファイルパラメータは Natural Connection での内部使用のために予約されるため、使用しないでください。

可能な設定	1 - 64	バッファエリアのサイズ (KB 単位)。
	0	XSIZE=0 を指定した場合、または要求したスペースを利用できない場合、ユーザーサブシステムは使用できません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

278 YD - 年差

このNaturalプロファイルパラメータでは、現在のマシン日付（内部マシンタイムで読み込まれる）を調整するために加算／減算する年数を指定します。これは、使用するカレンダーの異なる国で役立ちます。

可能な設定	-499~499	このパラメータは $YD=+nnn$ または $YD=-nnn$ のように指定します。 上記の nnn は年数です。プロファイルパラメータ MAXYEAR が 9999 に設定されている場合、値の上限は +7999 です。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

 **注意:**

1. 現在の年が閏年で、YD 設定から得られる年がそうでない場合、2月29日の代わりに3月1日
が使用されます。
2. プロファイルパラメータ **TD**、**DD**、および YD の合計から得られる年は 1583~2699 の範囲になる
必要があります。プロファイルパラメータ **MAXYEAR** が 9999 に設定されている場合、年の
上限は 9999 です。

279

YSLW - 年スライド／固定ウィンドウ

この Natural プロファイルパラメータでは、「年スライドウィンドウ」または「年固定ウィンドウ」で扱う年の範囲を指定します。

スライドウィンドウまたは「年固定ウィンドウ」メカニズムでは、2桁年の日付が100年の「ウィンドウ」内にあると仮定します。これらの100年以内で、各2桁年の設定は特定の世紀に一意に関連します。したがって、どの世紀を表しているかについて混乱することはありません。

可能な設定	標準設定	0	パラメータを0に設定すると、現在の世紀であるとみなされません。スライド／固定ウィンドウ機能は使用されません。
	スライドウィンドウ	1 - 99	<p>パラメータを1~99の値に設定することで、100年の範囲が過去のどの時点で始まるかを決定します。YSLW設定は、ウィンドウ範囲の最初の年を決定するために現在の年から減算されます。</p> <p>例：</p> <p>現在の年が2002で、YSLW=40を指定した場合、スライドウィンドウは1962~2061年に対応します。それに応じて、62~99の2桁年設定 nn は $19nn$ と解釈され、00~61の2桁年設定 nn は $20nn$ と解釈されます。</p>
	固定ウィンドウ	1582~2600	<p>パラメータを1582~2600の値に設定することで、100年の範囲の最初の年を決定します。100年の範囲の上限は、指定した値に99を加算することで評価されます。</p> <p>例：</p> <p>YSLW=1985を指定した場合、固定ウィンドウは1985~2084年に対応します。それに応じて、85~99の2桁年設定 nn は $19nn$ と解釈され、00~84の2桁年設定 nn は $20nn$ と解釈されます。</p>
デフォルト設定	0		スライド／固定ウィンドウ機能は使用されません。

ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

YSLW パラメータは、2 桁の年コンポーネントの英数字日付設定が日付変数に移動されるときにランタイムに評価されます。これは、次の場合の日付設定に適用されます。

- 算術関数 VAL で使用される日付設定
- 論理条件の IS(D) オプションで使用される日付設定
- スタックから入力データとして読み込まれる日付設定
- マップに入力データとして入力された日付設定

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」セクションも参照してください。

280 ZD - ゼロ割り算のチェック

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、0（ゼロ）による割り算を行おうとした場合の処理を指定します。

Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ZD をセッションパラメータ ZD で上書きできます。

可能な設定	ON	0 による割り算を行おうとすると、Natural はエラーメッセージを発行します。	
	OFF	Natural は、0 による割り算の結果を 0 にします。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

Natural Security 環境で使用されている場合：このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書き可能です。

281 ZP - ゼロ出力

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、すべてゼロの設定を含むフィールドの出力方法を指定します。つまり、すべてゼロの値を含む数値フィールド（フォーマットN、I、P、またはF）または時間フィールド（フォーマットT）の表示を省略するために使用します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータZPをセッションパラメータZPで上書きできます。

可能な設定	ON	すべてゼロのフィールド値は、右揃えのゼロ1つ（数値フィールド）またはすべてゼロ（時間フィールド）として出力されます。	
	OFF	すべてゼロのフィールド値は省略されます。	
デフォルト設定	ON		
ダイナミックな指定	可		
セッション内の指定	可	適用可能なステートメント：	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT REINPUT SET GLOBALS WRITE
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

282

ZSIZE - Entire DB バッファエリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、Entire DB にのみ適用されます。Entire DB で必要なバッファエリアのサイズを指定します。

代わりに、同等の Natural プロファイルパラメータ **DS** またはマクロ **NTDS**（『オペレーション』ドキュメントの「Natural パラメータモジュールでのマクロの使用」を参照）を使用して ZSIZE 値を指定することもできます。

可能な設定	1~64	バッファエリアのサイズ (KB 単位)。
	0	ZSIZE=0 を指定した場合、または要求したスペースを利用できない場合、Entire DB インターフェイスは使用できません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	可	
セッション内の指定	不可	

索引

せ

セッションパラメータ
概要, 1

は

パラメータ
概要, 1

ふ

プロファイルパラメータ
概要, 1

